

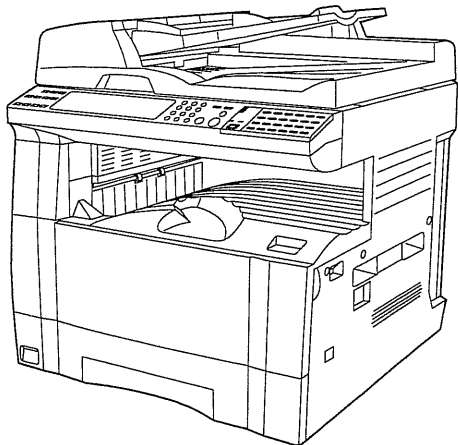


KM-1570
KM-2070

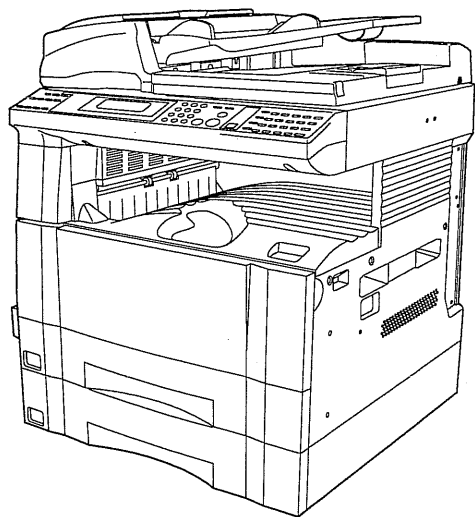
静電複写機

使用説明書

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。
お読みになった後は、本製品の近くに大切に保管
してください。



KM-1570



KM-2070

京セラ ミタ株式会社

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると
判断します。

※ENERGY STARとENERGY STARのロゴは米国の登録商標です。

本使用説明書はコピー機能編とファクス機能編の2部構成になっています。
ご使用に応じてそれぞれの使用方法を参照してください。

— KM-1570とKM-2070の相違点 —

KM-1570では、コピー機能編の「両面コピー (P5-1)」が使用できません。
その他の相違点については各説明の中で記載しています。

なお、本使用説明書ではKM-1570を15枚機、KM-2070を20枚機と記して説明して
います。

この使用説明書では、オプション品について、簡略化した名称を使って説明を行っています。
オプション品の正式な商品名は以下のとおりです。

商品名	使用説明書記載の名称
積木カセット ST-12	カセット
フィニッシャー F-2205	フィニッシャー
自動両面ユニット I、II	両面ユニット
ジョブセパレータ J-1302	ジョブセパレータ
キーカウンタ	キーカウンタ
キーカード 1	キーカード
プリンタキット Printing System (K)	プリンタキット
FAX 増設用メモリ 8MB	増設メモリ
FAX ハンドセット HS-20	ハンドセット

本資料の全部又は一部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法上での例外を除き、
禁じられています。

KM-1570 / KM-2070 をご購入いただきまして 誠にありがとうございます。

この使用説明書は、複写機を良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。また、お読みになった後は、本製品の近くに保管してください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



危険：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



「注意一般」



「感電注意」



「高温注意」

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。



「禁止一般」



「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。



「強制一般」



「電源プラグをコンセントから抜け」



「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

〈お願い〉

使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

コピー機能編

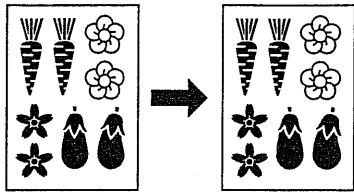
目次

1章 重要です！始めにお読みください 1-1	4章 基本的なコピー 4-1
1. ⚠ 注意ラベルについて 1-1	1. 基本的なコピーのしかた 4-1
2. ⚠ 機械を設置するときのご注意 1-2	2. コピーの縮小／拡大 4-4
3. ⚠ 取り扱い上のご注意 1-3	(1) 自動倍率選択モード 4-4
4. コピー禁止事項 1-4	(2) ズームコピーモード 4-4
	(3) 固定変倍モード 4-5
	(4) 定形変倍モード 4-5
2章 各部の名称 2-1	3. 割り込みコピー 4-6
1. 機械本体 2-1	4. 予熱（プレヒート）機能 4-7
2. 操作パネル 2-3	5. オートシャットオフ機能 4-8
3章 ご使用前の準備 3-1	5章 機能的なコピー 5-1
1. 用紙の補給 3-1	1. いろいろな原稿から両面コピー [両面コピー] 5-1
(1) 用紙補給時の注意 3-1	(1) 両面原稿からの両面コピー 5-1
(2) カセットへの補給 3-1	(2) ブック原稿からの両面コピー 5-1
(3) 手差しへの補給 3-2	(3) 片面原稿からの両面コピー 5-2
●手差しの用紙設定とサイズ設定 3-3	2. 2ページの原稿を1ページずつコピー
●封筒のセットのしかた 3-4	[分割コピー] 5-4
2. 原稿のセット 3-5	(1) ブック原稿からの分割コピー 5-4
(1) ADF（原稿送り装置） 3-5	(2) 両面原稿からの分割コピー 5-4
① DFにセットできる原稿 3-5	3. コピーに綴じ代を作る [マージンコピー] 5-5
② DFの使用上の注意 3-5	4. 原稿のまわりを消去してコピー
③ DFへの原稿のセット 3-5	[枠消し] 5-6
④コンタクトガラスへの原稿のセット ... 3-5	(1) シート原稿のまわりを消去
(2) RADF（両面自動原稿送り装置） 3-6	(シート枠消し) 5-6
① DFにセットできる原稿 3-6	(2) ブック原稿のまわりと中央部を消去
② DFの使用上の注意 3-6	(ブック枠消し) 5-6
③ DFへの原稿のセット 3-6	5. 2枚または4枚の原稿を1枚に
④コンタクトガラスへの原稿セット 3-6	[集約コピー] 5-7
3. トナーカートリッジと	(1) 2 in 1 5-7
トナー回収タンクの交換 3-7	(2) 4 in 1 5-7
	6. 自動で仕分けを行う [ソートコピー] 5-9
	7. 回転コピー 5-10
	8. 原稿混載コピー 5-10

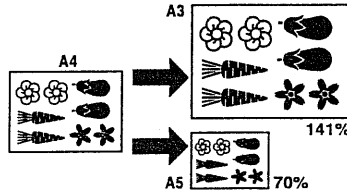
6章 複写機の管理モード	6-1	9章 保守・運用のために	9-1
1. 部門管理	6-1	1. 機械の清掃のしかた	9-1
(1) 部門管理モードについて	6-1	2. 消耗品	9-2
(2) 部門管理の選択画面の表示のさせかた ...	6-3	3. 製品の保守サービスについて	9-3
(3) 各モードの設定のしかた	6-3	4. 保守サービス契約書について	9-3
(4) 部門管理の時のコピー	6-8	5. 補修用性能部品について	9-3
2. 初期設定	6-9	6. 廃棄について	9-3
(1) コピー初期設定の項目について	6-9	7. 仕様	9-4
(2) コピー初期設定の変更のしかた	6-11	索引	9-6
(3) マシン初期設定の項目について	6-14		
(4) マシン初期設定の変更のしかた	6-16		
3. メッセージ表示の言語切替	6-20		
7章 オプション	7-1		
(1) カセット	7-1		
(2) フィニッシャー	7-1		
(3) 両面ユニット	7-1		
(4) ジョブセパレータ	7-1		
(5) キーカウンタ	7-1		
(6) キーカード	7-2		
(7) プリンタキット	7-2		
(8) プリンタネットワークキット	7-2		
(9) ネットワークスキャナ	7-2		
8章 こんなときには	8-1		
1. こんなメッセージがでたら	8-1		
2. 紙詰りが発生したら	8-3		
(1) 紙詰り位置表示	8-3		
(2) 注意事項	8-3		
(3) 処理方法	8-3		
3. トラブルが発生した場合	8-9		

●本機の高機能を存分にご活用ください

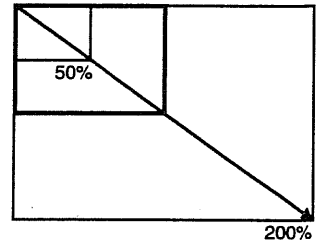
1 原稿と同じサイズの用紙を機械が自動的に選択
 に選択
 〈自動用紙選択モード〉(P 4-2 参照)



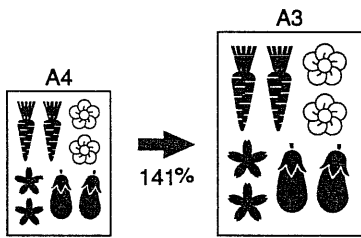
2 多彩な変倍方法
 ■指定したカセットサイズに縮小/拡大
 〈自動倍率選択モード〉(P 4-4 参照)



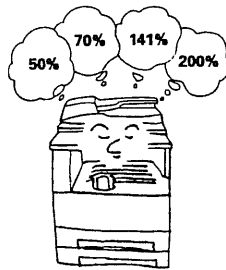
■50~200%の範囲で縮小/拡大
 〈ズームコピーモード〉(P 4-4 参照)



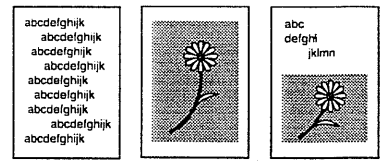
■サイズを指定して倍率を指定
 〈定型変倍モード〉(P 4-5 参照)



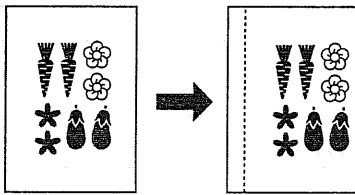
■ワンタッチでコピー倍率を選択〈固定変倍モード〉(P 4-5 参照)



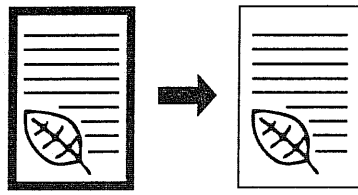
3 写真原稿もきれいにコピー
 〈画質選択〉(P 4-2 参照)



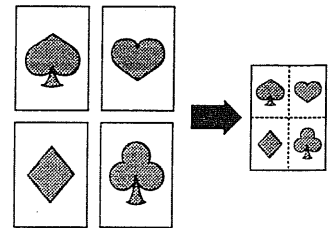
4 コピーにとじ代を作る
 〈マージンコピー〉(P 5-5 参照)



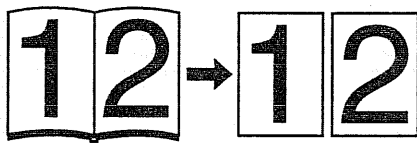
5 原稿のまわりを消去してコピー
 〈枠消し〉(P 5-6 参照)



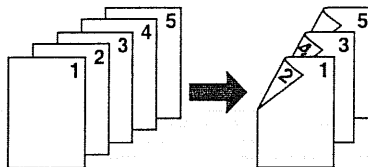
6 2枚または4枚の原稿を1枚に
 〈集約コピー〉(P 5-7 参照)



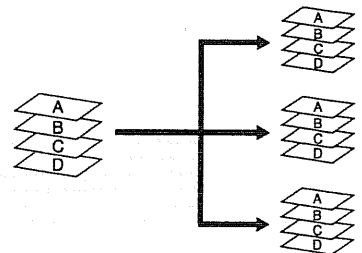
7 2ページの原稿を1ページずつコピー
 〈分割コピー〉(P 5-4 参照)



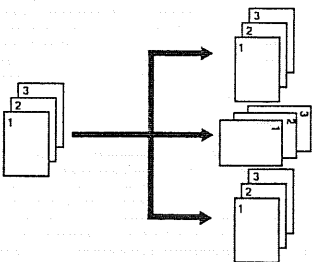
8 いろんな原稿から両面コピー
 〈両面コピー〉(P 5-1 参照)
 ※オプションの両面ユニット装着時



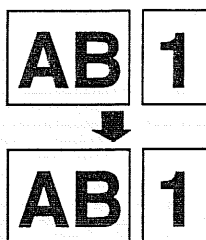
9 自動で仕分けを行う
 〈ソートコピー〉(P 5-9 参照)



10 用紙の向きを変えて仕分けをしやすく
 〈回転ソートコピー〉(P 5-9 参照)



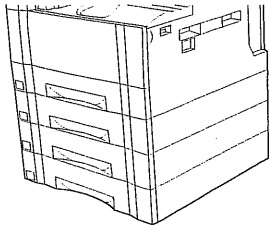
11 サイズの異なる原稿を一緒にコピー
 〈原稿混載コピー〉(P 5-10 参照)
 ※オプションのDF装着時



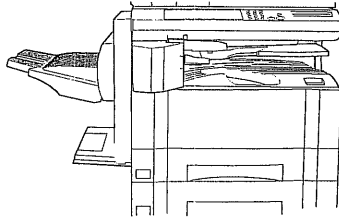
12 部門コードでコピー管理
 〈部門管理〉(P 6-1 参照)



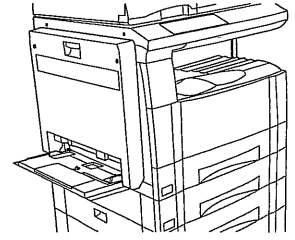
13 オプションも充実
■カセット (P 7-1 参照)



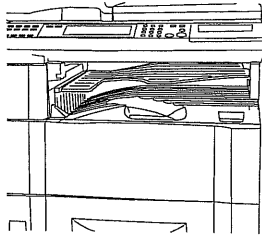
■フィニッシャー (P 7-1 参照)
[20 枚機のみ]



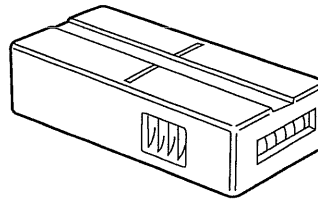
■両面ユニット (P 7-1 参照)
[20 枚機のみ]



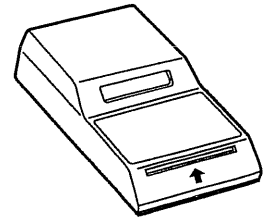
■ジョブセパレータ (P 7-1 参照)



■キーカウンタ (P 7-1 参照)



■キーカード (P 7-2 参照)



■プリンタキット (P 7-2 参照)

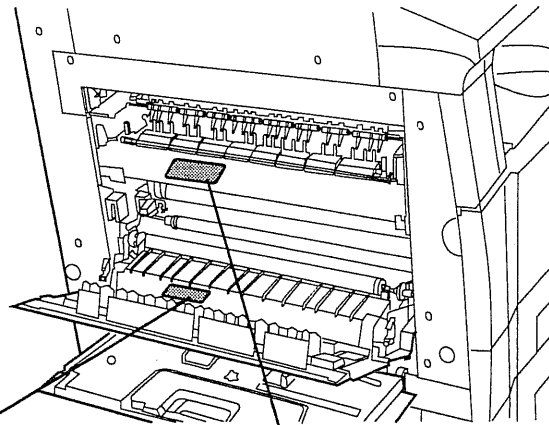
■プリンタネットワークキット
(P 7-2 参照)

■ネットワークスキャナ (P 7-2 参照)
[20 枚機のみ]

1 章 重要です！はじめにお読みください

1. 注意ラベルについて

本製品には、下記に示す位置に安全に関する注意ラベルを貼っています。紙詰まり処置やトナー補給時に火傷や感電などの事故のないようご注意ください。



ラベル1

この部分には高電圧が発生しています。感電事故を防ぐため、絶対に触れないようにしてください。.....



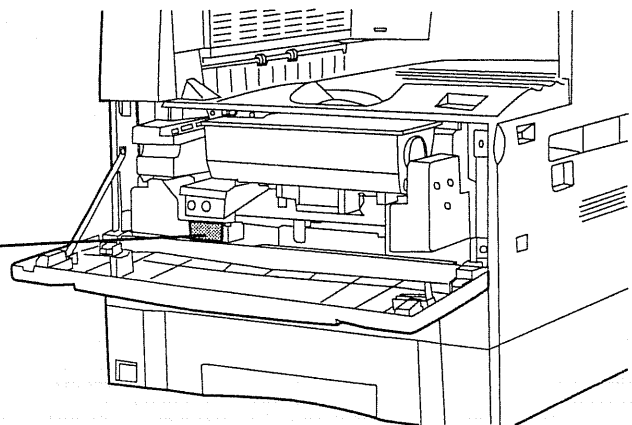
ラベル2

この部分の内側は高温になっています。火傷などのおそれがありますので、触れないようにしてください。.....



ラベル3

トナーまたはトナーの入った容器を火中に投げないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。...



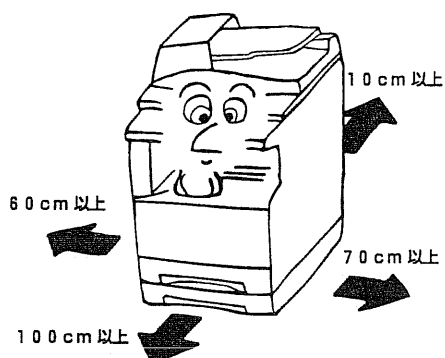
〈お願い〉 これらのラベルははがさないようにしてください。

2. ⚠ 機械を設置するときの注意

■設置環境について

⚠ 注意

- 本製品をぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。.....
- 本製品を湿気やほこりの多い場所に置かないでください。万一電源プラグにほこりやゴミなどが付着している場合は取り除いてください。火災、感電の原因となることがあります。.....
- 本製品をストーブなどの熱源や可燃物が近くにある場所に置かないでください。火災の原因となることがあります。.....
- 本製品の冷却効果を保つため、機械の周辺は下記のスペースを確保してください。特に機械左側と後ろ側には通気口があり、壁などに近づけないでください。十分なスペースがないと冷却されず、発熱や性能不良の原因となります。.....



その他の注意事項

- 本製品は設置する場所によっては外気条件が加わって、性能が維持できなくなる場合がありますので、常温常湿の室内（室温20℃、湿度65%RHが適当）に設置し、下記のような場所は避けてください。
 - ・窓際など、直射日光の当たる場所や明るい場所
 - ・振動の多い場所
 - ・急激に温度や湿度が変化する場所
 - ・冷暖房の冷風や温風が直接当たる場所
 - ・通気性、換気性の悪い場所
- 複写機の使用中はオゾンが発生しますが、その量は人体に影響を及ぼさないレベルです。ただし、換気性の悪い部屋で長時間使用する場合や大量にコピーをとる場合には、臭気が気になることもあります。快適な作業環境を保つためには部屋の換気をすることをお勧めいたします。

■設置電源・アースについて

⚠ 警告

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。.....
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災、感電の原因となります。.....
- 必ずアース線をアース対象物に接続してください。アース接続がされないで万一、漏電した場合は火災、感電のおそれがあります。なお、アース接続ができない場合は、弊社製品取り扱い店等にご相談ください。.....



その他の注意事項

- 電源プラグは製品の近くの容易に接続できるコンセントにつないでください。

■ビニールの取り扱いについて

⚠ 警告


- 本製品に使っている包装用のビニールを子供に触れさせないでください。ビニールが鼻や口に吸着すると、窒息するおそれがあります。.....

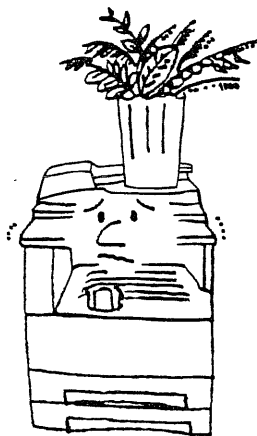









3. 取り扱い上のご注意

■機械の取り扱いについて








警告

- 本製品の上に花瓶、植木鉢、コップや水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電のおそれがあります。..... 



- 本製品のカバーは外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。..... 
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。..... 
- 本製品の改造や分解は絶対に行わないでください。火災、感電、レーザー光線への被爆のおそれがあります。レーザー光洩れによる失明のおそれがあります。..... 
- 万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐにメインスイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして弊社製品取り扱い店等にご連絡ください。..... 
- 万一、異物（金属片、水、液体）が本製品の内部に入った場合は、まず本体のメインスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社製品取り扱い店等にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。..... 
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。..... 
- 内部の点検・修理は弊社製品取り扱い店等に依頼してください。..... 

注意

- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。電源コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ず電源プラグを持ってコンセントから抜いてください）..... 
- 本製品を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。電源コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。..... 
- 夜間等で長時間本製品をご使用にならない場合は、メインスイッチを切ってください。また連休等で長期間、本製品を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。..... 
- 本製品を持ち上げたり、動かす場合は、所定の箇所を持つようにしてください。..... 
- 本製品の清掃を行うときには安全上、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。.. 
- 本製品内部の清掃については弊社製品取り扱い店等にご相談ください。本製品の内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部清掃費用については弊社製品取り扱い店等にご相談ください。..... 
- 原稿送り装置を開いた状態のまま放置しないでください。けがの原因となることがあります。..... 

その他の注意事項

- 本製品の上には重いものをのせたり、衝撃を与えたりしないでください。
- コピー中には次のことをしないでください。
 - ・前カバーを開ける。
 - ・メインスイッチを切る。
 - ・電源コードを抜く。
- 転居などで本製品を動かす場合は、弊社製品取り扱い店等へご連絡ください。
- コネクタ、プリント基板等の電気部品に触らないでください。静電気により破損する可能性があります。
- この使用説明書に記載されていないことは行わないでください。

■消耗品の取り扱いについて

⚠ 注意

- トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、火中に投げないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。.....
- トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、子供の手に触れる事のない様に保管してください。.....
- トナーコンテナおよびトナー回収タンクより、トナーが漏れた場合には、トナーを吸い込んだり、口に入れたり、眼、皮膚に触れない様にしてください。.....
 - ・ トナーを吸い込んだ場合は、新鮮な空気の場所へ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。咳などの症状が出るようであれば医師の診察を受けてください。
 - ・ トナーを飲み込んだ場合は、口の中をすすぎ、コップ1、2杯の水を飲んで胃を薄め、必要に応じて医師の診察を受けてください。
 - ・ 眼に入った場合は、直ちに流水で良く洗い、刺激が残るようであれば医師の診察を受けてください。
 - ・ 皮膚に触れた場合は、石鹸を使って水で良く洗い流してください。
- トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、無理に開けたり、壊したりしないでください。.....



その他の注意事項

- 使用後、不要となりましたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、お買い上げの販売店もしくは弊社のサービス担当者にご返却ください。回収されたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、再使用もしくは再資源化のために再利用されるか、法律に従い廃棄処理されます。
- 消耗品は冷暗所に保管ください。
- 本製品を長時間使わない場合は、用紙をカセットまたはデッキから取り出し、もとの包装紙に戻して密封してください。

4. コピー禁止事項

複写機を使って何をコピーしてもよいとは限りません。特に法律により、そのコピーを所有するだけでも罰せられることがありますので、次の点に充分ご注意ください。

1. 法律で禁止されているものには

- ① 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券は、コピーすることを禁止されています。例えば、見本の印が押してあっても、コピーすることはできません。
- ② 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類のコピーも禁止されています。
- ③ 政府の模造許可を取らない限り、未使用郵便切手、官製はがきの類は、コピーすることを禁止されています。
- ④ 政府発行の印紙、酒税法で規定されている証紙類のコピーもできません。

(関係法律)

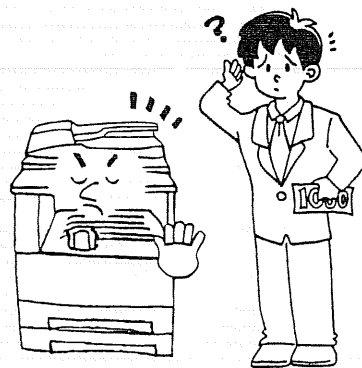
- 通貨及び証券模造取締法
- 外国ニオイテ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、証券、偽造変造及び模造ニ関スル法律
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙等模造取締法
- 紙幣類似証券取締法

2. 注意を要するものには

- ① 民間発行の有価証券（株券、手形、小切手など）、定期券、回数券などは、事業会社が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導によって、注意を呼びかけられています。
- ② 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体の免許証許可証、身分証明証や通行券、食券などの切符類も勝手にコピーしないほうがよいと考えられます。

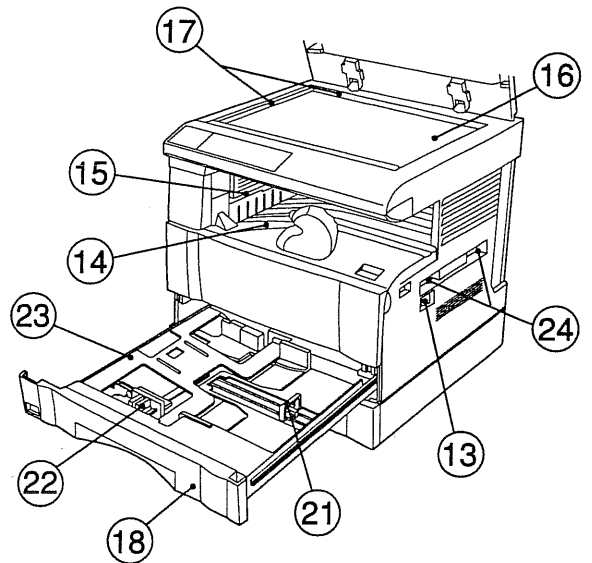
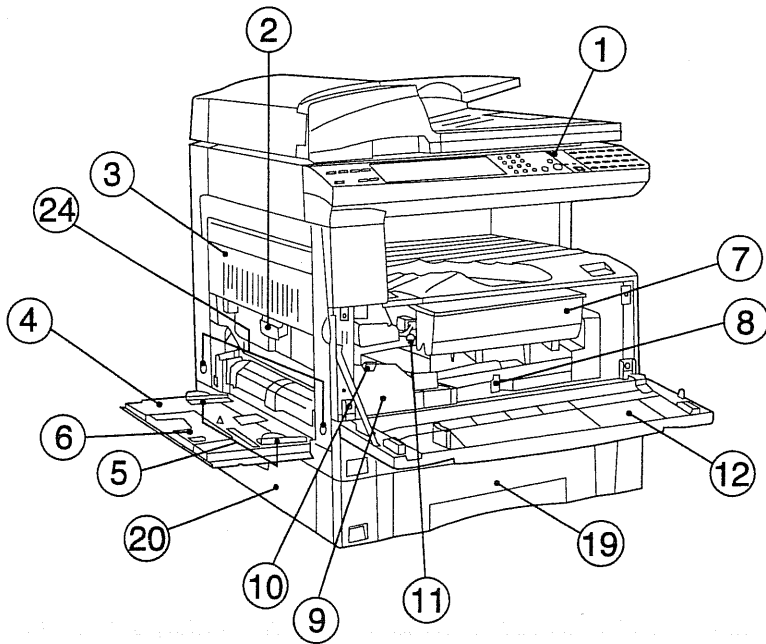
3. 著作権にもご注意ください

著作権の目的となっている書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画及び写真などの著作物は、個人的にまたは、家庭内その他、これに準ずる限られた範囲内で使用するためにコピーする以外は、禁じられています。



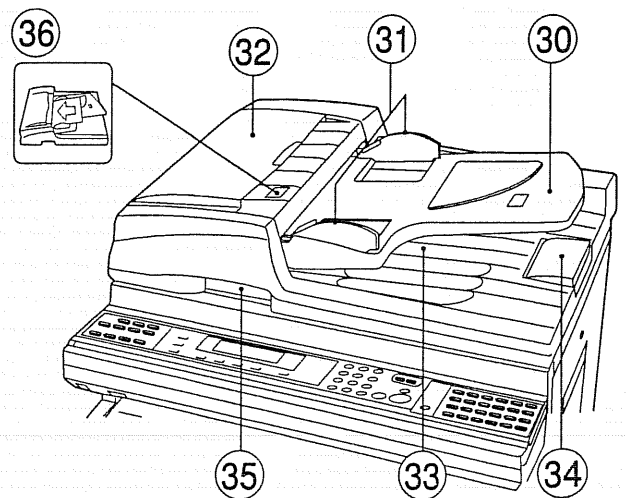
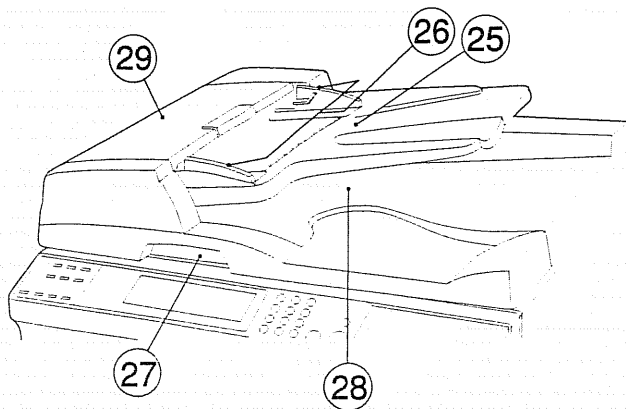
2章 各部の名称

1. 機械本体

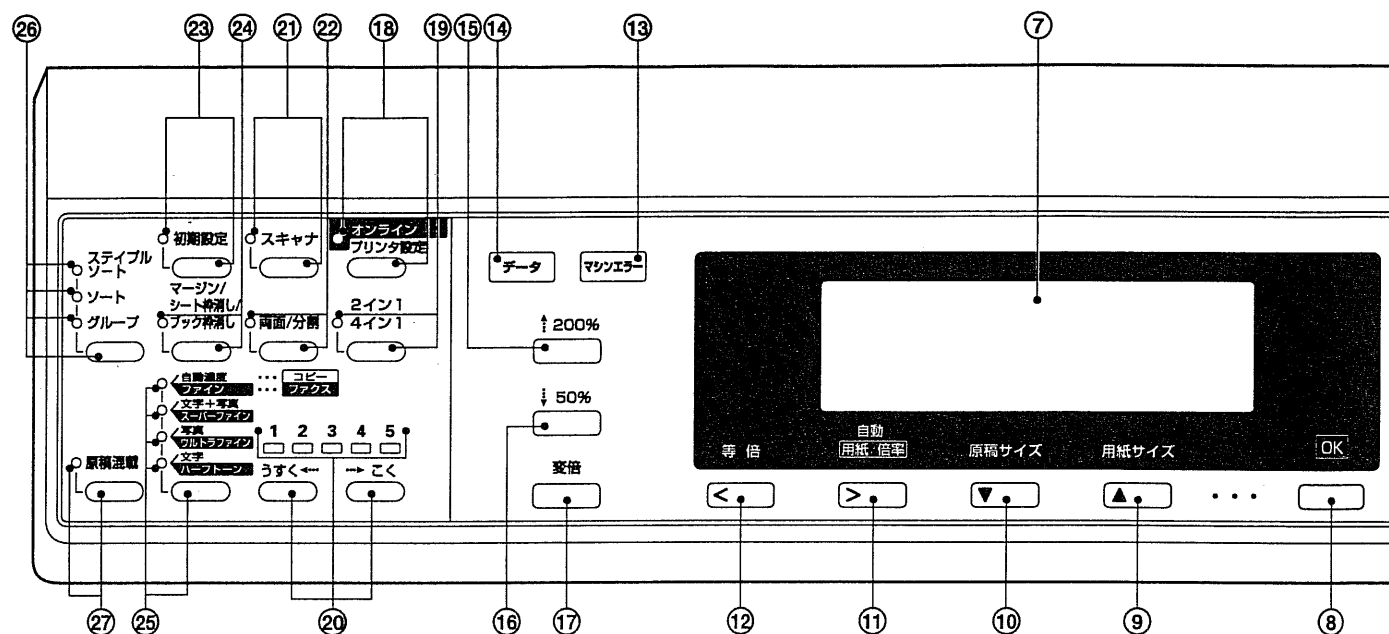


● ADF (原稿送り装置) [15 枚機]

● RADF (両面自動原稿送り装置) [20 枚機]

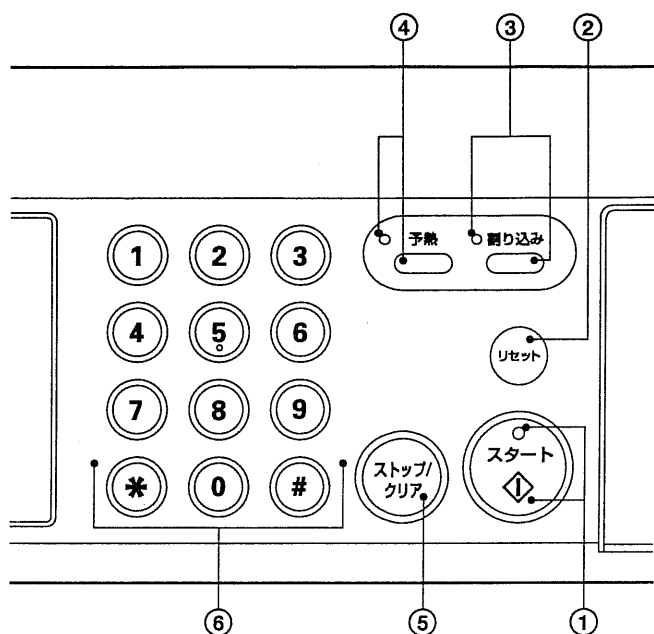


- ① **操作パネル**
(コピーの操作はここでいきます。)
- ② **左カバー取手**
(左カバーを開けるときにはここを持ってください。)
- ③ **左カバー**
(紙詰りが発生したときに開いてください。)
- ④ **手差し**
(小サイズの用紙にコピーするときや特殊紙にコピーするときはここに用紙をセットしてください。)
- ⑤ **スライダー**
(手差しに用紙をセットするときに用紙幅に合わせてください。)
- ⑥ **手差し補助トレイ**
(大サイズの用紙をセットするときに使用してください。)
- ⑦ **トナーカートリッジ**
- ⑧ **トナーカートリッジ解除レバー**
(トナーカートリッジを交換するときに操作してください。)
- ⑨ **トナー回収タンク**
- ⑩ **トナー回収タンク解除レバー**
(トナー回収タンクを交換するときに操作してください。)
- ⑪ **クリーナー棒**
(トナーカートリッジを交換した後や画像に汚れがあらわれたときに引いてもう一度、押し込んでください。)
- ⑫ **前カバー**
(トナーカートリッジを交換するときやトナー回収タンクを交換するときに開いてください。)
- ⑬ **メインスイッチ**
(コピーを始める前にこのスイッチをON (I) にしてください。)
- ⑭ **コピー収納部**
(仕上がったコピー用紙はここに収納されます。)
- ⑮ **排出部**
- ⑯ **コンタクトガラス**
(原稿をここにセットしてください。セットするときは左奥に合わせて下向きにセットしてください。)
- ⑰ **原稿サイズ指示板**
(原稿をセットするときは必ずこの指示板に合わせてください。)
- ⑱ **第1カセット**
(普通紙が250枚セットできます。)
- ⑲ **第2カセット**
(普通紙が250枚セットできます。20枚機のみ)
- ⑳ **カセット左カバー**
(カセット左カバー内で紙詰まりが発生したときに開いてください。)
- ㉑ **縦サイズ変更プレート**
(カセットにセットする用紙の縦サイズに合わせてください。)
- ㉒ **横サイズ変更つまみ**
(このつまみを持って横ガイドをカセットにセットする用紙の横サイズに合わせてください。)
- ㉓ **カセット底板**
(用紙をセットする際、押し下げてください。)
- ㉔ **搬送取手**
(右側2カ所は凹部になっています。左側2カ所は引き出すと取手になります。)
- **ADF (原稿送り装置) [15枚機]**
- ㉕ **原稿テーブル**
(原稿は、ここにセットしてください。)
- ㉖ **原稿挿入ガイド**
(原稿の幅に合わせてこのガイドを調節してください。)
- ㉗ **DF 開閉取手**
(DFを開閉するときは、この取手を持ってください。)
- ㉘ **上カバー**
(コピーが終わった原稿はここに収納されます。)
- ㉙ **DF 原稿カバー**
(DF部で原稿が詰まったときに開いてください。)
- **RADF (両面自動原稿送り装置) [20枚機]**
- ㉚ **原稿テーブル**
(原稿をここにセットしてください。)
- ㉛ **原稿挿入ガイド**
(原稿サイズに合わせてください。)
- ㉜ **左カバー**
(原稿が詰まったときに開いてください。)
- ㉝ **上カバー**
(コピーした原稿がここに収納されます。)
- ㉞ **排紙ガイド**
(A 3、B 4の原稿をセットするときに開いてください。)
- ㉟ **DF 開閉取手**
(DFを開閉するときはこの取手を持ってください。)
- ㊱ **原稿セット表示**
(原稿の状況を表示します。
緑色点灯: 原稿がセットされています。スタートキーを押すとコピーが開始されます。
緑色点滅: コピーをするときは、原稿を再セットしてください。
赤色点滅: 原稿が詰まっています。P8-6を参照して取り出してください。)



2. 操作パネル

- ① **スタートキー（表示）**
（表示が緑色に点灯しているときに押すとコピーが開始されます。）
- ② **リセットキー**
（P2-4、「●初期モードについて」参照）
- ③ **割り込みコピーキー（表示）**
（割り込みコピーを行うときに押してください。割り込みコピー表示が緑色に点灯します。P4-6参照）
- ④ **予熱（プレヒート）キー（表示）**
（プレヒート状態にするときに押してください。予熱（プレヒート）表示が緑色に点灯します。P4-7参照）
- ⑤ **ストップ／クリアキー**
（コピーを中断するとき、またはコピー枚数を訂正するときを押してください。コピー機能等の設定画面で前の設定画面に戻るときにも押してください。）
- ⑥ **テンキー**
（コピー枚数をセットするときや数値を入力するときを押してください。）
- ⑦ **メッセージ表示**
（操作の手順や不具合を表示します。また、液晶のコントラストを変更することができます。P6-18、「⑩液晶コントラスト調整」参照）
- ⑧ **OK キー**
（メッセージ表示上で機能や選択項目を確定するときを押してください。）
- ⑨ **用紙サイズ選択キー／上カーソルキー**
（カセット[給紙段]を変更して用紙サイズが選択できます。現在選択されている用紙サイズはメッセージ表示に表示されます。また、メッセージ表示に表示されるカーソルを上に移動させるときにも押してください。）
- ⑩ **原稿サイズ選択キー／下カーソルキー**
（原稿サイズを選択するときを押してください。また、メッセージ表示に表示されているカーソルを下に移動させるときにも押してください。）
- ⑪ **自動用紙倍率キー／右カーソルキー**
（自動で用紙を選択させる場合、あるいは自動で倍率を選択する場合はこのキーを押してください。メッセージ表示に“自動用紙”、“自動倍率”がそれぞれ表示されます。また、メッセージ表示に表示されるカーソルを右に移動させるときにも押してください。）
- ⑫ **等倍キー／左カーソルキー**
（倍率を等倍にするときに押してください。メッセージ表示に“等倍”が表示されます。また、メッセージ表示に表示されるカーソルを左に移動させるときにも押してください。）
- ⑬ **マシンエラー表示**
（紙詰まりなど、機械にトラブルが発生した場合に赤色に点灯します。）
- ⑭ **データ受信表示**
（オプションのプリンタ機能を使っているときに、緑色に点灯／点滅します。プリンタのエラーが発生したときは赤色に点灯／点滅します。）
- ⑮ **倍率アップキー**
（倍率を上げるときに押してください。）
- ⑯ **倍率ダウンキー**
（倍率を下げるときに押してください。）
- ⑰ **変倍キー**
（倍率を変更するときにも押してください。）
- ⑱ **オンライン／プリンタ設定キー（表示）**
（オプションのプリンターキット装着時に、プリンタモードに切り替えるときに押してください。オンラインの時にオンライン／プリンタ設定表示が緑色に点灯します。）
- ⑲ **集約コピーキー（表示）**
（集約コピーをするときに押してください。集約コピー表示（2イン1／4イン1）が緑色に点灯します。P5-7参照）
- ⑳ **濃度調節キー／濃度表示**
（コピー濃度を調節するときにも押してください。濃度表示が現在のコピー濃度を示します。）



⑳ スキャナキー (表示)

(20 枚機でオプションのネットワークスキャナ装着時に、スキャナモードに切り替えるときに押してください。スキャナモード時にスキャナ表示が緑色に点灯します。)

㉑ 両面/分割コピーキー (表示)

(両面コピーまたは分割コピーを行うときに押してください。両面/分割コピー表示が緑色に点灯します。両面コピー機能は 20 枚機でオプションの両面ユニットを設置しているときに使用できます。P5-1、4 参照)

㉒ 初期設定キー

(部門管理や初期設定など機械の設定を行うときに押してください。)

㉓ マージン/シート枠消し/ブック枠消しキー (表示)

(マージンコピーまたは枠消しコピーを行うときに押してください。マージン/シート枠消し/ブック枠消し表示が緑色に点灯します。P5-5、6 参照)

㉔ 画質選択キー/自動濃度表示/文字+写真表示/写真表示/文字表示

(画質を選択するときに押してください。P4-2 参照)

㉕ ソートモードキー/ステイブルソート表示/ソート表示/グループ表示

(一部ごとに仕分けをするソートモードを使用するときや、オプションのフィニッシャーを使って仕上がったコピーをステイブルしたり仕分けやページ揃えを行うときに押してください。ステイブルソート表示、ソート表示またはグループ表示が緑色に点灯します。)

㉖ 原稿混載キー (表示)

(原稿混載コピーを行うときに押してください。原稿混載表示が緑色に点灯します。この機能を使用するときには原稿を DF にセットしてください。P5-10 参照)

●初期モード (ウォームアップが完了したときまたはリセットキーを押したとき) について

コピーモードは原稿と同じサイズ of 用紙に等倍でコピーする「自動用紙選択モード」、コピー枚数セットは「1」、画質は「文字+写真モード」が自動的に選択されます。

補足

・コピー濃度調整の初期設定を「自動濃度モード」に変更できます。(P6-11、「①濃度モード」参照)

●オートクリア機能について

コピー終了後、約 120 秒経過すると、機械は自動的にウォームアップが終了した状態に戻ります。(ただしコピー濃度モードは元に戻りません。) オートクリア機能がはたらく前なら、コピーモードやコピー枚数、コピー濃度の設定などを同じ状態で繰り返しコピーできます。

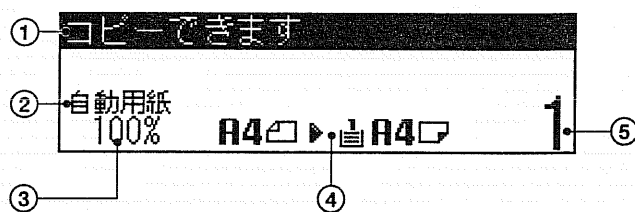
●オートカセットチェンジ機能について

同じサイズで同じ向き of 用紙がセットされているカセットが 2 つ以上あって、コピー中に 1 つ of カセット of 用紙がなくなったとき、自動的に別の同じサイズで同じ向き of 用紙がセットされているカセットに切り換えて給紙します。

補足

・オートカセットチェンジ機能を OFF にすることもできます。(P6-19、「⑩オートカセットチェンジ」参照)

メッセージ表示



- ① 本機の状態や必要な操作のメッセージを表示します。
- ② コピーモードを表示します。
自動用紙：自動用紙選択モード
自動倍率：自動倍率選択モード
等倍または変倍：マニュアルコピーモード
- ③ コピー倍率を表示します。
- ④ 原稿サイズと用紙サイズ、および選択されているカセット段を表示します。
- ⑤ コピー枚数を表示します。

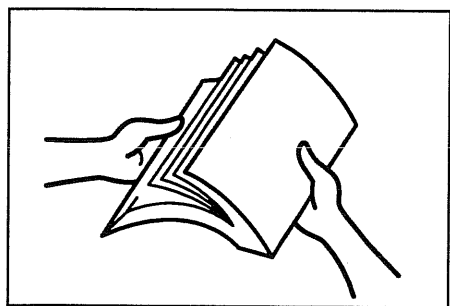
3章 ご使用前の準備

1. 用紙の補給

本機はカセットと手差しに用紙をセットすることができます。

(1) 用紙補給時の注意

包装紙から出した用紙はトレイにセットする前に数回さばい
てください。



重要

・標準カセット、オプションカセットおよび手差しに用紙が
残っている状態で用紙を補給すると紙詰まりの原因になり
ます。

(2) カセットへの補給

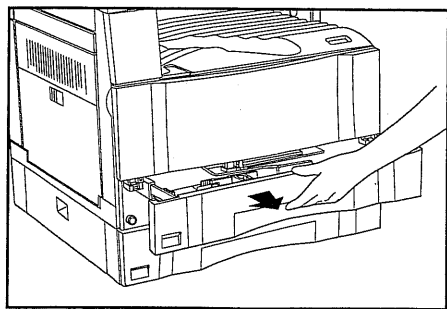
カセットには、普通紙 (64g/m²) やカラーペーパーをそれ
ぞれ250枚収納できます。

セットできる用紙サイズは各カセットはA3～A5Rまでです。

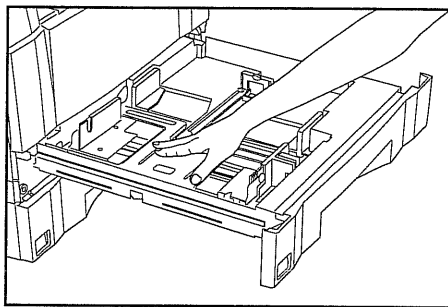
重要

・カセットにセットする用紙の種類 (普通紙、再生紙、レ
ターヘッド、カラー紙) を、P 6-14の「⑩用紙種類 (1
段目～4段目)」で設定してください。

- 1 カセットを手前いっぱい引き出してください。
※複数のカセットを抜かないようにしてください。

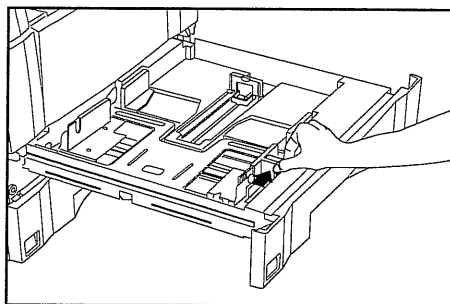


- 2 カセット底板を押し下げて、固定してください。

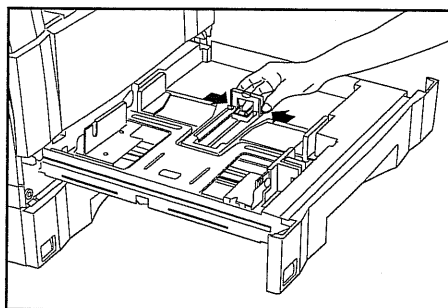


- 3 横サイズ変更つまみを持って用紙幅に横ガイドを合わ
せてください。

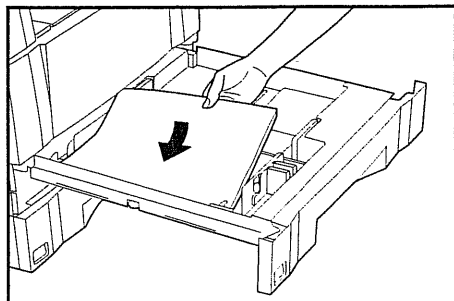
用紙サイズはカセットに刻印されています。



- 4 縦サイズ変更プレートの両側をつまみながら移動さ
せ、縦方向の用紙長さに合わせてください。

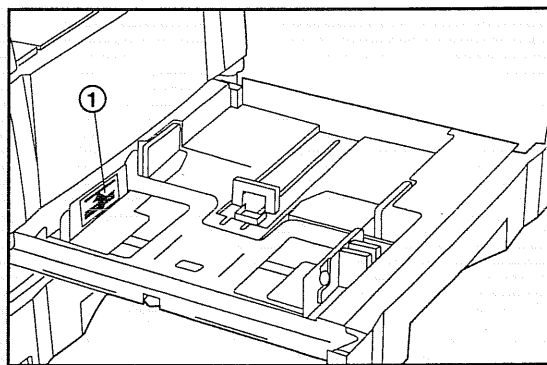


- 5** 用紙をカセットの左端にそろえて、セットしてください。

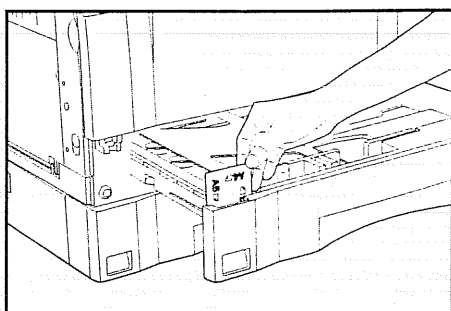


重要

- ・用紙の収納可能量を示すラベル（イラストの①）を貼っています。ラベルの目盛り以下に用紙をセットしてください。
- ・カセットに用紙を補給する場合は、コピーされる面を上向きにセットしてください。（用紙を開封したとき、コピー面が上側になります。）
- ・縦サイズ及び横サイズの変更プレートがしっかりと用紙に当たっているか確認し、隙間があるときは縦サイズ変更プレートまたは横ガイドをセットしなおしてください。
- ・高温多湿環境で小サイズの用紙で紙詰まりが発生する場合は、用紙のセット量をラベル（イラストの①）に指示された黒線まで枚数を減らしてください。



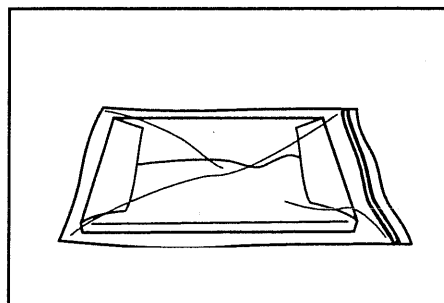
- 6** セットした用紙サイズがカセット正面からわかるように付属の用紙シートをセットしてください。



- 7** カセットを静かに押し込んでください。
※強く押し込むと用紙がカセットの爪から外れ、紙詰まりの原因となることがあります。

補足

- ・機械を長時間使用しない場合は、用紙を湿気から守るために、カセットから用紙を取り出し、元の包装紙に戻して密封してください。また、高温多湿環境で保存するときは、防湿袋に入れて密封保管してください。



(3) 手差しへの補給

普通紙の他、特殊紙をセットすることができます。特殊紙へコピーするときは必ず手差しを使用してください。

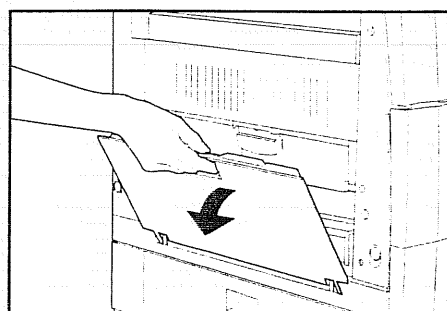
補足

- ・普通紙やカラーペーパーのセットできる枚数はサイズによって異なります。
 - A3、B4：25枚
 - A4、B5、A5R、B6R、A6R：50枚
- ・使用できる特殊紙とそのセット可能枚数は次の通りです。
 - 第二原図：1枚 更紙：1枚
 - OHPフィルム：1枚 官製はがき：20枚 のし紙：1枚
 - 普通紙（120 g/m²、160 g/m²）：1枚

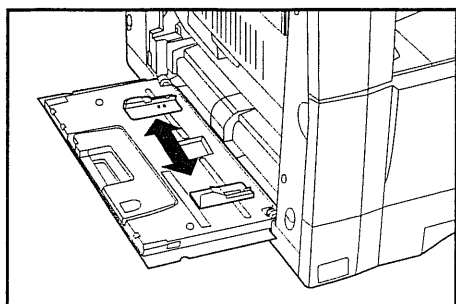
重要

- ・手差しにOHPフィルムや厚紙など特殊紙をセットするときは、P 3-3の「●手差しの用紙選択とサイズ設定」で用紙の種類を選択してください。

- 1** 手差しを開いてください。

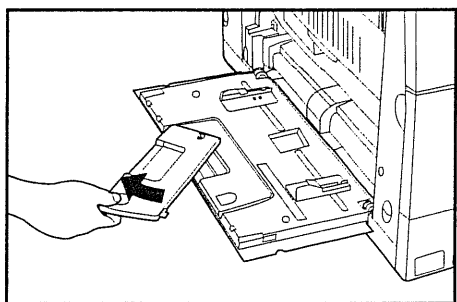


- 2** セットする用紙の幅にスライダを合わせてください。

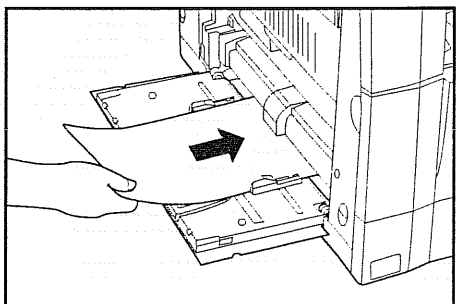


補足

・A4Rより長い用紙をセットするときは、手差し補助トレイを開いてください。



- 3** 用紙をスライダに沿わせて、止まる位置まで挿入してください。



重要

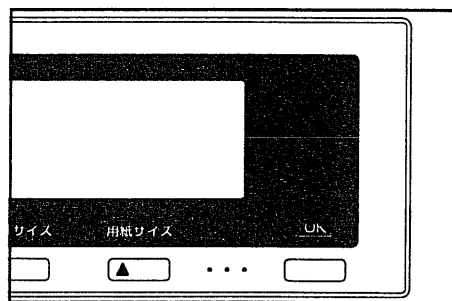
・手差しに用紙を補給する場合は、コピーされる面を下向きにセットしてください。(用紙を開封したとき、コピー面が上側になります。)先端カールがある場合は、まっすぐにばしてからセットしてください。

●手差しの用紙選択とサイズ設定

手差しでOHP、厚紙を使用するときは、以下の手順で用紙の種類を選択してください。また、手差しのサイズを設定すると自動用紙サイズ選択などで原稿サイズに応じた自動選択が可能となります。

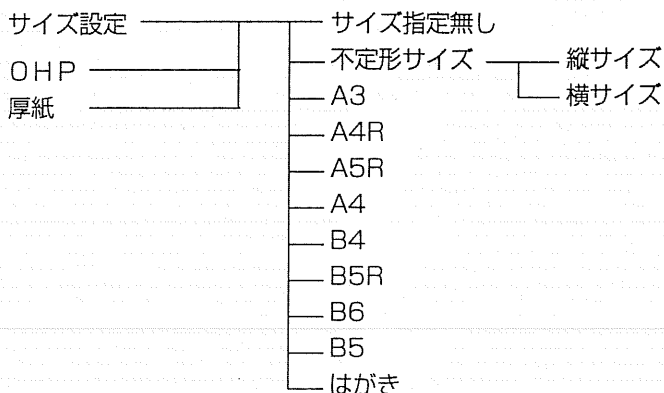
※OHPや厚紙の設定を行った場合、コピー終了後オートクリア機能が働いたりリセットキーが押された場合は、その設定はクリアされます。しかし、用紙サイズの設定は変更されない限り保存されます。

- 1** 用紙サイズ選択キーを3秒間押すと手差しのサイズ設定、OHP、厚紙の選択画面にかわります。



- 2** OHP、厚紙を使用するときは、上カーソルキーまたは下カーソルキーを押してそれぞれ“OHP”、“厚紙”を選択してください。手差しの用紙サイズを設定するときは、“サイズ設定”を選択してください。

- 3** 上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して、用紙サイズを選択してください。任意の用紙サイズを設定するときは、“不定形サイズ”を選択して次の手順に進んでください。“サイズ指定無し”を選択すると自動用紙選択で自動的に手差しは選択されません。



- 4** 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、反転している用紙の縦長さを選択してください。100～297 mm まで 1mm 刻みで設定できます。



- 5** 下カーソルキーを押してください。

- 6** 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、反転している用紙の横長さを選択してください。148～420 mm まで 1mm 刻みで設定できます。

- 7** OK キーを押してください。



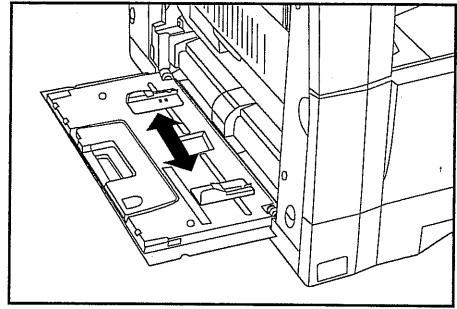
●封筒のセットのしかた

オプションのプリンタ機能を使用するときは、手差しに封筒をセットすることができます。

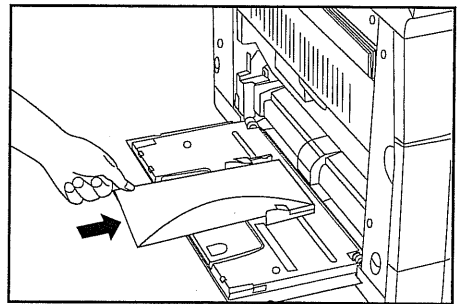
補足

- ・使用できる封筒の種類は、洋形 4 号、洋形 2 号で一度に 6 枚までセットできます。

- 2** セットする封筒に合わせてスライダを合わせてください。



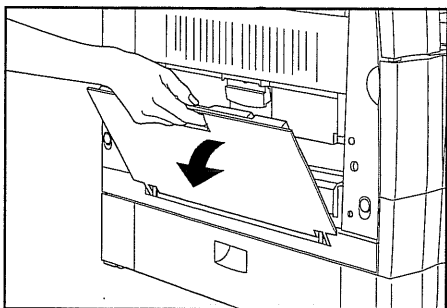
- 3** 封筒の口を閉じて機械手前になるようにスライダにあわせて奥までセットしてください。



補足

- ・正しくセットされないと、異なった方向、異なった面にプリントすることがあります。

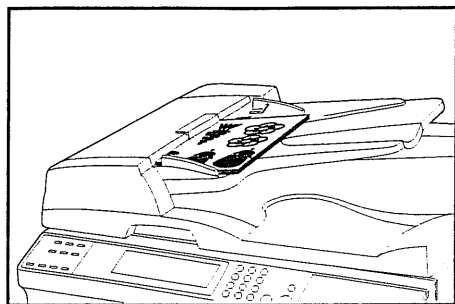
- 1** 手差しを開いてください。



2. 原稿のセット

(1) ADF (原稿送り装置) [15枚機]

多枚数のシート原稿を自動的に1枚ずつ送り、読み込みを行う装置です。



① DFにセットできる原稿

- ・シート原稿であること。
- ・厚さ：片面原稿 35g/m²～160g/m²の範囲内であること。
- ・サイズ：最大A3～最小A5R
- ・セット枚数：70枚 (A4以下、64g/m²)
50枚 (B4以上、64g/m²)
50枚 (オートセレクション選択時)

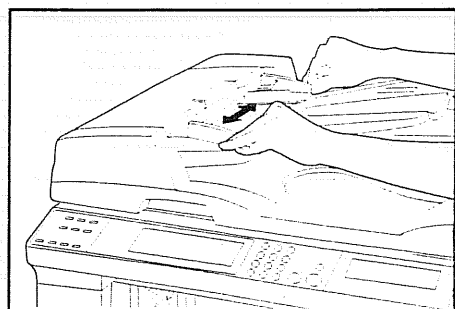
② DFの使用上の注意

次のような原稿は、DFに使用しないでください。また、パンチ穴やミシン目のある原稿を挿入先端側にセットしないでください。

- ・OHP用紙などの透明フィルム
- ・カーボン紙やしわ・折れのひどい原稿、またはビニールなどの軟らかい原稿
- ・方形でない原稿、濡れた原稿、粘着テープ・糊などが付いた原稿
- ・クリップやホッチキスで止めてある原稿 (やむをえず原稿とするときは、それらを取り外して、しわ・折れを直してからセットしてください。)
- ・切り抜きの原稿、表面や裏面のスベリが非常によい原稿
- ・修正液が乾いていない状態の原稿
- ・折り目のついた原稿 (やむをえず原稿とするときは、折れを直してからセットしてください。)

③ DFへの原稿のセット

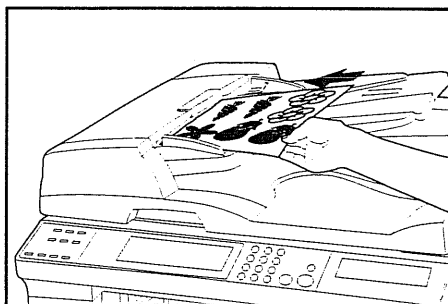
- 1 原稿挿入ガイドを原稿サイズに合わせてください。



補足

- ・原稿をセットする前に、原稿排出カバーに排紙された原稿が残っていないか確認してください。原稿排出カバーに原稿が残っていると、原稿詰まりの原因になります。

- 2 原稿はコピーする面を上向きにして、順序よく重ねて、原稿テーブルにセットしてください。原稿の先端を確実にDF内の奥まで差し込んでください。



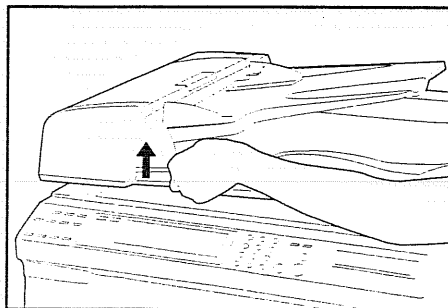
重要

- ・奥の原稿挿入ガイドに貼ってある目盛り以下になるよう原稿をセットしてください。規定枚数以上の原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。

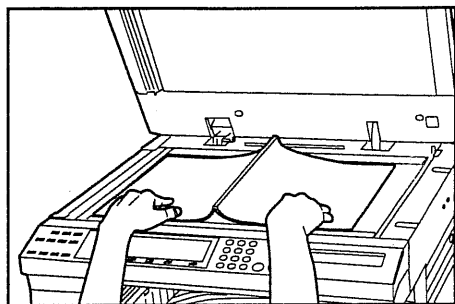
④ コンタクトガラスへの原稿のセット

本や雑誌など、DFにセットできない原稿の場合は、DF本体を開けてコンタクトガラスの上に原稿をセットしてください。

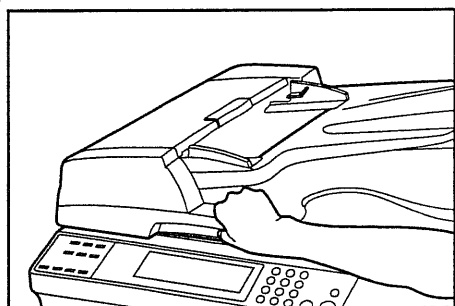
- 1 DF開閉取手を持ってDFを開けてください。
※DFを開ける前には、原稿テーブルや原稿排出カバーに原稿がないことを確認してください。原稿が残っていると、開けたときに原稿が落ちることがあります。



- 2** コピーする面を下にして、原稿をセットしてください。このとき原稿サイズ指示板に確実に合わせてセットしてください。



- 3** DF 開閉取手を持って DF を閉じてください。



重要

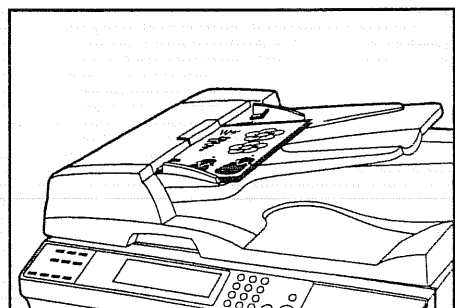
- このとき DF をコンタクトガラスに強く押さえつけないでください。ガラスが割れることがあります。

⚠ 注意

原稿送り装置を開いた状態のまま放置しないでください。けがの原因となることがあります。

(2) RADF (両面自動原稿送り装置) [20 枚機]

多枚数の片面シート原稿または両面シート原稿を自動的に送り、読み込みを行います。



① DF にセットできる原稿

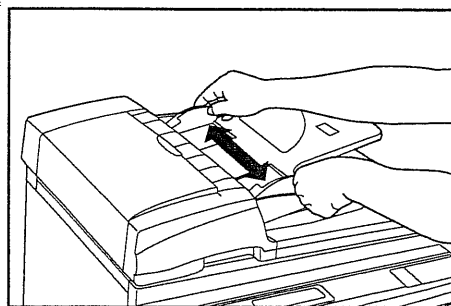
- ・シート原稿であること。
- ・厚さ：片面原稿 35g/m²～160g/m²の範囲内であること。
両面原稿 50g/m²～120g/m²の範囲内であること。
- ・サイズ：最大 A3～最小 A5R
- ・セット枚数：70 枚 (A4 以下、64g/m²)
50 枚 (B4 以上、64g/m²)
50 枚 (オートセレクション選択時)

② DF の使用上の注意

P3-5 の「② DF の使用上の注意」を参照してください。

③ DF への原稿のセット

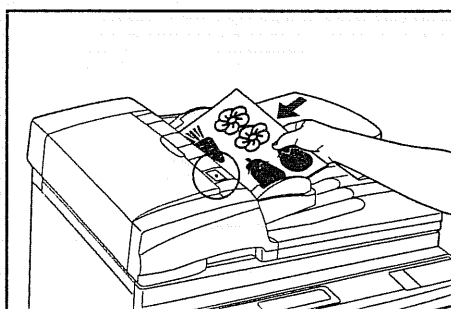
- 1** 原稿挿入ガイドを原稿サイズに合わせてください。



補足

- 原稿をセットする前に、上カバーに排紙された原稿が残っていないか確認してください。上カバーに原稿が残っていると、原稿詰まりの原因になります。

- 2** 原稿はコピーする面を上向きにして、順序よく重ねて、原稿テーブルにセットしてください。原稿セット表示が緑色に点灯します。点灯しないときは再セットしてください。



※ A3、B4 の原稿をセットするときには、原稿が落ちないように排紙ガイドを開いてください。

重要

奥の原稿挿入ガイドに貼ってある目盛り以下になるよう原稿をセットしてください。規定枚数以上の原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。

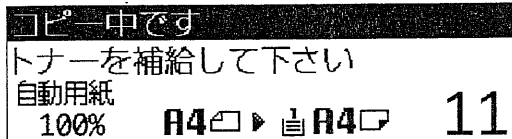
④ コンタクトガラスへの原稿のセット

P3-5 の「④ コンタクトガラスへの原稿のセット」を参照してください。

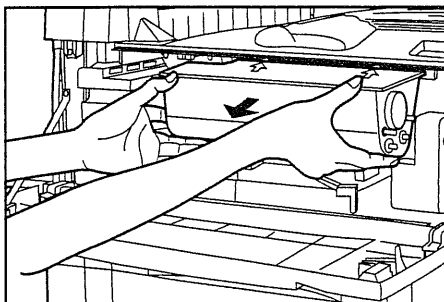
3. トナーカートリッジとトナー回収タンクの交換

メッセージ表示に“トナーを補給して下さい”が表示されたときは、トナーの補給を行ってください。メッセージが表示されても数枚はコピーができますがすぐにトナーカートリッジを交換してください。トナーカートリッジの交換が終わりしだいトナー回収タンクの交換も行ってください。

※トナーの補給は、メッセージが表示されたときのみ行ってください。



- 3** 古いトナーカートリッジを手前に引き出してください。



⚠ 注意

トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、火中に投げないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。

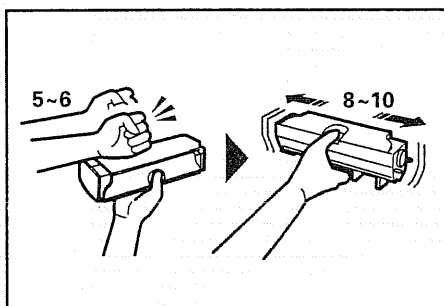
⚠ 警告

本製品本体内部の帯電部は高電圧です。感電のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

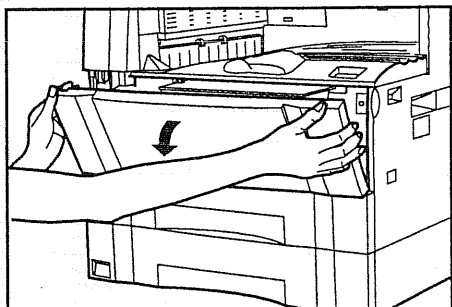
⚠ 注意

トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、無理に開けたり、壊したりしないでください。

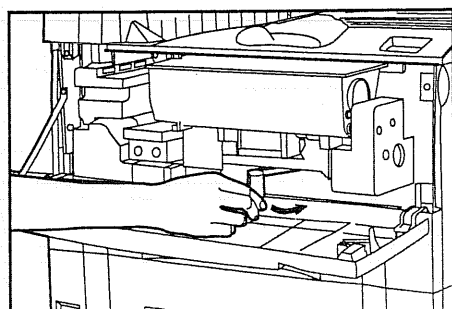
- 4** 新しいトナーカートリッジを軽く上から5～6回たたいて、水平方向に8～10回振ってください。



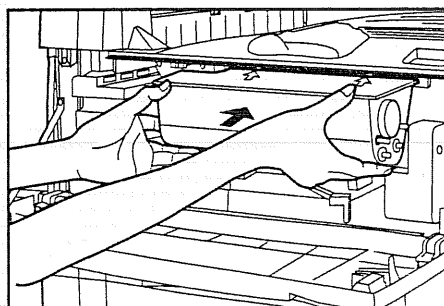
- 1** 前カバーを開けてください。



- 2** トナーカートリッジ解除レバーを右に止まるまで引き出してください。古いトナーカートリッジの固定が解除されます。



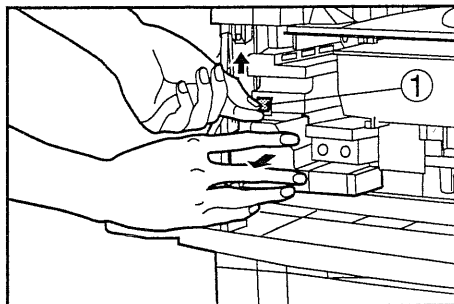
- 5** 新しいトナーカートリッジをセットしてください。
※トナーカートリッジの上部にある矢印を本体の切り欠きに合わせて挿入してください。



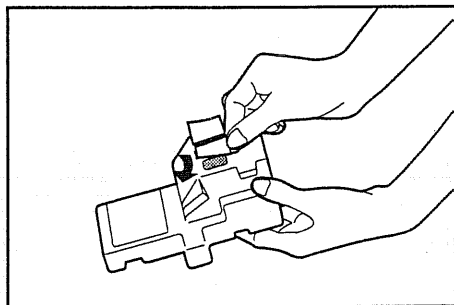
- 6** トナーカートリッジ解除レバーを左に止まるまで回してください。

新しいトナーカートリッジが固定されます。

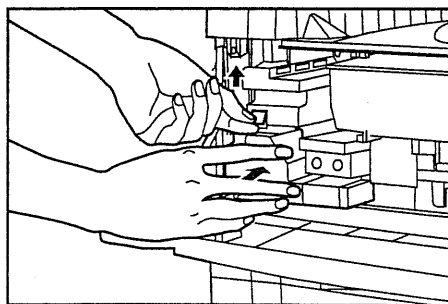
- 7** トナー回収タンク解除レバー（イラストの①）を上押しして、トナー回収タンクを取り出してください。



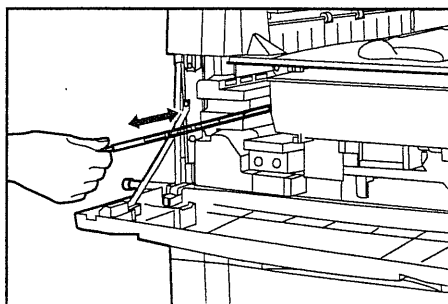
- 8** トナー回収タンクのシールで開放口をふさいでください。



- 9** トナー回収タンク解除レバーを上押しして、新しいトナー回収タンクをセットしてください。



- 10** クリーナー棒をゆっくり引き出せるまで引っ張り、もう一度押し込んでください。



重要

むりやりひっぱたり、引き抜いたりしないでください。

⚠ 注意

トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、火中に投じないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。

⚠ 注意

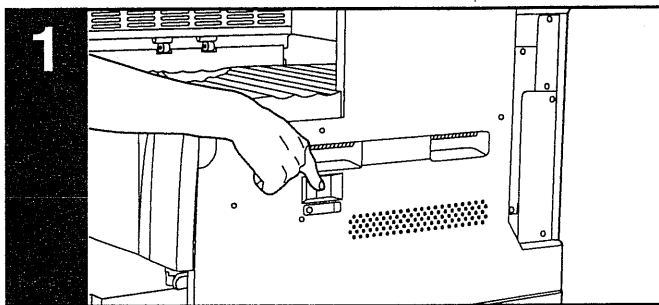
トナーコンテナおよびトナー回収タンクは、無理に開けたり、壊したりしないでください。

- 11** 前カバーを閉めてください。

● 使用後、不要となりましたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、お買い上げの販売店もしくは弊社のサービス担当者にご返却ください。回収されたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、再使用もしくは再資源化のために再利用されるか、法律に従い廃棄処理されます。

4章 基本的なコピー

1. 基本的なコピーのしかた

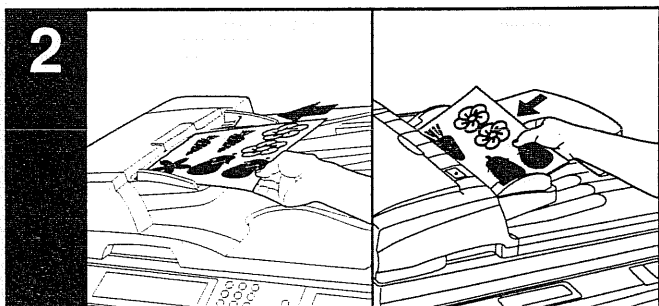


1. 機械のウォームアップ

メインスイッチをON (1) にし、ウォームアップが完了すると、メッセージ表示に“コピーできません”が表示されます。

補足

- ・ウォームアップが完了する前に、原稿をセットしてスタートキーを押すと、ウォームアップが完了すると同時にコピーを開始します。

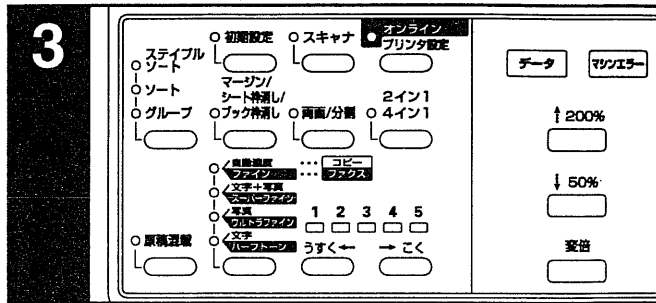


2. 原稿のセット

コンタクトガラスまたはDFに原稿をセットしてください。コンタクトガラスに原稿をセットするときは左奥を基準に原稿サイズ指示板に合わせてください。

補足

- ・原稿をセットする方法は、P3-5を参照してください。



3. 機能の選択

本機の持つさまざまな機能を選択してください。

- ・コピーの縮小/拡大 (P4-4 参照)
- ・割り込みコピー (P4-6 参照)
- ・いろんな原稿から両面コピー (P5-1 参照)
- ・2ページの原稿を1ページずつコピー (P5-4 参照)
- ・コピーに綴じ代を作る (P5-5 参照)
- ・原稿のまわりを消去してコピー (P5-6 参照)
- ・2枚または4枚の原稿を1枚に (P5-7 参照)
- ・自動で仕分けを行う (P5-9 参照)
- ・回転コピー (P5-10 参照)
- ・原稿混載コピー (P5-10 参照)

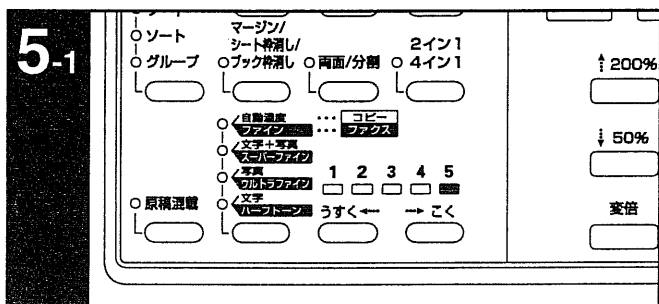


4. 用紙の選択

メッセージ表示に“自動用紙”が表示されていると原稿と同じサイズの用紙を自動的に選択します。原稿と異なる用紙サイズに等倍でコピーするときは用紙サイズ選択キーを押して用紙を選択し、等倍キーを押してください。原稿と同じサイズの用紙に、等倍でコピーするときは特に指示する必要はありません。

補足

- 自動的に用紙サイズを選択させないこともできます。(P6-12、「⑦用紙選択」参照)
- 原稿が無い状態で、自動的に選択されるカセット(給紙段)を選択することができます。(P6-13、「⑩優先カセット」参照)

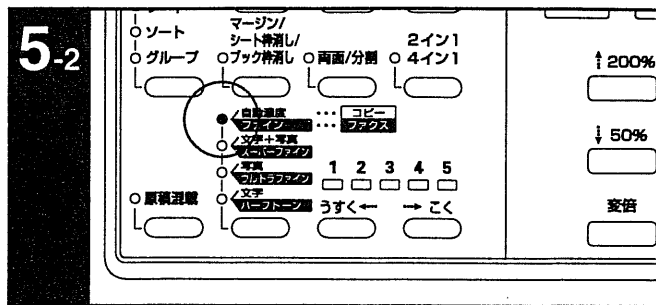


5. コピー濃度の調整

初期モードでは濃度表示が点灯しており、コピー濃度を手動で調整します。コピーを濃くしたいときは、右の濃度調節キーを押して濃度目盛りを右に移動してください。コピーをうすくしたいときは、左の濃度調節キーを押して濃度目盛りを左に移動してください。

補足

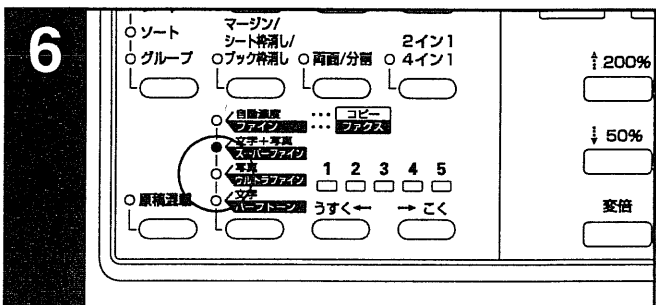
- 濃度調整のレベルを5段階と9段階のどちらかを選択することができます。(P6-11、「②濃度ステップ」参照)



コピー濃度を自動で調節するときは、画質選択キーを押して自動濃度モードを設定してください。自動濃度表示が点灯します。自動濃度モードでは、原稿の濃度を検知して最適のコピー濃度をセッします。また、原稿の地色をとばしてきれいにコピーすることができます。

補足

- 濃度が薄いときや濃いときは、全体的に濃度調整をすることができます。(P6-12、「③自動濃度調整」参照)
- コピー濃度調整の初期設定を自動濃度モードにすることができます。(P6-11、「①濃度モード」参照)



6. 画質の選択

原稿の種類に合わせて、画質を選択することができます。画質選択キーを押して以下の表示を点灯させてください。

文字モード：文字表示を点灯させてください

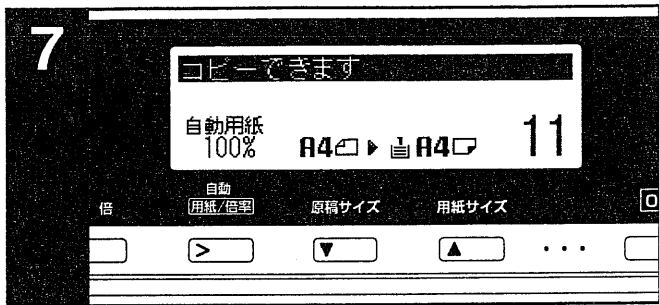
写真モード：写真表示を点灯させてください

文字+写真モード：文字+写真表示を点灯させてください

エコプリント：画質選択キーを押して画質のモード表示を全て消灯します。エコプリントでコピーすると画像是若干うすくなりますが、トナーの消費量を節約できます

補足

- 初期モードで選択される画質のモードを選択することができます。(P6-11、「①濃度モード」参照)
- それぞれの画質のモードで全体的に濃度調整をすることができます。(P6-12「④混在原稿濃度、⑤写真原稿濃度、⑥文字原稿濃度」参照)

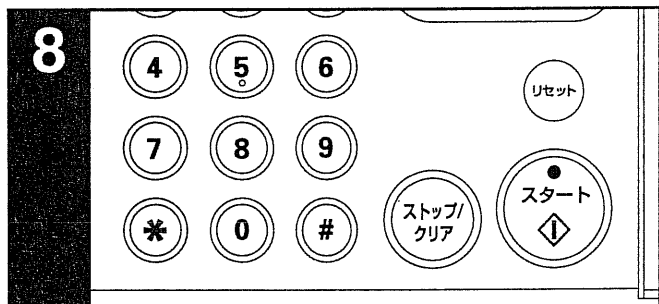


7. コピー枚数の設定

テンキーを押して、メッセージ表示のコピー枚数表示を希望の枚数にしてください。一度に250枚までセットできます。

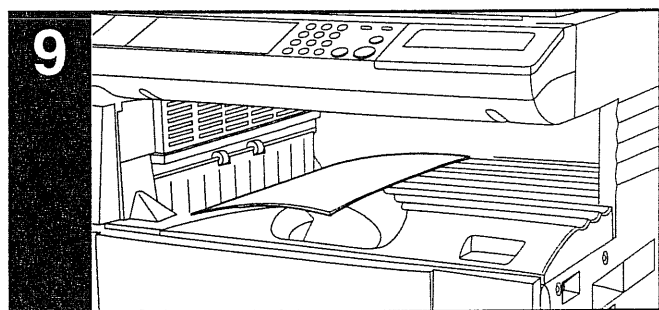
補足

- 一度にできるコピー枚数を制限することもできます。(P6-13、「@コピー部数制限」参照)



8. コピースタート

スタートキーを押してください。スタート表示が緑色に点灯し、メッセージ表示に“コピーできます”が表示されているときはコピーできます。

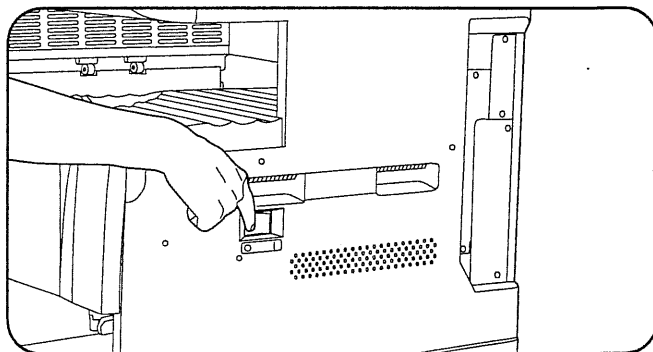


9. コピー終了

仕上がったコピーはコピー収納部に排紙されます。

重要

- ・収納枚数は普通紙 (64g/m²) で250枚までです。但し、使用ペーパーの状態により収納枚数は変化します。
- ・ジョブセパレータを装着している場合は、収納枚数は普通紙 (64g/m²) で150枚までです。
- ・フィニッシャーを装着している場合は、収納枚数は普通紙 (64g/m²) で100枚までです。
- ・“用紙を取り除いて下さい 本体排出用紙オーバーです”が出た場合は、コピー収納部の排出枚数オーバーです。コピー収納部の用紙を取り除いた後、スタートキーを押してコピーを再開してください。
- ・“用紙を取り除いて下さい ジョブセパレータ用紙オーバーです”が出た場合は、ジョブセパレータの排出枚数オーバーです。ジョブセパレータの用紙を取り除いた後、自動的にコピーが再開します。
- ・仕上がったコピーがカールなどしてきれいに収納されないときは、使用されているカセットまたは手差し用の紙を一度取り出し、裏返してからセットしなおしてください。



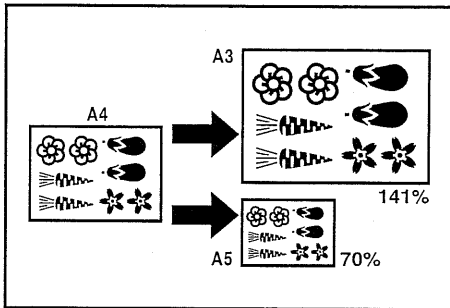
⚠ 注意

夜間等で長時間本製品をご使用にならない場合は、メインスイッチを切ってください。また連休等で長期間、本製品を使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

2. コピーの縮小／拡大

(1) 自動倍率選択モード

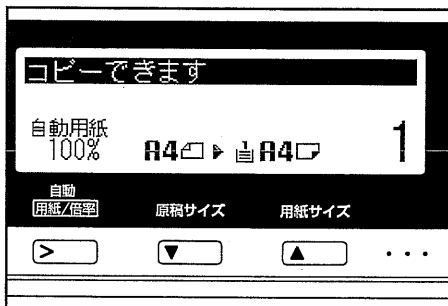
選択した用紙サイズに合わせて縮小／拡大します。



重要

このモードを常時使用するときには、P6-12、「⑧自動倍率モード」で「自動倍率優先」が選択されていることを確認してください。

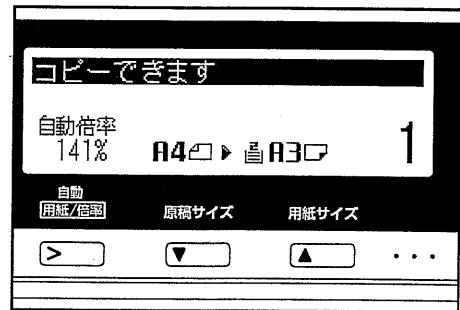
- 1 原稿をセットしてください。
原稿サイズを自動的に検知し、同じサイズの用紙を選択します。



補足

P6-12、「⑧自動倍率モード」で「等倍優先」を選択したときは、自動用紙倍率キーを押して、「自動倍率」を表示させてください。

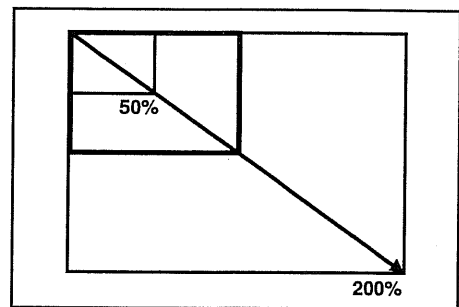
- 2 用紙サイズ選択キーを押して用紙を選択してください。
コピー倍率が表示されます。



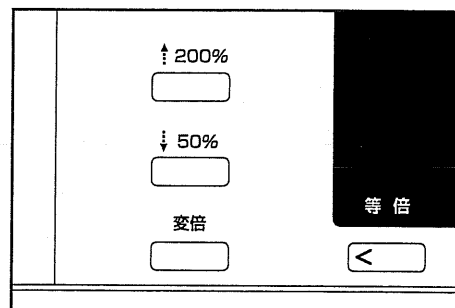
- 3 スタートキーを押すとコピーを開始します。

(2) ズームコピーモード

50～200%の範囲で1%きざみで倍率を変えることができます。



- 1 原稿をセットしてください。
- 2 倍率アップキーまたは倍率ダウンキーで表示されている倍率を変更してください。
用紙サイズを変更するときは用紙サイズ選択キーを押してください。



- 3 スタートキーを押すとコピーを開始します。

4章 基本的なコピー

(3) 固定変倍モード

あらかじめ本機に記憶しているコピー倍率で縮小/拡大コピーができます。

[選択できる倍率]

拡大	200% : A5 → A3
	141% : A4 → A3, B5 → B4
	122% : A4 → B4, A5 → B5
	115% : B4 → A3, B5 → A4
縮小	86% : A3 → B4, A4 → B5
	81% : B4 → A4, B5 → A5
	70% : A3 → A4, B4 → B5
	50% : A3 → A5

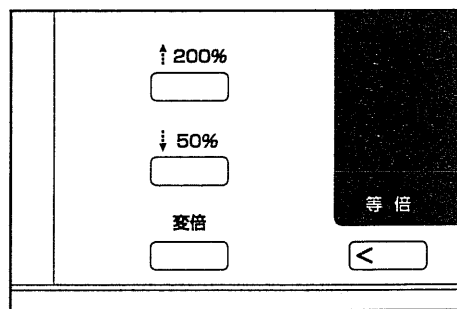
1

原稿をセットしてください。

2

変倍キーを押してください。

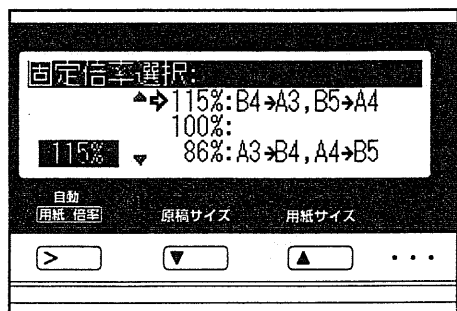
変倍モードの設定画面が表示されます。



3

上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して倍率を選択し、OKキーを押してください。

“コピーできます”の画面に戻り、選択した倍率が表示されます。



補足

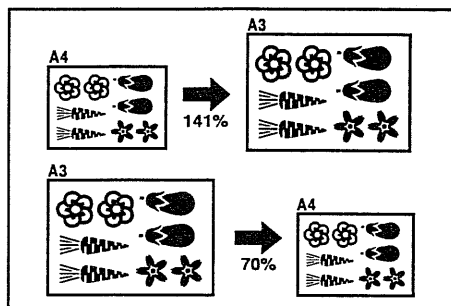
・ 選択した倍率からテンキーや倍率アップキー、倍率ダウンキーを押して1%刻みで倍率を変更することができます。

4

スタートキーを押すとコピーを開始します。

(4) 定形変倍モード

原稿のサイズと用紙のサイズを設定すると、自動的に倍率を選択します。

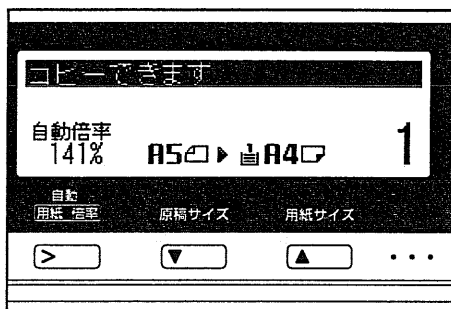


1

原稿をセットしてください。

2

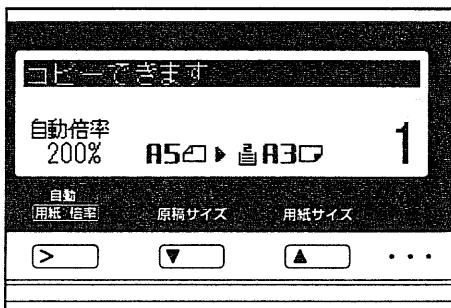
原稿サイズ選択キーを押して原稿サイズを選択してください。



3

用紙サイズ選択キーを押して用紙サイズを選択してください。

用紙サイズが選択されるとコピー倍率が表示されます。

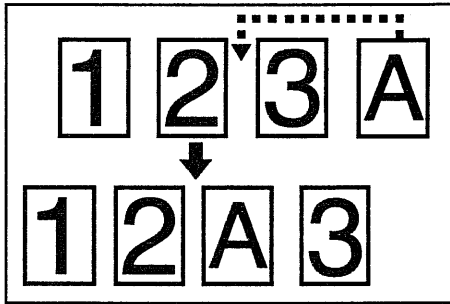


4

スタートキーを押すとコピーを開始します。

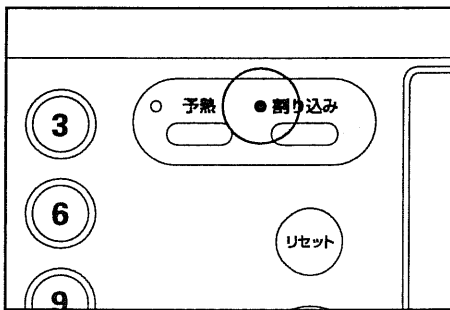
3. 割り込みコピー

コピーの途中で、別の原稿を異なる設定でコピーしたいときは、割り込みコピーが便利です。割り込んだコピーの後に、中断されたコピーを同じ設定で再開することができます。

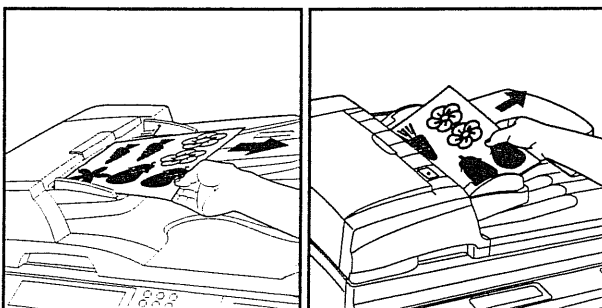


1 割り込みコピーキーを押して、割り込みコピー表示を点灯させてください。

“割り込みコピーできません”が表示されます。



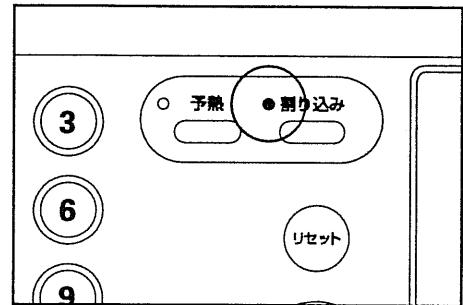
2 コピー中の原稿をいったん保管しておいてください。



3 割り込み原稿をセットしてコピーを行ってください。

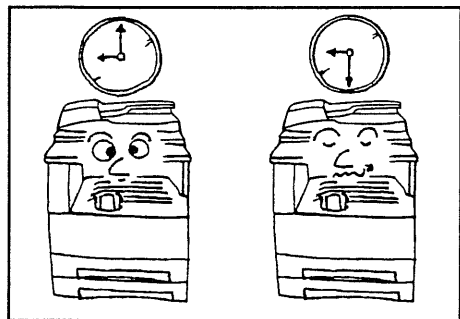
4 割り込みコピーが終了したら、割り込みコピーキーを押し、保管していた原稿に替えてください。スタートキーを押すとコピーを再開します。

※割り込みコピーが終了したら、約120秒経過すると、オートクリア機能が働き、割り込みコピー表示が消え、中断されたコピー状態に戻ります。

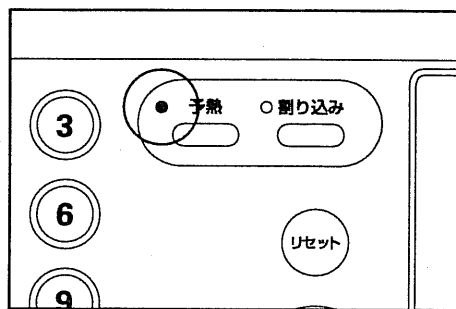


4. 予熱（プレヒート）機能

メインスイッチがONのときでも予熱（プレヒート）キーを押すと、機械は休止状態になります。操作パネル上の表示は予熱（プレヒート）表示だけが点灯し、他は消灯します。



コピーを再開するときは、もう一度予熱（プレヒート）キーを押してください。コピー可能状態までの復帰時間は30秒以内です。

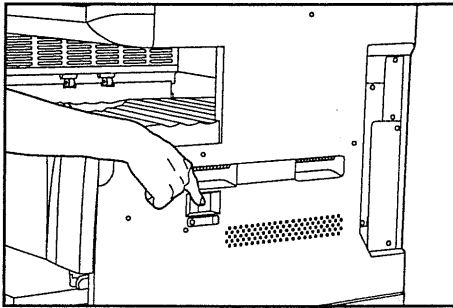
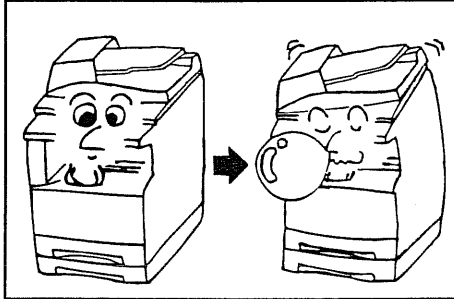


補足

- ・一定時間コピー作業をしないと自動的に予熱（プレヒート）機能が働くオートプレヒートモードを使用することができます。（P6-18、「⑨オートプレヒートタイム」を参照）

5. オートシャットオフ機能

オートシャットオフ機能は、一定時間（15～240分）コピー操作を行わないと、自動的にメインスイッチをOFF（0）にする機能です。コピーを行うときはメインスイッチをON（1）にしてください。



●オートシャットオフ機能について

オートシャットオフ機能は、一定時間コピー操作がないと自動的に電源をOFF（0）にする節電機能です。

複写機は、一般にコピー作業中よりも待機状態が多く、待機時に消費する電力が全体の大きな割合を占めています。複写機本体が自動的に電源をOFF（0）にすることにより、待機中や夜間の電源の消し忘れなどの不要な電力の消費を抑えることができ、電気料金の削減を行うことができます。

補足

- ・ オートシャットオフ機能が働くまでの時間の変更は、P6-18、「⑩オートシャットオフタイム」を、オートシャットオフ機能を解除するときは、P6-16、「②オートシャットオフ」を参照してください。
- ・ オートシャットオフ状態で、ファックスが送られてきたときは、自動的にファックスを受信し、出力します。

5章 機能的なコピー

1. いろんな原稿から両面コピー [両面コピー]

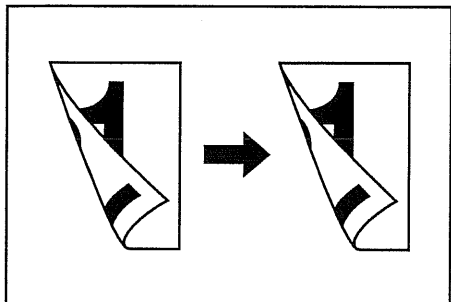
オプションの両面ユニットを使用しているとき見開き原稿や片面原稿などいろんな原稿から両面コピーがとれます。この機能は20枚機でのみ使用できます。

重要

・手差しを使用して両面コピーすることはできません。

(1) 両面原稿からの両面コピー

裏表両面の原稿を同じように両面コピーします。

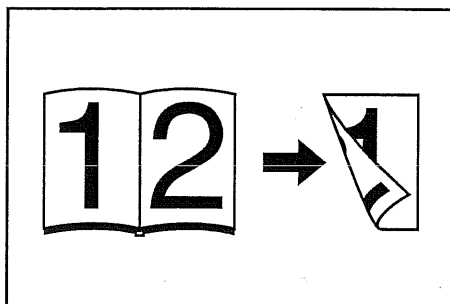


重要

・使用できる用紙サイズはA3～A5Rです。

(2) ブック原稿からの両面コピー

雑誌や本などの見開き2ページを1回のスタートキー操作で用紙の両面にコピーを行います。

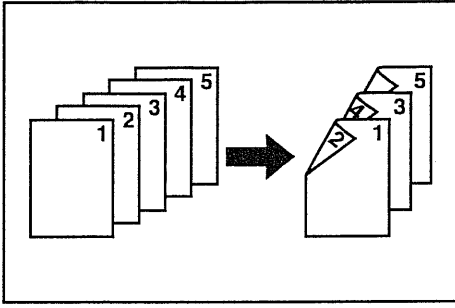


重要

・このモードに使用できる用紙サイズはA4、B5に限られます。

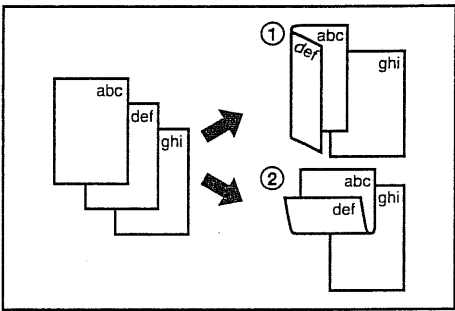
(3) 片面原稿からの両面コピー

片面原稿を裏表に両面コピーします。原稿が奇数枚のときは、最終ページの裏面が白紙になります。

**補足**

裏面のコピーを180度回転させてコピーすることもできます。

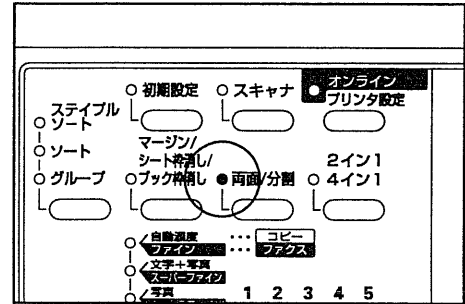
- ① 回転しない：裏面のコピーをそのままの方向でコピーをします。
- ② 回転する：裏面のコピーを180度回転させてコピーをします。仕上がったコピーを上で綴じて、各見開きのページが同じ方向にコピーされているようにできます。



1 原稿をセットしてください。

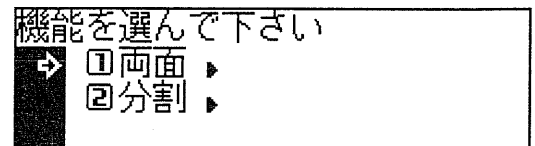
2 両面/分割コピーキーを押して、表示を点灯させてください。

機能選択画面が表示されます。

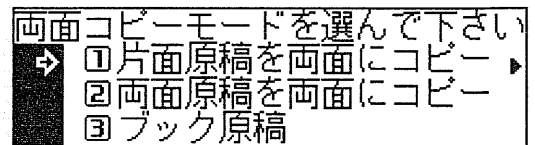


3 “両面”が選択されていることを確認して、OKキーを押してください。

両面コピーの設定画面が表示されます。



4 下カーソルキーを押して両面コピーのモードを選択してください。

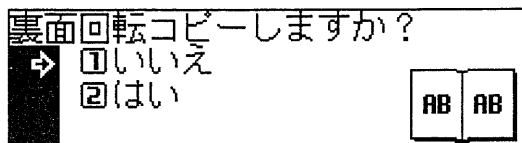


5 OKキーを押してください。

“片面原稿を両面にコピー”を選択した場合は次の手順に進んでください。

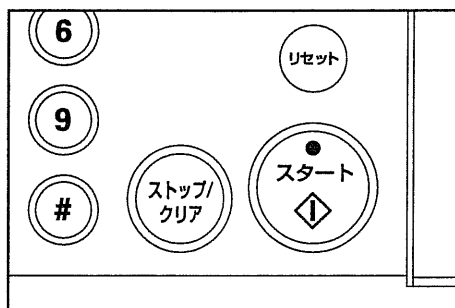
“両面原稿を両面にコピー”または“ブック原稿”を選択した場合は“両面コピーできます”の画面に替わります。

- 6** 裏面のコピーを180度回転させるかどうか選択してください。



- 7** OKキーを押してください。
"両面コピーできます"の画面に替わります。

- 8** スタートキーを押してください。原稿の読み取りを開始します。DFに原稿をセットしたときはコピーを行います。コンタクトガラスにセットしたときは次の手順に進んでください。



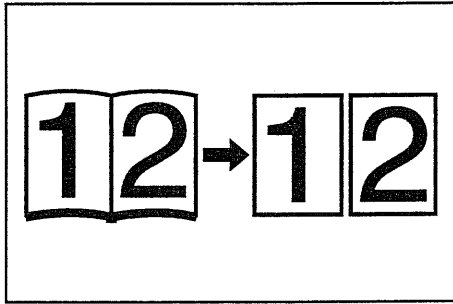
- 9** 原稿を入れ替えてスタートキーを押してください。原稿の読み取りを行います。
コピーする原稿に同様の操作を行い、最後にOKキーを押してください。コピーを開始します。



2. 2ページの原稿を1ページずつコピー [分割コピー]

(1) ブック原稿からの分割コピー

雑誌・本などの見開き2ページの原稿を1ページずつ別々にコピーします。

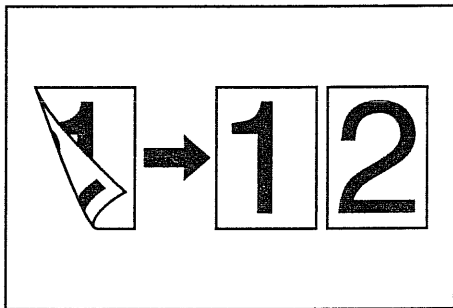


重要

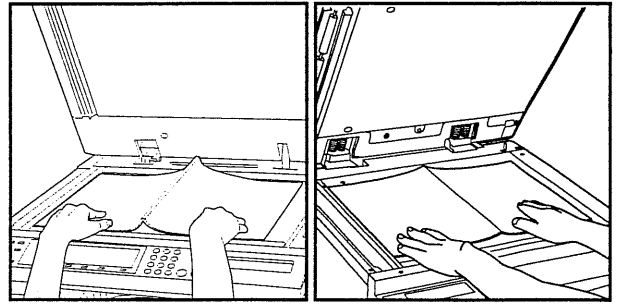
・使用できる原稿サイズは見開きでA3、B4、A4R、B5RとA5R、用紙サイズはA4、A4R、B5、B5R（A4R、B5Rは回転コピー）に限られます。用紙サイズを変更して、そのサイズに変倍することができます。

(2) 両面原稿からの分割コピー

両面原稿を1ページずつ別々にコピーします。



1 原稿をセットしてください。

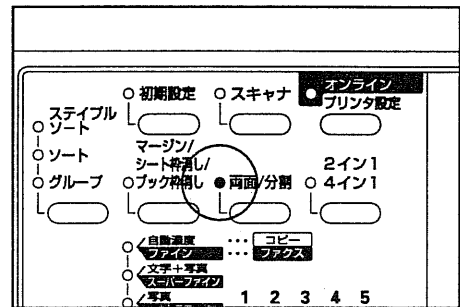


補足

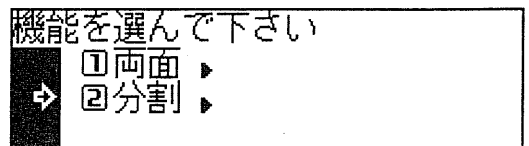
・ブック原稿をセットするときはイラストのようにセットしてください。

2 両面/分割コピーキーを押して、表示を点灯させてください。

機能選択画面が表示されます。

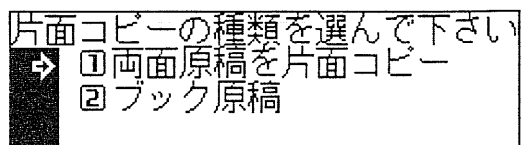


3 下カーソルキーを押して、“分割”を選択してください。



4 OKキーを押してください。
分割コピーの設定画面が表示されます。

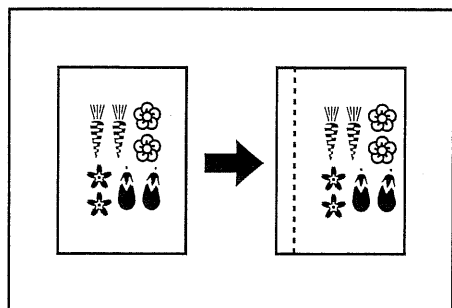
5 下カーソルキーを押して、分割コピーのモードを選択してください。



6 OKキーを押してください。
“コピーできます”の画面に戻ります。

3. コピーに綴じ代を作る [マージンコピー]

原稿の画像の位置を右にずらしてコピーし、左側に1 mm~18 mmの間で1 mm刻みの幅でとじ代 (余白) を作ります。



補足

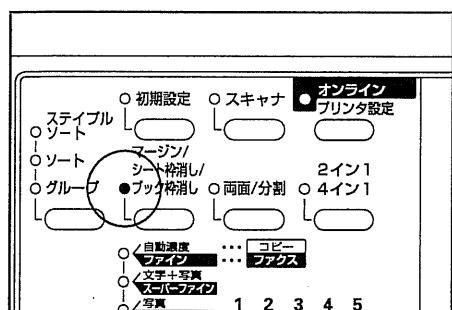
- ・ マージン幅の初期値を設定することができます。(P6-13、「⑩マージン幅設定」参照)
- ・ 両面コピー設定時に左マージンを設定すると、裏面には表面と同じ幅の右マージンが自動的に設定されます。

1 原稿をセットしてください。

重要

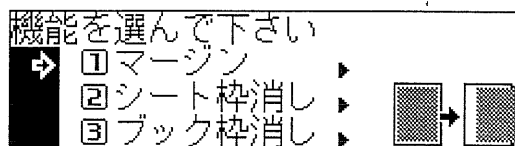
- ・ 原稿は上方向 (または左方向) が奥になるようにセットしてください。原稿のセット方向を誤ると設定した位置に綴じ代が作られません。

2 マージン/シート枠消し/ブック枠消しキーを押して、表示を点灯させてください。
機能選択画面が表示されます。



3 "マージン" が選択されていることを確認して、OKキーを押してください。

マージンコピーの設定画面が表示されます。



4 マージン幅の設定を変更するときには、右カーソルキーまたは左カーソルキーを押してマージン幅を設定してください。1 mm~18 mmの間で1 mm刻みで設定できます。

マージン幅の設定の変更をしない場合はそのまま次の手順に進んでください。

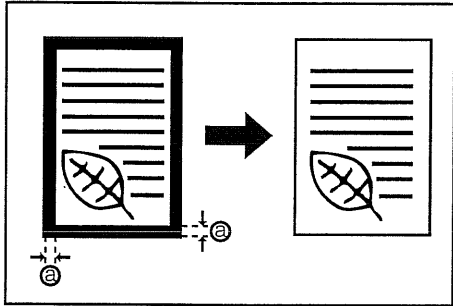


5 OKキーを押してください。"コピーできます" の画面に戻ります。

4. 原稿のまわりを消去してコピー [枠消し]

(1) シート原稿のまわりを消去 (シート枠消し)

シート原稿のまわりにできた黒い陰を消すときに使用してください。枠消し幅は6、12、18mmの中から選択できます。(イラストのⒶは枠消し幅)

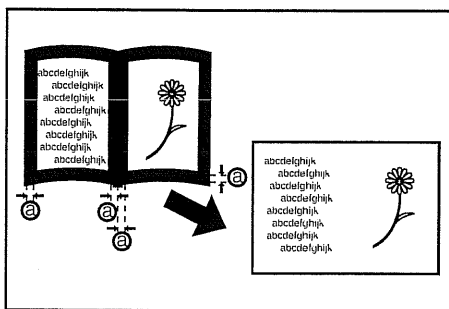


補足

・ 枠消し幅の初期値を設定することができます。(P6-13、「①枠消し幅選択」参照)

(2) ブック原稿のまわりと中央部を消去 (ブック枠消し)

分厚い本をきれいにコピーするときに使用してください。枠消し幅は6、12、18mmの中から選択できます。(イラストのⒶは枠消し幅)



補足

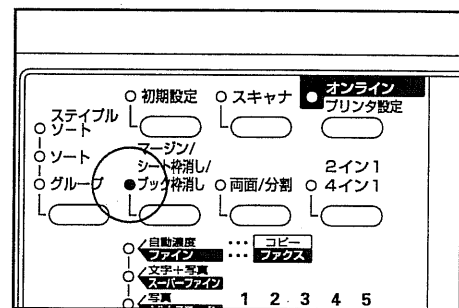
・ 枠消し幅の初期値を設定することができます。(P6-13、「①枠消し幅選択」参照)

1 原稿をセットしてください。

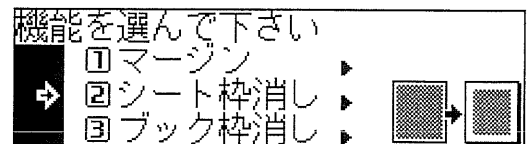
補足

・ ブック原稿をセットするときは、P5-4の手順1を参照してください。

2 マージン/シート枠消し/ブック枠消しキーを押して、表示を点灯させてください。
機能選択画面が表示されます。

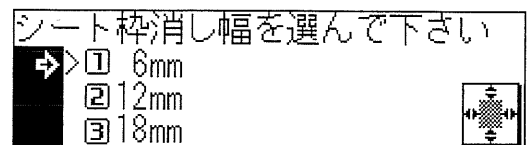


3 下カーソルキーを押して、枠消しのモードを選択してください。



4 OKキーを押してください。

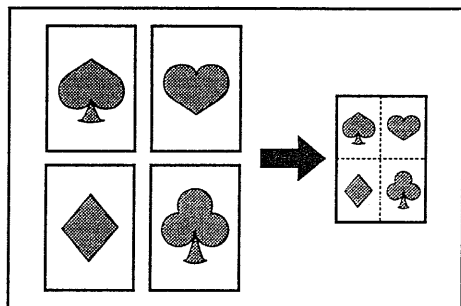
5 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、枠消し幅を選択してください。6、12、18mmの中から選択できます。



6 OKキーを押してください。“コピーできます”の画面に戻ります。

5. 2枚または4枚の原稿を1枚に【集約コピー】

2枚あるいは4枚の原稿を縮小し、1枚のコピーに集約することができます。また、各原稿の境界線を実線、点線で区切ることもできます。



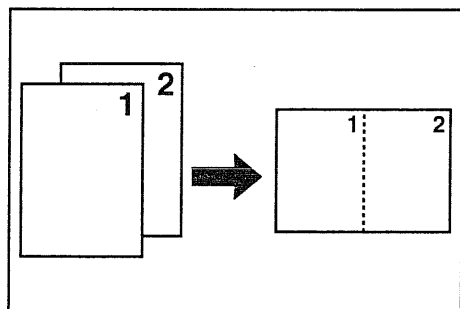
補足

・原稿サイズ、用紙サイズは定形サイズのみ使用できます。

(1) 2 in 1

2枚の原稿を1枚のコピーにします。オプションの両面ユニットを使用して、両面コピーと併用すると4枚の原稿を1枚の両面コピーにすることができます。

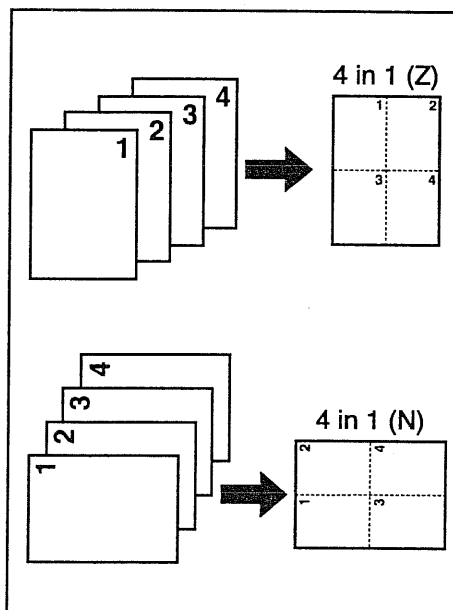
(原稿をコンタクトガラスにセットするときは1→2の順で行ってください。)



(2) 4 in 1

4枚の原稿を1枚のコピーにします。オプションの両面ユニットを使用して、両面コピーと併用すると8枚の原稿を1枚の両面コピーにすることができます。

(原稿をコンタクトガラスにセットするときは1→2→3→4の順で行ってください。)

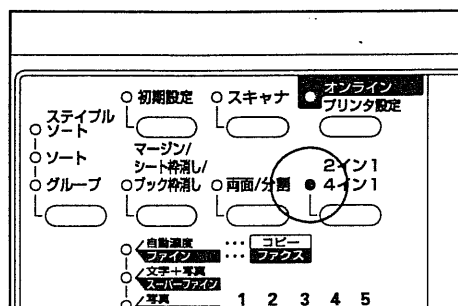


原稿	原稿のセット場所	
	DF	コンタクトガラス
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">P</div> 縦		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">L</div> 横		

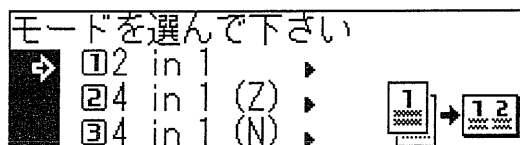
補足

- ・“4 in 1”モードは原稿のセット方向によってモードが異なります。
- ・両面コピーする場合は、裏面を回転させてコピーすることもできます。

- 1** 集約コピーキーを押して、表示を点灯させてください。
集約コピーの設定画面が表示されます。

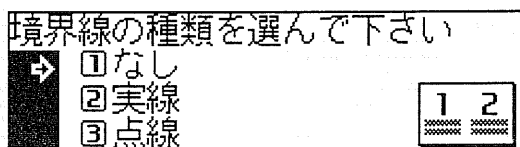


- 2** 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、集約コピーのモードを選択してください。
“4 in 1”モードで原稿を横にセットするときは“4 in 1 (Z)”を、原稿を縦にセットするときは“4 in 1 (N)”を選択してください。



- 3** OKキーを押してください。

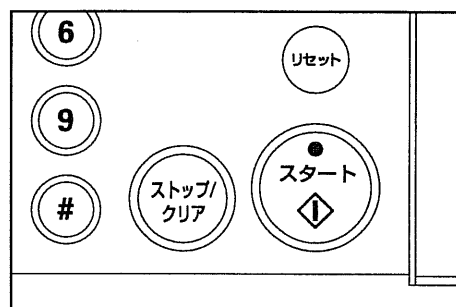
- 4** 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、境界線の種類を選択してください。“点線”、“実線”の中から選択してください。



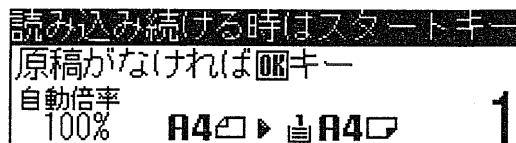
- 5** OKキーを押してください。
“コピーできません”の画面に戻ります。

- 6** 原稿をセットしてください。

- 7** スタートキーを押してください。
DFに原稿をセットした場合は、原稿を1枚ずつ読み取りコピーまで行います。
コンタクトガラスに原稿をセットした場合には次の手順に進んでください。



- 8** 原稿を入れ替えてスタートキーを押してください。原稿の読み取りを行います。コピーする原稿に同様の操作を行い、最後にOKキーを押してください。コピーを開始します。

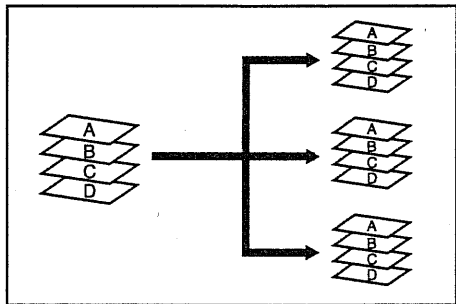


重要

- ・原稿をコンタクトガラスにセットしてコピーするときは、セットする順番を確認してから行ってください。
- ・必要に応じて用紙を選択してください。

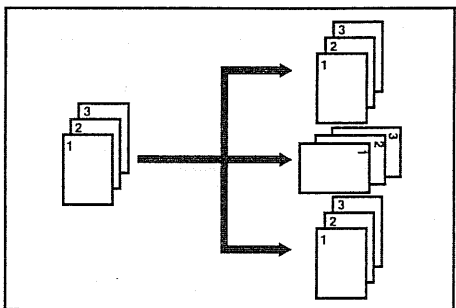
6. 自動で仕分けを行う [ソートコピー]

複数枚の原稿をいったんメモリーに入れてコピーを行うため、オプションのフィニッシャーがなくても、必要部数仕分けを行うことができます。



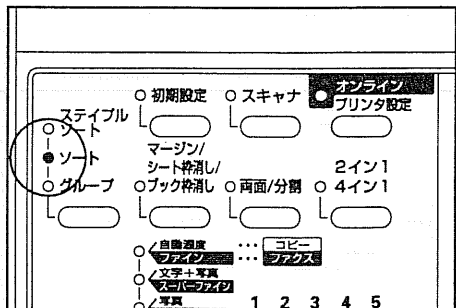
補足

・ P6-13、「⑩回転ソート設定」で“On”の設定をしてあり、用紙がA4またはB5であれば、1部ずつのコピーの方向を変えてコピーし、仕分けがしやすくなります。この設定を使用するときにはA4またはB5の用紙が縦横両方向でセットされていないとなりません。手差しを利用する場合は、P 3-3、「手差しの用紙選択とサイズ選択」で用紙サイズを設定してください。



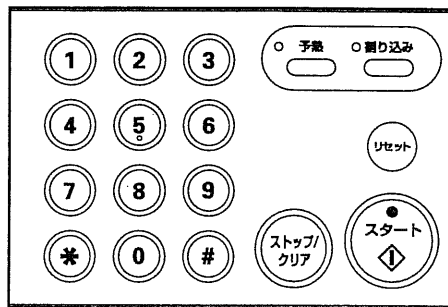
1 原稿をセットしてください。

2 ソートモードキーを押して、ソート表示を点灯させてください。

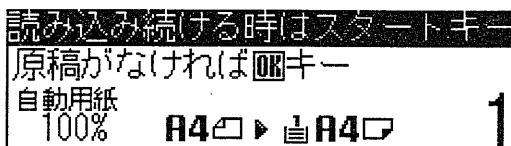


3 コピー部数を入力し、スタートキーを押してください。DFに原稿をセットした場合は読み込みを開始し、コピーまで行います。

コンタクトガラスに原稿をセットした場合は、次の手順に進んでください。



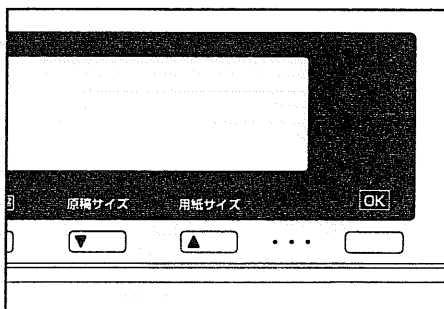
4 原稿を入れ替えてスタートキーを押してください。



補足

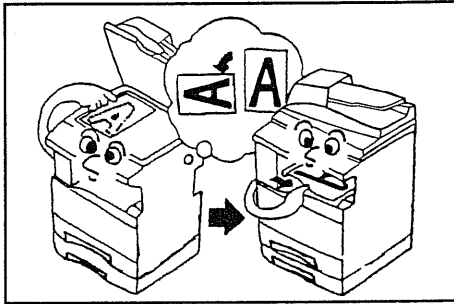
・ 原稿の枚数分繰り返してください。

5 すべての原稿の読み込みが終了したらOKキーを押してください。
コピーを開始します。



7. 回転コピー

セットした原稿の向きとカセットの中の用紙の向きが異なる場合でも、画像を反時計回りに90度回転してコピーします。この機能に関して、特に設定などを行う必要はありません。

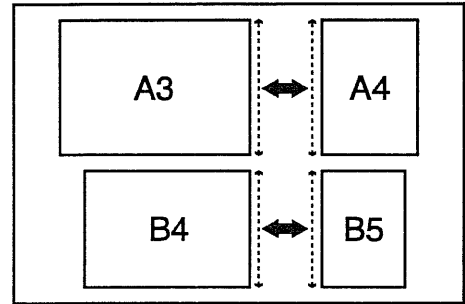


重要

- ・自動用紙選択モードで、回転コピーできるのは原稿/用紙ともに、A4、A4RとB5、B5Rに限られます。
- ・自動倍率選択モードで、回転コピーを使用できる用紙サイズは、A4、A4R、A5R、B5、B5R、B6R、はがきに限られます。

8. 原稿混載コピー

DFを使用しているとき、原稿のサイズを1枚ずつ検知して、それぞれの原稿と同じサイズの用紙に自動的にコピーします。

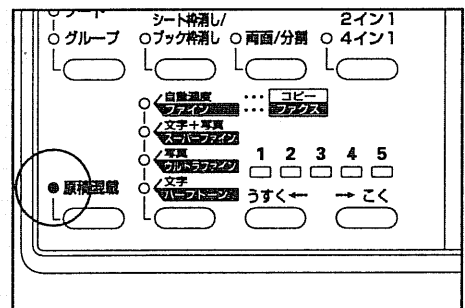


重要

- ・このモードでDFにセットできる枚数は、最大50枚です。
- ・このモードで使用できる原稿はA3とA4あるいはB4とB5で、原稿幅が同じサイズのものに限られます。

1 DFに原稿をセットしてください。

2 原稿混載キーを押して、表示を点灯させてください。



3 スタートキーを押してください。
コピーを開始します。

6章 複写機の管理モード

1. 部門管理

部門別に4桁の部門コード(暗証番号)を設定することにより、最大100部門までの部門別のトータルコピー枚数を管理します。また、部門別に制限枚数を設定することもできます。



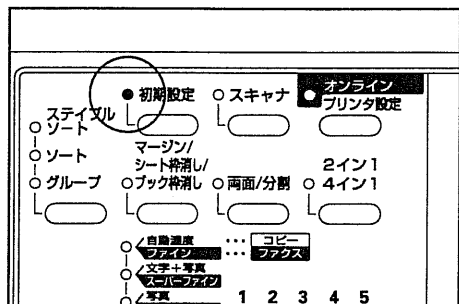
(1) 部門管理モードについて

部門管理モード	部門管理モードの内容	参照ページ
●新規部門登録	4桁の部門コードとその制限枚数の登録を行います。部門コードは100部門まで登録することができます。制限枚数は、1,000枚単位で999,000枚まで入力することができます。“0”を入力すると、無制限にコピーができます。制限枚数を設定し、実際に制限枚数以上になるとコピーできなくなります。	6-3
●部門の抹消	登録された部門を抹消するときに行います。	6-4
●制限枚数の修正	一度登録された制限枚数は、部門コードを抹消、再登録せずに修正することができます。	6-5
●コピーカウントのクリア	一定期間にコピー枚数を管理した後、コピー枚数を一括して消去することができます。部門コード別の消去はできません。	6-6
●コピーカウントの参照	コピー枚数を参照するときに行ってください。トータル枚数のほか、サイズ別、部門別に参照できます。	6-6
●部門管理リストの出力	部門別にコピーした枚数をレポート形式にして出力することができます。	6-7

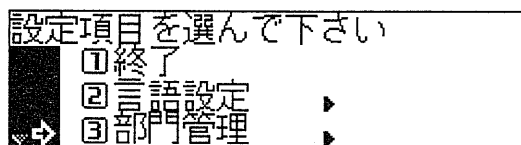
部門管理モード	部門管理モードの内容	参照ページ
●部門管理の ON / OFF	セットした部門管理モードを実際に動かせるときにはONに、部門管理を行わないときにはOFFにしてください。	6-8
●プリンタ部門管理の ON / OFF	本機のプリンタ機能から用紙を出力する際に部門管理を行うときはONに、部門管理を行わないときはOFFにしてください。 ※オプションのプリンタキットを装着していなければこのモードは表示されません。 詳しくはプリンタキットの使用説明書を参照してください。	————
●プリントエラーレポートのON/OFF	プリンタ部門管理時に部門コードのミスマッチエラーが発生した場合にエラーの内容をプリントすることができます。 プリントをする場合はONに、プリントをしない場合はOFFにしてください。 ※オプションのプリンタキットを装着していなければこのモードは表示されません。 詳しくはプリンタキットの使用説明書を参照してください。	————

(2) 部門管理の選択画面の表示のさせかた

- 1 初期設定キーを押して初期設定表示を点灯させてください。
管理モードの選択画面が表示されます。

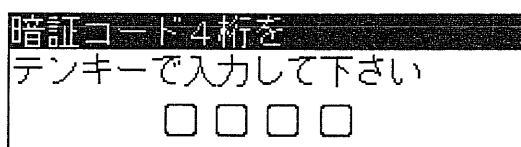


- 2 下カーソルキーを押して、「部門管理」を選択してください。



- 3 OKキーを押してください。

- 4 テンキーで暗証番号「2000」（15枚機は「1500」）を入力してください。



補足

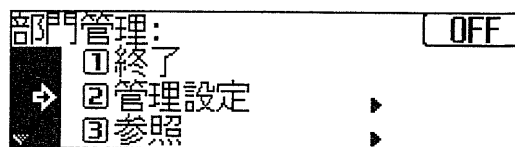
- ・4桁の暗証番号は変更することができます。(P6-18、「⑩暗証コード変更」参照)
- ・以降の「(3) 各モードの設定のしかた」を参照して設定を行ってください。
- ・選択画面で表示される (>) は現在の設定値を示します。

(3) 各モードの設定のしかた

●新規部門登録

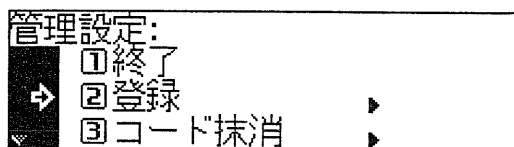
- 1 部門管理の選択画面を表示させてください。
(「(2) 部門管理の選択画面の表示のさせかた」参照)

- 2 下カーソルキーを押して、「管理設定」を選択してください。



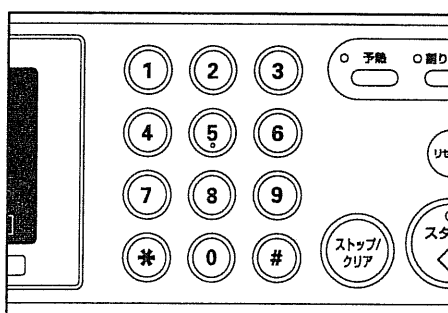
- 3 OKキーを押してください。

- 4 下カーソルキーを押して、「登録」を選択してください。



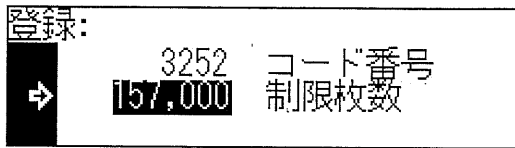
- 5 OKキーを押してください。

- 6 テンキーで部門コード（4桁）を入力してください。



- 7 下カーソルキーを押して制限枚数を反転させてください。

- 8** 制限枚数をテンキーで入力してください。
1,000～999,000枚まで1,000枚単位で入力できます。



補足

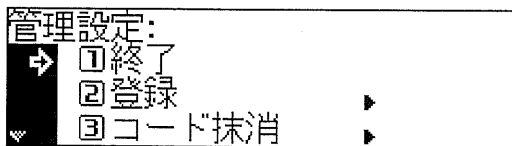
- ・“0”を入力すると、無制限にコピーができます。
- ・ストップ/クリアキーを押すと登録したコード番号をキャンセルしてコード番号を入力し直すことができます。

- 9** OKキーを押してください。手順4の画面に戻ります。

補足

- ・その他の部門を登録するときは手順5～9を行ってください。

- 10** 上カーソルキーを押して“終了”を選択して、OKキーを押してください。手順2の画面に戻ります。

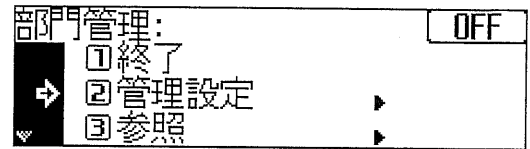


- 11** 上カーソルキーを押して“終了”を選択して、OKキーを押してください。“コピーできます”の画面に戻ります。

●部門の抹消

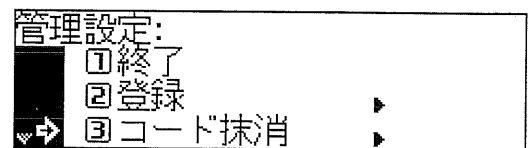
- 1** 部門管理の選択画面を表示させてください。
(P6-3参照)

- 2** 下カーソルキーを押して、“管理設定”を選択してください。



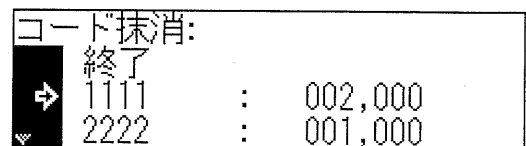
- 3** OKキーを押してください。

- 4** 下カーソルキーを押して、“コード抹消”を選択してください。



- 5** OKキーを押してください。

- 6** 上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して、抹消する部門コードを選択してください。

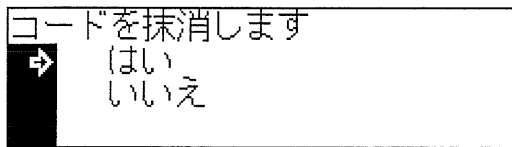


補足

- ・部門コードの登録が全くされていない場合は「———」と表示され、カーソルは動きません。

- 7** OKキーを押してください。

- 8 抹消を確認するメッセージが表示されます。抹消を行うときは上カーソルキーを押して“はい”を選択し、OKキーを押してください。取りやめるときは、“いいえ”が選択されていることを確認して、OKキーを押してください。手順6の画面に戻ります。

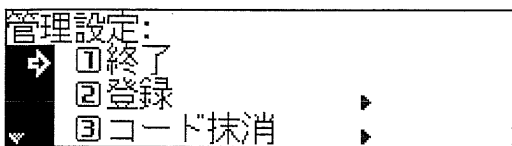


補足

・その他の部門を抹消するときは手順6～8を行ってください。

- 9 “終了”が選択されていることを確認して、OKキーを押してください。手順4の画面に戻ります。

- 10 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。手順2の画面に戻ります。

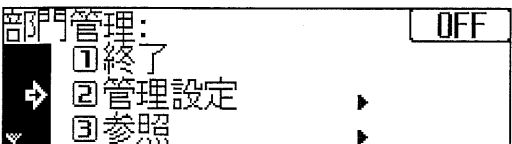


- 11 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。“コピーできます”の画面に戻ります。

● 制限枚数の修正

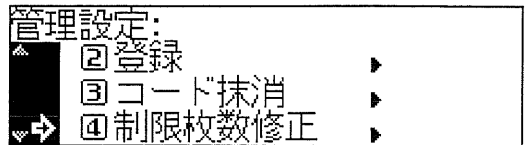
- 1 部門管理の選択画面を表示させてください。
(P6-3 参照)

- 2 下カーソルキーを押して、“管理設定”を選択してください。



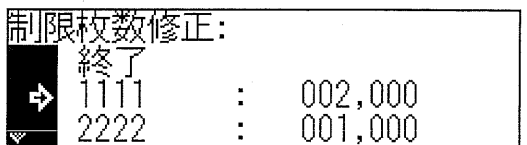
- 3 OKキーを押してください。

- 4 下カーソルキーを押して、“制限枚数修正”を選択してください。



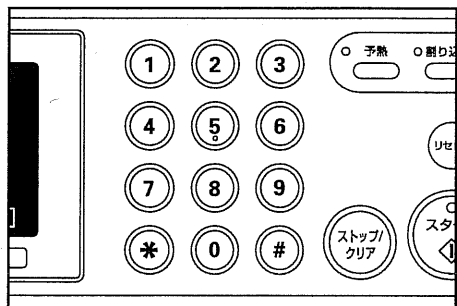
- 5 OKキーを押してください。

- 6 上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して、制限枚数の修正を行う部門コードを選択してください。



- 7 OKキーを押してください。

- 8 修正枚数をテンキーで入力してください。
1,000～999,000枚まで1,000枚単位で入力できます。



補足

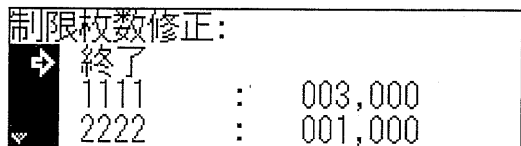
・“0”を入力すると無制限にコピーできます。

- 9 OKキーを押してください。
手順6の画面に戻ります。

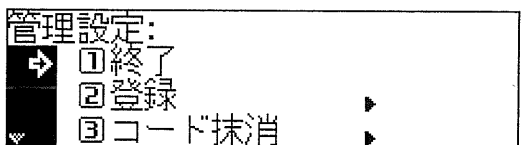
補足

・その他の部門の修正をするときは手順6～9を行ってください。

- 10** “終了” が選択されていることを確認して、OK キーを押してください。手順4の画面に戻ります。



- 11** 上カーソルキーを押して“終了”を選択して、OK キーを押してください。手順2に戻ります。

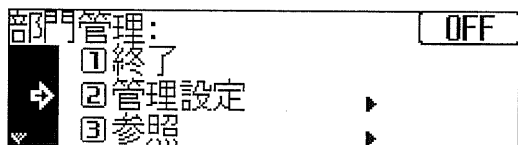


- 12** 上カーソルキーを押して“終了”を選択して、OK キーを押してください。“コピーできません”の画面に戻ります。

●コピーカウントのクリア

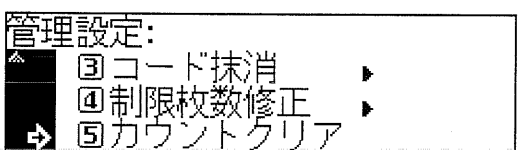
- 1** 部門管理の選択画面を表示させてください。(P6-3 参照)

- 2** 下カーソルキーを押して、“管理設定”を選択してください。



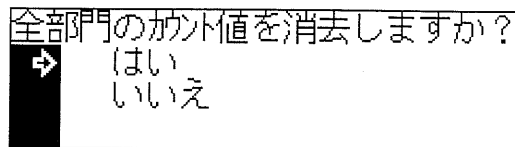
- 3** OK キーを押してください。

- 4** 下カーソルキーを押して、“カウントクリア”を選択してください。

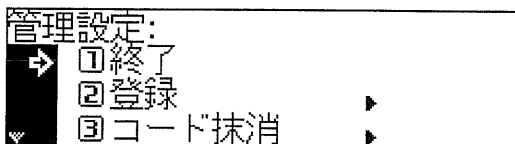


- 5** OK キーを押してください。

- 6** 全てのカウントをクリアするかどうかを確認するメッセージが表示されます。クリアを行うときは、上カーソルキーを押して“はい”を選択して、OK キーを押してください。取りやめるときは、“いいえ”が選択されていることを確認して、OK キーを押してください。手順4の画面に戻ります。



- 7** 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OK キーを押してください。手順2の画面に戻ります。

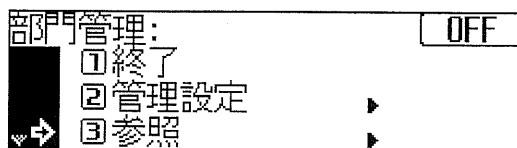


- 8** 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OK キーを押してください。“コピーできません”の画面に戻ります。

●コピーカウントの参照

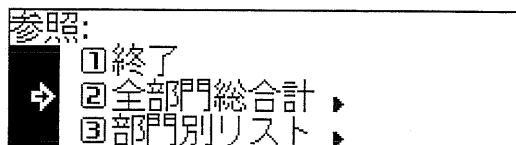
- 1** 部門管理の選択画面を表示させてください。(P6-3 参照)

- 2** 下カーソルキーを押して、“参照”を選択してください。



- 3** OK キーを押してください。

- 4** 全部門の枚数を参照するときは、下カーソルキーを押して“全部門総合計”を選択してください。また、部門別に枚数を参照するときは、“部門別リスト”を選択してください。



6章 複写機の管理モード

5 OKキーを押してください。
“全部門総合計”を選択したときは次の手順に、“部門別リスト”を選択したときは手順9に進んでください。

6 メッセージ表示の上にコピーの総枚数が表示されます。その下にサイズ別のコピー枚数が表示されます。表示されている以外のサイズのコピー枚数を参照するときは、下カーソルキーを押して表示させてください。

7 参照が終了したら、上カーソルキーを押して“終了”を選択してください。

全部門総合計:	0,027,054
→ 終了	
A 3 :	007,000
A 4 :	010,000

8 OKキーを押してください。手順4の画面に戻ります。手順12に進んでください。

9 上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して、参照する部門コードを選択してください。

部門別リスト:	
→ 終了	
1111 :	000,082
2222 :	000,649

補足

・部門コードの登録が全くされていない場合は「———」と表示され、カーソルは動きません。

10 参照が終了したら、上カーソルキーを押して“終了”を選択してください。

11 OKキーを押してください。手順4の画面に戻ります。

12 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。手順2の画面に戻ります。

参照:	
→ ① 終了	
② 全部門総合計	▶
③ 部門別リスト	▶

13 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。“コピーできません”の画面に戻ります。

● 部門管理リストの出力

1 部門管理の選択画面を表示させてください。
(P6-3 参照)

重要

・この時A4の用紙がカセットにセットされていることを確認してください。

2 下カーソルキーを押して、“部門管理リスト出力”を選択してください。

部門管理:	OFF
② 管理設定	▶
③ 参照	▶
→ ④ 部門管理リスト出力	

3 OKキーを押してください。部門管理リストの出力を行います。リストの出力が終了したら、手順2の画面に戻ります。



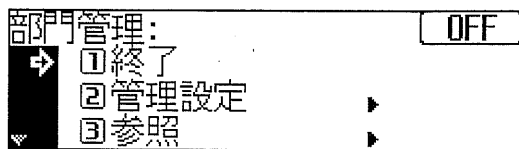
補足

・A4の用紙がセットされていない場合は、確認のメッセージが表示されます。使用する用紙を選択してスタートキーを押してください。

4 上カーソルキーを押して“終了”を選択して、OKキーを押してください。“コピーできません”の画面に戻ります。

● 部門管理の ON / OFF

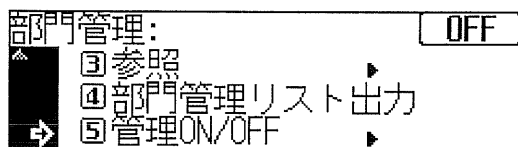
- 1 部門管理の選択画面を表示させてください。
(P6-3 参照)



補足

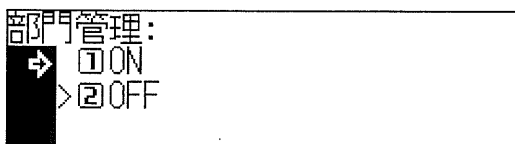
- ・画面の右上に部門管理が ON か OFF が表示されています。部門管理の ON / OFF を変更するときは以下の手順で行ってください。

- 2 下カーソルキーを押して、“管理 ON / OFF” を選択してください。



- 3 OK キーを押してください。

- 4 上カーソルキーまたは下カーソルキーを押して“ON” または “OFF” を選択してください。

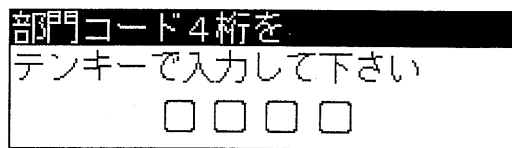


- 5 OK キーを押してください。
手順2の画面に戻ります。

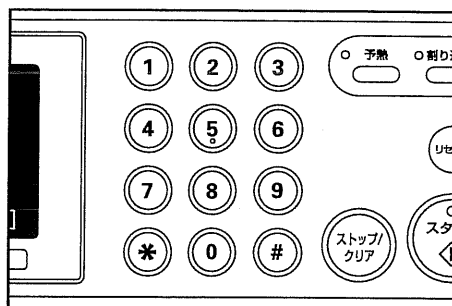
- 6 “終了” が選択されていることを確認して、OK キーを押してください。“OFF” を選択したときは、“コピーできます” の画面に戻ります。

(4) 部門管理の時のコピー

部門管理を行っているときは、メッセージ表示に“部門コード4桁をテンキーで入力して下さい”と表示されます。



- 1 所属する部門コードをテンキーで入力してください。



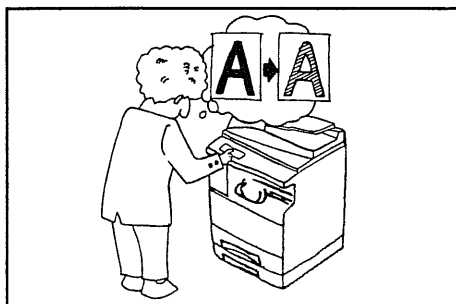
- 2 “コピーできません” が表示されたら、通常のコピー操作を行ってください。



補足

- ・コピー終了後は、予熱（プレヒート）キーを押してください。また、オートクリア機能がはたらくともとの状態に戻ります。

2. 初期設定



本機では、ウォームアップが終了した後やリセットキーを押した後の状態を初期モードといいます。初期モードのときに自動的に設定される機械の内容を初期設定と呼びます。初期設定は“コピー初期設定”と“マシン初期設定”に分かれます。使用のしかたに応じてこれらの設定は自由に変更できます。

(1) コピー初期設定の項目について

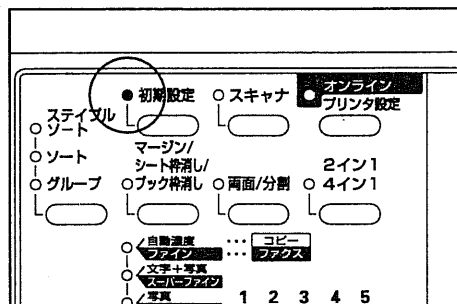
コピー初期設定で変更できる項目は下表の14種類の項目があります。
コピー機能を有効に活用するために、必要に応じて各設定を行ってください。

コピー初期設定項目	設定項目の内容	設定できる値	初期値	参照ページ
①濃度モード	電源投入時のコピー濃度設定が、自動濃度モード (P4-2 参照) 混在モード (文字+写真モード) (P4-2 参照)、写真モード (P4-2 参照)、文字モード (P4-2 参照) かを選択します。	自動/混在/ 写真/文字	混在	6-11
②濃度ステップ	手動濃度モードの濃度調整ステップ数を変更します。	5段階/9段階	5段階	6-11
③自動濃度調整	自動濃度モード使用時の全体的なコピーの濃度を調整します。	1~7	4 (中央)	6-12
④混在原稿濃度	画質の選択 (P4-2 参照) で文字+写真モードを選択したときのコピー濃度が調整できます。	1~7	4 (中央)	6-12
⑤写真原稿濃度	画質の選択 (P4-2 参照) で写真モードを選択したときのコピー濃度が調整できます。	1~7	4 (中央)	6-12
⑥文字原稿濃度	画質の選択 (P4-2 参照) で文字モードを選択したときのコピー濃度が調整できます。	1~7	4 (中央)	6-12
⑦用紙選択	原稿をセットしたときに自動的に同じサイズの用紙が入ったカセットを選択させるか、あるいは手動で選択するかを設定します。	自動/手動	自動	6-12

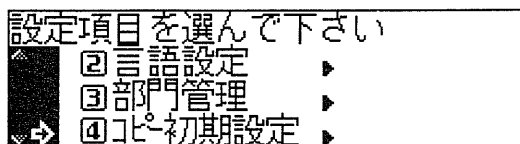
コピー初期設定項目	設定項目の内容	設定できる値	初期値	参照ページ
⑧自動倍率モード	原稿をセットし用紙サイズ選択キーを押したときに、選ばれたカセットサイズに自動的に変倍（自動倍率選択モード、P4-4参照）するか、それとも等倍にするか設定します。	自動倍率優先／ 等倍優先	自動倍率 優先	6-12
⑨コピー部数制限	一度にコピーできる部数を制限します。	1～250部	250部	6-13
⑩マージン幅設定	マージンコピー（P5-5参照）で左マージンのマージン幅の初期値を設定します。	1～18mm (1mm刻み)	6mm	6-13
⑪枠消し幅選択	枠消し（P5-6参照）でシート枠消しまたはブック枠消しでの枠消し幅の初期値を設定します。	6、12、18mm	6mm	6-13
⑫優先カセット	ウォームアップが終了したときやリセットキーが押されたときに優先的に選択される給紙段を選択します。第3給紙、第4給紙が選択できるのはオプションカセットを設置しているときです。	第1給紙～ 第4給紙	第1給紙	6-13
⑬出力モード	D Fに原稿をセットしたときに、ソートコピー（P5-9参照）を優先するかしないかを設定します。	ソートON／ ソートOFF	ソートON	6-13
⑭回転ソート設定	ソートモードが選択されているときに通常のソートコピー（P5-9参照）か回転ソートコピー（P5-9参照）のどちらかを設定します。 ※オプションのフィニッシャー装着時は、この設定は表示されません。	On／Off	Off	6-13

(2) コピー初期設定の変更のしかた

- 1 初期設定キーを押して初期設定表示を点灯させてください。
管理モードの選択画面が表示されます。

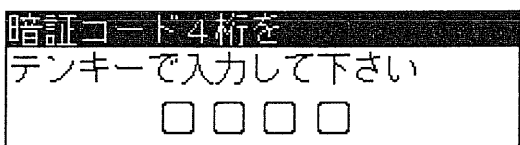


- 2 下カーソルキーを押して、“コピー初期設定”を選択してください。



- 3 OKキーを押してください。

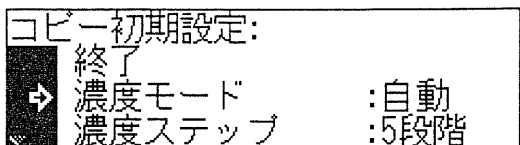
- 4 テンキーで暗証番号“2000”（15枚機は“1500”）を入力してください。



補足

・4桁の暗証番号は変更することができます。（P6-18、「⑩暗証コード変更」参照）

- 5 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、変更するコピー初期設定の項目を選択してください。選択できる項目は、P6-9、「(1) コピー初期設定の項目について」を参照してください。



- 6 OKキーを押してください。

- 7 以後、各項目の設定のしかたを参照して設定を行ってください。

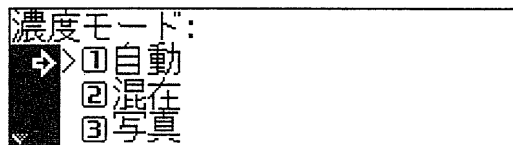
補足

・各選択画面で表示される (>) は現在の設定値を示します。
・各項目の設定が終了したら、手順5の画面に戻ります。その他の項目について設定を行う場合は、手順5～7を繰り返してください。

- 8 終了するときは、上カーソルキーを押して“終了”を選択しOKキーを押してください。“コピーできます”の画面に戻ります。

①濃度モード

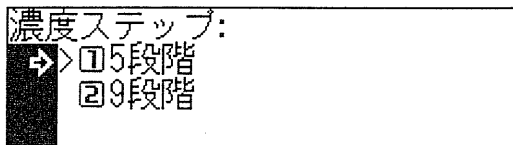
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“自動”、“混在”、“写真”または“文字”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

②濃度ステップ

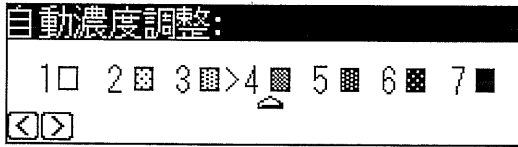
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“5段階”または“9段階”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

③ 自動濃度調整

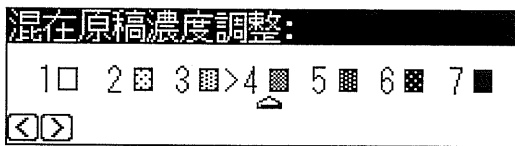
- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、濃度目盛りを移動させてください。右に移動させると濃く、左に移動させるとうすくなります。



- 2 OKキーを押してください。

④ 混在原稿濃度

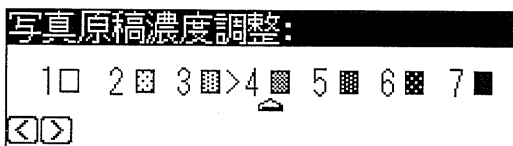
- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、濃度目盛りを移動させてください。右に移動させると濃く、左に移動させるとうすくなります。



- 2 OKキーを押してください。

⑤ 写真原稿濃度

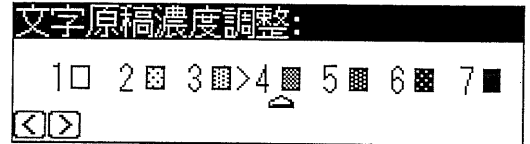
- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、濃度目盛りを移動させてください。右に移動させると濃く、左に移動させるとうすくなります。



- 2 OKキーを押してください。

⑥ 文字原稿濃度

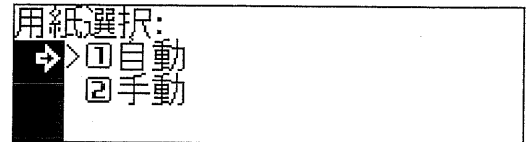
- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、濃度目盛りを移動させてください。右に移動させると濃く、左に移動させるとうすくなります。



- 2 OKキーを押してください。

⑦ 用紙選択

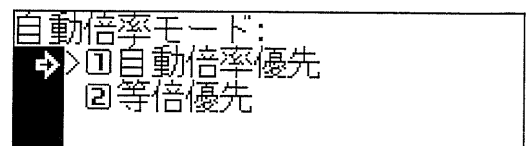
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“自動”または“手動”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑧ 自動倍率モード

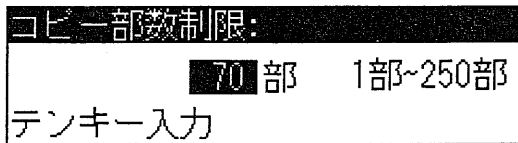
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“自動倍率優先”または“等倍優先”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑨ コピー部数制限

- 1 テンキーを押して制限するコピー部数を入力してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑩ マージン幅設定

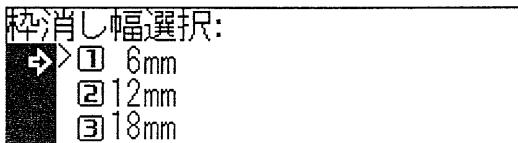
- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、マージン幅を設定してください。1mm~18mmの間で1mm刻みで設定できます。



- 2 OKキーを押してください。

⑪ 枠消し幅選択

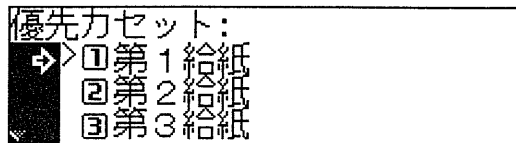
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、枠消し幅を選択してください。6、12、18mmから選択できます。



- 2 OKキーを押してください。

⑫ 優先カセット

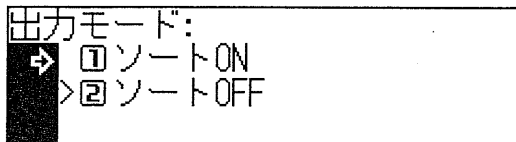
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、優先的に選択されるカセット（給紙段）を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑬ 出力モード

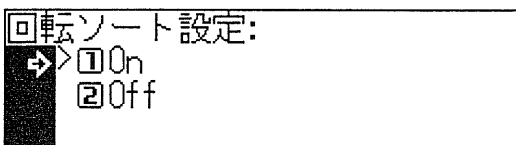
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して“ソートON”または“ソートOFF”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑭ 回転ソート設定

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“On”または“Off”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

③ マシン初期設定の項目について

マシン初期設定で変更できる項目は下表の15種類の項目があります。

コピー機能を有効に活用するために、必要に応じて各設定を行ってください。

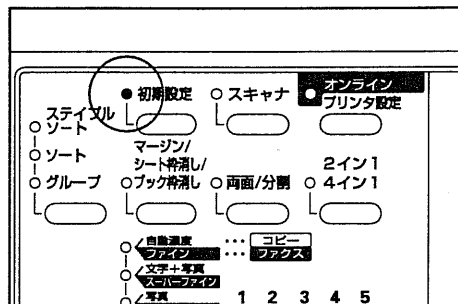
マシン初期設定項目	設定項目の内容	設定できる値	初期値	参照ページ
①ステータスレポート	初期設定の内容をステータスレポートとして出力します。	_____	_____	6-16
②オートシャットオフ	コピーをとらないと自動的に電源がOffになるオートシャットオフ機能（P4-8参照）をOnにするかOffにするかの設定ができます。 ※コピー操作においてオートシャットオフ機能が使用上の不便さを与える場合に、オートシャットオフをOff（機能しない設定）にするようにしてください。オートシャットオフをOff（機能しない設定）にする前に、まずオートシャットオフ機能が働くまでの時間を長めに設定することをお勧めいたします。 ※オプションのプリンタキットを装着している場合は、オートシャットオフ機能が働くと、プレヒート状態になります。詳しくはプリンタキットの使用説明書を参照してください。	On / Off	On	6-16
③特殊紙セット段	メッセージ表示で用紙を選択する際、カラーペーパーや再生紙など特殊紙がセットされている場合、カセットの用紙サイズに印（※）を表示させることができます。 ※カセットに特殊紙がセットされている場合は、「⑤用紙種類（1段目～4段目）」でカセット内の用紙を選択してください。	※（設定） / —（未設定）	—（未設定）	6-17
④特殊紙オート給紙	「③特殊紙セット段」で指定したカセットの用紙を自動用紙選択モードやオートカセットチェンジ（P2-4参照）の時に使用するかどうかを選択できます。	On / Off	Off	6-17
⑤用紙種類（1段目～4段目）	カセット内にセットする用紙（普通紙、特殊紙）の種類を選択します。 ※オプションカセットを装着していなければ、その段の設定は表示されません。	普通紙、再生紙、 レターヘッド、 カラー紙	普通紙	6-17
⑥用紙種類（手差し）	手差しにセットする用紙（普通紙、特殊紙）の種類を選択します。	普通紙、OHP、 ラベル紙、 再生紙、厚紙、 レターヘッド、 カラー紙、封筒、 はがき	普通紙	6-17

6章 複写機の管理モード

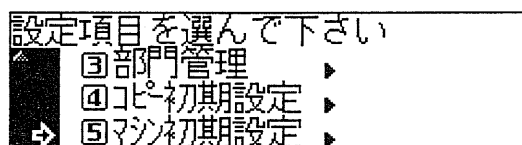
マシン初期設定項目	設定項目の内容	設定できる値	初期値	参照ページ
⑦ FAX 排出先指定	FAXの受信用紙をコピー機本体に排出するか、フィニッシャーまたはジョブセパレータに排出するかを選択します。 ※オプションの、フィニッシャーまたはジョブセパレータを装着していなければこの設定は表示されません。	本体排出、 フィニッシャー (ジョブセパレータ)	フィニッシャー (ジョブセパレータ)	6-17
⑧ コピー排出先指定	コピー用紙をコピー機本体に排出するか、フィニッシャーまたはジョブセパレータ（両面ユニットを含む）に排出するかを選択します。 ※オプションのフィニッシャーまたはジョブセパレータ（両面ユニットを含む）を装着していなければこの設定は表示されません。	本体排出、 フィニッシャー (ジョブセパレータ)	本体排出	6-18
⑨ オートプレヒートタイム	コピー作業が終了して自動的にプレヒート機能（P4-7 参照）が働くまでの時間を設定できます。	5～45分 (5分刻み)	15分	6-18
⑩ オートシャットオフタイム	コピーをとらないと自動的に電源がOFFになるオートシャットオフ機能（P4-8 参照）がはたらくまでの時間を設定できます。オートシャットオフ機能をOFFにすることもできます。そのときにはこの設定はできません。（「②オートシャットオフ」参照）初期設定時間は30分です。 ※複写機を頻繁に使用される場合は、オートシャットオフが働くまでの時間を長めに、使用しない時間が多い場合は短めに設定することをお薦めいたします。 ※オートシャットオフ機能を解除する場合は「②オートシャットオフ」を参照してください。 ※オプションのプリンタキットを装着している場合は、オートシャットオフ機能が働くと、プレヒート状態になります。詳しくはプリンタキットの使用説明書を参照してください。	15～240分 (15分刻み)	30分	6-18
⑪ 液晶コントラスト調整	メッセージ表示の内容が見にくいとき、液晶のコントラストを変更してください。	1～7	4（中央）	6-18
⑫ 暗証コード変更	部門管理（P6-1 参照）やこの初期設定（P6-9 参照）の各管理モードにはいる暗証番号を変更することができます。 ※暗証番号を変更したときは必ずメモを取るようになしてください。	-----	20 枚機 2000 15 枚機 1500	6-18
⑬ 静音モード	コピー終了後すぐに機械内部のモータを停止させる静音モードに移行させることができます。“On”を選択するとコピーが終了した後、すぐにモータが停止します。	On/Off	Off	6-18
⑭ オートカセットチェンジ	オートカセットチェンジ機能（P2-4 参照）を使うかどうかを選択します。	On/Off	On	6-19
⑮ カウンターレポート出力	トナーカウンターレポートを出力します。	_____	_____	6-19

(4) マシン初期設定の変更のしかた

- 1** 初期設定キーを押して初期設定表示を点灯させてください。
管理モードの選択画面が表示されます。

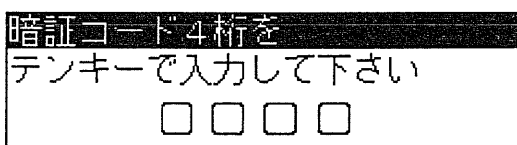


- 2** 下カーソルキーを押して、「マシン初期設定」を選択してください。



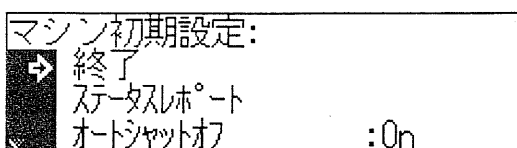
- 3** OKキーを押してください。

- 4** テンキーで暗証番号「2000」（15枚機は「1500」）を入力してください。

**補足**

- ・4桁の暗証番号は変更することができます。(P6-18、「@暗証コード変更」参照)

- 5** 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、変更するマシン初期設定の項目を選択してください。選択できる項目は、P6-14、「(3) マシン初期設定の項目について」を参照してください。



- 6** OKキーを押してください。

- 7** 以後、各項目の設定のしかたを参照して設定を行ってください。

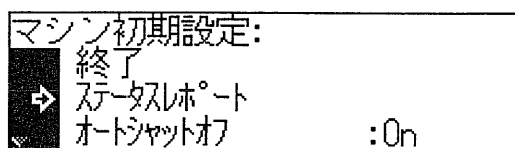
補足

- ・各選択画面で表示される (>) は現在の設定値を示します。
- ・各項目の設定が終了したら、手順5の画面に戻ります。その他の項目について設定を行う場合は、手順5～7を繰り返してください。

- 8** 終了するときには、上カーソルキーを押して「終了」を選択してOKキーを押してください。「コピーできません」の画面に戻ります。

① ステータスレポート

- 1** 下カーソルキーを押して、「ステータスレポート」を選択してください。



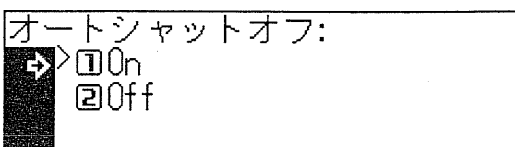
- 2** OKキーを押してください。ステータスレポートの出力を行います。レポートの出力が終了したら手順1の画面に戻ります。

補足

- ・A4の用紙がセットされていない場合は、確認のメッセージが表示されます。使用する用紙を選択してスタートキーを押してください。

② オートシャットオフ

- 1** 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、「On」または「Off」を選択してください。



- 2** OKキーを押してください。

③ 特殊紙セット段

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、特殊紙をセットする給紙段を選択してください。

```

特殊紙セット段:
  終了
  → 第1給紙: - <>
     第2給紙: -
    
```

- 2 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押してください。給紙段の横にマーク（※）が付きます。取り消す場合はもう一度右カーソルキーまたは左カーソルキーを押してください。

```

特殊紙セット段:
  終了
  → 第1給紙: ※ <>
     第2給紙: ※
    
```

補足

・ 2つ以上設定することもできます。

- 3 上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。

④ 特殊紙オート給紙

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“On”または“Off”を選択してください。

```

特殊紙オート給紙:
  → > ① On
     ② Off
    
```

- 2 OKキーを押してください。

⑤ 用紙種類（1段目～4段目）

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、用紙の種類を選択してください。

```

用紙種類（1段目）:
  → > ① 普通紙
     ② 再生紙
     ③ レターヘッド
    
```

- 2 OKキーを押してください。

補足

・ 用紙の種類の設定方法は1段目、2段目、3段目、4段目ともすべて同じです。

⑥ 用紙種類（手差し）

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、用紙の種類を選択してください。

```

用紙種類（手差し）:
  → > ① 普通紙
     ② OHP
     ③ ラベル紙
    
```

- 2 OKキーを押してください。

⑦ FAX 排出先指定

この設定を行うには、オプションのフィニッシャーおよびジョブセパレータを装着してください。

装着されていない場合はこの設定は表示されません。

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、排出先を選択してください。

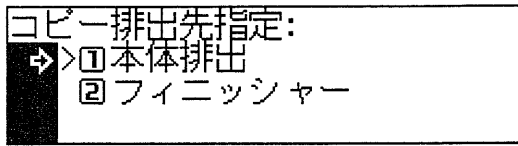
```

FAX排出先指定:
  → ① 本体排出
     > ② フィニッシャー
    
```

- 2 OKキーを押してください。

⑧ コピー排出先指定

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して排出先を選択してください。



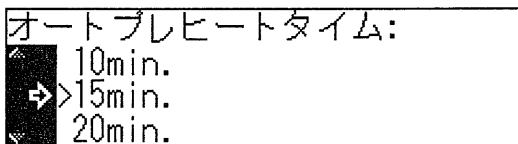
- 2 OKキーを押してください。

補足

- ・手順1の画面表示はフィニッシャー装着時の画面です。
ジョブセパレータ（両面ユニットを含む）を装着している場合は「2 ジョブセパレータ」と表示します。

⑨ オートプレヒートタイム

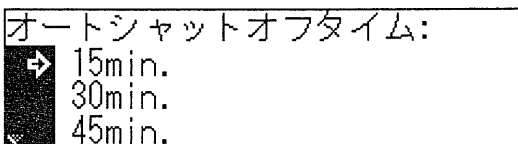
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、オートプレヒートが動くまでの時間を選択してください。
5～45分まで、5分刻みで設定ができます。



- 2 OKキーを押してください。

⑩ オートシャットオフタイム

- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、オートシャットオフが動くまでの時間を選択してください。
15～240分まで、15分刻みで設定ができます。



- 2 OKキーを押してください。

⑪ 液晶コントラスト調整

- 1 右カーソルキーまたは左カーソルキーを押して、濃度目盛りを移動させてください。右に移動させると濃く、左に移動させるとうすくなります。



- 2 OKキーを押してください。

⑫ 暗証コード変更

- 1 テンキーで変更する暗証番号を4桁で入力してください。



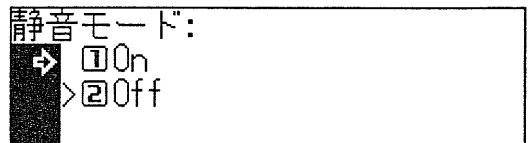
補足

- ・まちがえて数値を入力した場合、ストップ/クリアキーを押すと変更前の暗証番号に戻ります。

- 2 OKキーを押してください。

⑬ 静音モード

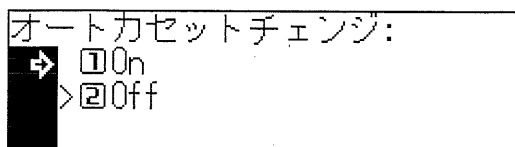
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“On” または “Off” を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑭ オートカセットチェンジ

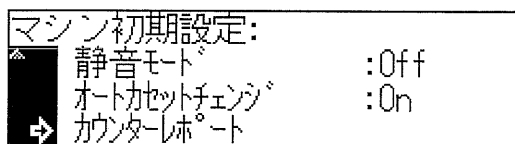
- 1 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、“On” または “Off” を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。

⑮ カウンターレポート出力

- 1 下カーソルキーを押して“カウンターレポート”を選択してください。



- 2 OKキーを押してください。トナーカウンターレポートの出力を行います。リストの出力が終了したら手順1の画面に戻ります。

補足

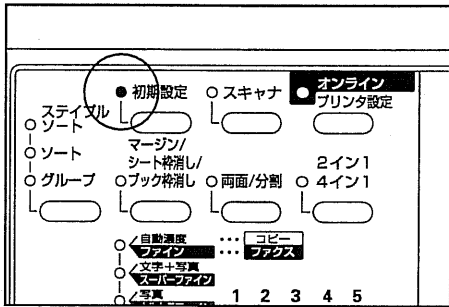
- ・ A4の用紙がセットされていない場合は、確認のメッセージが表示されます。使用する用紙を選択してスタートキーを押してください。

3. メッセージ表示の言語切替

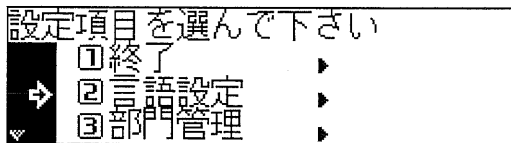
メッセージ表示で表示される言語を日本語だけでなく英語やフランス語、スペイン語でも表示させることができます。

- 1** 初期設定キーを押して初期設定表示を点灯させてください。

管理モードの選択画面が表示されます。

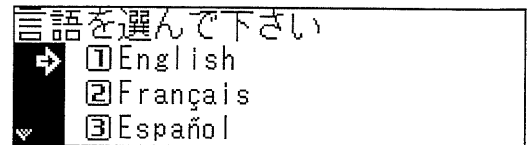


- 2** 下カーソルキーを押して、“言語設定”を選択してください。



- 3** OK キーを押してください。
選択できる言語が表示されます。

- 4** 下カーソルキーまたは上カーソルキーを押して、表示させる言語を選んでください。



- 5** OK キーを押してください。言語が変更され“コピーできます”の画面に戻ります。

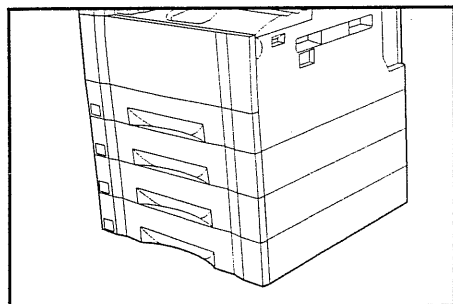
7章 オプション

(1) カセット

本体のカセットと同じものが1段ずつ、15枚機では最高3段まで、20枚機では2段まで増やすことができます。

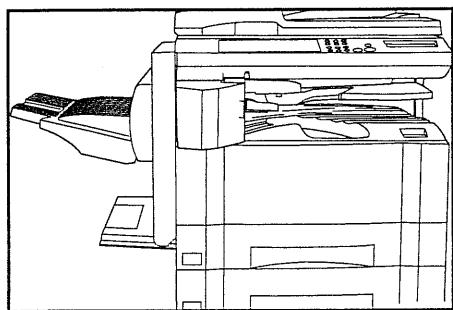
セットできる用紙枚数および用紙のセットのしかたは本体標準のカセットと同じです。

※紙詰りが発生したときに用紙を取り除くためにそれぞれのオプションカセットに左カバーがあります。



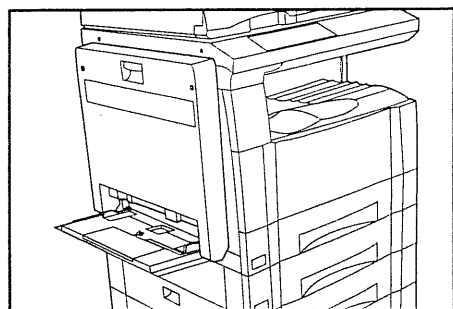
(2) フィニッシャー [20枚機のみ]

大量のコピーを収納したり、多部数のコピーを1部ずつシフトして仕分けをしたりする装置です。ページぞろえしたコピーにステイブルすることもできます。詳しくはフィニッシャーの使用説明書を参照してください。



(3) 両面ユニット [20枚機のみ]

両面ユニットを装着すると、両面コピーをとることができます。A3～A5R (64 g/m²) の用紙で両面コピーをとることができます。

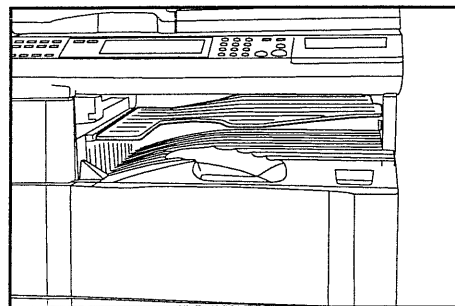


(4) ジョブセパレータ

割り込みコピーをしているときや、オプションのプリンタ機能を併用しているときに、用紙の排出先を区分して、仕分けをしやすくする装置です。

コピーやファクスをジョブセパレータ（上段）に排出させることもできます。P6-15 マシン初期設定の「⑦ FAX 排出先指定」、「⑩ コピー排出先指定」を参照してください。

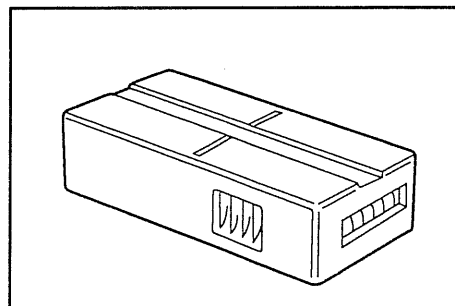
※ジョブセパレータの収納枚数は100枚です。100枚以上のコピーをしているときは、100枚コピー終了時にコピーを停止します。仕上がったコピーを取り出してください。自動的にコピーを再開します。



(5) キーカウンタ

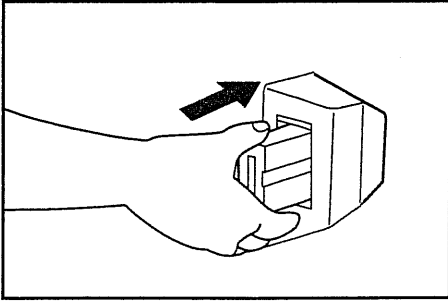
キーカウンタは、コピーの使用量を確認するためのものです。各部課別など、全社的にコピーの使用量を集中管理する場合などに役立ちます。

※キーカウンタは、プリンタ出力やファックス出力でもカウントを行う場合があります。



●キーカウンタのセット方法

キーカウンタ差し込み口に、キーカウンタを確実にセットしてください。

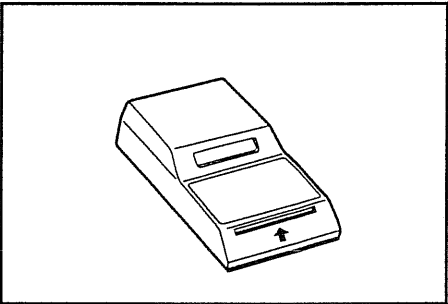
**補足**

- ・キーカウンタを使用する場合は、キーカウンタを機械にセットしない限り、コピーがとれませんのでご注意ください。キーカウンタが確実に挿入されていないときは、メッセージ表示に“キーカウンタをセットして下さい”が表示されます。

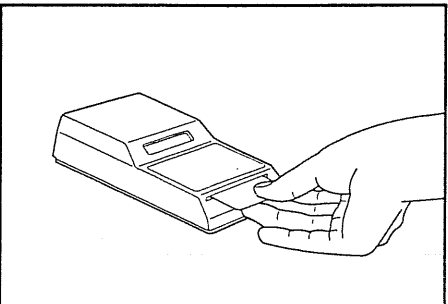
(6) キーカード

キーカードは専用のカードを使ってコピーの使用量を確認する事ができます。各部課別など、全社的にコピーの使用量を集中管理する場合などに役立ちます。

※キーカードは、プリンタ出力やファックス出力でもカウントを行う場合があります。

**●キーカードのセット方法**

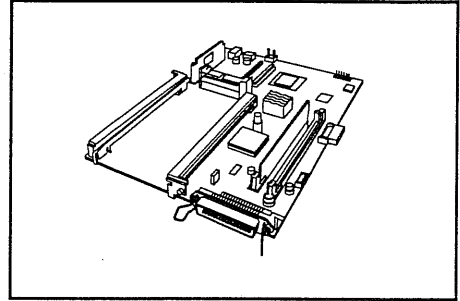
専用の部門カードを本体のカード挿入口にしっかり奥まで挿入してください。

**補足**

- ・キーカードを使用するときは部門カードを本体に挿入しない限りコピーがとれませんのでご注意ください。部門カードが確実に挿入されていない場合、メッセージ表示に“キーカードをセットして下さい”が表示されます。

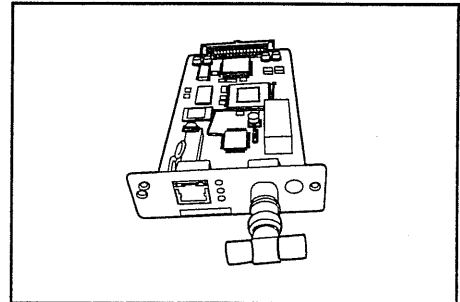
(7) プリンタキット

プリンタキットを装着すると、本機をプリンタとして使用することができます。詳しくはプリンタキットの使用説明書を参照してください。

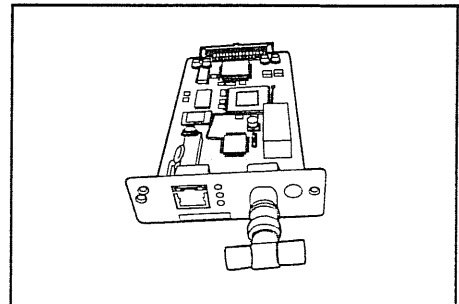
**(8) プリンタネットワークキット**

オプションのプリンタキット装着時にネットワークキットを装着すると、本機を複数のコンピュータからアクセスできるネットワークプリンタとして使用できます。

詳しくはネットワークキットの使用説明書を参照してください。

**(9) ネットワークスキャナ [20枚機のみ]**

本機を複数のコンピュータからアクセスできるネットワークスキャナとして利用することができます。



8章 こんなときには

1. こんなメッセージがでたら

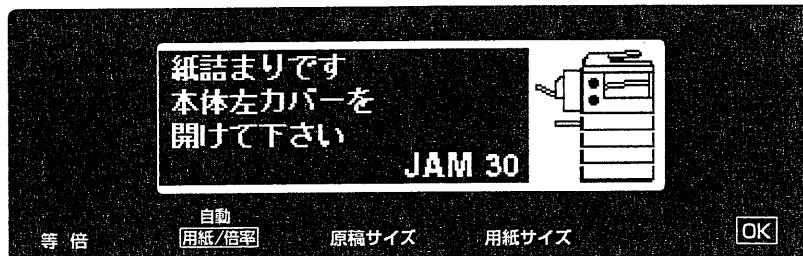
メッセージ表示に下表のようなメッセージが出たときは、処理方法にしたがって作業してください。

メッセージ	処理方法	参照ページ
“〇〇カバーを閉じて下さい”	表示されているカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“用紙を補給して下さい”	表示されている給紙段に用紙がありません。用紙を補給してください。	3-1
“カセットをセットして下さい”	カセットがしっかりセットされていません。一度引き出してしっかり押し込んでください。	—
“このカセットは使用できません他の給紙段を選んで下さい”	使用しているカセットは故障のため使用を中止しています。ただちにサービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。コピーを行うときは、他の給紙段を使用してください。	—
“適当な用紙がありません”	設定されたモードで使用できるサイズの用紙がありません。用紙を確認してください。	—
“原稿と用紙の向きが違います”	選択した用紙の方向が原稿の向きと違います。原稿のセット方向を変えてください。そのままスタートキーを押すと等倍でコピーします。	—
“制限枚数終了の為コピーできません”	部門管理モードで設定されている制限枚数に達したため、これ以上のコピーができません。部門管理モードでコピーカウントをクリアしてください。	6-1
“コピーできますトナーを補給して下さい”	機内にトナーが不足しています。1枚ずつのコピーしかできませんので早めにトナーカートリッジを交換してください。	3-5
“トナーを補給して下さいコピーできません”	コピーできるだけのトナーが機内に残っていません。トナーカートリッジを交換してトナーを補給してください。	3-5
“サービス担当者に電話して下さい”	前カバーを一度開閉してください。再度表示が出たときはCと数字を確認してください。メインスイッチをOFF (O) にしてサービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。	—
“定期点検の時期です” “定期点検間近です”	機械を良好に保つために定期点検が必要です。ただちにサービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。	—
“メモリーオーバー”	メモリーオーバーです。読み込みが終了しているページまでを一旦出力する（プリントする）か、読み込まれたデータを消去する（メモリーオーバー）か選択してください。どちらかが選択されるまでは、別のコピーや読み込みはできません。	—
“紙詰まりです”	紙詰まりが発生した場合には、紙詰まり位置がメッセージ表示に表示され、機械が停止します。メインスイッチはON (I) のまま手順に従い取り除いてください。	8-3

メッセージ	処理方法	参照ページ
紙詰まりを表すメッセージと“JAM 95”、“JAM 96”または“JAM 98”が表示	機内で紙詰まりを起こしている場合があります。 紙が詰まっているか確認し、紙が詰まっていた場合は、取り除いてください。	8-3
紙詰まりを表すメッセージと“JAM 00”が表示	紙詰まりの用紙が機内に残っています。 用紙を取り除いてください。	8-3
“DFの原稿を取り除いて下さい” “DF部で紙詰まりです 原稿を取り除いて下さい。”	DFで原稿が詰まっています。メインスイッチはON()のまま、手順に従い取り除いてください。	8-6
“両面は使用できません”	両面ユニット（オプション）は故障のため両面コピーはできません。 ただちにサービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。	—
“用紙を取り除いて下さい 本体排出用紙オーバーです”	<ul style="list-style-type: none"> ・ コピー収納部に用紙が250枚収納されています。用紙を取り除いて次のコピーを行ってください。 ・ オプションのジョブセパレータが装着されているときに、コピー収納部に用紙が150枚収納されています。用紙を取り除いて次のコピーを行ってください。 ・ オプションのフィニッシャーが装着されているときに、コピー収納部に用紙が100枚収納されています。用紙を取り除いて次のコピーを行ってください。 	4-3 7-3 7-3
“用紙を取り除いて下さい フィニッシャー用紙オーバーです”	オプションのフィニッシャー上に用紙が250枚以上収納されています。用紙を取り除いて次のコピーを行ってください。	7-3
“用紙を取り除いて下さい ジョブセパレータ用紙オーバーです”	オプションのジョブセパレータ上に用紙が100枚載っております。用紙を取り除いて次のコピーを行ってください。	7-1
“フィニッシャーの用紙を確認して下さい 不完全コピーが混ざっています”	コピー中に問題が発生して不完全なコピーがフィニッシャー（オプション）のトレイに混じっています。確認して取り除いてください。	—
“用紙を取り除いて下さい フィニッシャー／処理トレイ”	フィニッシャー（オプション）の内部で紙詰まりです。フィニッシャーの使用説明書を参照して取り除いてください。	—
“ステイプルの針がありません 針をセットして下さい”	フィニッシャー（オプション）の針がありません。フィニッシャーの使用説明書を参照して針カートリッジを交換してください。	—
“このサイズはステイプルできません”	A5RやB5Rなどの小サイズにはステイプルができません。詳しくはフィニッシャーの使用説明書を参照してください。	—
“システムエラーです 電源プラグを抜き差しして下さい”	ノイズなどによる誤動作が起こった場合や、FAX、プリンタなどの機能を使用時に通信異常が発生した場合に表示されます。 以下の手順に従って処理してください。 メインスイッチをOFFにし、電源プラグを抜いてください。 ※プリンタ出力を行っている場合は、PC側で印刷のキャンセルを行ってください。 5秒以上待ってから電源プラグを接続し、メインスイッチをONにしてください。エラーが解除されます。 ※プリンタの出力を行っていた場合は、再度出力を行ってください。	—

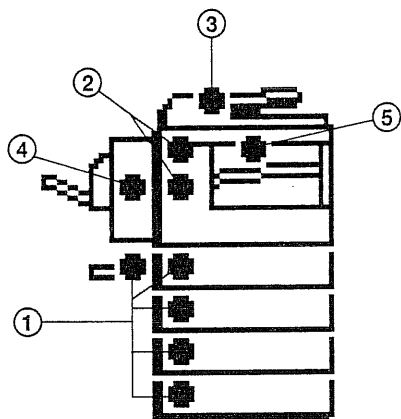
2. 紙詰りが発生したら

紙詰りが発生した場合は、マシンエラー表示が点灯してコピー作業を停止します。この時、メッセージ表示には紙詰まりを知らせるメッセージとともに、紙詰り位置表示が表示されます。さらに、メッセージ表示には“JAM”と2桁の数字が表示されます。この数字は紙詰り位置を示します。メインスイッチはON (1) のまま、“(3) 紙詰り処理のしかた”を参照して用紙を取り除いてください。



(1) 紙詰り位置表示

- ①給紙部での紙詰り
- ②左カバー内部での紙詰り (P 8-5 参照)
- ③DFでの紙詰り (P 8-6 参照)
- ④両面ユニット〈オプション〉での紙詰り (P 8-6 参照)
- ⑤フィニッシャー〈オプション〉での紙詰り (P 8-6 参照)



(2) 注意事項



警告

本製品本体内部の帯電部は高電圧です。感電のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。



注意

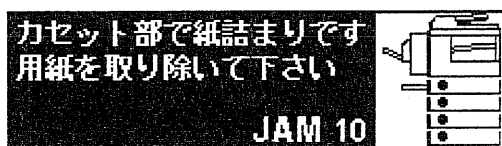
本製品本体内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

- ※詰まった用紙は再使用しないでください。
- ※用紙を取り除くときに用紙が破れた場合、紙片を機内に残さないように注意してください。紙詰まりが再発する原因になります。
- ※紙詰まり処理が終了すると、ウォームアップが開始されます。紙詰り表示が消灯し、紙詰まり前の状態にセットしなおされます。

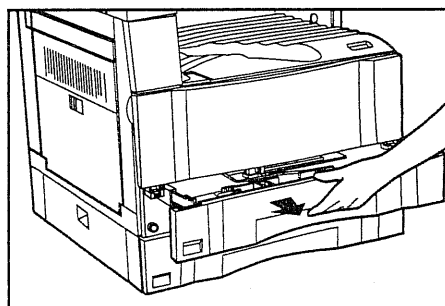
(3) 処理方法

①給紙部での紙詰り

●カセットでの紙詰り (JAM 10、11、12、13、20、21)
 “カセット部で紙詰まりです 用紙を取り除いて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、カセット (またはオプションカセット) で紙詰まりが発生しています。以下の手順で取り除いてください。

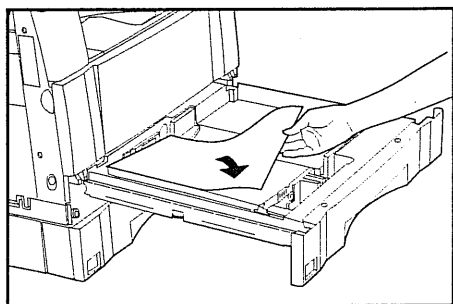


- 1 カセットを引き出してください。



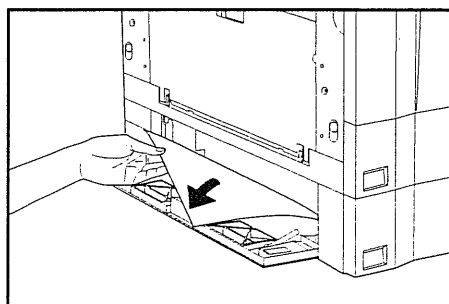
2 詰まっている用紙があれば破らないように取り出してください。

※もし破れた場合には、紙片が機内に残らないように全て取り出してください。



2 詰まっている用紙があれば破らないように取り出してください。

※もし破れた場合には、紙片が機内に残らないように全て取り出してください。



3 カセットを元通りゆっくり押し込んでください。

※カセットの爪からペーパーが外れていないか確認してください。外れていたら再度セットしなおしてください。

※JAM20、21が表示された場合は、P8-4カセット左カバー内での紙詰まりを参照して用紙を取り除いてください。

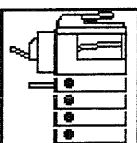
3 カセット左カバーを閉じてください。

●カセット左カバー内での紙詰まり (JAM 15、16)

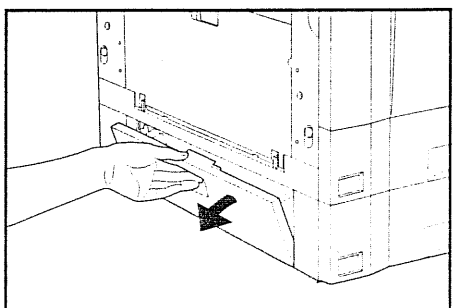
“紙詰まりです カセット2 (3) 左カバーを開けて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、カセット左カバー内で紙詰まりが発生しています。以下の手順で取り除いてください。

紙詰まりです
カセット2左カバーを
開けて下さい

JAM 15



1 カセット左カバーを開いてください。

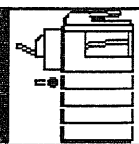


●手差しでの紙詰まり (JAM 14、22)

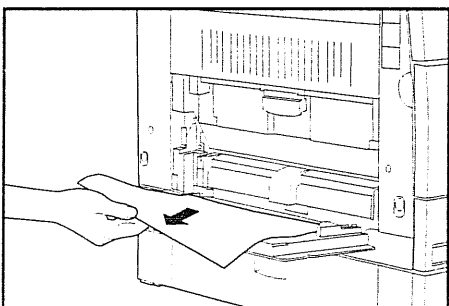
“手差し部で紙詰まりです 用紙を取り除いて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、手差しで紙詰まりが発生しています。以下の手順で取り除いてください。

手差し部で紙詰まりです
用紙を取り除いて下さい

JAM 14



1 手差しの用紙をすべて取り出してください。



2 紙詰まり位置表示の表示がなくなったことを確認してから、手差しに用紙をセットしなおしてください。

※JAM22が表示された場合は、P8-5②左カバー内部での紙詰まりを参照して用紙を取り除いてください。

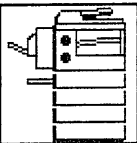
8章 こんなときには

②左カバー内部での紙詰り (JAM 30、40、50、51)

“紙詰まりです 本体左カバーを開けて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、左カバー内部で紙詰まりが発生しています。以下の手順で取り除いてください。

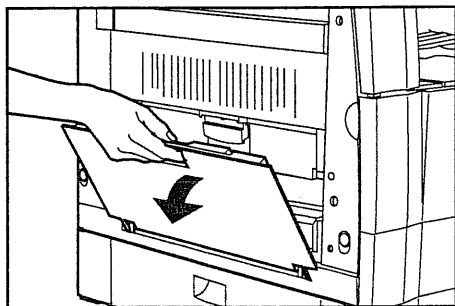
紙詰まりです
本体左カバーを
開けて下さい

JAM 30

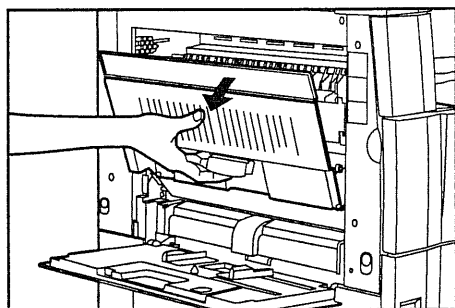


※両面ユニット (オプション) が設置されているときは、“紙詰まりです 両面ユニットを開け本体左カバーを開けて下さい”と表示されます。両面ユニットを開いてから手順2へ進んでください。

1 手差しを開いてください。



2 左カバーを開いてください。



警告

本製品本体内部の帯電部は高電圧です。感電のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。



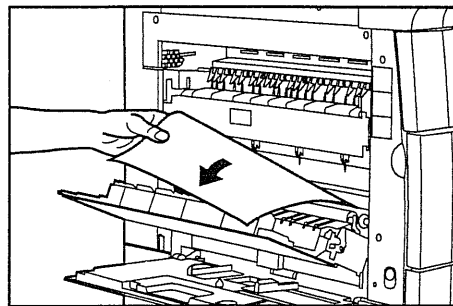
注意

本製品本体内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

3 詰まっている用紙を破らないように取り出してください。

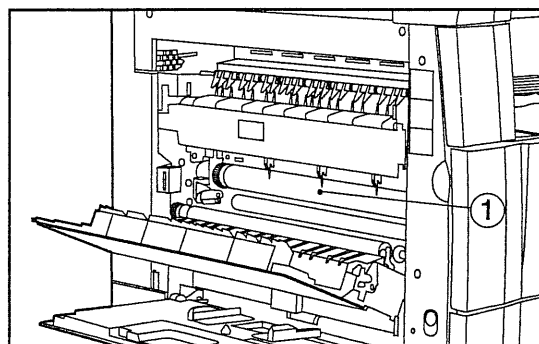
用紙が取り出しにくいときは次の手順に進んでください。取り出せたら手順5に進んでください。

※もし破れた場合には、紙片が機内に残らないように全て取り出してください。



重要

ドラム部分 (イラストの①) は、光に対して高感度で汚れにも敏感です。照明などの強い光を直接当てないよう、またドラム部分に手を触れないようご注意ください。

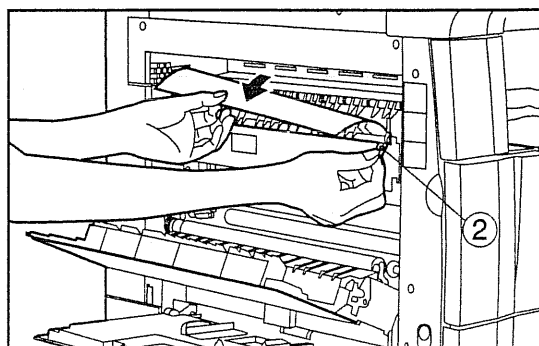


4 緑色の取手 (イラストの②) を持って排紙ガイド開いて用紙を取ってください。



注意

本製品本体内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。



5 左カバーと手差しを閉めてください。

重要

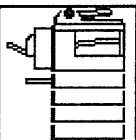
・両面ユニット（オプション）が設置されているときは、必ず左カバーを閉めてから両面ユニットを閉じてください。

③DFでの紙詰り

“DF部で紙詰まりです 原稿を取り除いて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、DFで原稿が詰まっています。ADF（15枚機）、RADF（20枚機）それぞれの手順に進んでください。

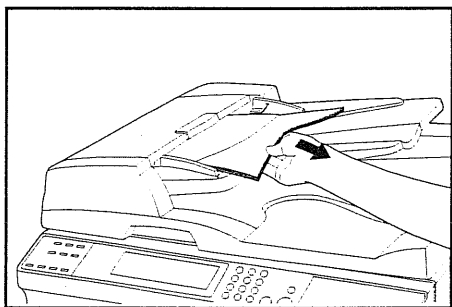
DF部で紙詰まりです
原稿を取り除いて下さい

JAM 70

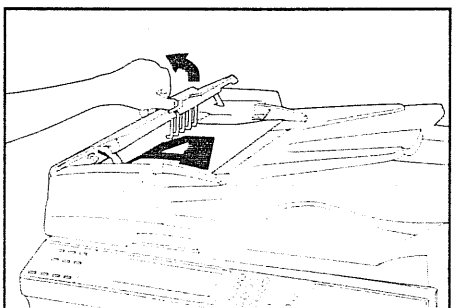


● ADF（15枚機）の場合（JAM 70～73）

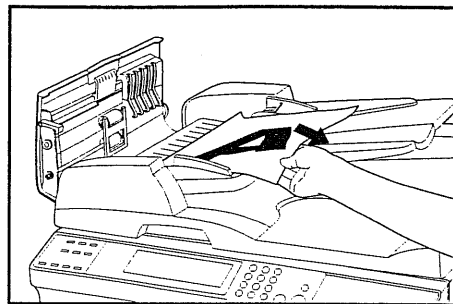
1 原稿テーブルの原稿をいったん取り出してください。



2 DF原稿カバーを開いてください。



3 詰まっている原稿を取り出してください。



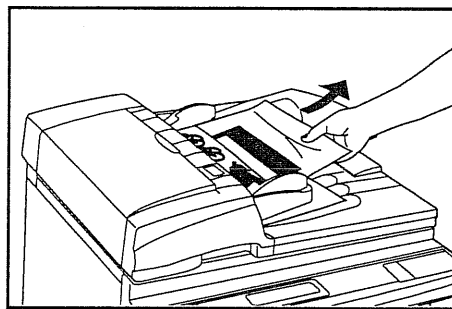
4 DF原稿カバーを閉じてください。
詰まっていた原稿を原稿テーブルの原稿といっしょにしてコピーを再開してください。

● RADF（20枚機）の場合（JAM 70～76）

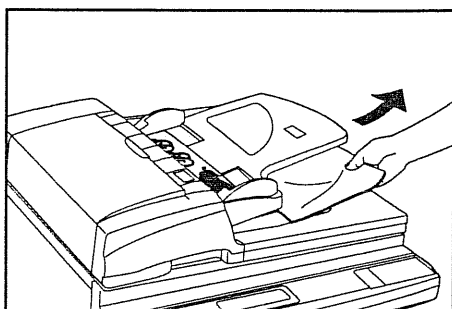
RADFで原稿が詰まると、原稿セット表示が赤色で点滅します。

1 原稿テーブルから原稿を取り出してください。原稿セット表示が消灯したら、コピーは再開できます。原稿を再セットしてください。

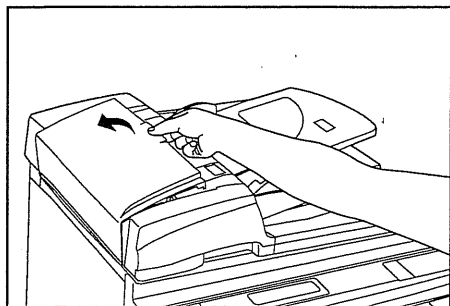
※原稿が取り出しにくいときや、原稿を取り出しても赤色の点滅が解消されないときは、次の手順に進んでください。



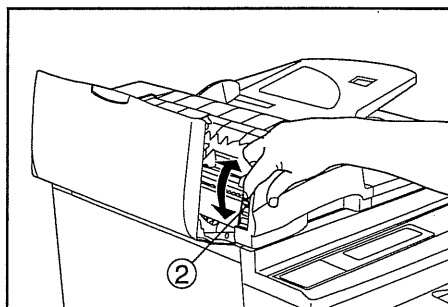
2 上カバーに排出されている原稿をいったん取り出してください。



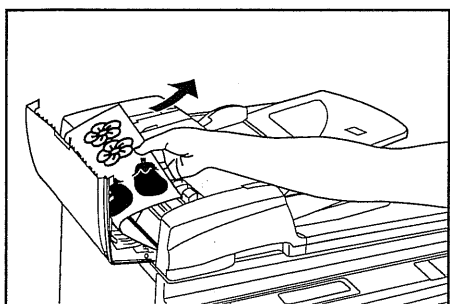
- 3** 左カバーを開けてください。
※カバーを開けるときには、中央部のツマミを持って開けてください。



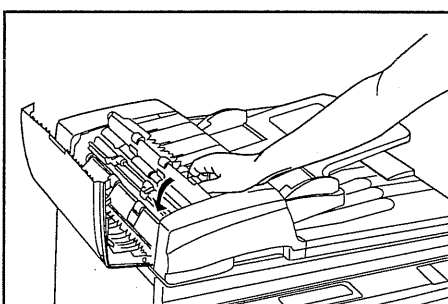
- 6** 用紙が取り出せない場合は原稿詰まり解除ダイヤル②を回して原稿を取り出しやすい位置に移動させてから取り出してください。



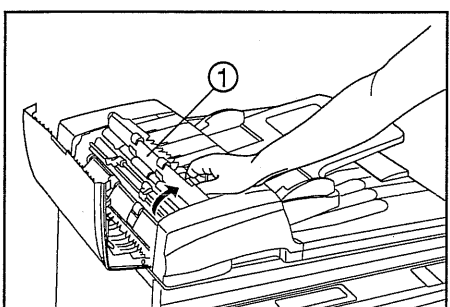
- 4** 詰まっている原稿があれば、破らないように取り出してください。



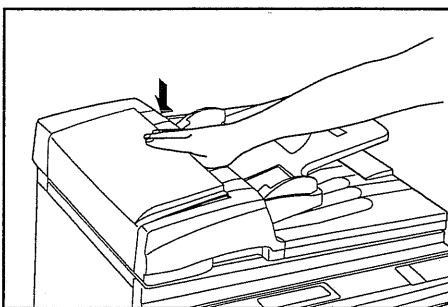
- 7** 詰まっている原稿が取り除いたら、搬送カバーを元通りに閉じてください。



- 5** 4の手順までで取り除けない場合は搬送カバー①を開けて詰まっている原稿を取り出してください。



- 8** 左カバーを閉めてください。閉めるときには中央のツマミ部分を押さえて確実に閉めてください。原稿セット表示が消灯します。原稿を再セットして、コピーを再開してください。



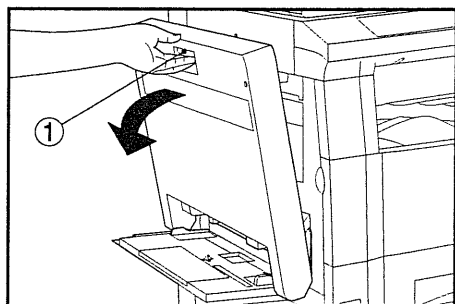
④両面ユニット〈オプション〉での紙詰まり (JAM 60、61)
 “紙詰まりです 両面ユニットを開けて下さい”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、両面ユニットで紙詰まりが発生しています。以下の手順で取り除いてください。



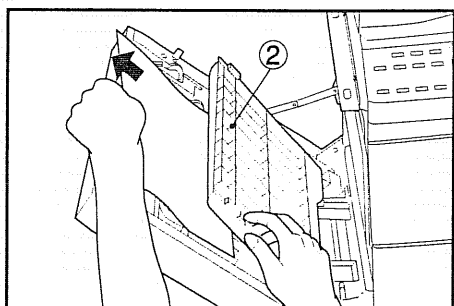
⑤フィニッシャー〈オプション〉での紙詰まり (JAM 80～83)
 “用紙を取り除いて下さい フィニッシャー”が表示され、紙詰まり位置表示が図の位置で表示されたときは、フィニッシャーで紙詰まりが発生しています。用紙を取り除くときはフィニッシャーの使用説明書を参照してください。



1 両面ユニット開閉レバー (イラストの①) をもって両面ユニットを開けてください。



2 反転ガイド取手 (イラストの②) をもって反転ガイドを開いて詰まっている用紙を取り除いてください。



3 反転ガイドを閉じてから両面ユニットを元通り閉じてください。

3. トラブルが発生した場合

トラブルが発生した場合は、次のことをご調べいただき、それでもなおらない場合は、サービス担当者までご連絡ください。

トラブル内容	確認事項	処理方法	参照ページ
メインスイッチをONにしても操作パネルに何も表示されない。	電源プラグがコンセントに接続されていますか。	電源プラグをコンセントに接続してください。	—
スタートキーを押してもコピーが出てこない。	メッセージ表示にメッセージが出ていませんか。	各メッセージに対する処理方法を確認して、適切な処理を行ってください。	8-1
コピーが写らない。	原稿が正しくセットされていますか。	コンタクトガラスの上に原稿をセットするときは、原稿を下向きにセットしてください。	4-1
		DFにセットするときは原稿を上向きにセットしてください。	3-5、3-6
コピーが薄い。	自動濃度モードですか。	全体的に濃度を変更するときは、“自動濃度調整”を行ってください。	6-9
	“写真原稿”、“文字+写真原稿”、“文字原稿”モードですか。	コピー濃度調整キーで適正な位置にセットしてください。	4-2
		全体的に濃度を変更するときは、各画質モードで濃度調整を行ってください。	6-9
	トナー補給のメッセージが表示されていませんか。	トナーカートリッジを交換してください。	3-7
	用紙が湿っていませんか。	新しい用紙と交換してください。	3-1

トラブル内容	確認事項	処理方法	参照ページ
コピーが濃い。	自動濃度モードですか。	全体的に濃度を変更するときは、“自動濃度の設定”を行ってください。	6-9
	“写真原稿”、“文字+写真原稿”、“文字原稿”モードですか。	コピー濃度調整キーで適正な位置にセットしてください。	4-2
		全体的に濃度を変更するときは、各画質モードで濃度調整を行ってください。	6-9
コピーが汚れている。	コンタクトガラスや原稿押さえが汚れていませんか。	コンタクトガラスや原稿押さえの清掃を行ってください。	9-1
		前カバーを開いて、クリーニング棒をぬきさししてください。	3-8
コピーがずれて写る。	原稿が正しくセットされていますか。	コンタクトガラスに原稿をセットするときは、原稿サイズ指示板に原稿を確実に合わせてください。	4-1
		DFにセットするときは原稿挿入ガイドを原稿サイズに確実に合わせてください。	3-5、3-6
紙詰まりがたびたび起こる	用紙がカセットに正しくセットされていますか。	用紙を正しくセットしなおしてください。	3-1
	用紙がカールしたり、折れやしわがありませんか。	新しい用紙に交換してください。	3-1
	詰まった用紙や紙片が機械内部に残っていませんか。	適切な方法で取り除いてください。	8-3
仕上がったコピーがコピー収納部できれいに収納されない。	仕上がったコピーがカールしていませんか。	使用されているカセットまたは手差し用の紙を一度取り出し、裏返してからセットしなおしてください。	4-3

9章 保守・運用のために

1. 機械の清掃のしかた

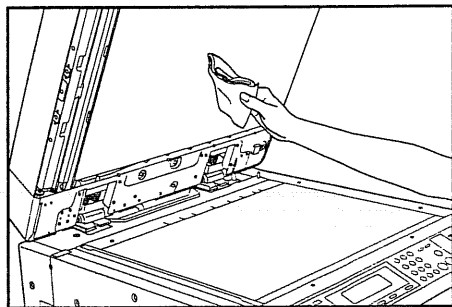
⚠ 注意

本製品の清掃を行うときには安全上、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

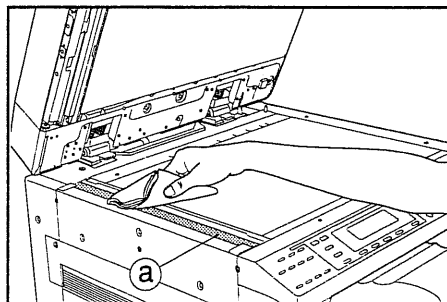
●原稿押さえの清掃

DFを開き、アルコールまたは薄い中性洗剤をつけた柔らかい布で、DF原稿押さえの清掃を行ってください。

※シンナー、有機溶剤等は使用しないでください。



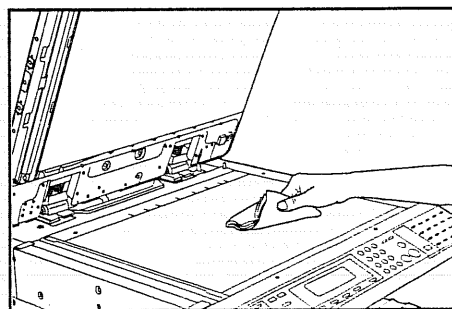
※DF使用時にコピーに黒ずみなどの汚れが写る場合、スリットガラス（イラストの①）が汚れています。アルコールまたは薄い中性洗剤をつけた柔らかい布で、スリットガラスの清掃を行ってください。



●コンタクトガラスの清掃

DFを開き、アルコールまたは薄い中性洗剤をつけた柔らかい布で、コンタクトガラスの清掃を行ってください。

※シンナー、有機溶剤等は使用しないでください。



2. 消耗品

※機械の性能を維持しトラブルを未然に防止するために、消耗品は必ず弊社のものをご使用ください。

用紙

〈普通紙〉

(DC用紙)

A3判	500枚 X 3冊	6,900円
A4判	500枚 X 5冊	5,750円
A5判	500枚 X 6冊	4,320円
B4判	500枚 X 5冊	8,650円
B5判	500枚 X 5冊	4,350円

〈カラーペーパー〉

(DC用カラーペーパー)

(ピンク・クリーム・グリーン・ライトブルー・アイボリー)

A4判	500枚 X 5冊	8,000円
B4判	500枚 X 5冊	11,000円
B5判	500枚 X 5冊	5,750円

〈第2原図〉

(GNT-75)

A3判	250枚 X 1冊	5,000円
A4判	500枚 X 1冊	5,000円
B4判	500枚 X 1冊	7,500円
B5判	500枚 X 1冊	3,750円

〈封筒〉 ※プリンタ機能時のみ使用できます

サイズ：洋形4号、洋形2号

※推奨品

- ・洋形4号 「LIFE E506B (枠なし)」
- ・洋形2号 ハグルマ封筒株式会社「スイス洋2 枠なし WE-S2」

※上記表示価格は、2000年9月現在のものです。また表示価格及び料金には消費税は含まれておりません。

ご購入の際は、消費税が別途付加されますのでご了承願います。

3. 製品の保守サービスについて

このたびは、弊社複写機をご購入いただき、ありがとうございます。保守サービス方式には次のものがございます。

●コピーキット方式

弊社指定のコピーキットをご購入いただきますと「コピーシステム契約書」にもとづき、複写機の点検・調整・修理および感光体の提供・交換を行います。

- ・コピーキット（PK-510Aキット）5000カウント用
（PK-510Bキット）2500カウント用

●スポット方式

保守サービスとドラムおよび消耗品の供給を、お客様の要請のつど料金を申し受ける方式です。

4. 保守サービス契約書について

保守サービスとしてコピーキット契約を結ばれたお客様は「コピーシステム契約書」を、ご購入の際お買い上げ販売店もしくは弊社営業所が必要事項を記入し、お渡しいたします。

「コピーシステム契約書」には、お買い上げになった複写機の保守サービスの内容などが記載されておりますので、よくお読みになった後、大切に保管願います。もし、「コピーシステム契約書」の発行がなされていない場合は、お買い上げ販売店もしくは弊社営業所へご連絡ください。ただちに発行手続きをいたします。

※アフターサービスについてご不明な点がございましたら、お買い上げ販売店もしくは、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

5. 補修用性能部品について

補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品のことをいいます。

弊社の保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製造中止後、7年間です。

6. 廃棄について

1. 使用済み製品の廃棄

使用済み製品を廃棄される場合は、お買い上げの販売店もしくは弊社のサービス担当者にご連絡ください。回収された使用済み製品は、それぞれの構成部品毎に分解され、金属部品は金属回収ルートに乗せて回収されます。再利用可能な部品は清掃し再利用し、再利用の不可能なあらゆる部品は環境に考慮して適切に処理されます。

2. トナーコンテナおよびトナー回収タンクの廃棄

使用后、不要になりましたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、お買い上げの販売店もしくは弊社のサービス担当者にご返却下さい。回収されたトナーコンテナおよびトナー回収タンクは、再使用もしくは再資源化のために再利用されるか、法律に従い廃棄処理されます。

7.仕様

● 15枚機

名称	KM-1570
形式	デスクトップ型
原稿台方式	原稿台固定方式
複写方式	間接静電方式
原稿の種類	コンタクトガラス：シート、ブック、立体物（最大原稿サイズ：A3） DF：シート原稿（A3～A5R、35～160g/m ² ）
複写サイズ	A3、B4、A4、B5、A5（タテ）、B6（タテ）、A6（タテ）、はがき 欠け幅：0.5～5.5mm
複写速度	等倍/ダイレクトコピー A3：8枚/分、B4：8枚/分、A4：15枚/分、 A4（タテ）：10枚/分
ウォームアップタイム	30秒以内（室温20℃、湿度65%）、プレヒート時：15秒以内〔復帰優先〕、 30秒以内〔節電優先〕（室温20℃、湿度65%）
ファーストコピータイム	5.5秒以下（A4ヨコ、第1給紙）
複写倍率	50～200%（1%毎）の任意倍率および1：1±1.0%/1：2.00/1：1.41/1：1.22/1：1.15/1：0.86/1：0.81/1：0.70/1：0.50の固定倍率
画像蓄積メモリ	47MB（A4、黒比率6%原稿で約250枚記憶可能）
解像度	読み取り：600 x 600 dpi 書き込み：600 x 600 dpi
給紙方式	カセット自動給紙（1段、収納枚数各段250枚 [64g/m ²]）および手差し自動給紙 （収納枚数 A3、B4：25枚、A4以下：50枚 [64g/m ²]）
使用ペーパー	カセット：普通紙（64～80 g/m ² ） 手差し：普通紙（60～160g/m ² ）、特殊紙（第2原図、カラーペーパー、更紙、 官製はがき、のし紙、OHPフィルム等）、 封筒〔プリンタ機能時のみ〕（洋形4号、洋形2号）
連続複写	1～250枚
光源	希ガスランプ
現像方式	乾式現像
定着方式	ヒートローラー
クリーニング方式	ブレードクリーニング方式
感光体種類	OPC
付属機能	自己診断機能、プレヒート、自動濃度調整、原稿サイズ検知機能、自動用紙選択機能、 自動倍率選択機能、ズーム機能、固定変倍機能、定型変倍機能、写真モード、マージン コピー、枠消し、集約、ソートコピー、オートセレクション、部門管理、言語切替
電源	AC100 V 50/60 Hz 最大11 A
消費電力	定格消費電力 最大1100 W
機械寸法	幅555mm x 奥行603mm x 高さ576mm
質量	約49 kg
機械占有寸法	幅891mm x 奥行603mm
オプション	カセット、ジョブセパレータ、キーカウンタ、キーカード、プリンタキット、 プリンタネットワークキット

（仕様は性能改善のため予告なく変更することがあります。）

● 20 枚機

名称	KM-2070
形式	デスクトップ型
原稿台方式	原稿台固定方式
複写方式	間接静電方式
原稿の種類	コンタクトガラス：シート、ブック、立体物（最大原稿サイズ：A3） DF：シート A3～A5R（A3～A5R、片面原稿：35～160g/m ² 、 両面原稿：50～120g/m ² ）
複写サイズ	A3、B4、A4、B5、A5R、B6R、A6R、はがき 両面コピー時：A3～A5R 欠け幅：0.5～5.5 mm
複写速度	等倍/メモリーコピー A3：10枚/分、B4：11枚/分、A4：20枚/分、 A4R：13枚/分
ウォームアップタイム	30秒以内（室温 20℃、湿度 65%）、プレヒート時 [節電優先]：30秒以内、 [復帰優先]：15秒以内（室温 20℃、湿度 65%）
ファーストコピータイム	5.5秒以下（A4ヨコ、第1給紙）
複写倍率	50～200%（1%毎）の任意倍率 および 1:1 ± 1.0% / 1:2.00 / 1:1.41 / 1:1.22 / 1:1.15 / 1:0.86 / 1:0.81 / 1:0.70 / 1:0.50 の固定倍率
画像蓄積メモリ	47MB（A4、黒比率 6% 原稿で約 250 枚記憶可能）
解像度	読み取り：600 x 600 dpi 書き込み：600 x 600 dpi
給紙方式	カセット自動給紙（2段、収納枚数各段 250 枚 [64g/m ²]）および手差し自動給紙 （収納枚数 A3、B4：25 枚、A4 以下：50 枚 [64g/m ²]）
使用ペーパー	カセット、両面ユニット：普通紙（64～80 g/m ² ） 手差し：普通紙（60～160g/m ² ）、特殊紙（第2原図、カラーペーパー、OHP フィ ルム、官製はがき、更紙、のし紙等）、封筒 [プリンタ機能時のみ]（洋形 4号、洋形 2 号）
連続複写	1～250 枚
光源	希ガスランプ
現像方式	乾式現像
定着方式	ヒートローラー
クリーニング方式	ブレードクリーニング方式
感光体種類	OPC
付属機能	自己診断機能、プレヒート、自動濃度調整、原稿サイズ検知機能、自動用紙選択機能、 自動倍率選択機能、ズーム機能、固定変倍機能、定型変倍機能、写真モード、 マージンコピー、枠消し、集約、ソートコピー、オートセレクション、部門管理、 言語切替
電源	AC100 V 50/60 Hz 最大 11 A
消費電力	定格消費電力 最大 1100 W
機械寸法	幅 550mm x 奥行 603mm x 高さ 675mm
質量	約 60.1 kg
機械占有寸法	幅 891mm x 奥行 603mm
オプション	カセット、フィニッシャー、両面ユニット、ジョブセパレータ、キーカウンタ、 キーカード、プリンタキット、プリンタネットワークキット、ネットワークスキャナ

（仕様は性能改善のため予告なく変更することがあります。）

索引

数字・ローマ字

ADF (原稿送り装置)	3-5
DFにセットできる原稿	3-5、3-6
DFの使用上の注意	3-5、3-6
DFへの原稿のセット	3-5、3-6
FAX 排出先指定	6-15
RADF (両面自動原稿送り装置)	3-6
2 in 1	5-7
4 in 1	5-7
ア 暗証コード変更	6-15
エ 液晶コントラスト調整	6-15
オ オートカセットチェンジ	2-4
オートカセットチェンジ機能	6-15
オートクリア機能	2-4
オートシャットオフ	6-14
オートシャットオフ機能	4-8
オートシャットオフタイム	6-15
オートプレヒートタイム	6-15
オプション	7-1
カ 回転コピー	5-10
回転ソート設定	6-10
カウンターレポート出力	6-15
各部の名称	2-1
画質の選択	4-2
カセット	3-1
カセット (オプション)	7-1
片面原稿からの両面コピー	5-2
紙詰り位置表示	8-3
紙詰りが発生したら	8-3

キ キーカウンタ	7-1
キーカード	7-2
機械の清掃のしかた	9-1
機械を設置するときの注意	1-2
機能的なコピー	5-1
基本的なコピーのしかた	4-1
ケ 原稿混載コピー	5-10
原稿のセット	4-1
言語切替	6-20
コ 固定変倍モード	4-5
コピーカウントのクリア	6-1
コピーカウントの参照	6-1
コピー禁止事項	1-4
コピー初期設定の項目	6-9
コピー初期設定の変更のしかた	6-11
コピーの縮小/拡大	4-4
コピー濃度の調整	4-2
コピー排出先指定	6-15
コピー部数制限	6-10
コピー枚数の設定	4-3
混在原稿濃度	6-9
こんなメッセージがでたら	8-1
シ シート枠消し	5-6
自動濃度調整	6-9
自動倍率選択モード	4-4
自動倍率モード	6-10
写真原稿濃度	6-9
出力モード	6-10
集約コピー	5-7
消耗品	9-2
仕様	9-4
初期設定	6-9
初期モード	2-4
ジョブセパレータ	7-1
新規部門登録	6-1

ス	ズームコピーモード	4-4	プリンタキット	7-2	
	ステータスレポート	6-14	プリンタネットワークキット	7-2	
セ	制限枚数の修正	6-1	プリンタ部門管理のON/OFF	6-2	
	静音モード	6-15	分割コピー	5-4	
	製品の保守サービス	9-3	ホ	補修用性能部品	9-3
ソ	操作パネル	2-3		保守サービス契約書	9-3
	ソートコピー	5-9	マ	マージンコピー	5-5
チ	注意ラベルについて	1-1		マージン幅設定	6-10
テ	定形変倍モード	4-5		マシン初期設定の項目	6-14
	手差し	3-2		マシン初期設定の変更のしかた	6-16
	手差しの用紙設定とサイズ設定	3-3	メ	メッセージ表示	2-4
ト	特殊紙セット段	6-14	モ	文字原稿濃度	6-9
	特殊紙オート給紙	6-14	ユ	優先カセット	6-10
	トナーカートリッジの交換	3-7	ヨ	用紙種類 (1 段目～4 段目)	6-14
	トナー回収タンクの交換	3-7		用紙種類 (手差し)	6-14
	トラブルが発生した場合	8-9		用紙選択	6-9
	取り扱い上の注意	1-3		用紙の選択	4-2
ネ	ネットワークスキャナ	7-2		用紙の補給	3-1
ノ	濃度ステップ	6-9		用紙補給時の注意	3-1
	濃度モード	6-9		予熱 (プレヒート) 機能	4-7
フ	フィニッシャー	7-1	リ	両面原稿からの両面コピー	5-1
	封筒のセットのしかた	3-4		両面原稿からの分割コピー	5-4
	複写機の管理モード	6-1		両面コピー	5-1
	ブック原稿からの分割コピー	5-4		両面ユニット	7-1
	ブック原稿からの両面コピー	5-1	ワ	枠消し	5-6
	ブック枠消し	5-6		枠消し幅選択	6-10
	部門管理	6-1		割り込みコピー	4-6
	部門管理のON/OFF	6-2			
	部門管理の時のコピー	6-8			
	部門管理の設定のしかた	6-3			
	部門管理の選択画面の表示のさせかた	6-3			
	部門管理モード	6-1			
	部門管理リストの出力	6-1			
	部門の抹消	6-1			
	プリントエラーレポートのON/OFF	6-2			

ファクス機能編

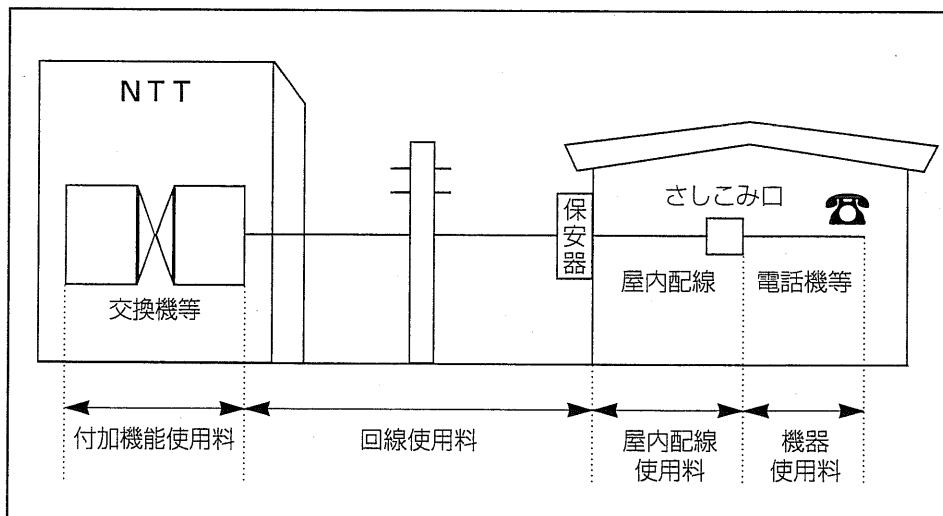
ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。
ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。
詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

【電話料金の内訳】

①回線使用料	ご契約者名簿により住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
②屋内配線使用料	保安器から屋内の電話さしこみ口までの屋内配線をNTTからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
③機器使用料	NTTの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
④付加機能使用料	プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

【NTTの基本料などのしくみ】



本書の構成

本書は、初めてファクスを使う方から機械の操作に手慣れた方までが、戸惑いなくお使いになれるように、いくつかの章に分けて構成しています。ここでは、本書の構成と各章の概要を紹介しています。本書をご利用になる際の参考にしてください。

重要です！ まず初めに お読みください

本製品をご購入後、必ず知っておいていただきたいことについて説明しています。ファクスを取り扱う際の注意事項など、安全にお使いいただくために必ずお守りいただきたい事項を記載しています。コピー編の安全上の注意事項と合わせて、必ずお読みください。

第1章 基本編

各部の名称やはたらき、一般的なファクスの使い方について説明しています。「原稿を送る」、「原稿を受ける」といったことは、この基本編を読むだけでできるようになります。

第2章 活用編

ファクスの使い方に少し慣れたら、この活用編の機能にチャレンジしてみましょう。送る時刻を指定したり、同じ原稿を複数の相手先に連続して送ったり、両面原稿をそのまま送信したり、今までよりもっと効率的にファクスを使うことができるようになります。

第3章 こんなときには

ご使用中にトラブルが発生したときは、まずこの章をお読みください。エラーメッセージに対する処置方法や、各機能を設定する際の確認事項が記載されています。処置方法や確認事項をよくお読みになり、正しい処置を行ってください。

第4章 応用編

本機を使いこなせる自信のある方は、この応用編の機能にチャレンジしてみましょう。送信先や受信先を制限したり、極秘文書を誰にも見られることなく受け取ったり、といった高度なファクス通信を行うことができます。また、本機には他社機と互換性のあるFコード通信機能や、ファクスの通信状況を把握するのに便利な部門管理機能も搭載されています。

第5章 通信情報の管理

最近行われた送受信の状況をメッセージ表示で確認する方法を説明しています。また、通信結果や機械の設定・登録状況を把握するための管理レポート類の出力方法についても説明しています。

第6章 各種設定と登録

エラー時に鳴るブザー音の音量を調整するなど、機械や機能に関する各種の設定や登録について説明しています。本機のご使用状況に応じて、設定・登録を行ってください。

第7章 オプション

オプションのハンドセットの使いかたやその他のオプション機器を装着した場合に使える機能について説明しています。受信した原稿を用紙の表裏に印字する両面受信機能や、よりきれいな送信・受信が可能となるウルトラファインモードが使えるオプションを用意しています。

第8章 仕様

この章には、ファクス機能の仕様を記載しています。

ご参考

付録として、メニュー構成一覧、出荷値設定一覧表、受信サイズと出力用紙優先順位表、区点コード表、エラーコード一覧表、索引を記載しています。ご使用になられる際の参考資料としてご活用ください。

重要です！ まず初めにお読みください.....vi

- ⚠ 機械を設置するときの注意.....vi
- ⚠ 取り扱い上の注意.....vi

第1章 ファクスの操作方法（基本編）.....1-1

機械各部の名称.....	1-2
(1) 本体各部の名称とはたらき.....	1-2
(2) 操作パネルの名称とはたらき.....	1-3
準備しましょう.....	1-6
(1) 電話回線種別の設定.....	1-6
(2) 発信元記録設定.....	1-7
(3) 日付と時刻の登録.....	1-8
(4) 自局情報登録.....	1-9
① 自局番号登録.....	1-9
② 自局名称登録.....	1-10
③ 自局ID登録.....	1-11
本機の特徴について.....	1-12
(1) コピーモードからファクスモードへの移行.....	1-12
(2) 初期モードについて.....	1-12
● 初期モード時のメッセージ表示について.....	1-12
(3) リセットキーを押したとき.....	1-13
(4) オートクリア機能.....	1-13
(5) 文書番号について.....	1-13
(6) オートシャットオフ機能.....	1-13
(7) デュアルアクセス機能.....	1-14
● デュアルアクセス可否表.....	1-14
(8) 一括送信機能.....	1-16
(9) 回転送信機能.....	1-16
(10) Fコード通信機能.....	1-16
(11) 代行受信機能.....	1-16
(12) 回転受信機能.....	1-17
(13) 画像メモリバックアップ機能.....	1-17
(14) Fネット無鳴動受信機能.....	1-17
送信のしかた.....	1-18
● 使用できる原稿.....	1-20
● 原稿についての注意事項.....	1-20
● 画質モードについて.....	1-21
● ワンタッチダイヤルについて.....	1-22
● 短縮ダイヤルについて.....	1-22
受信のしかた（FAX専用自動受信）.....	1-24
● 受信時コピー切替機能.....	1-24
● 代行受信.....	1-24
通信の中止方法.....	1-25
(1) メモリ送信の中止方法.....	1-25
(2) ダイレクト送信の中止方法.....	1-25
(3) 受信の中止方法.....	1-26
(4) 待機（予約）通信/ポーリング送信のキャンセル方法.....	1-26
文字の入力.....	1-28
● 文字配置表.....	1-28
(1) 文字入力モードの切替.....	1-28
(2) 入力方法.....	1-29
① 全角漢字モードでの入力.....	1-29
② 半角カタカナモードでの入力.....	1-29
③ 全角英数大文字/小文字モードでの入力.....	1-30
④ 半角英数大文字/小文字モードでの入力.....	1-30
⑤ 全角区点コードモードでの入力.....	1-31

ワンタッチダイヤル.....	1-32
(1) 登録のしかた.....	1-32
(2) 登録内容の変更と削除のしかた.....	1-34
(3) 使いかた.....	1-35
(4) ワンタッチダイヤルリストの出力.....	1-35
短縮ダイヤル.....	1-36
(1) 登録のしかた.....	1-36
(2) 登録内容の変更と削除のしかた.....	1-38
(3) 使いかた.....	1-39
(4) 短縮ダイヤルリストの出力.....	1-39
電子電話帳.....	1-40
(1) 検索方法.....	1-40
(2) 電子電話帳リストの出力.....	1-41
リダイヤル.....	1-42
(1) 自動リダイヤル.....	1-42
(2) 手動リダイヤル.....	1-42

第2章 ファクスの操作方法（活用編）.....2-1

両面送信.....	2-2
送信予約.....	2-3
順次回報送信.....	2-4
割込送信.....	2-6
チェーンダイヤル.....	2-7
(1) 登録のしかた.....	2-7
(2) 登録内容の変更と削除のしかた.....	2-8
(3) 使いかた.....	2-8
時刻指定通信.....	2-9
メモリ編集.....	2-10
(1) 内容印字機能.....	2-10
(2) 即時通信機能.....	2-10
(3) 内容変更機能.....	2-11
(4) 削除機能.....	2-14
手動送信.....	2-15
手動受信.....	2-16

第3章 こんなときには.....3-1

メモリ表示が点灯しているとき.....	3-2
(1) 電源を切るときの注意.....	3-2
(2) 電源断レポートが出力される時.....	3-2
エラー表示が点灯したとき（アラーム音が鳴ったとき）.....	3-2
こんな表示が出たときは.....	3-3
“故障かな？”と思ったら.....	3-5

第4章 ファクスの操作方法（応用編）.....4-1

FAX/TEL自動切替受信.....	4-2
FAX/留守番電話自動切替受信.....	4-3
ダイヤルイン.....	4-4
(1) ダイヤルインFAX番号の登録.....	4-4
(2) ダイヤルインTEL番号の登録.....	4-5
(3) ダイヤルイン設定.....	4-5
リモート切替.....	4-6
(1) リモート切替番号の登録.....	4-6
(2) 使いかた.....	4-6

ポーリング通信	4-7
(1) ポーリング送信	4-7
(2) ポーリング受信	4-8
Fコード通信	4-10
(1) Fコードボックスについて	4-10
(2) Fコード親展ボックスの登録	4-11
(3) Fコード親展ボックスの登録内容変更/削除	4-12
(4) Fコード親展通信	4-12
①Fコード親展送信	4-13
②Fコード親展ボックスからの出力	4-14
(5) Fコード親展ボックスリストの出力	4-14
(6) Fコード掲示板通信	4-15
①Fコード親展ボックスへの入力	4-15
②Fコード掲示板受信	4-16
(7) Fコード中継ボックスの登録	4-17
(8) Fコード中継ボックスの登録内容変更/削除	4-18
(9) Fコード中継同報指示送信	4-19
(10) Fコード中継ボックスリストの出力	4-21
メモリ転送	4-22
(1) 登録のしかた	4-22
(2) 登録内容の変更	4-24
(3) メモリ転送設定	4-24
グループダイヤル	4-25
(1) 登録のしかた	4-25
(2) 登録内容の変更と削除のしかた	4-27
(3) 使いかた	4-28
(4) グループダイヤルリストの出力	4-28
プログラムダイヤル	4-29
(1) 登録のしかた	4-29
(2) 登録内容の変更と削除のしかた	4-34
(3) 使いかた	4-35
(4) プログラムダイヤルリストの出力	4-35
パスワードチェック通信	4-36
(1) 許可TEL番号の登録	4-36
(2) 許可TEL番号の変更/削除	4-37
(3) 許可IDの登録	4-38
(4) 許可IDの変更/削除	4-39
(5) パスワードチェック送信設定	4-39
(6) パスワードチェック受信設定	4-40
暗号通信	4-41
(1) 暗号鍵の登録	4-41
(2) 暗号鍵の削除	4-43
(3) 暗号ボックスの登録	4-43
(4) 暗号ボックスの登録内容変更/削除	4-44
(5) 送信側の操作	4-45
(6) 受信側の操作	4-46
(7) 暗号ボックスからの出力	4-46
(8) 暗号鍵リストの出力	4-47
(9) 暗号ボックスリストの出力	4-48
部門管理	4-49
(1) 使用前の準備	4-49
(2) 部門管理モード設定時の初期画面	4-49
(3) コードの入力	4-50
(4) 部門管理モードの解除	4-50
(5) 部門コードの登録	4-50
(6) 部門名称の変更	4-52
(7) 部門コードの削除	4-52
(8) 部門管理モードの設定	4-53
(9) 部門管理レポートの出力	4-53
(10) 部門一覧リストの出力	4-54

第5章 通信情報の管理

通信結果表示	5-2
(1) 送信結果表示	5-2
(2) 受信結果表示	5-2
管理レポートの出力	5-3
(1) 通信管理レポート	5-3
(2) 通信予約確認レポート	5-3
(3) ユーザー設定リスト	5-4

第6章 各種設定と登録

レポート出力設定	6-2
掲示板設定	6-3
呼出回数設定	6-3
呼出回数設定 (FAX/留守番電話自動切替受信の場合)	6-4
呼出回数設定 (FAX/TEL自動切替受信の場合)	6-4
音量調整	6-5
DF読込設定	6-6
受信モード設定	6-6
受信日時記録設定	6-7
ファクス給紙設定	6-7
2 in 1 受信設定	6-8
電話帳タグ設定	6-9
リモート診断設定	6-9
ダイヤル確認設定	6-10
送信モードの初期設定	6-10
Fネット無鳴動受信設定	6-11
年月日表示設定	6-11
個別ID登録	6-12
管理パスワードの登録	6-13

第7章 オプション

ハンドセット	7-2
(1) 各部の名称とはたらき	7-2
(2) 電話のかけかた	7-3
両面ユニット	7-3
●両面受信設定	7-3
増設メモリ	7-4

第8章 仕様

ファクス仕様	8-2
--------	-----

ご参考

付録1：メニュー構成一覧	9-2
付録2：出荷値設定一覧表	9-5
付録3：受信サイズと出力用紙優先順位表	9-6
付録4：区点コード表	9-7
付録5：エラーコード一覧表	9-13
付録6：索引	9-16

重要です！ まず初めにお読みください

以下の注意事項は本機をファクスとして使用する場合があります。
ご使用にあたってはコピー機能編の右記の内容についてもあわせてお読みください。

- ⚠ 注意ラベルについて
- ⚠ 機械を設置するときのご注意
- ⚠ 取り扱い上のご注意
- 用紙のセットのしかた
- トナーカートリッジの交換
- 紙詰まりが発生したとき
- トラブルが発生した場合
- 機械の清掃のしかた

⚠ 機械を設置するときのご注意

■設置環境について

- 本製品は、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所への設置は避けてください。光の関係で原稿サイズを誤検知する場合があります。設置場所を変更できないときは、弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。

■設置電源・アースについて

- 複写機や空調機器と同じ系統の電源は避けてください。

⚠ 取り扱い上のご注意

⚠ 注意

- DFを開いた状態のまま、放置しないでください。けがの原因となることがあります。.....



その他の注意事項

- 送/受信中やコピー中には次のことをしないでください。
 - 本体を開ける。
 - メインスイッチを切る。
 - 電源プラグを抜く。
- 本製品は日本国内でのみ使用が可能です。海外では安全規格や回線規格が異なり使用できません（国際電話回線により国内から海外への交信は可能です）。

- 電話回線や通信事情の悪い地域ではご使用になれない場合があります。
- キャッチホンサービスをご利用されている場合、ファクス送/受信中に電話がかかってくると、割り込み信号が入るため、送/受信がうまく行えないことがあります。
- 機械がいかなる状態のときであっても、機械内部のモーターの駆動音が聞こえるときは、前カバーや左サイドカバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。

第1章

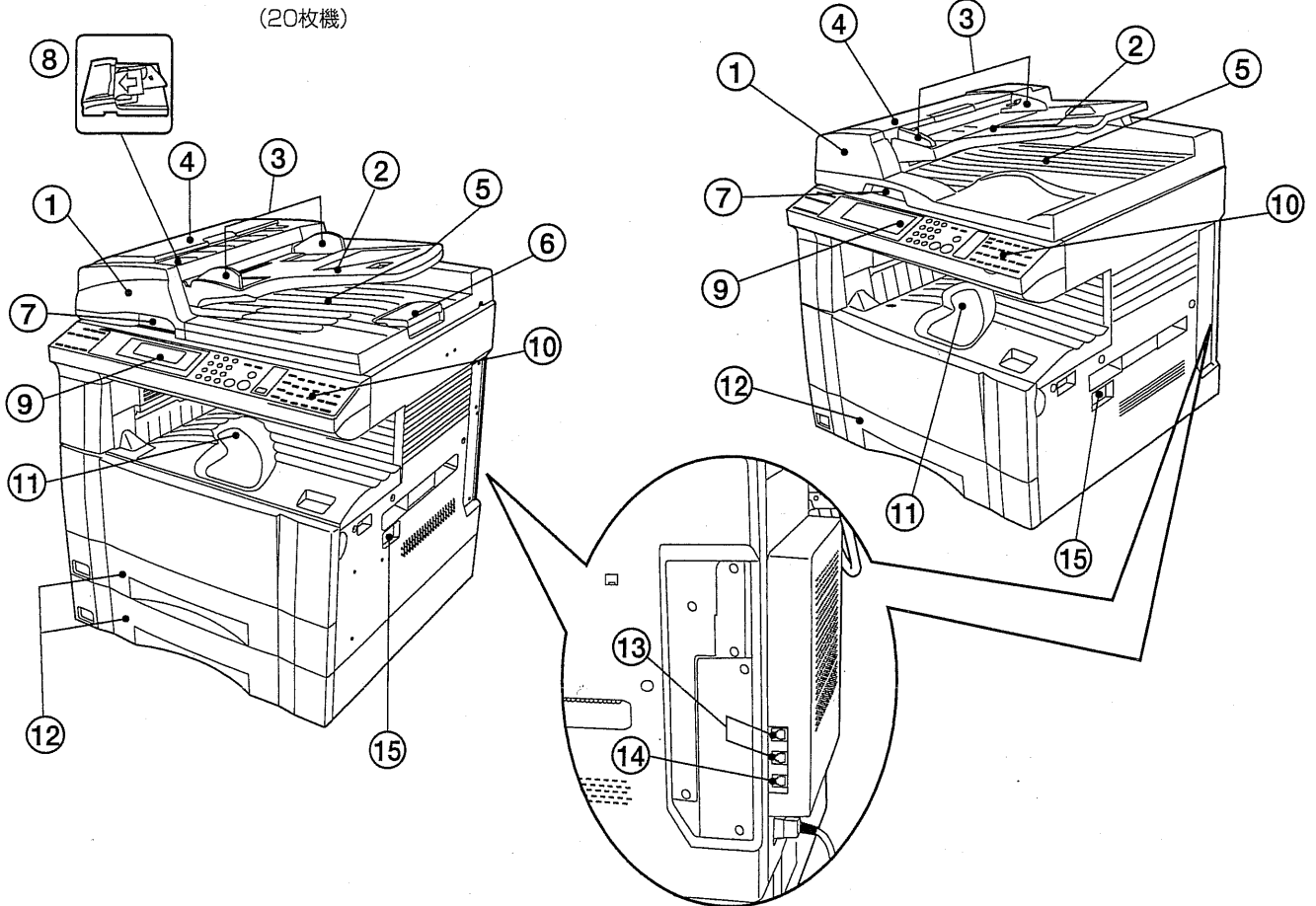
ファクスの操作方法（基本編）

機械各部の名称

(1) 本体各部の名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用する部位について説明しています。
その他の部位についての説明は、コピー機能編の使用説明書を参照してください。

(15枚機)



(20枚機)

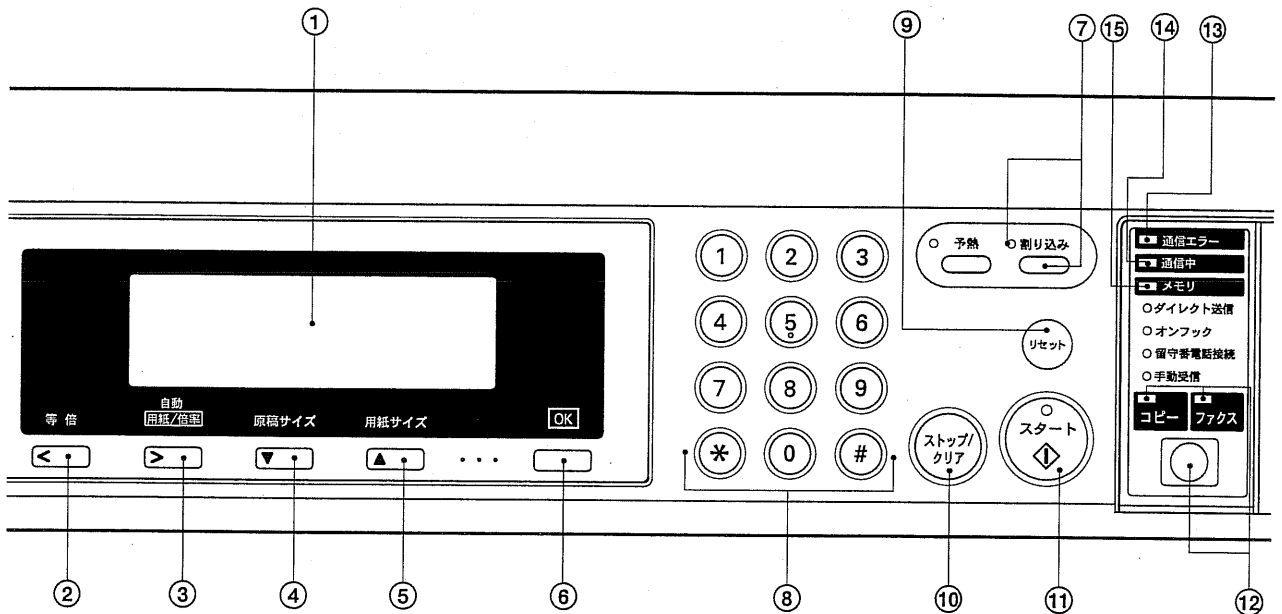
- ① DF…多枚数のシート原稿を重ねてセットすれば、自動的に1枚ずつ原稿を送る装置です。
- ② 原稿テーブル…ここにシート原稿を重ねてセットしてください。A4サイズ以下は70枚まで、A3およびB4は50枚までセットできます。
- ③ 原稿挿入ガイド…原稿幅に合わせて調節してください。
- ④ 左カバー…原稿が詰まったときに開いてください。
- ⑤ 上カバー…読み込みが終わった原稿はここに排出されます。
- ⑥ 排紙ガイド…A3やB4の原稿をセットするときに開いてください。
- ⑦ DF開閉取手…DFを開閉するときは、この取手を持ってください。
- ⑧ 原稿セット表示…原稿のセット状況を表示します。原稿が正しくセットされているときは緑色点灯します。
※15枚機のDFにはありません。
- ⑨ 操作パネル…ファクスの操作はここで行います。
- ⑩ カバープレート…使用するワンタッチキーの番号に応じて、タブのところを手でつまんで開いたり閉めたりしてください。順次同報などの各種機能キーを使用する際は、カバープレートを開いてください。

- ⑪ コピー収納部…受信した原稿は、コピー収納部に印字された面を下にして出力されます。250枚(64g/m²)まで収納できます。
- ⑫ カセット…タイプによってカセットの段数は異なります。カセットには普通紙(64g/m²)を250枚セットできます。また、用紙は手差しにもセットできます。手差しやカセットの取り扱いについては、コピー機能編の使用説明書をご参照ください。
- ⑬ TEL接続コネクタ(T)…オプションのハンドセットや市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。
- ⑭ LINE接続コネクタ(L)…電話回線用のモジュラーコードを接続してください。
- ⑮ メインスイッチ…ファクスやコピーの操作を行うときは、このスイッチをオン(I)にしてください。メッセージ表示が点灯し、機械の操作が可能になります。

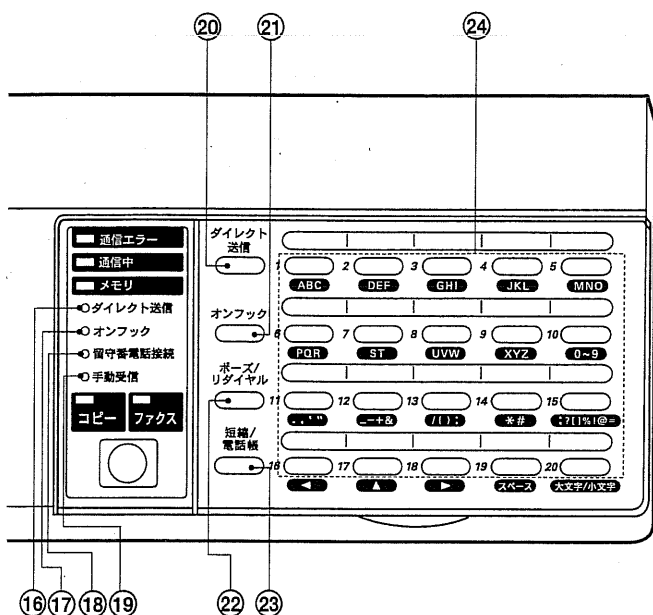
(2) 操作パネルの名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用するキーや表示について説明しています。コピーをとる際に使用するキーについての説明は、コピー機能編を参照してください。

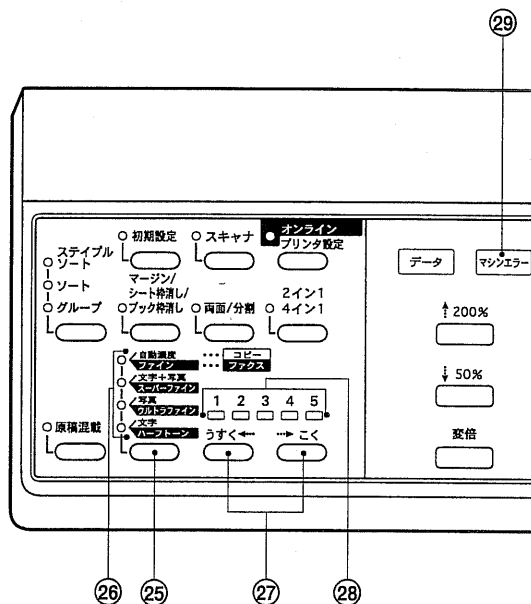
(中央部)



- ① メッセージ表示…操作の手順や不具合などを表示します。
- ② 左カーソルキー…メッセージ表示に表示されるカーソルを左に移動させるときに押してください。
- ③ 右カーソルキー…メッセージ表示に表示されるカーソルを右に移動させるときに押してください。
- ④ 下カーソルキー…メッセージ表示に表示されるカーソルを下に移動させるときに押してください。
- ⑤ 上カーソルキー…メッセージ表示に表示されるカーソルを上を移動させるときに押してください。
- ⑥ OKキー…操作時、次の手順に進むときや各種機能の登録・設定時に設定した内容を確定するときを押してください。
- ⑦ 割り込みキー/表示…ファクスの受信中に割り込んでコピーをとりたいたときに押してください。割り込みモードになると、割り込み表示が点灯します。
- ⑧ テンキー…相手先のファクス番号を入力するときなどに使用します。
※ダイヤル回線利用時でも相手先応答後に **⓪** キーを押すと、それ以降の番号をトーン信号で送出させることができます。
- ⑨ リセットキー…このキーを押すと、機械は操作を中止し、初期モードに戻ります。
- ⑩ ストップ/クリアキー…機械の操作を中断するときを押してください。入力した内容を訂正したいときに押すと、一つ前の操作に戻すことができます。但し、OKキーを押して入力内容を確定した後は戻すことができません。また、ダイヤル登録時などに登録番号を消去するときにも使用します。
- ⑪ スタートキー…ファクスの通信を開始するときを押してください。
- ⑫ コピー/ファクス切替キー/コピー表示/ファクス表示…コピーモードとファクスモードを切り替えるときに押してください。コピーモードのときはコピー表示が、ファクスモードのときはファクス表示が点灯します。
- ⑬ 通信エラー表示…通信中にトラブルが発生したときに点灯します。
- ⑭ 通信中表示…相手先との通信中は点灯します。また、オプションのハンドセットや併用電話機（市販品）の使用中は点滅します。
- ⑮ メモリ表示…メモリ内に出力待ちの原稿があるときや、予約された待機通信があるときに点灯します。なお、メモリへのデータ蓄積（記憶）中は点滅します。
メインスイッチがOFFの時にメモリ表示が点灯している場合は、代行受信した原稿がメモリ内にあります。メインスイッチをONにした後、メッセージにしたがって代行受信になっている要因を解除して原稿を出力してください。



(右端部、カバープレートを閉じたとき)

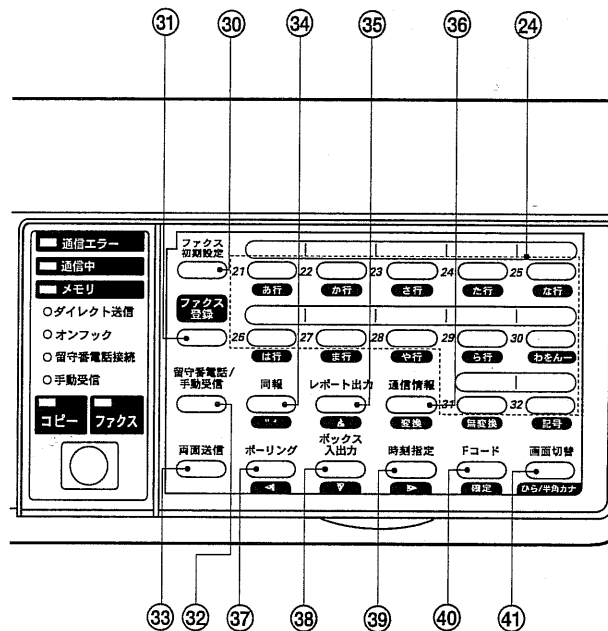


(左端部)

- ①⑥ **ダイレクト送信表示**…ダイレクト送信モードのとき点灯します。
- ①⑦ **オンフック表示**…オプションのハンドセットや併用電話機(市販品)の接続時、オンフックキーが押されてオンフック状態になると点灯します。オンフック状態のときは、受話器を上げずにダイヤルすることができます。
- ①⑧ **留守番電話接続表示**…FAX/留守番電話自動切替受信モードのとき点灯します。
- ①⑨ **手動受信表示**…手動受信モードのとき点灯します。
- ②⑩ **ダイレクト送信キー**…メモリ送信モードとダイレクト送信モードを切り替えるときに押ししてください。
- ②⑪ **オンフックキー**…オプションのハンドセットや併用電話機(市販品)が接続されているときに押すと、オンフック状態になります。
- ②⑫ **ポーズ/リダイヤルキー**…ダイレクト送信時に押すと、直前にダイヤルした番号を再びダイヤルします。また、相手先の番号入力時に押すと、ダイヤルする番号と番号の間にポーズ(数秒間の間隔)を入れることができます。ポーズを入れると、メッセージ表示にはそれを示す“-”が表示されます。
- ②⑬ **短縮/電話帳キー**…短縮ダイヤルや電子電話帳機能を使用するときに押ししてください。

- ②⑭ **ワンタッチキー(1~32)**…32個のワンタッチキーを使うことができます。カバープレートを閉めた状態で1~20番のワンタッチキー、開いた状態で21~32番のワンタッチキーが配置されています。1つのワンタッチキーには、ワンタッチダイヤル、プログラムダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルのうち、どれか1つだけを登録することができます。また、ワンタッチキーは相手先などの名称入力時にも使用します。
- ②⑮ **画質選択キー**…原稿の画質を選択するときに押ししてください。
- ②⑯ **画質選択表示**…ノーマル、ファイン、スーパーファイン、ウルトラファイン、ハーフトーンの5つの中から画質を選択できます。通常はノーマルモードが設定されており、表示は全て消灯しています。ノーマルモード以外の画質を選択するときは、該当する表示を点灯させてください。
- ②⑰ **原稿濃度調整キー**…このキーを押すと、原稿読み取り時の濃度を濃くしたり薄くしたりすることができます。
- ②⑱ **原稿濃度表示**…原稿の読み取り時の濃度を3段階で表示します。通常、表示は中央が点灯しています。原稿濃度調整キーを押して“5”の表示が点灯すると原稿読み取り時の濃度が濃くなり、“1”の表示が点灯すると原稿読み取り時の濃度は薄くなります。
- ②⑲ **マシンエラー表示**…紙詰りや機械的な問題が発生したときに点灯します。

(右端部、カバープレートを開いたとき)



- ③① ファクス初期設定キー…ファクスについての設定を行うときに押してください。
- ③② ファクス登録キー…ファクスについての登録を行うときに押してください。
- ③③ 留守番電話/手動受信キー…受信モードを選択するときに押してください。留守番電話接続表示が点灯するときはFAX/留守番電話自動切替受信が、手動受信表示が点灯するときは手動受信が、両方の表示が消灯しているときは自動受信がそれぞれ選択されています。
- ③④ 両面送信キー…両面原稿を送信するときに押してください。
- ③⑤ 同報キー…順次同報送信を行うときに押してください。
- ③⑥ レポート出力キー…各種レポートやリストを出力したいときに押してください。
- ③⑦ 通信情報キー…送信や受信が正常に行われたか、その結果を知りたいときに押してください。送信、受信とも最近行われた10件分の通信結果をメッセージ表示で確認することができます。また、メモリ内に予約されている待機通信について、通信をキャンセルしたり、通信内容の変更を行うときにも使用します。
- ③⑧ ポーリングキー…ポーリング通信を行うときに押してください。
- ③⑨ ボックス入出力キー…Fコード親展ボックスへの原稿の入力または出力、暗号ボックスから原稿を出力するときに操作してください。
- ③⑩ 時刻指定キー…時刻を指定して通信を行うときに押してください。
- ③⑪ Fコードキー…Fコード通信を行うときに押してください。

- ④① 画面切替キー…原稿の送信とコピーなど、2つの処理が同時並行で行われているとき(デュアルアクセス時)に押すと、押している間だけメッセージ表示の画面が切り替わり、裏動作を見ることができます。

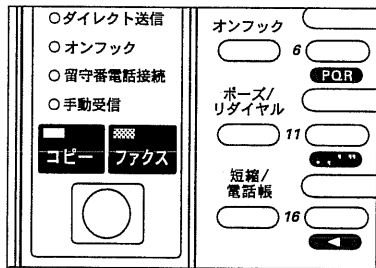
準備しましょう

ファクスを導入後、本機をファクスとして初めてご使用になる場合は、以下に続く「(1) 電話回線種別の設定」から「(4) 自局情報登録」の操作を、それぞれの操作説明にしたがって行ってください。
 ※ファクスの設置にお伺いしたサービス担当者がこれらの作業をする場合、導入時にお客様が操作を行う必要はありません。

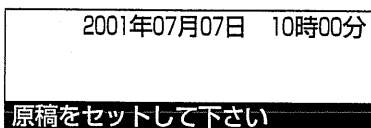
(1) 電話回線種別の設定

電話会社と契約されている電話回線の種別に合わせて設定を行ってください。この回線種別を誤って選択すると、ファクスを送信したり、受信したりすることができませんのでご注意ください。
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

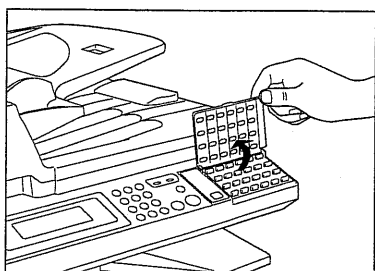
1 **ファクスモードへの移行**
 コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。
 ※ファクス表示が点灯すると、機械はファクスモードになります。



2 **ファクス初期モードの確認**
 操作部のメッセージ表示で、機械が初期モードであることを確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)



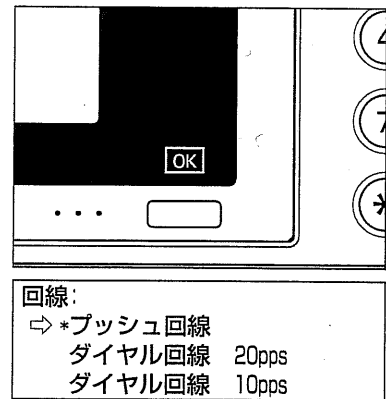
3 **カバープレートを開く**
 操作部右側にあるカバープレートを開いてください。



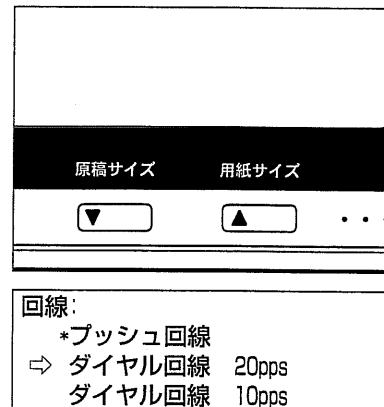
4 **設定メニューに入る**
 ファクス初期設定キーを押してください。メッセージ表示にFAX設定のメニュー画面が表示されます。



5 "回線" が選択されていることを確認し、OKキーを押してください。
 ※メッセージ表示の "*" は、現在設定されていることを示しています。



6 **回線種別の選択**
 上/下カーソルキーを使って、回線種別を選択してください。
 ※回線種別は "プッシュ回線"、"ダイヤル回線 20pps"、"ダイヤル回線 10pps" の中から選ぶことができます。



7 OKキーを押してください。回線種別の設定が終了します。
 ※初期モードに戻るときは、上/下カーソルキーを使って "終了" を選択した後、OKキーを押してください。

(2) 発信元記録設定

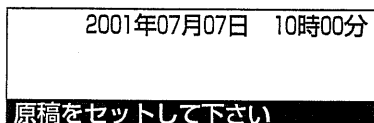
発信元記録とは、相手先の記録紙に印字される、送信日時、送信ページ数、名前や電話番号などのこちら側（発信元）の情報のことです。本機では、発信元記録を受信側で印字させるかどうかを選択することができます。また、その印字位置についても、送信ページ画像の内側、外側のどちらにつけるかを選択できます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

ファクス初期モードの確認

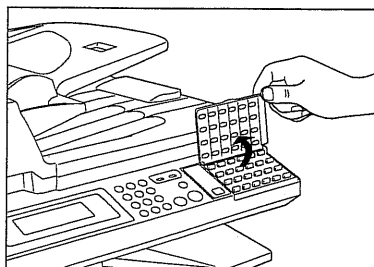
機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)
※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。



2

カバープレートを開く

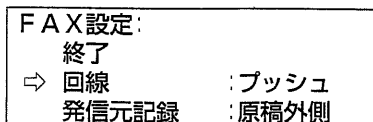
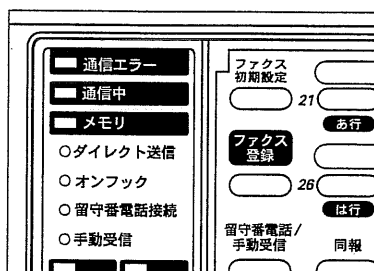
操作部右側にあるカバープレートを開いてください。



3

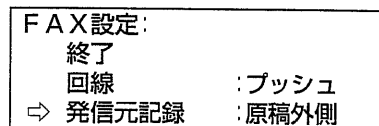
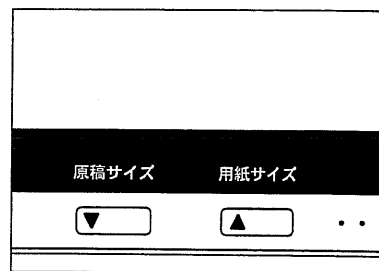
設定メニューに入る

ファクス初期設定キーを押してください。メッセージ表示にFAX設定のメニュー画面が表示されます。



4

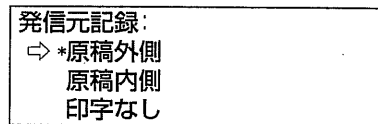
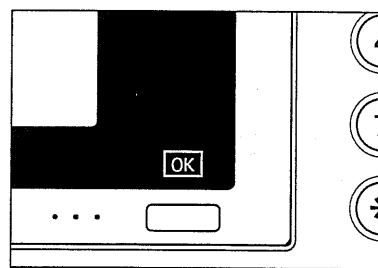
上/下カーソルキーを使って「発信元記録」を選択してください。



5

OKキーを押してください。

※メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

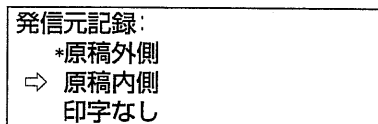


6

印字位置の選択

上/下カーソルキーを使って、発信元記録の印字の有無や印字位置を選択してください。

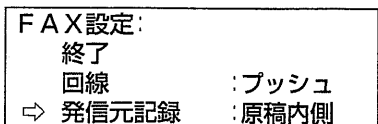
※「原稿外側」を選択すると発信元記録はページ画像の外側に、「原稿内側」を選択するとページ画像内に印字されます。



7

OKキーを押してください。発信元記録設定が終了します。

※初期モードに戻るときは、上/下カーソルキーを使って「終了」を選択した後、OKキーを押してください。



(3) 日付と時刻の登録

メッセージ表示に表示される日付、時刻を設定することができます。ここで設定した時刻をもとに時刻指定通信が行われますので、必ず正しい日付と時刻を設定してください。

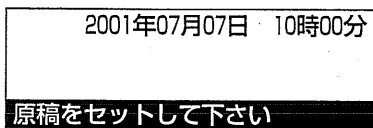
※操作を途中で中止するとき、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

ファクス初期モードの確認

機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)

※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。



2

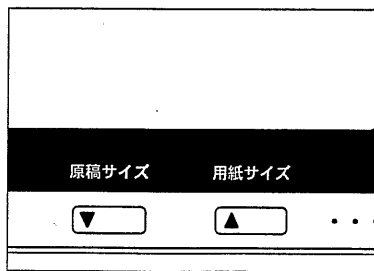
登録メニューに入る

カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



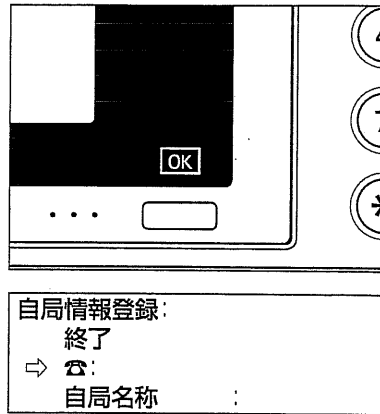
3

上/下カーソルキーを押してメニュー画面をスクロールさせ、「自局情報登録」を選択してください。



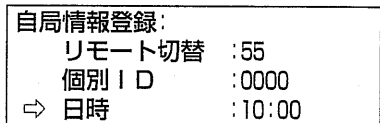
4

OKキーを押してください。自局情報登録のメニュー画面が表示されます。



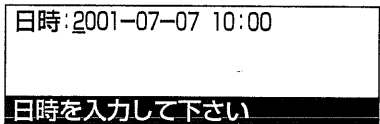
5

上/下カーソルキーを押してメニュー画面をスクロールさせ、「日時」を選択してください。



6

OKキーを押してください。



7

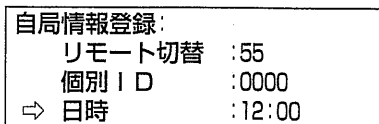
日付と時刻の入力

テンキーを使って、日付と時刻を入力してください。※右カーソルキーを押すと、カーソルは次の桁に移動します。※ストップ/クリアキーを押すと、表示されている日時がクリアされ、最初から入力しなおすことができます。



8

OKキーを押してください。日付・時刻の登録が終了します。※設定が終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



(4) 自局情報登録

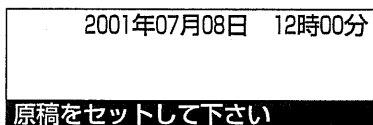
自局情報 (自局番号/自局名称/自局ID) を登録しておく、相手機側で出力される記録紙にその情報が印字されるので、受信側ではどこから送られてきた原稿なのかを容易に知ることができます。

① 自局番号登録

※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
 ※操作を途中で中止するとき、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

ファクス初期モードの確認

機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)
 ※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

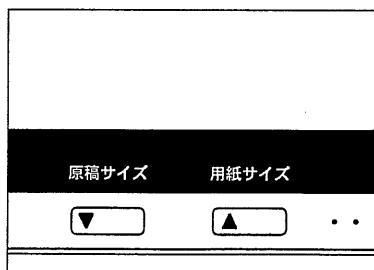


登録メニューに入る

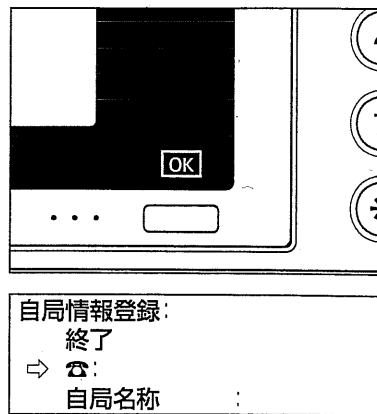
カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



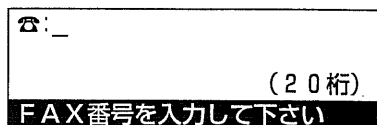
上/下カーソルキーを押してメニュー画面をスクロールさせ、「自局情報登録」を選択してください。



4 OKキーを押してください。自局情報登録のメニュー画面が表示されます。

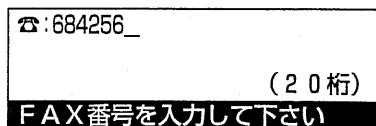
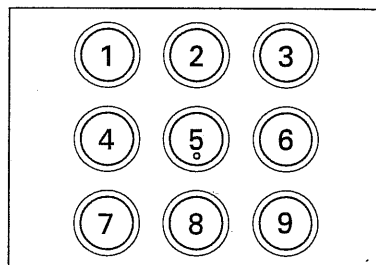


5 もう一度OKキーを押してください。

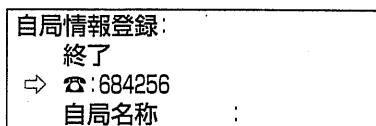


6 自局電話番号の入力

テンキーを使って、自局番号として登録したい番号を入力してください。
 ※最大20桁まで入力できます。
 ※ストップ/クリアキーを押すと、入力した番号はクリアされます。



7 OKキーを押してください。自局番号の登録が終了します。
 ※初期モードに戻るときは、リセットキーを押してください。

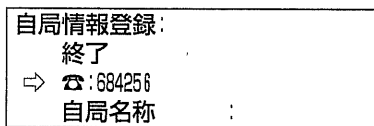


② 自局名称登録

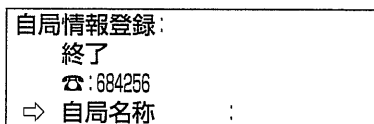
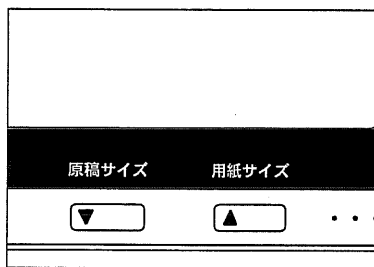
自局名称は、“全角/半角”モードと“半角のみ”モードの2通りで登録することができます。“全角/半角”モードで登録する名称は、受信側で出力されるファクスに発信元記録として印字されます。“半角のみ”モードで登録する名称は、相手機側のLCDディスプレイに表示され、また相手機側で出力される通信結果レポートにも印字されます（この機能は弊社機間通信の場合のみに限られます）。

※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

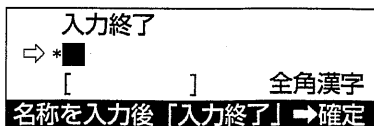
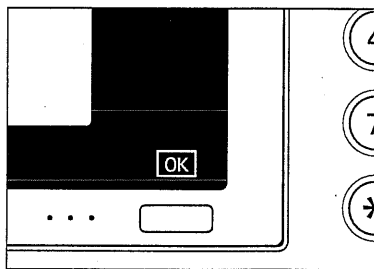
1 P1-9「(1) 自局番号登録」の手順1～4の操作を行ってください。



2 上/下カーソルキーを使って“自局名称”を選択してください。



3 OKキーを押してください。



4

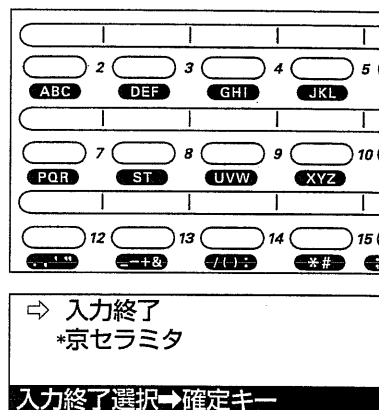
発信元記録用自局名称の入力 (“全角/半角”モード)

自局名称を全角または半角文字のどちらかで入力してください。(P1-28「文字の入力」参照)

※全て全角の場合は最大16文字まで、全て半角の場合は最大32文字まで入力できます。全ての文字入力モードでの入力が可能です。

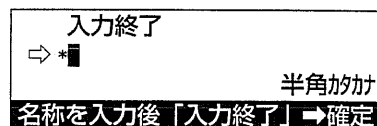
※ここで入力した名称が相手機側で発信元記録として印字されます。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した名称はクリアされます。



5

確定キーを押してください。



6

LCD表示用自局名称の入力 (“半角”モード)

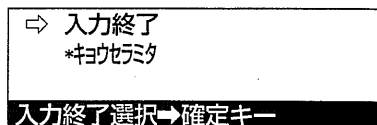
自局名称を半角文字だけで入力してください。

(P1-28「文字の入力」参照)

※半角カタカナと半角の英数大文字小文字の入力が可能で、最大32文字まで入力できます。

※ここで入力した名称が、相手のLCDディスプレイや通信管理レポートに表示されます。(弊社機間通信の場合のみ有効)

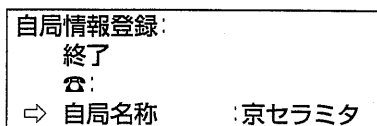
※ストップ/クリアキーを押すと、入力した名称はクリアされます。



7

確定キーを押してください。自局名称の登録が終了します。

※初期モードに戻るときは、リセットキーを押してください。



③自局ID登録

※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

P1-9「(1) 自局番号登録」の手順1~4の操作を行ってください。

自局情報登録:	
終了	
⇒ ☎:684256	
自局名称	:京セラミタ

2

上/下カーソルキーを使って“自局ID”を選択してください。

原稿サイズ		用紙サイズ	
▼	▲	...	

自局情報登録:	
☎:684256	
自局名称	:京セラミタ
⇒ 自局ID	:0000

3

OKキーを押してください。

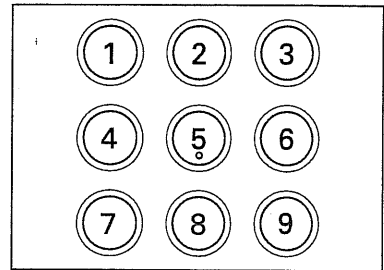
OK	...
----	-----

自局ID:0000
ID番号を入力して下さい

4

テンキーを使って、自局IDとして登録したい番号を4桁で入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと表示はクリアされ、“0000”に戻ります。



自局ID:3324
ID番号を入力して下さい

5

OKキーを押してください。自局IDの登録が終了します。

※初期モードに戻るときは、リセットキーを押してください。

自局情報登録:	
☎:684256	
自局名称	:京セラミタ
⇒ 自局ID	:3324

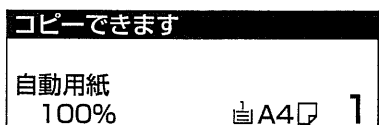
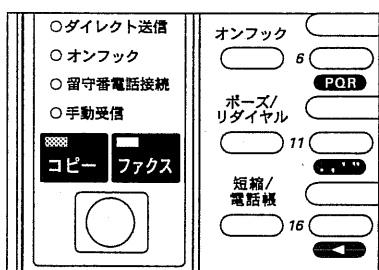
本機の特徴について

ここでは、本機をファクスとして使用する場合の特徴や知っておいていただきたい事柄について説明しています。

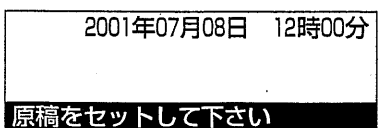
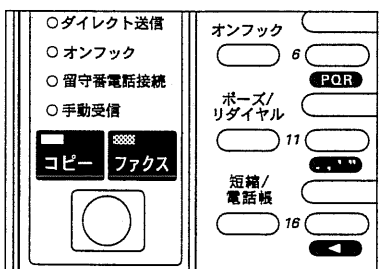
(1) コピーモードからファクスモードへの移行

本機は、元々コピー機能を標準装備しており、コピーモードが初期設定となっています。そのため、こちらから相手先へファクス原稿を送信するときは、一度ファクスモードに切り替える必要があります。受信については、通常は自動受信モードが設定されているので、コピーモードであっても相手先からのファクスを受信し、自動的に印字出力が行われます。

コピーモードのときは、通常コピー表示が点灯しており、操作パネルのメッセージ表示にはコピーモードを示すメッセージが表示されています。



ファクスモードへ切り替えるときは、コピー/ファクス切替キーを押してください。ファクスモードに移行すると、ファクス表示が点灯し、操作パネルのメッセージ表示もファクスモードのメッセージに変わります。



(2) 初期モードについて

ファクスモードで操作を始める際には、メッセージ表示がファクスの初期モードになっているかを必ず確認してください。

初期モードとは、機械が待機中で操作可能な初期状態のことです。機械は、ファクスの送/受信動作が正常に終了すると、初期モードに戻ります。また、オートクリア機能が働いたときも、初期モードに戻ります。

●初期モード時のメッセージ表示について

ファクスの初期モードを示すメッセージは、部門管理モード (P4-49参照) が設定されているか否かによって異なります。以下にそれぞれの場合での初期モード表示を記しますので、個々の操作を始める際には、必ずそれらのメッセージが表示されていることを確認してください。

部門管理モードが設定されていないとき

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

部門管理モードが設定されているとき

操作を行うためには、部門コードまたは管理パスワードの入力が必要です。正しいコードが入力されると、通常のファクスの初期モード表示に変わります。

□ □ □ □

部門コードを入力して下さい

注意！

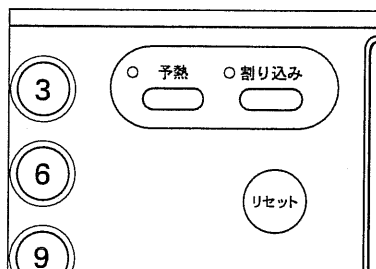
部門管理モードが設定されているときに各種番号登録や設定を行うためには、部門コード入力画面において管理パスワードを入力する必要があります。部門コードを入力して操作を行おうとしても、登録や設定のメニューは表示されません。詳しくは、P4-49「部門管理」を参照してください。

(3) リセットキーを押したとき

操作を途中で中止したいときなどは、リセットキーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

※原稿がセットされている状態のときは、一度検知した原稿サイズはクリアされません。

※操作の状況によっては、リセットキーを受けつけないことがあります。



(4) オートクリア機能

送信や用紙の印字出力後、あるいは操作途中に120秒間キー入力などの操作が行われないと、それまでに設定していた内容などをクリアし、初期モードに戻す機能です。

※原稿がセットされている状態のときは、原稿サイズはクリアされません。

(5) 文書番号について

本機では、3桁の文書番号を使って送信や受信についての管理を行います。

文書番号は、通信の予約や実際の送・受信が行われたときに、行われた順に付与されます。付与されるタイミングは、通信の形態によって異なります。

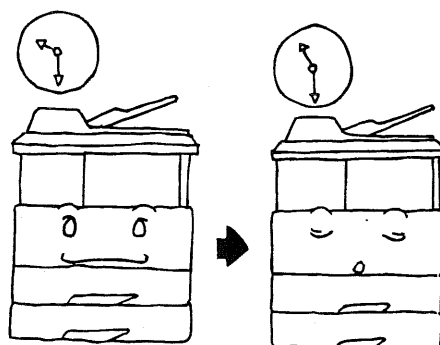
文書番号は、操作中のメッセージ表示や通信結果表示、開始時刻を指定したときに出力されるタイマー予約レポートや通信予約確認レポートでも確認することができます。(P5-2「通信結果表示」、P5-3「(2) 通信予約確認レポート」、P6-2「レポート出力設定」参照)

☎:13579	
01ページ	文書番号:056
日 <input type="text"/> F	原稿 :A4
メモリーに読み込み中です	

(6) オートシャットオフ機能

オートシャットオフ機能は、キー入力や原稿のセットなどの操作あるいは印字出力などが一定時間経過しても何も行われない場合に、機械内部の定着ヒーターとファンを停止状態にする節電機能です。複写機やファクスは、一般に送受信動作や印字作業中よりも待機状態が多く、待機時に消費する電力が全体の大きな割合を占めています。待機中に定着ヒーターやファンを停止状態にすることにより、不要な電力の消費を抑えることができ、電気料金の削減を行うことができます。

※オートシャットオフ機能が動くまでの時間（オートシャットオフタイム [初期値:30分]）は変更することができます。本機を頻繁に使用される場合はオートシャットオフタイムを長めに、待機時間が多い場合はオートシャットオフタイムを短めに設定されることをお勧め致します。(コピー編の使用説明書参照)



※オートシャットオフ機能が働くと、メインスイッチが自動的にオフ(O)になり、操作パネルの表示などは全て消灯します。

原稿を送信したり、その他のファクス操作を行うときは、メインスイッチをオン(I)にしてください。

※メインスイッチがオフ(O)状態のときに相手先からファクスが送られてきた場合でも、そのファクス原稿を受信し、出力します。また、メインスイッチがオフでも予約してある時刻設定送信は指定時刻に行います。

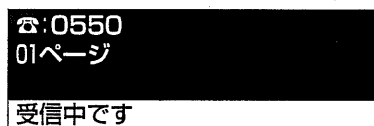
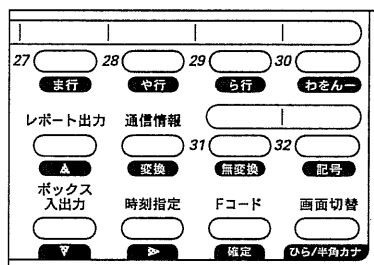
(7) デュアルアクセス機能

2つの処理を同時並行で行う機能です。例えば、通信中であっても次に原稿を送信するための操作を行うことができます。また、コピー中にファクスの受信を行うこともできます。受信した原稿はコピーが終わった後で自動的にプリントされます。

本機では、デュアルアクセス機能が働くため、メッセージ表示に「原稿をセットして下さい」が表示されていれば、送信のための操作を行うことができます。この機能に関して、特に設定などの必要はありません。

通信中の裏動作を確認するには

カバープレートを開き、画面切替キーを押してください。



※画面切替キーを押している間だけ、通信中の裏動作をメッセージ表示に表示させることができます。このときストップ/クリアキーを押すと、裏動作の通信をキャンセルすることができます。押しているキーから手を放すと、メッセージ表示は元に戻ります。

<デュアルアクセス機能が働かないとき>

デュアルアクセス機能が働かない場合もあります。例えば、相手先と回線がつながり通信中であるときには、別の相手先からファクスを受信することはできません。また、送信または受信中に各種機能の登録や設定をすることもできません。通信が終わってから操作を行ってください。

デュアルアクセスの可否については、「●デュアルアクセス可否表」を参照してください。

※時刻指定送信などのように指定時刻が来れば、自動的に送信が行われるようなものは、現在行われている処理が終わると、その動作が開始されます。

※2つの処理を同時に行えない場合には、操作を行おうとして各種機能キーを押すとエラー音が鳴り、メッセージ表示に操作不可能を示すメッセージが表示されます。

●デュアルアクセス可否表

現行動作		追加動作
①	ダイレクト送信 (通信設定) ※	
②	メモリー送信 (通信設定)	
③	メモリー送信 (原稿の読み込み)	
④	ダイレクト送信 (通信中)	
⑤	ダイレクト受信 (通信中)	
⑥	メモリー送信 (通信中)	
⑦	メモリー受信 (通信中)	
⑧	ダイレクト受信時の画像出力 (回線接続状態)	
⑨	受信画像出力 (回線断の状態)	
⑩	通信後の通信結果レポートまたは通信管理レポート出力	
⑪	レポート手動出力	
⑫	ファクス設定・登録	
⑬	読み取り部・印字部共コピー使用	
⑭	印字部コピー使用	
⑮	印字部プリンタ使用	

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
	X	X	X	O	O	O	O	O	O	X	X	⁴ △	⁴ △	O
X		X	X	O	O	O	O	O	O	X	X	⁴ △	⁴ △	O
X	X		X	O	O	O	O	O	O	X	X	X	X	O
X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O
O	O	O	X		X	X	X	X	X	X	X	³ △	³ △	³ △
O	O	O	X	X		X	X	X	X	O	X	O	O	O
O	O	O	X	X	X		X	X	X	O	X	O	O	O
O	O	O	X	X	X	X		X	X	X	X	³ △	³ △	³ △
O	O	O	O	O	O	O	¹ △		¹ △	X	X	³ △	³ △	³ △
O	O	O	O	O	O	O	¹ △	¹ △		X	X	³ △	³ △	³ △
O	O	O	O	O	O	O	¹ △	¹ △	¹ △		X	³ △	³ △	³ △
X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		⁴ △	⁴ △	O
X	X	X	X	² △	O	O	² △	¹ △	¹ △	X	X		-	-
O	O	O	O	² △	O	O	² △	¹ △	¹ △	X	O	-		-
O	O	O	O	² △	O	O	² △	¹ △	¹ △	X	O	-	-	

<表のみかた>

表中の記号は以下の意味を示しています。

※：表の現行動作に含まれないメニュー操作中は、この動作と同様に動作します。

O：現行動作に対して無条件で追加動作が動作します。

-：本体側動作のため、ファクス側には無関係。

X：現行動作に対して追加動作が動作しない。

△：現行動作に対して条件付きで追加動作が動作します。各数字の意味は次の通り。

1：ファクスモードで印字可能になれば出力する。

2：ダイレクト受信の場合は代行受信を行い、ファクスモードで印字可能になれば出力する。

3：印字を中断し、コピー割り込みが可能。

4：コピーモードに移行すると、ファクスモードで設定中の内容はクリアされる。

(8) 一括送信機能

相手先だけでなく送信指定時刻も同一の予約原稿がメモリ内に複数ある場合、最大10通信分を自動的にまとめて一度の通信で送信を行います。予約された数だけ通信を繰り返すといったムダがなくなり、通信コストの削減にもつながります。

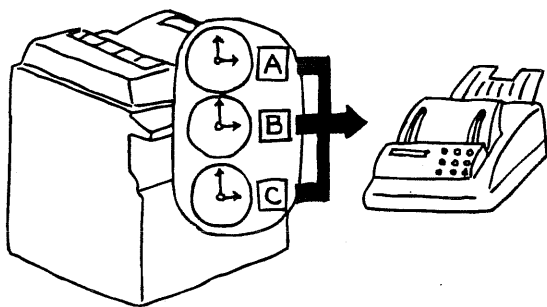
※ダイレクト送信は一括送信されません。

※ワンタッチダイヤルと短縮ダイヤルに同じ相手先番号が登録されている場合に、そのワンタッチダイヤルを使った送信と短縮ダイヤルを使った送信は、同時刻の指定であっても一括送信されません。

※別々に予約された2つの順次同報送信において、同じ同報先(同じ相手先番号)があった場合、同時刻の指定であっても一括送信されません。

※予約時刻になり原稿が送信される際に、同じ相手先に対してリダイヤル待機中の原稿があるときは、そのリダイヤル待機原稿も一括送信されます。

※部門管理モード設定時は、同じ部門コードを使って送信を予約した原稿だけが一括送信されます。したがって、相手先と送信指定時刻が同一であっても予約の際に使用した部門コードが異なる場合には別通信となります。

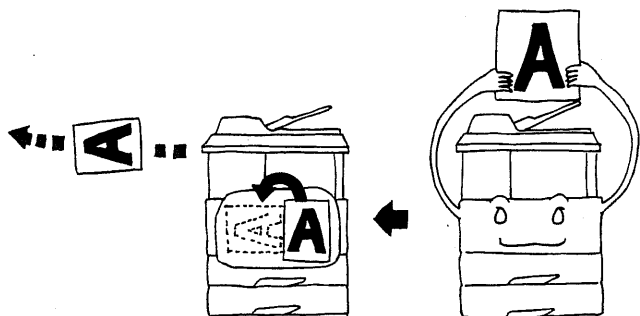


(9) 回転送信機能

DFあるいはコンタクトガラス上に、A4横サイズの原稿がセットされたとき、読み込んだ原稿データを反時計回りに自動的に90°回転し、A4縦サイズの原稿として送信する機能です。

※DFに原稿をセットして回転送信を行うためには、DF読み込みの設定を「定形原稿」に設定しておく必要があります。(P6-6「DF読み込み設定」参照)

※A4横サイズの原稿をセットしたときのみ回転送信が行われます。



(10) Fコード通信機能

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。

Fコードを使用することにより、本来自社機間でしか行えなかった親展通信のような機能通信が他社機との間でも可能になります。

本機には、こうしたFコード通信機能が備わっています。本機では、Fコード通信用に設けたFコードボックスを使って原稿の受け渡しを行うことにより、他社機との親展通信や掲示板通信や中継指示通信を可能にしています。

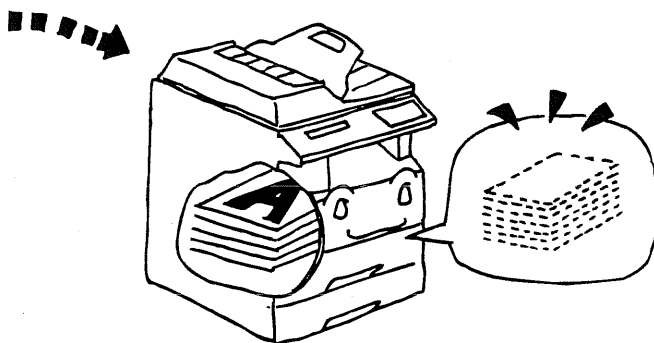
Fコード通信を行うためには、相手機も同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。そのため、事前に相手側とお互いの機械性能などについて十分な打ち合わせを行ってから実際の通信を行うようにしてください。

本機のFコード通信機能についての具体的な説明は、P4-10「Fコード通信」を参照してください。

(11) 代行受信機能

用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合でも、送られてきた原稿をいったんメモリに受信し記憶します。そして、出力可能な状態になれば印字出力を行う機能です。

※停電などにより電源断状態になった場合、代行受信が行われた最初の通信分の原稿については保持できず消えてしまうことがあります。失われた原稿については再受信を行ってください。(P1-24参照)

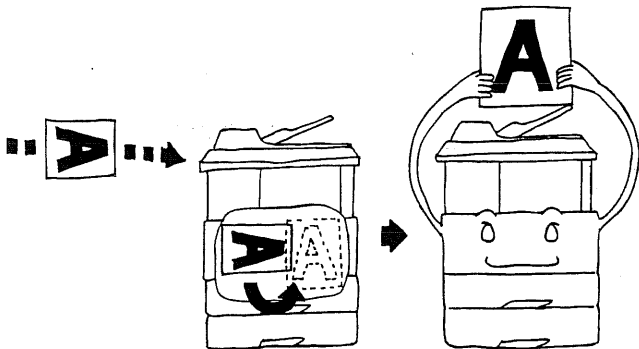


(12) 回転受信機能

受信原稿とカセットにセットされている用紙の向きが異なる場合でも、A4サイズどうしであれば、受信画像を反時計回りに90°回転して出力します。この機能は機械が自動で行います。特に設定などを行う必要はありません。

※向きの異なる同サイズの用紙がセットされている場合でも、条件によっては回転受信できないことがあります。受信サイズと出力される用紙サイズ、用紙の向きについては、P9-6「付録3：受信サイズと出力用紙優先順位表」をご覧ください。

※相手機側で発信元記録の印字位置がページ画像の外側に設定されているときは、回転受信されず縮小印字されることがあります。

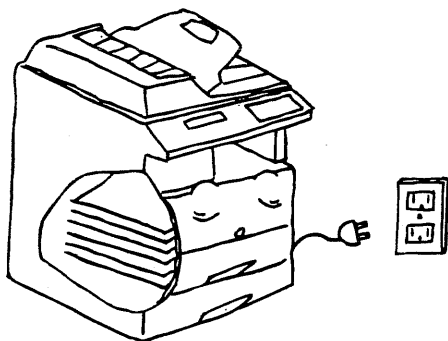


(13) 画像メモリバックアップ機能

停電や電源プラグを誤って抜いてしまったなどの不慮の事故があった場合でも、バックアップ電池により、画像メモリに受信していた原稿や送信待機原稿を約60分間は保持しておくことができます。

したがって、機械がその内容を保持している間に再び電源が投入されれば、予約されていた通信などは、ほぼ元通り行われます。復活できず、失われてしまった内容などがある場合は、電源が再投入されると自動的に出力される電源断レポートで確認してください。

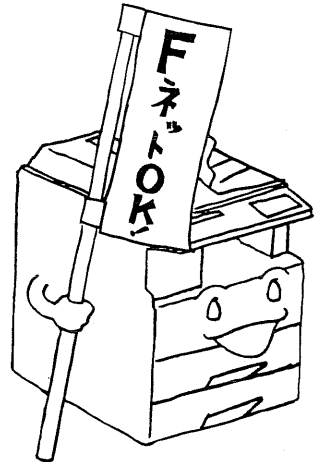
※ご使用状況や環境によっては、バックアップできる時間に差異が生じることがあります。



(14) Fネット無鳴動受信機能

NTTが提供するファクス通信網（Fネット）に接続してファクス通信をする場合に無鳴動で自動的に受信することができます。

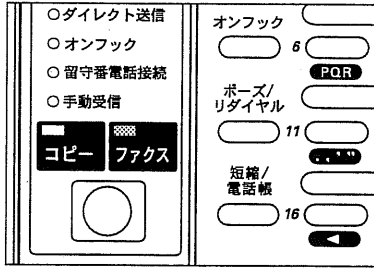
※この機能を使用するかどうかは、P6-11「Fネット無鳴動受信設定」を参照してください。



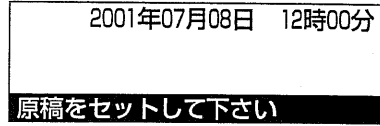
送信のしかた

ここでは、ごく一般的な原稿の送信方法について説明しています。
原稿についての注意事項などをよくお読みになり、正しい操作を行って
ください。

- 1** **ファクスモードへの切替**
コピー/ファクス切替キーを押して、ファクスモードに切り替
えてください。
※ファクスモードになると、ファクス表示が点灯します。

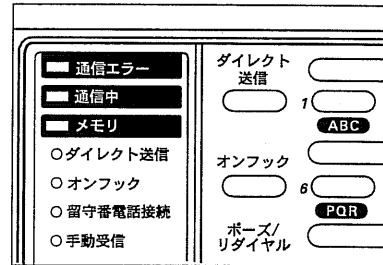
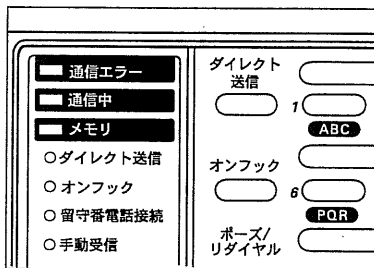


※メッセージ表示で初期モードであることを確認してください。
初期モード状態でないときは、リセットキーを押してください。



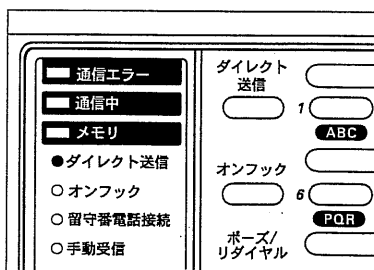
- 2** **送信モードの確認**
送信モードを確認してください。
※本機の送信モードには、メモリ送信とダイレクト送信の
2つのモードがあります。本機では、メモリ送信モードが
初期設定になっており、通常はダイレクト送信表示が消灯
しています。

※送信モードをメモリ送信からダイレクト送信に、またはその逆に
切り替えるときは、ダイレクト送信キーを押してください。



※初期モードの状態では選択される送信モードを設定することができ
ません。P6-10「送信モードの初期設定」参照

※ダイレクト送信表示が点灯しているときは、ダイレクト送
信モードが設定されています。

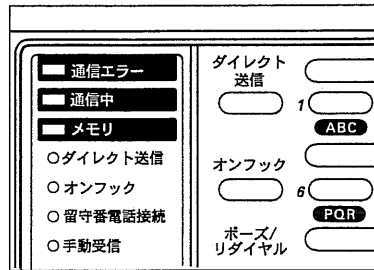


<送信モードの説明>

●メモリ送信モード (DFに原稿をセットする場合)

DFから順次原稿をメモリに読み込み記憶した後に相手先へのダイヤルを行います。利用者は送信の完了を待たずとも、自分の原稿を手元に戻すことができるため非常に便利です。複数ページのシート原稿の送信に適した方法です。

※本機では、メモリ送信が初期設定になっており、通常はダイレクト送信表示が消灯しています。点灯しているときは、ダイレクト送信キーを押して、ダイレクト送信表示を消灯させてください。



●メモリ送信モード (コンタクトガラスに原稿をセットする場合)

DFにセットできないブック原稿などの送信に適しています。コンタクトガラス上に順次セットされる原稿を1ページずつメモリに読み込み、全ての原稿の読み込みが終わってから相手先へのダイヤルを行います。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ読み込むごとに、読み込み継続を行う必要があります。P1-23「<原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>」参照

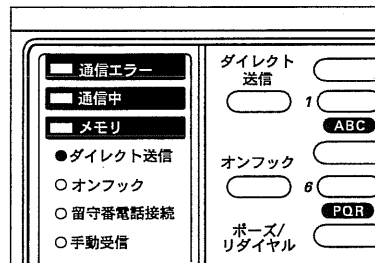
※本機では、メモリ送信が初期設定になっており、通常はダイレクト送信表示が消灯しています。点灯しているときは、ダイレクト送信キーを押して、ダイレクト送信表示を消灯させてください。

●ダイレクト送信モード (DFに原稿をセットする場合)

相手先と回線がつながってから、DFにセットされた原稿の読み込みを始めます。複数ページの原稿がセットされている場合は、1ページ分の原稿を送信してから、次の原稿の読み込みを開始します。

※この方法で送信を行う場合は、ダイレクト送信キーを押して、ダイレクト送信表示を点灯させてください。

※通信を中止するときは、ストップ/クリアキーを押してください。



●ダイレクト送信モード (コンタクトガラスに原稿をセットする場合)

DFにセットできないブック原稿などの送信に適しています。相手先と回線がつながってから、コンタクトガラス上にセットされた原稿を読み込み送信する、という動作を原稿のページ数分繰り返して行う方法です。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ送信することに、読み込み継続を行う必要があります。P1-23「<原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>」参照

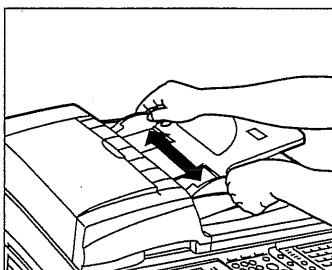
※原稿1ページを送信するごとに次の原稿セットを促すアラーム音が鳴ります。アラーム音が鳴り終わって、一定時間経過しても次の原稿セットが行われないと通信は終了します。

※この方法で送信を行う場合は、ダイレクト送信キーを押して、ダイレクト送信表示を点灯させてください。

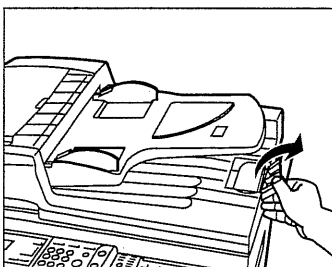
原稿のセット

20枚機

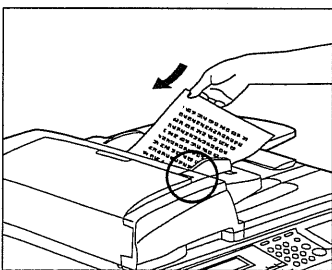
①原稿の幅に合わせて原稿挿入ガイドを調節してください。



②A3やB4などのサイズの大きな原稿をセットするときは、排紙ガイドを開いてください。



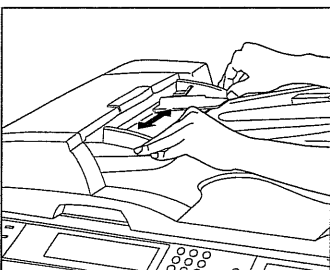
③原稿を上向きにして、原稿テーブルにセットしてください。正しくセットされると、原稿セット表示が緑色点灯します。



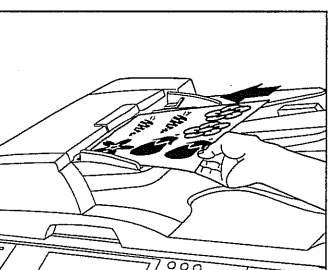
- ※奥側の原稿挿入ガイドに貼付されている目盛を超えないよう原稿をセットしてください。規定枚数を超える原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。
- ※両面原稿をセットして、表と裏の両方の原稿を送信することもできます。(P2-2「両面送信」参照)
- ※DFの取り扱いに関する詳細は、コピー機能編を参照してください。

15枚機

①原稿の幅に合わせて原稿挿入ガイドを調節してください。



②原稿を上向きにして、原稿テーブルにセットしてください。



- ※奥側の原稿挿入ガイドに貼付されている目盛を超えないよう原稿をセットしてください。規定枚数を超える原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。
- ※DFの取り扱いに関する詳細は、コピー機能編を参照してください。

●使用できる原稿

> DFにセットする場合

- 種類...普通紙、カラーペーパー、再生紙
- 定形サイズ...A3~A5R
(幅: 148mm~297mm、長さ: 148mm~1600mm)
※1600mmを超える長さの原稿が送信された場合、メッセージ表示にエラー表示が出ます。
- 厚さ...片面原稿: 35~160g/m²
両面原稿: 50~120g/m² (20枚機のみ)
- セット可能原稿枚数 (普通紙)
A4以下: 70枚
B4、A3: 50枚

> コンタクトガラスにセットする場合

- 最大サイズ...A3

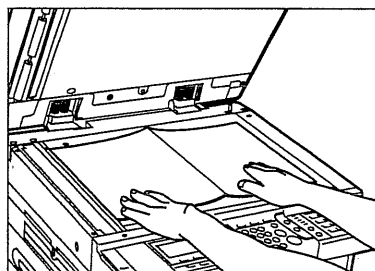
●原稿についての注意事項

- ・文字の色が極端に薄い原稿は、送信されてもはっきり印字されることがあります。
- ・インクや糊などが乾いていない原稿は、完全に乾かしてからセットしてください。
- ・DFに原稿をセットする場合、クリップやステイプルで綴じられた原稿は、故障の原因となりますので、必ずそれらを取り除いてからセットしてください。
- ・使用可能なサイズ以外の原稿は送信できない場合があります。
- ・DFにパンチ穴の空いた原稿をセットすると、まれに相手先で出力された用紙にグレーのすじが印字されることがあります。そのようなときは、原稿のセット方向を変えて送信しなおしてください。

<コンタクトガラスへの原稿のセット方法>

DFを開いて、コンタクトガラス上に原稿をセットすることもできます。ブック原稿などは、コンタクトガラス上にセットしてください。

①原稿は原稿サイズ指示に確実に合わせ、下向きにセットしてください。



②シート原稿をセットした場合には、DFを閉めてください。

▲ 注意

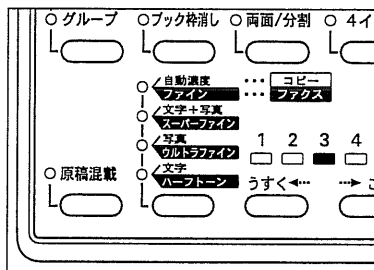
DFを開いたままで、放置しないでください。けがの原因となることがあります。

4

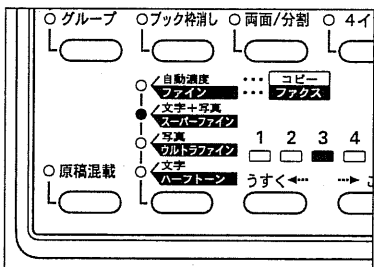
画質の選択

5種類の画質モードの中から原稿に適したモードを選択できます。

※通常はノーマルモードに設定されており、画質選択表示は全て消灯しています。ノーマルモードのままでよければ、特に操作の必要はありません。



※画質の選択は、画質選択キーを押して行います。好みの画質モードの表示を点灯させてください。



●画質モードについて

- ・ノーマルモード：普通の大きさの文字の原稿を送るとき
- ・ファインモード：比較的小さい文字や細い線のある原稿を送るとき
- ・スーパーファインモード：微細な文字や線のある原稿を送るとき
- ・ウルトラファインモード：微細な文字や線のある原稿をできるだけきれいに送るとき
- ・ハーフトーンモード：文字だけでなく写真も入っている原稿をきれいに送りたいとき

<注意事項>

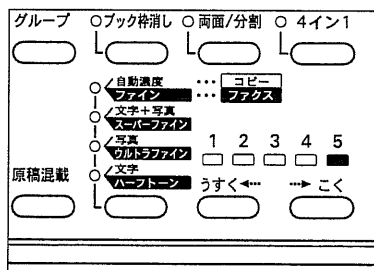
- ・ファインやスーパーファインを選択すると画像は鮮明になりますが、ノーマルモードに比べて送信時間は長くなります。
- ・ハーフトーンモードではグレイ（灰色）をきれいに再現しますが、ノーマルモードやファインモードよりも送信時間は長くなります。
- ・ウルトラファインで送信する場合は、オプションの増設メモリ（8MB）を増設する必要があります。メモリを増設していない場合は、スーパーファインの画質で送信されます。
- ・スーパーファインやウルトラファインで送信する場合は、受信側の機械もそれらのモードで受信する機能を備えていなければなりません。受信側がその機能を備えていない場合は、ファインの画質で送信されます。

5

原稿濃度の選択

原稿の読み取り時の濃度は原稿濃度調整キーを押して選択してください。3段階で調節できます。

※通常は原稿濃度表示の“3”が点灯しています。濃くするときは、“5”の原稿濃度表示を、薄くするときは、“1”を点灯させてください。

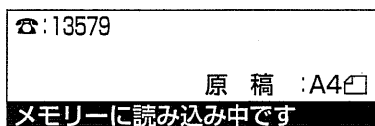
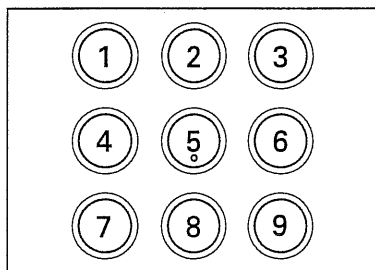


6

相手先をダイヤル

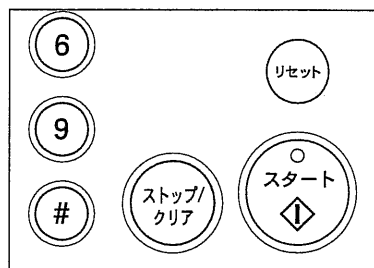
テンキーを使って相手先の番号を入力してください。

※相手先の番号は32桁まで入力できます。



※間違えて入力した場合は、左カーソルキーや右カーソルキーを押して、訂正したい箇所までカーソルを移動させ、正しい番号を入力してください。また、ストップ/クリアキーを押すと、最初から入力しなおすことができます。

※操作を途中で中止したいときは、リセットキーを押してください。入力途中の内容などはクリアされて初期モードに戻ります。入力時の操作ミスなどのために、操作を途中で止めたときなどは、操作を最初からやりなおしてください。



<ワンタッチダイヤルを使う場合>

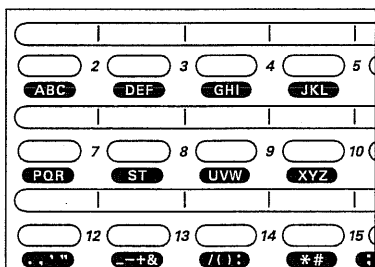
ワンタッチダイヤルを使って相手先をダイヤルすることもできます。相手先の番号が登録されているワンタッチキーを押してください。

※機械は送信のための動作を開始します。スタートキーを押す必要はありません。

●ワンタッチダイヤルについて

※あらかじめ相手先のファクス番号をワンタッチキーに登録しておく必要があります。(P1-32「ワンタッチダイヤル」参照)

※ワンタッチキーに何も登録されていない場合は、エラー音が鳴り、エラーメッセージが表示されます。その場合はもう一度確認して、正しいワンタッチキーを押してください。



<短縮ダイヤルを使う場合>

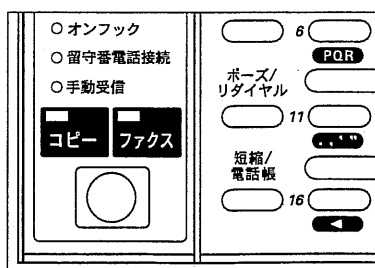
短縮ダイヤルを使って相手先をダイヤルすることもできます。短縮/電話帳キーを押した後、テンキーを使って相手先の番号が登録されている2桁(00~99)の短縮番号を入力してください。

※機械は送信のための動作を開始します。スタートキーを押す必要はありません。

●短縮ダイヤルについて

※あらかじめ相手先のファクス番号を短縮ダイヤルとして登録しておく必要があります。(P1-36「短縮ダイヤル」参照)

※入力した短縮番号が登録されていない場合は、エラー音が鳴り、エラーメッセージが表示されます。その場合はもう一度確認して、正しい短縮番号を入力しなおしてください。

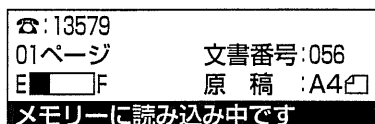
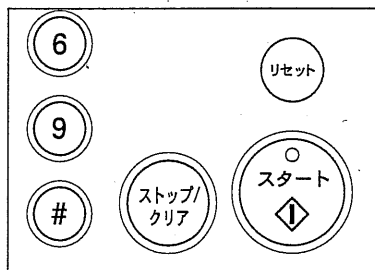


7

送信スタート

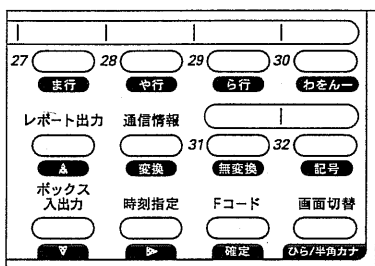
スタートキーを押してください。

※機械は送信のための動作を開始します。



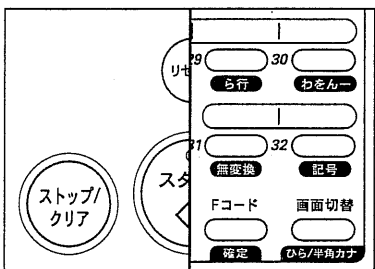
>送信状況を確認するには…

カバープレートを開いて、画面切替キーを押してください。キーを押している間はメッセージ表示に送信の状況を表示し、キーを離すと元の表示に戻ります。



>送信を中止するには…

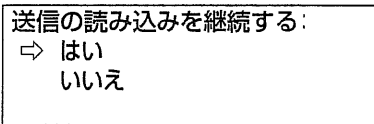
送信を中止したいときは、カバープレートを開いて、画面切替キーを押しながらストップ/クリアキーを押してください。機械は送信を中止します。



<原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>

原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、原稿サイズを検知させるためにDFを閉じてください。また、ブック原稿などでDFを閉じないときは原稿サイズ選択キーを押して原稿サイズを選択してください。

※原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、スタートキーを押した後で以下のような原稿の読み込み画面が表示されます。以下の手順を行ってください。

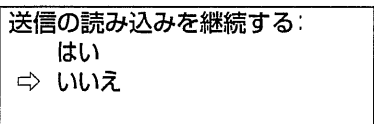


>原稿の読み込みを継続する場合

- ①原稿を入れ替えてください。
※DFに原稿をセットすることもできます。
- ②“はい”が選択されていることを確認してOKキーを押してください。
- ③スタートキーを押してください。原稿の読み込みを開始します。
※DFに原稿をセットした場合は、原稿読み取り終了後自動的に送信動作を開始します。
※他にも原稿がある場合は、手順①～③を繰り返してください。

>原稿の読み込みを終了する場合

- ①下カーソルキーを押して“いいえ”を選択してしてください。



- ②OKキーを押してください。送信動作を開始します。

受信のしかた (FAX専用自動受信)

ファクス専用として使用するFAX専用自動受信モードが初期設定になっているため、受信時は特に操作の必要はありません。

※メインスイッチがオフ(O)状態のときでもファクスの受信は行われ、受信された原稿は出力されます。

<受信モードについて>

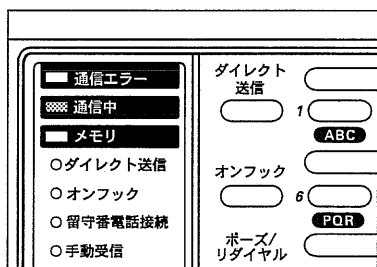
本機には、下記の4つの受信モードがあります。

- ・FAX専用自動受信
- ・手動受信 (P2-16参照)
- ・FAX/TEL自動切替受信 (P4-2参照)
- ・FAX/留守番電話自動切替受信 (P4-3参照)

1 受信開始

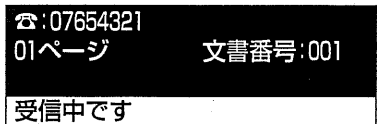
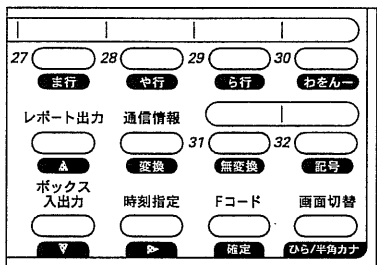
相手先のファクスから原稿が送られてくると、設定された回数の呼出しが行われた後、受信を開始します。

※受信が開始されると通信中表示が点灯しますが、メッセージ表示は特に変わりません。



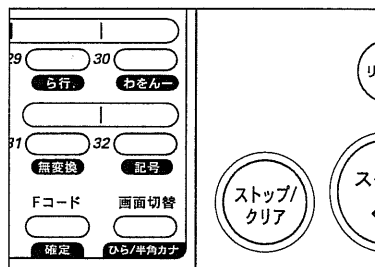
>受信状況を確認するには…

カバープレートを開いて、画面切替キーを押してください。キーを押している間はメッセージ表示に受信の状況を表示し、キーを離すと元の表示に戻ります。



>受信を中止するには…

受信を中止したいときは、カバープレートを開き、画面切替キーを押しながらストップ/クリアキーを押してください。機械は受信を中止します。



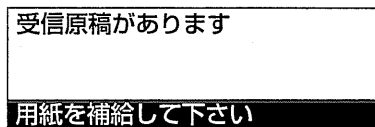
●受信時コピー切替機能

機械がダイレクト受信 (画像メモリを使わない受信) 中であっても、コピーをとることができます。

- ・受信中に割り込みキーを押してください。ダイレクト受信が代行受信に切り替わり、コピー操作が可能となります。

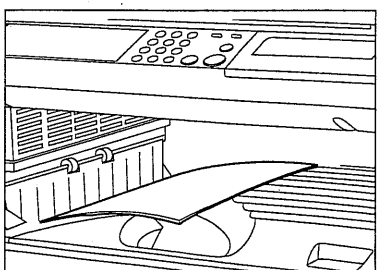
●代行受信

用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合、機械は送られてきた原稿をいったん画像メモリに記憶します。そして出力可能な状態になると、印字出力を行います。



2 印字出力

受信した原稿は、コピー収納部に印字された面を下にして出力されます。



※コピー収納部の制限収納枚数は250枚 (64g/m²) です。制限収納枚数を超えるときは、コピー収納部の用紙を全て取り出してください。

※用紙がカセットになかったり、紙詰まりなどで機械が出力できない状態であっても受信は行われます。(代行受信)

※受信原稿のサイズと同サイズの用紙がカセットにセットされていないため代行受信されることがあります。

※ウルトラファインで受信するためには、オプションの増設メモリ (8MB) を設置する必要があります。

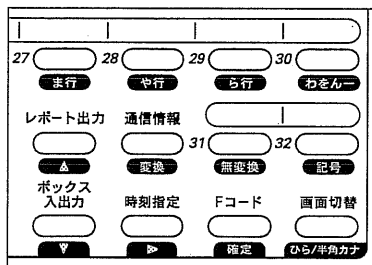
通信の中止方法

本機には通信中断機能が備わっているため、通信途中であってもその通信を中止することができます。通信の中止方法は、送信モード（メモリ送信あるいはダイレクト送信）や通信形態によって異なります。ここでは、様々なケースでの通信の中止方法を説明します。

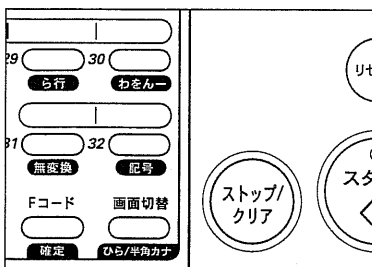
(1) メモリ送信の中止方法

メモリ送信モードで送信操作を行なうと、送信は裏動作で実行されるため、まずメッセージ表示に裏動作を表示させる必要があります。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

- 1 カバープレートを開いて、画面切替キーを押してください。メッセージ表示に通信中の裏動作が表示されます。



- 2 画面切替キーを押したまま、ストップ/クリアキーを押してください。送信が中止されます。



※順次同報送信などのように複数宛先への送信中に中止操作を行ったとき、まだ送信する宛先が残っている場合は、メッセージ表示に残りの宛先への送信を続けるかどうかの選択画面が表示されます。

- > “はい”を選択したときは、残りの宛先への送信が再開されます。
- > “いいえ”を選択する、または選択せずにオートクリアが行われたときは、残りの宛先への送信が全て中止されます。

<対象となる通信>

この方法で中止できる送信としては、次のものがあります。
単一宛先へのメモリ送信、順次同報送信、ポーリング送信、Fコード送信、Fコード掲示板送信

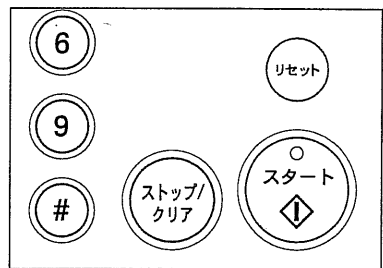
(2) ダイレクト送信の中止方法

ダイレクト送信モードで送信操作を行なうと、送信は表動作で実行されるため、メッセージ表示には送信の状況が表示されています。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

- 1 メッセージ表示には通信中の状況が表示されていますので、内容を確認してください。



- 2 ストップ/クリアキーを押してください。送信が中止されます。



- ※送信待機中のときは、下カーソルキーで“いいえ”を選択してOKキーを押してください。送信が中止されます。
- ※DFに原稿をセットしたときは、現在送信中の原稿はDFの上カバーに排出されます。

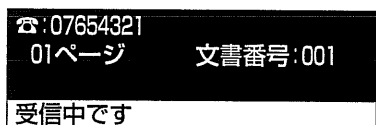
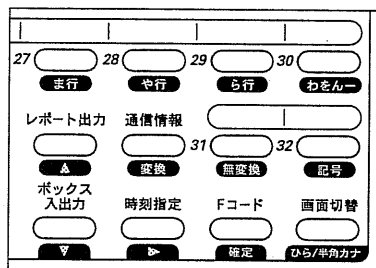
<対象となる通信>

この方法で中止できる送信としては、次のものがあります。
単一宛先へのダイレクト送信、ダイレクトFコード送信

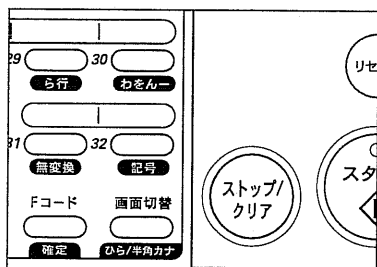
(3) 受信の中止方法

受信は裏動作で実行されるため、まずメッセージ表示に裏動作を表示させる必要があります。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

1 カバープレートを開き、画面切替キーを押してください。メッセージ表示に通信中の裏動作が表示されます。



2 画面切替キーを押したまま、ストップ/クリアキーを押してください。受信が中止されます。



※ポーリング受信などのように複数の相手先からの受信中に中止操作を行ったとき、まだ受信する相手先が残っている場合は、メッセージ表示に残りの相手先から受信を続けるかどうかの選択画面が表示されます。

- > “はい”を選択したときは、残りの相手先からの受信が再開されます。
- > “いいえ”を選択する、または選択せずにオートクリアが行われたときは、残りの相手先からの受信は全て中止されます。

<対象となる通信>

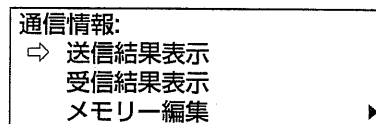
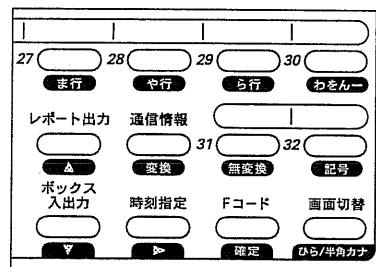
この方法で中止できる受信としては、次のものがあります。
 単一相手先からの受信、ポーリング受信、リバースポーリング(受信)、Fコード親展受信、Fコード掲示板受信、Fコード中継指示受信

(4) 待機(予約)通信/ポーリング送信のキャンセル方法

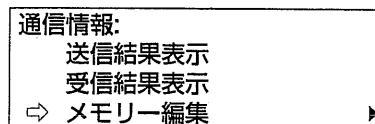
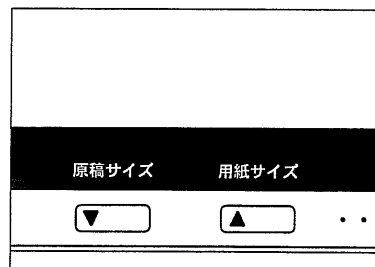
予約されたメモリ内の待機通信をキャンセルしたり、ポーリング送信原稿を削除するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

- ※メモリ内で転送待機中の通信を削除することはできません。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 メモリ編集モードに入る。
 カバープレートを開き、通信情報キーを押してください。メッセージ表示に通信情報メニュー画面が表示されます。

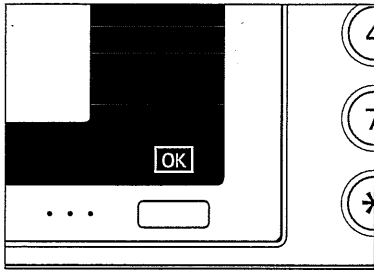


2 上/下カーソルキーを使って“メモリー編集”を選択してください。



3

OKキーを押してください。



メモリ編集:
 ⇨ 内容印字
 即時通信
 変更追加

4

上/下カーソルキーを使って、「削除」を選択してください。

メモリ編集:
 即時通信
 変更追加
 ⇨ 削除

5

OKキーを押してください。

※メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリ編集メニュー画面に戻ります。

削除:リスト
 ⇨文書番号:005
 ☎:埼玉工場 P03
 13:00 送信

6

削除通信の選択

上/下カーソルキーを使って、削除したい通信を選択してください。

削除:リスト
 ⇨文書番号:026
 ☎:関東支店 P04
 15:00 送信

7

OKキーを押してください。通信が削除されます。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

文字の入力

本機では、相手先名称入力などで使用する文字を入力するために、7つの入力モード（全角漢字/全角英数大文字/全角英数小文字/半角カタカナ/半角英数大文字/半角英数小文字/全角区点コード）が用意されています。

全角英数大文字、全角英数小文字、半角英数大文字、半角英数小文字の各モードは、カバープレートの開閉と英文字や記号が配置されているワンタッチキーの組み合わせ、文字の入力を行います。

また、全角漢字モードと半角カタカナモードでは、ひらがなの配置されたワンタッチキーを使用し、文字を入力します。

全角区点コードモードだけは、テンキーから区点コードを入力して文字の入力を行います。

●文字配置表

各ワンタッチキーには、下表の通り英文字や記号が配置されています。

※1つのワンタッチキー（ハードキー）は、カバープレートを開いた状態でひらがな入力、閉じた状態でアルファベット入力として機能します。

ワンタッチキーNo.	配置文字	ワンタッチキーNo.	配置文字	ワンタッチキーNo.	配置文字
1	ABC	12	記号 (_ - + &)	23	さ行
2	DEF	13	記号 (/ () :)	24	た行
3	GHI	14	記号 (* #)	25	な行
4	JKL	15	記号 (; ? [] % ! @ =)	26	は行
5	MNO	16	左カーソルキーとして使用	27	ま行
6	PQR	17	上カーソルキーとして使用	28	や行
7	ST	18	上カーソルキーとして使用	29	ら行
8	UVW	19	スペースキーとして使用	30	わをんー
9	XYZ	20	大文字/小文字切替キー	31	無変換キーとして使用します
10	0~9	21	あ行	32	記号入力キーとして使用します
11	記号 (. , ' ")	22	か行		

※さらに以下の機能キーを文字入力で使用してください。

同報キー：濁点 (`)、半濁点 (˘) の入力

レポート出力キー：上カーソルキーとして使用

通信情報キー：変換キーとして使用

ボーリングキー：左カーソルキーとして使用

ボックス入出力キー：下カーソルキーとして使用

時刻指定キー：右カーソルキーとして使用

Fコードキー：確定キーとして使用

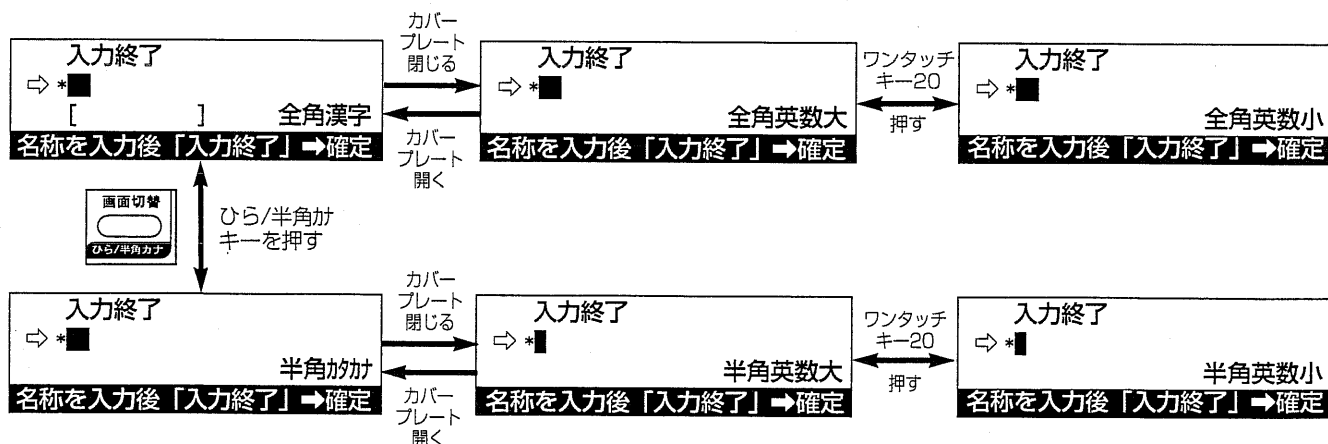
画面切替キー：ひらがな/半角カナ 切替キーとして使用

(1) 文字入力モードの切替

文字入力モードの切り替えには、カバープレートの開閉、キー（20番のワンタッチキー）及びひら/半角カナキーを組み合わせ使用します。相手先名称などの入力時、入力モードを切り替えるときは、下記の手順にしたがって、操作を行ってください。

1 希望の入力モードを示す文字がメッセージ表示されるまで、カバープレートの開閉と入力モードのキーを押してください。

※メッセージ表示の3行目右側に表示されている文字は、現在設定されている入力モードを示しています。



2 希望の入力モードがメッセージ表示に表示されたら、各入力モードの操作説明を参照して、文字の入力を行ってください。

(2) 入力方法

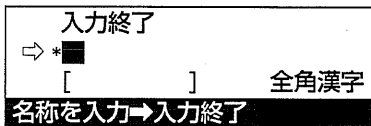
① 全角漢字モードでの入力

全角漢字モードで相手先名称などを入力するときは、カバープレートを開きひらがなの配置されたワンタッチキーと変換キーを使って、文字を入力します。下記の例を参考にして操作を行ってください。

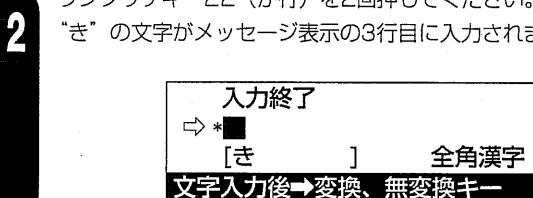
※全角漢字モードでは、全角のカタカナは入力できませんが英字は入力できません。

【例】“京”の入力する場合

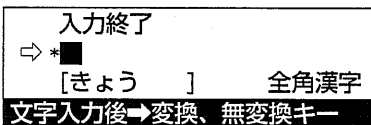
1 P1-28「(1) 文字入力モードの切替」を参照して、全角漢字モードを選択してください。



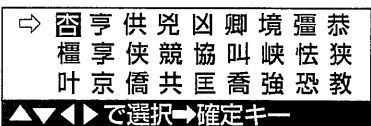
ワンタッチキー22 (か行) を2回押してください。“き”の文字がメッセージ表示の3行目に入力されます。



3 同様にワンタッチキー28 (や行) を6回押し、ワンタッチキー21 (あ行) を3回押してください。“きょう”の文字がメッセージ3行目に入力されます。

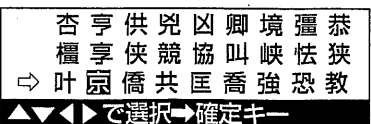


4 変換キーを押してください。変換候補の文字が表示されます。
※漢字に変換せずに“ひらがな”で入力するときは、無変換キーを押してください。手順3でメッセージ表示された“きょう”の文字が確定し、2行目に表示されます。

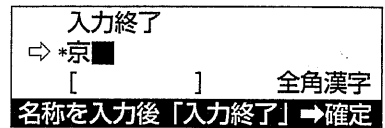


5 上/下カーソルキーと右/左カーソルキーを使ってカーソルを動かし、変換したい文字を選択してください。

※上/下カーソルキーを押すと、矢印カーソルは上下に動きます。
※右/左カーソルキーを押すと、四角カーソルは左右に動きます。
メッセージ表示は左右にスクロールしますので、該当する文字がないときは、その文字が表示されるまで右カーソルキーを押してください。



6 確定キーを押してください。選択した文字が確定します。
※このとき左カーソルキーを押すと、カーソル位置は1文字分左へ戻ります。



7 文字の入力がすべて終了したら、上カーソルキーを使って、“入力終了”を選択し、確定キーを押してください。

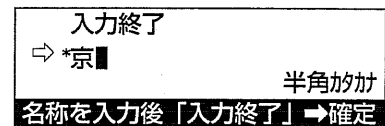
② 半角カタカナモードでの入力

半角カタカナで相手先名称などを入力するときは、ひらがなの配置されたワンタッチキーを使って、文字を入力します。下記の例を参考にして操作を行ってください。

※半角カタカナモードでは、漢字、ひらがな、英字は入力できません。

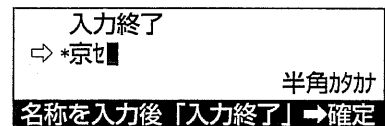
【例】“京”の入力する場合

1 P1-28「(1) 文字入力モードの切替」を参照して、半角カタカナモードを選択してください。



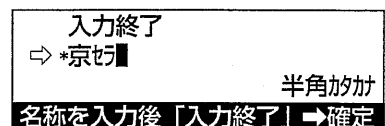
2 ワンタッチキー23 (さ行) を4回押してください。“せ”の文字が入力されます。

次の文字を入力するときは (▶) キーを押してカーソルを1文字移動させてください。



3 ワンタッチキー29 (ら行) を押してください。“ら”の文字が入力されます。

※最初から入力しなめるときは、ストップ/クリアキーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。



4 文字の入力が全て終了したら、上カーソルキーを使って、“入力終了”を選択し確定キーを押してください。

③全角英数大文字/小文字モードでの入力

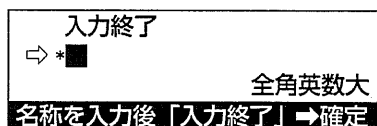
全角英数大文字モードや全角英数小文字モードでの入力は、カバープレートを閉じた状態で英文字や記号が配置されているワンタッチキーを押すことによって行います。

ここでは、先頭1文字が大文字、残りを小文字で入力するケースを考え、大文字モードと小文字モードでの入力方法を一緒に説明しています。下記の例を参考にして操作を行ってください。

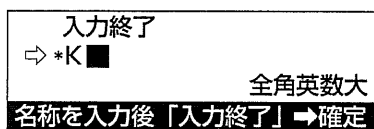
※全角英数大文字/小文字モードでは、漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

【例】“Kyocera” と入力する場合

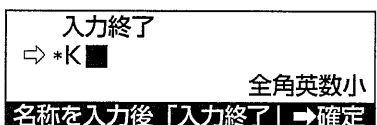
1 P1-28 「(1) 文字入力モードの切替」を参照して、全角英数大文字モードを選択してください。



2 ワンタッチキー4 (JKL) を2回押してください。メッセージ表示には全角の“K”の文字が入力されます。次の文字を入力するときは (▶) キーを押してカーソルを1文字移動させてください。



3 ワンタッチキー20 (大文字/小文字) を押してください。入力モードが全角英数小文字モードに切り替わります。



※再び全角英数大文字モードに戻したいときは、“全角英数大”の文字が表示されるまで、ワンタッチキー20 (大文字/小文字) を押してください。

4 手順2と同様にして、小文字の“yocera”を入力してください。

※最初から入力しなおすときは、ストップ/クリアキーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。



5 文字の入力が全て終了したら、上カーソルキーを使って、“入力終了”を選択し確定キーを押してください。

④半角英数大文字/小文字モードでの入力

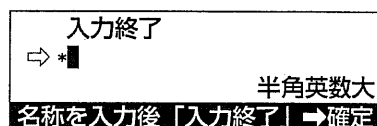
半角英数大文字モードや半角英数小文字モードでの入力は、カバープレートを閉じた状態で英文字や記号が配置されているワンタッチキーを押すことによって行います。

ここでは、先頭1文字が大文字、残りを小文字で入力するケースを考え、大文字モードと小文字モードでの入力方法を一緒に説明しています。下記の例を参考にして操作を行ってください。

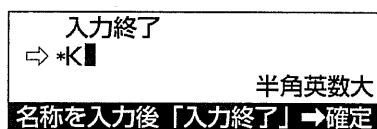
※半角英数大文字/小文字モードでは、漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

【例】“Kyocera” と入力する場合

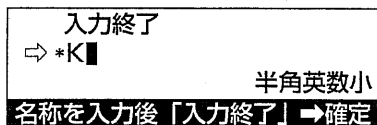
1 P1-28 「(1) 文字入力モードの切替」を参照して、半角英数大文字モードを選択してください。



2 ワンタッチキー4 (JKL) を2回押してください。メッセージ表示には半角の“K”の文字が入力されます。次の文字を入力するときは (▶) キーを押してカーソルを1文字移動させてください。



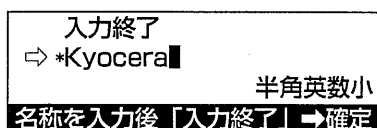
3 ワンタッチキー20 (大文字/小文字) を押してください。入力モードが半角英数小文字モードに切り替わります。



※再び半角英数大文字モードに戻したいときは、“半角英数大”の文字が表示されるまで、ワンタッチキー20 (大文字/小文字) を押してください。

4 手順2と同様にして、小文字の“yocera”を入力してください。

※最初から入力しなおすときは、ストップ/クリアキーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。



5 文字の入力が全て終了したら、上カーソルキーを使って、“入力終了”を選択し確定キーを押してください。

⑤全角区点コードモードでの入力

全ての文字をテンキーを使って区点コードで入力する方法です。漢字、ひらがな、カタカナ、英数字、記号を入力することができます。

※入力できる文字は全角文字に限ります。半角文字は入力できません。

※各文字の区点コードは、P9-7「付録4：区点コード表」を参照してください。

※文字と文字の間にスペースを入力するときは、ワンタッチキー19（スペース）を押すか、右カーソルキーを押してカーソルを次の文字入力位置に動かしてください。

※最初から入力しなおすときは、ストップ/クリアキーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。

【例】“大阪”と入力する場合

1

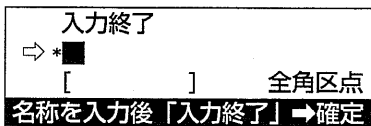
P9-7「付録4：区点コード表」を参照して、入力に必要な全ての文字の区点コード（4桁）をメモしてください。

この例で入力する“大”の区点コードは“3471”、“阪”の区点コードは“2669”となります。

※漢字を探すときは、音読みで探してください。

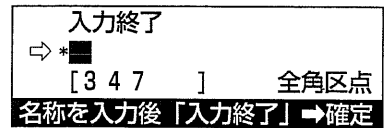
2

#キーを押すと、全角区点コードモードになります。



3

テンキーを使って“3 4 7”と入力してください。入力した区点コードの3桁目までが、メッセージ表示の3行目に入力されます。

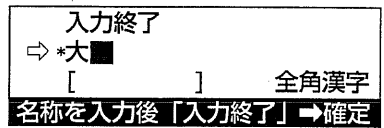


4

テンキーを使って“1”を入力してください。“大”の文字がメッセージ表示の2行目に入力されます。

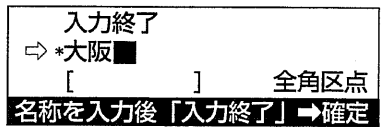
※区点コードの4桁目を入力すると、文字が表示されます。

※このとき左カーソルキーを押すと、カーソル位置は1文字分左へ戻ります。



5

手順3～4と同様にして、区点コード“2 6 6 9”を入力してください。“阪”の文字が“大”の後に続いて入力されます。



6

上カーソルキーを使って、“入力終了”を選択してください。※“入力終了”を選択後、確定キーを押すと文字の入力が終了します。

<参考>よく使う全角文字の区点コード一覧 (P9-7「付録4：区点コード表」より抜粋)

株 1984	式 2816	会 1881	社 2850	支 2757	店 3725	—	—
有 4513	限 2434	会 1881	社 2850	営 1736	業 2240	所 2974	—
研 2406	究 2170	所 2974	—	出 2948	張 3605	所 2974	—
工 2509	業 2240	—	—	総 3377	務 4419	部 4184	—
工 2509	場 3076	—	—	経 2348	理 4593	課 1861	—
商 3006	事 2786	—	—	企 2075	画 1872	室 2828	—
商 3006	店 3725	—	—	グ 0516	ル 0575	— 0118	ブ 0555
組 3340	合 2571	—	—	チ 0533	— 0118	△ 0564	—

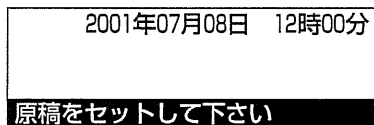
ワンタッチダイヤル

ワンタッチキーに相手先のファクス番号を登録しておくことで、ワンタッチダイヤルとして使うことができます。また、ワンタッチダイヤルは、暗号通信時の相手先指定にも使われます。

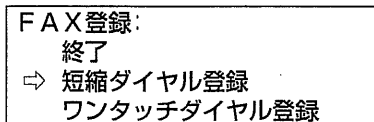
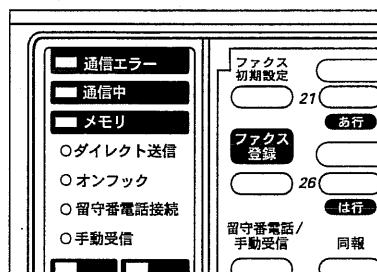
(1) 登録のしかた

- ※32個のワンタッチキー全てにワンタッチダイヤルを登録できます。
- ※登録時にFコードキーを押してサブアドレスを入力した場合、暗号通信に関する登録を行うことはできません。
- ※登録したワンタッチダイヤルの内容を確認するときは、ワンタッチダイヤルリストを出力してください。
- ※ワンタッチダイヤルの登録時には、ファクス番号だけでなく相手先名称も登録されることをおすすめします。相手先名称が登録されていると、電子電話帳機能を使って相手先を検索するときに役立ちます。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

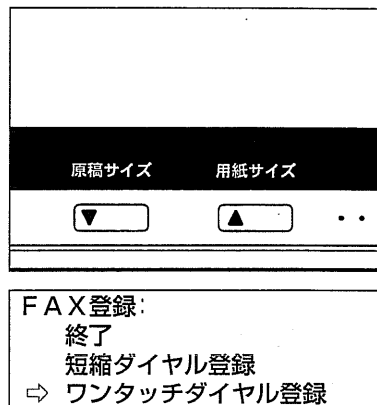
- 1** **ファクス初期モードの確認**
 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)
 ※機械がファクスモードでないときは、ファクス切替キーを押して、キーランプを点灯させてください。



- 2** **登録メニューに入る**
 カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



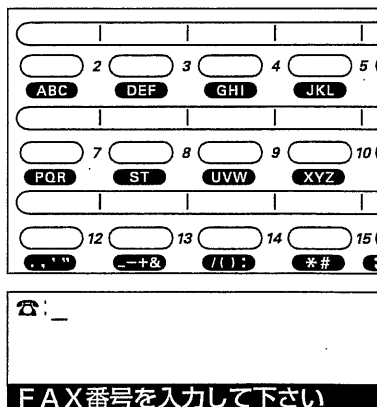
- 3** 上/下カーソルキーを押して、“ワンタッチダイヤル登録”を選択してください。



- 4** OKキーを押してください。



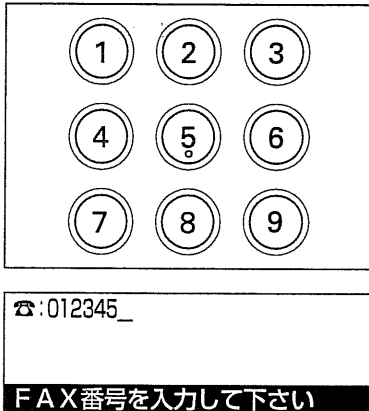
- 5** **ワンタッチキーの選択**
 未登録のワンタッチキーを押してください。



6

相手先番号の入力

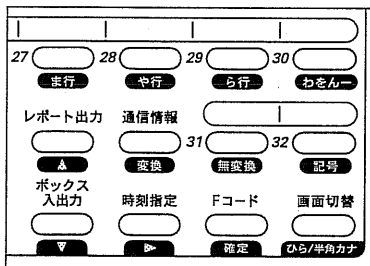
テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。
 ※相手先番号は最大32桁まで入力することができます。



7

Fコード通信の指定

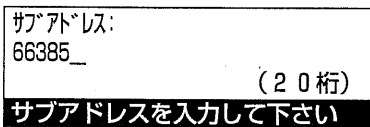
>Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押した後、次の手順8へ進んでください。
 >Fコード通信を行わないときは、手順11へ進んでください。



8

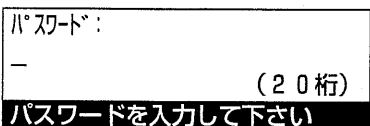
サブアドレスの入力

テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。
 ※サブアドレスはFコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックス (Fコードボックス) を指定するために必要です。
 0~9の数字を使って最大20桁までで入力してください。



9

OKキーを押してください。



10

Fコード通信パスワードの入力

Fコード通信パスワードは、Fコード通信を行うときに使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

>Fコード通信パスワードを入力するときは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。

>Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順11へ進んでください。

11

OKキーを押してください。

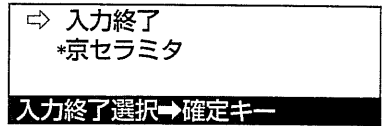


12

相手先名称の入力

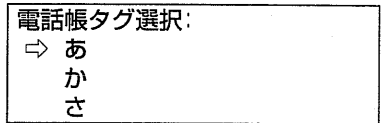
相手先名称を入力してください。

※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録することができます。(P1-28「文字の入力」参照)



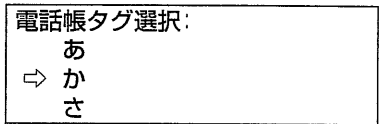
13

確定キーを押してください。



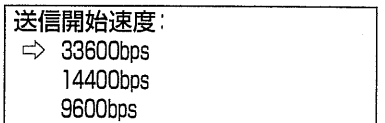
14

上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。



15

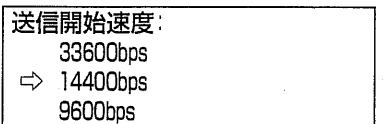
OKキーを押してください。



16

送信開始速度の選択

上/下カーソルキーを押して、送信開始速度を選択してください。
 ※33600bpsを選択して通信エラーが多発する場合は、14400bpsまたは9600bpsを選択してください。
 ただし、通信時間は長くなります。



17

>手順7でFコードキーを押し、Fコード通信の設定を行ったときは、P1-34の手順23へ進んでください。

>手順7でFコードキーを押していないときは、OKキーを押した後、P1-34の手順18へ進んでください。

18

暗号通信の指定

上/下カーソルキーを使って、現在登録中のワンタッチダイヤルを暗号通信用として登録するかどうかを選択してください。

暗号通信:
ON
⇨ *OFF

>暗号通信用として登録するときは“ON”を選択した後、次の手順19へ進んでください。

>暗号通信用として登録しないときは、“OFF”を選択した後、手順23へ進んでください。

19

OKキーを押してください。

暗号鍵番号:00
暗号鍵の番号を入力して下さい

20

使用する暗号鍵に対応する鍵番号を、テンキーを使って01～20までの2桁で入力してください。

暗号鍵番号:15
暗号鍵の番号を入力して下さい

21

OKキーを押してください。

BOX番号:0000
BOX番号を入力して下さい

22

受信側に設定されている暗号ボックスのボックス番号を入力してください。

BOX番号:1357
BOX番号を入力して下さい

23

OKキーを押してください。ワンタッチダイヤルの登録が終了します。

>引き続き別のワンタッチダイヤルの登録を行うときは、P1-32の手順5に戻ってください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 登録内容の変更と削除のしかた

※登録内容の変更時、Fコード通信の設定が“ON”のときは暗号通信に関する登録を行うことはできません。また、同様に暗号通信の設定が“ON”のときはFコード通信に関する登録を行うことができません。

1

P1-32「(1) 登録のしかた」の手順1～4の操作を行ってください。

ワンタッチ:_
ワンタッチキーを押して下さい

2

対象となるワンタッチダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

ワンタッチ:01
終了
⇨ ☎:012345
京セラミタ

3

>登録内容を変更するとき

①上/下カーソルキーを使って画面をスクロールさせ、変更したい内容を選択してください。

ワンタッチ:01
終了
☎:012345
⇨ 京セラミタ

②OKキーを押してください。

※個々の内容の変更手順については、P1-32「(1) 登録のしかた」を参照し操作を行ってください。

入力終了
⇨ ☎京セラミタ
[] 全角漢字
名称を入力後「入力終了」→確定

>ワンタッチダイヤルを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。

ワンタッチ:01
削除します
OKキーを押して下さい

②OKキーを押してください。

ワンタッチ:01
削除しました

4

登録内容の変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(3) 使いかた

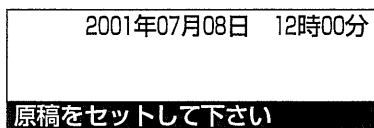
あらかじめ登録されたワンタッチダイヤルを使って相手先にダイヤルすることができます。

1

ファクス初期モードの確認

機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)

※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

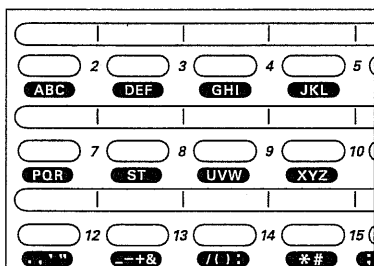


2

原稿をセットして、使いたいワンタッチダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

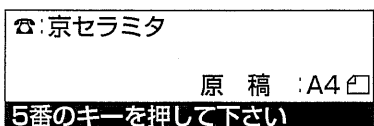
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択操作を行う必要があります。

(P1-23参照)



※機械は送信のための動作を開始します。スタートキーを押す必要はありません。

※ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示される場合は、P6-10「ダイヤル確認設定」が「ON」になっています。



相手先名などの登録内容を確認して、下に表示されている数字をテンキーで入力してください。ダイヤルを開始します。

(4) ワンタッチダイヤルリストの出力

ワンタッチダイヤルに登録されているファクス番号は、ワンタッチダイヤルリストを出力することによって確認できます。

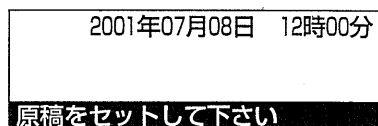
※ワンタッチダイヤルが全く登録されていない場合、ワンタッチダイヤルリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

ファクス初期モードの確認

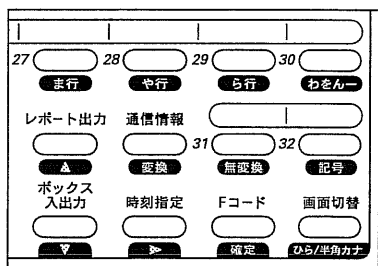
機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。



2

レポート出力メニューに入る

カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



レポート出力:
⇒ 通信管理レポート
通信予約確認レポート
ユーザー設定リスト

3

上/下カーソルキーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。

レポート出力:
FコードBOXリスト ▶
暗号BOXリスト
⇒ ダイヤル登録情報リスト ▶

4

OKキーを押してください。

ダイヤル登録情報リスト出力:
⇒ 短縮ダイヤルリスト
ワンタッチダイヤルリスト
電子電話帳リスト

5

上/下カーソルキーを押して「ワンタッチダイヤルリスト」を選択し、OKキーを押してください。ワンタッチダイヤルリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※ワンタッチダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

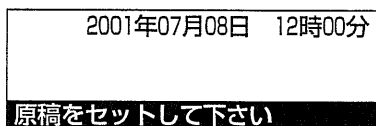
短縮ダイヤル

相手先のファクス番号と一緒に2桁の短縮番号を登録しておく、短縮ダイヤルとして使うことができます。また、短縮ダイヤルは、暗号通信時の相手先指定にも使われます。

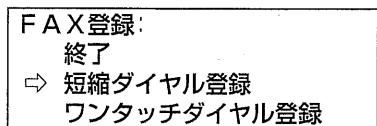
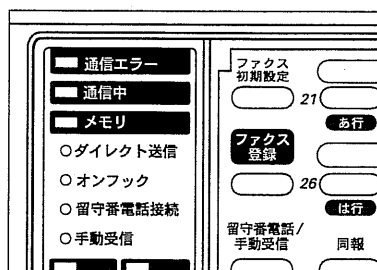
(1) 登録のしかた

- ※短縮ダイヤルは最大100個(00~99)まで登録できます。
- ※登録時にFコードキーを押してサブアドレスを入力した場合、暗号通信に関する登録を行うことはできません。
- ※登録した短縮ダイヤルの内容を確認するときは、短縮ダイヤルリストを出力してください。
- ※短縮ダイヤルの登録時には、ファクス番号だけでなく相手先名称も登録されることをおすすめします。相手先名称が登録されていると、電子電話帳機能を使って相手先を検索するときに役立ちます。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

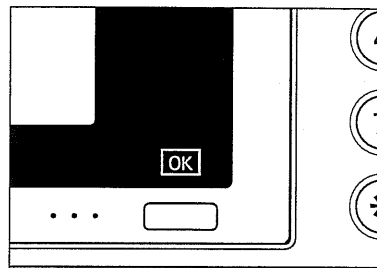
- 1** **ファクス初期モードの確認**
 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)
 ※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。



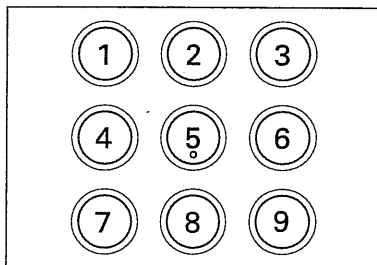
- 2** **登録メニューに入る**
 カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



- 3** メッセージ表示で“短縮ダイヤル登録”が選択されていることを確認し、OKキーを押してください。



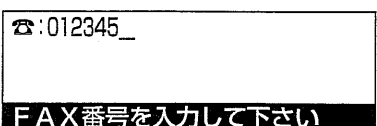
- 4** **短縮番号の入力**
 テンキーを使って、登録したい短縮番号を2桁(00~99)で入力してください。



- 5** OKキーを押してください。

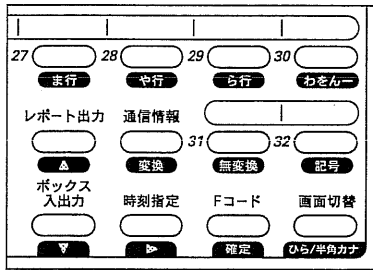


- 6** **相手先番号の入力**
 テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。
 ※相手先番号は最大32桁まで入力することができます。



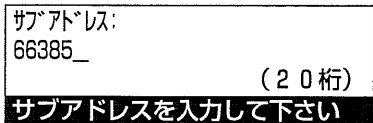
7 Fコード通信の指定

>Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押した後、次の手順8へ進んでください。
>Fコード通信を行わないときは、手順11へ進んでください。



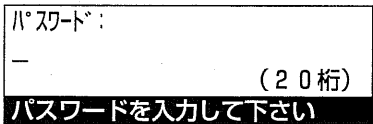
8 サブアドレスの入力

テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。
※サブアドレスはFコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックス (Fコードボックス) を指定するために必要です。0~9の数字を使って最大20桁までで入力してください。



OKキーを押してください。

9



10 Fコード通信パスワードの入力

Fコード通信パスワードは、Fコード通信を行うときに使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
>Fコード通信パスワードを入力するときは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。
>Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順11へ進んでください。

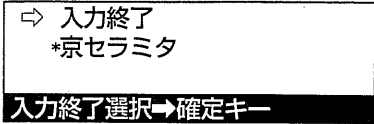
OKキーを押してください。

11



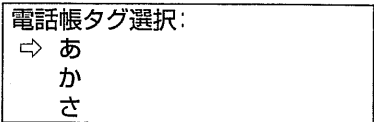
12 相手先名称の入力

相手先名称を入力してください。
※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録することができます。(P1-28「文字の入力」参照)



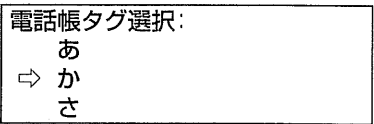
確定キーを押してください。

13



上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。

14



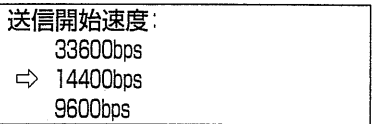
OKキーを押してください。

15



16 送信開始速度の選択

上/下カーソルキーを押して、送信開始速度を選択してください。
※33600bpsを選択して通信エラーが多発する場合は、14400bpsまたは9600bpsを選択してください。ただし、通信時間は長くなります。



>手順7でFコードキーを押し、Fコード通信の設定を行ったときは、P1-38の手順23へ進んでください。

>手順7でFコードキーを押していないときは、OKキーを押した後、P1-38の手順18へ進んでください。

17

18

暗号通信の指定

上/下カーソルキーを使って、現在登録中の短縮ダイヤルを暗号通信用として登録するかどうかを選択してください。

暗号通信:
ON
⇒ *OFF

- >暗号通信用として登録するときは、“ON”を選択した後、次の手順19へ進んでください。
- >暗号通信用として登録しないときは、“OFF”を選択した後、手順23へ進んでください。

19

OKキーを押してください。

暗号鍵番号:00
暗号鍵の番号を入力して下さい

20

使用する暗号鍵に対応する鍵番号を、テンキーを使って01～20までの2桁で入力してください。

暗号鍵番号:18
暗号鍵の番号を入力して下さい

21

OKキーを押してください。

BOX番号:0000
BOX番号を入力して下さい

22

受信側に設定されている暗号ボックスのボックス番号を入力してください。

BOX番号:2468
BOX番号を入力して下さい

23

- OKキーを押してください。短縮ダイヤルの登録が終了します。
- >引き続き別の短縮ダイヤルの登録を行うときは、P1-36の手順4に戻ってください。
- >これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 登録内容の変更と削除のしかた

※登録内容の変更時、Fコード通信の設定が“ON”のときは暗号通信に関する登録を行うことはできません。また、同様に暗号通信の設定が“ON”のときはFコード通信に関する登録を行うことができません。

1

P1-36「(1) 登録のしかた」の手順1～3の操作を行ってください。

短縮:_
短縮番号を入力して下さい

2

対象となる短縮ダイヤルの短縮番号(2桁)を入力し、OKキーを押してください。

短縮:05
短縮番号を入力して下さい

3

>登録内容を変更するとき

①上/下カーソルキーを使って画面をスクロールさせ、変更したい内容を選択してください。

短縮:057
終了
☎:012345
⇒ 京セラミタ

②OKキーを押してください。

※個々の内容の変更手順については、P1-36「(1) 登録のしかた」を参照し操作を行ってください。

入力終了
⇒ *京セラミタ
[] 全角漢字
名称を入力後「入力終了」⇒確定

>短縮ダイヤルを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。

短縮:057
削除します
OKキーを押して下さい

②OKキーを押してください。

短縮:057
削除しました

4

登録内容の変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

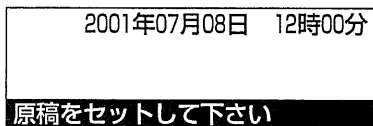
(3) 使いかた

あらかじめ登録された短縮番号(2桁)を使って相手先にダイヤルすることができます。

1

ファクス初期モードの確認

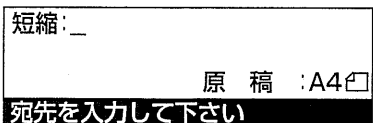
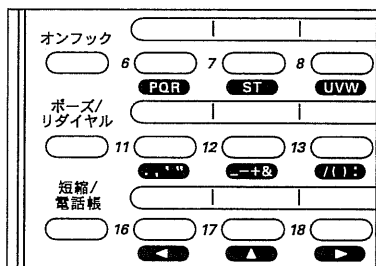
機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。(P1-12「(2) 初期モードについて」参照)
 ※機械がファクスモードでないときは、コピー/ファクス切替キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。



2

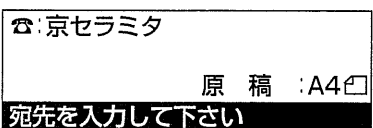
短縮番号の入力

原稿をセットして、短縮/電話帳キーを押してください。
 ※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごと読み込みの継続の選択操作を行う必要があります。(P1-23参照)



3

テンキーを使って、相手先を登録している短縮番号を(2桁)で入力してください。



※機械は送信のための動作を開始します。スタートキーを押す必要はありません。

※入力された短縮番号に何も登録されていない場合は、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

(4) 短縮ダイヤルリストの出力

短縮ダイヤルに登録されているファクス番号は、短縮ダイヤルリストを出力することによって確認できます。

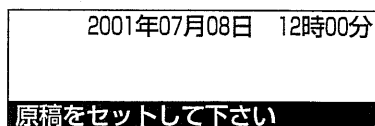
※短縮ダイヤルが全く登録されていない場合、短縮ダイヤルリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

ファクス初期モードの確認

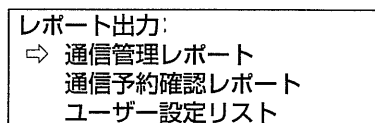
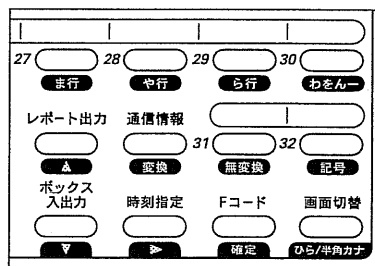
機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。



2

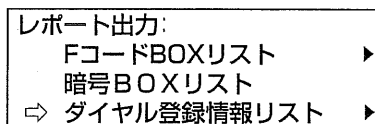
レポート出力メニューに入る

カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



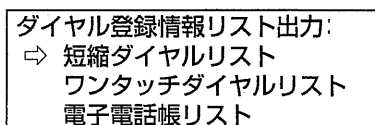
3

上/下カーソルキーを押して“ダイヤル登録情報リスト”を選択してください。



4

OKキーを押してください。



5

“短縮ダイヤルリスト”が選択されていることを確認した後、もう一度OKキーを押してください。短縮ダイヤルリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※短縮ダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

電子電話帳

短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルに登録している相手先の名前を検索し、その検索した相手先にすぐにダイヤルできる機能です。

電子電話帳では、グループダイヤル、プログラムダイヤルも検索することができます。登録している相手先が多い場合などは非常に役立ちます。

※相手先番号の登録時（プログラムダイヤル/グループダイヤル/メモリー転送）や各種機能通信の相手先番号入力にも電子電話帳を使用することができます。

※短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤルの登録時に、名称（相手先名称/グループ名称/プログラム名称）を登録しておくことをお勧めします。名称を登録していない場合は、相手先のファクス番号が表示されます。

<電話帳タグ>

電子電話帳機能では、相手先を探しやすくするために、ダイヤル登録時に電話帳タグ（見出し）を登録し、そのタグを使って検索を行います。電話帳タグは、“かな”と“数字”の2種類のうちのどちらかを選ぶことができます。（P6-9、「電話帳タグ設定」参照）

かな：あ、か、さ、た、な、は、ま、や、らわ、英数字

数字：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9

<検索ルール>

検索は、選択したタグ内において、まず短縮番号の若い順に表示され、その後ワンタッチキーの番号の若い順に表示されます。

(1) 検索方法

ここでは例として、“かな”の電話帳タグが設定されている場合の検索方法を説明しています。

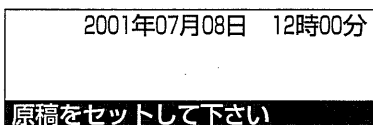
[例] “京セラミタ”を検索する場合

1

ファクス初期モードの確認

機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（P1-12「(2) 初期モードについて」参照）

※機械がファクスモードでないときは、ファクス切替キーを押して、キールンプを点灯させてください。

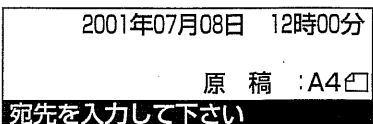
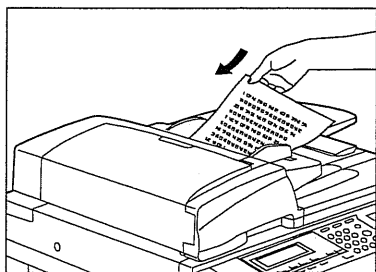


2

送信するときは原稿をセットしてください。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択操作を行う必要があります。

（P1-23参照）

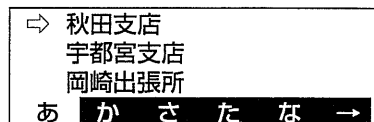
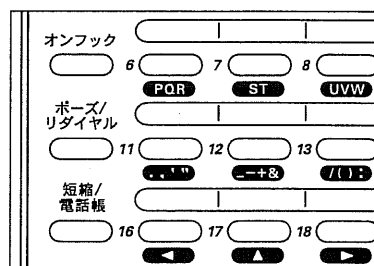


3

短縮/電話帳キーを2回押してください。

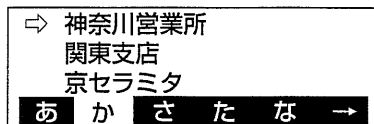
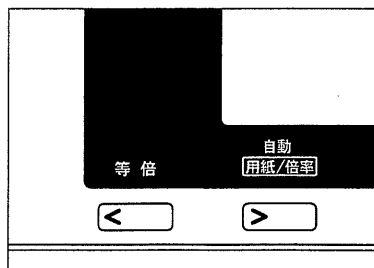
※ダイヤル登録時の電話帳タグ選択で“あ”を選んで登録した相手先がメッセージ表示の上の行から順に表示されます。

※相手先の名称を登録しなかったときは、相手先の番号が表示されます。



4

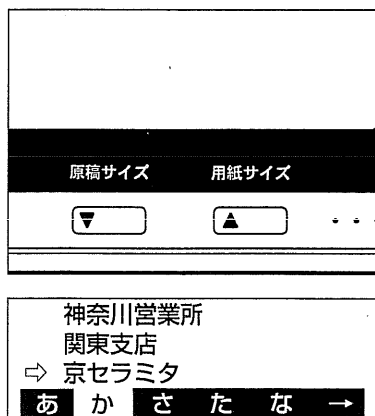
右/左カーソルキーを押して、電話帳タグの“か”を選択してください。



※ダイヤル登録時の電話帳タグ選択で“か”を選んで登録した相手先がメッセージ表示の上の行から順に表示されます。※属する相手が無もない電話帳タグについては、エラーメッセージが表示されます。

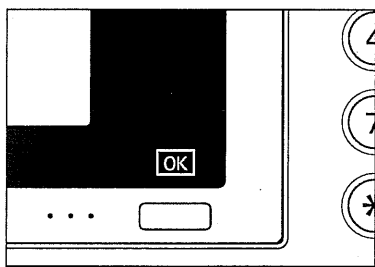
5

上/下カーソルキーを押して、“京セラミタ” を選択してください。



6

OKキーを押してください。選択した相手先へのダイヤルが行われます。



※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

(2) 電子電話帳リストの出力

電子電話帳機能で検索できる相手先は電子電話帳リストを出力すれば確認できます。

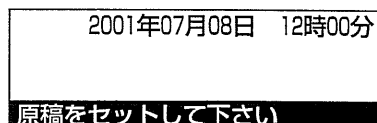
※検索できる相手先がない場合、電子電話帳リストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1

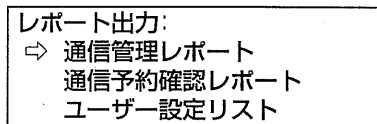
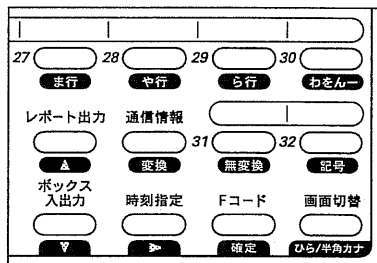
ファクス初期モードの確認

機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。



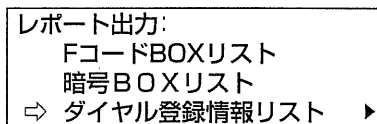
2

カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



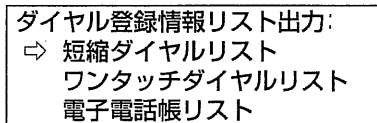
3

上/下カーソルキーを押してメニュー画面をスクロールさせ、“ダイヤル登録情報リスト” を選択してください。



4

OKキーを押してください。



5

上/下カーソルキーを押して“電子電話帳リスト” を選択し、OKキーを押してください。電子電話帳リストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※検索できる相手先が全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

リダイヤル

リダイヤルは、直前にダイヤルした相手先の番号をもう一度ダイヤルする機能です。

(1) 自動リダイヤル

原稿を送信しようとしても、相手先がすでに通信中で応答しないときもあります。そんなときに機械が再び自動でダイヤルを行ってくれる機能です。

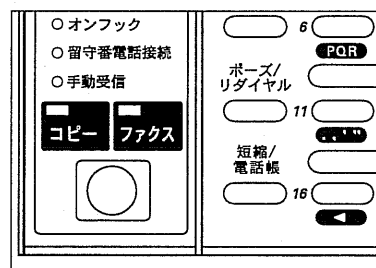
※機械が自動で行うため、何ら操作の必要はありません。自動リダイヤルは一定の間隔をあけて数回行われますので、相手先の通信が長引いた場合でも安心です。

※ダイレクト送信時は、自動リダイヤルは行われません。

(2) 手動リダイヤル

送信を試みたが、相手先が応答しない。そんなときにポーズ/リダイヤルキーを押すと、直前にダイヤルした相手先の番号を、機械がもう一度ダイヤルする機能です。

1 ポーズ/リダイヤルキーを押してください。機械がもう一度ダイヤルを行います。



第2章

ファクスの操作方法（活用編）

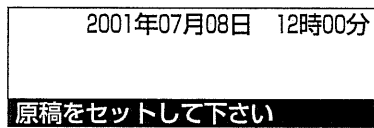
両面送信

両面原稿の表と裏の両方の原稿を送信することができる機能です。両面送信は、DFから原稿読み込みを行う全てのメモリ送信で行うことができ、各種機能通信と組み合わせることも可能です。ここでは、1宛先に両面原稿を送信する方法をご紹介します。

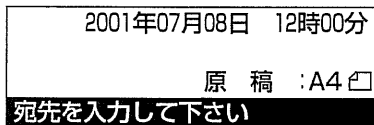
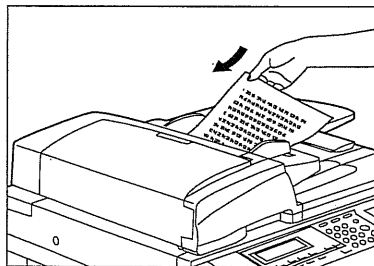
- ※この機能は両面原稿用DFが設置された20枚機でのみ使用できます。
- ※両面送信を行うためには、事前にDF読込設定で“定形原稿”を選択しておく必要があります。“長尺原稿”に設定されているときは、両面送信を行うことができません。(P6-6「DF読込設定」参照)

- ※操作途中で一度でも両面送信キーを押すと、短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルのオートスタート機能は動かなくなります。
- ※開始時刻を指定するときは、相手先ファクス番号の入力終了までに時刻指定キーを押してください。

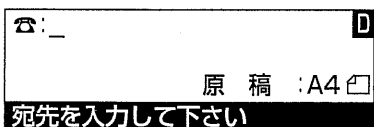
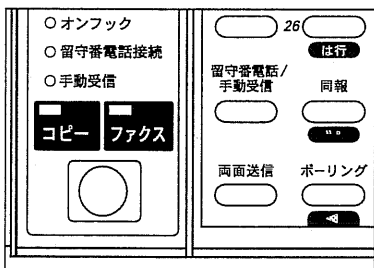
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. 両面原稿をDFにセットしてください。

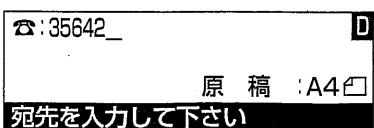


2. カバープレートを開き、両面送信キーを押してください。
※もう一度両面送信キーを押すと、両面送信は解除されます。

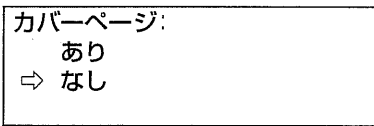


3. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。

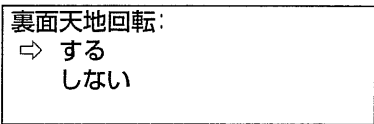


4. OKキーを押してください。

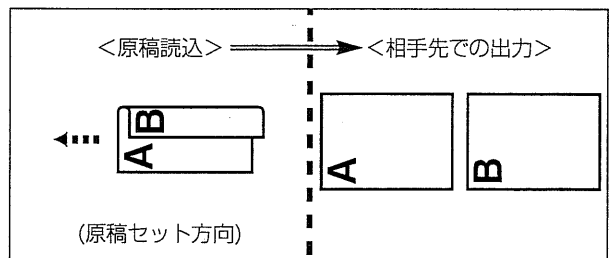


5. カバーページの有無を上/下カーソルキーで選択してください。
>両面原稿の先頭に片面印字された送り状などを添付して送信するときは、“あり”を選択してください。機械は、原稿1枚目の片面(裏面)は読み込まずに送信を行います。
>両面原稿だけを送るときは、“なし”を選択してください。

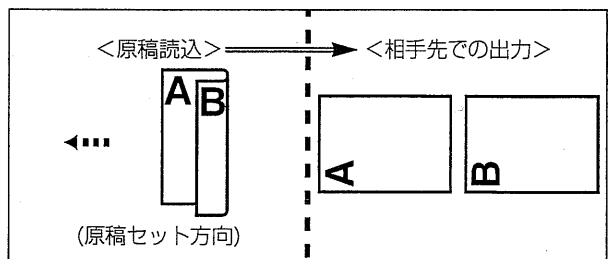
6. OKキーを押してください。



7. 原稿裏面を天地反転して読み込むかどうかを上/下カーソルキーで選択してください。
>原稿を文字に対して垂直に読み込むときは、“する”を選択してください。機械は、読み込み時にメモリ内で原稿の裏面を反時計回りに180度回転します。



>原稿を文字に対して水平に読み込むときは、“しない”を選択してください。



8. OKキーを押してください。機械はいったん原稿をメモリに読み込み、送信のための動作を開始します。

送信予約

送信予約とは、機械が通信中であるときに次の送信を予約することです。通信中に原稿をセットして相手先のファクス番号を入力しておく、その通信が終われば自動的に送信が開始されます。

※時刻指定をした通信や割り込み通信と合わせて最大50件まで予約することができます。

※順次同報送信などの機能通信を予約することもできます。

※ダイレクト送信時に送信予約を解除する場合は、DFまたはコンタクトガラス上からセットされた原稿を取り除いてください。

※このとき、機械は裏動作で通信中です。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. DFまたはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。

2001年07月08日 12時00分

原稿 : A4 □

宛先を入力して下さい

2. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。

☎: 3323 _

原稿 : A4 □

スタートキーを押して下さい

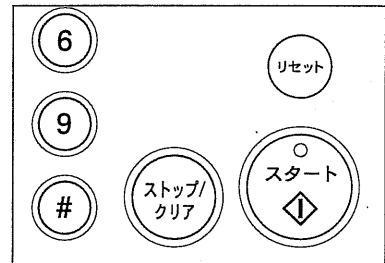
3. スタートキーを押してください。セットした原稿がメモリに読み込まれます。

※ダイレクト送信モード時は、セットされた原稿はDFまたはコンタクトガラス上で待機状態となります。

通信が終了すると、機械は送信のための動作を開始します。

●ダイレクト送信予約中にストップ/クリアキーを押したとき…

ダイレクト送信モードで送信予約が行われたときにストップ/クリアキーを押すと、送信予約をキャンセルするかどうかの選択を促すメッセージが表示されます。



通信を続行する:

⇒ はい
いいえ

①送信予約をキャンセルするかどうかを上/下カーソルキーを使って選択してください。

>送信予約をそのまま継続するときは、“はい”を選択してください。

>送信予約はキャンセルするときは、“いいえ”を選択してください。

②OKキーを押してください。

※OKキーを押さずに放置したときは、一定時間経過後に送信予約は自動的にキャンセルされます。

順次同報送信

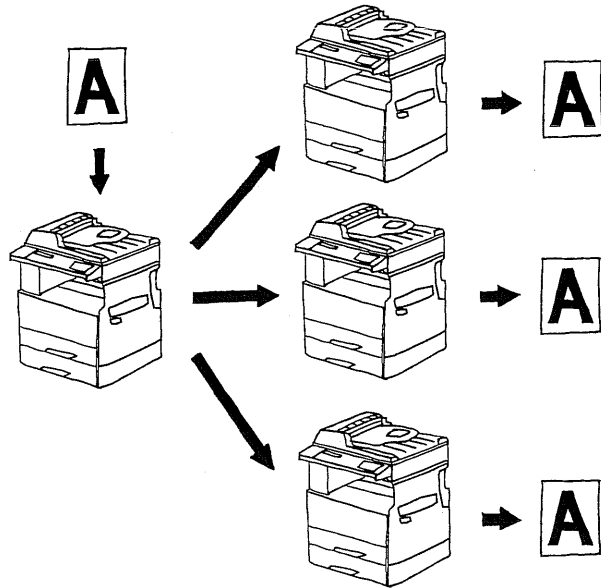
一度の操作で同じ原稿を順次何カ所もの相手先に送ることができる機能です。本社から複数の支店に同じ原稿を送る場合など、この機能を使うと操作が一回で済むので非常に便利です。

機械は送信する原稿をいったんメモリに蓄積（記憶）し、その後で指定された相手先のみ自動的にダイヤルと送信を繰り返して行います。

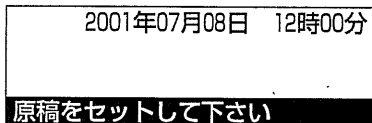
※原稿を送信する複数の相手先番号の全てを、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかによって入力する場合は、1回の操作で最大132ヶ所の相手先に送信することができます。

※順次同報送信時は、ダイレクト送信モードが設定されている場合でもメモリ送信で送信が行われます。

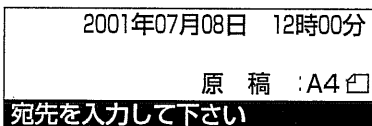
※両面原稿を送信するときは、全ての相手先番号の入力を終了するまでに両面送信キーを押してください。



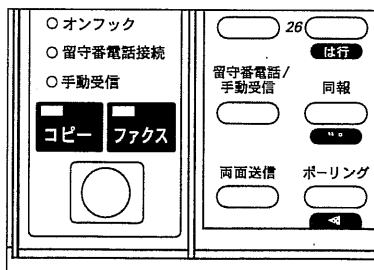
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



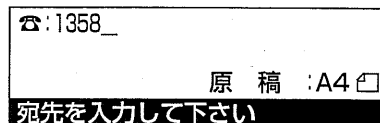
- DFまたはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P1-23参照)



- カバープレートを開き、同報キーを押してください。



- 相手先のファクス番号を入力してください。
※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。



●相手先とFコード通信を行うときは…

- ※相手先とFコード通信を行う場合、相手先ファクス番号が同じであっても、指定したFコードボックスが違えば、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- ※すでに入力した同じ相手先（Fコード通信は指定していない）があるときでも、Fコード通信を指定した場合は異なる相手先とみなされ、その相手先番号の入力が可能となります。ただし、相手先番号の入力は両方ともテンキーで行う必要があります。
- ※すでにテンキーで入力した同じ相手先（Fコード通信を指定した）があるときでも、その同じ相手先番号を登録したFコード通信用のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使う場合は異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- ※同一のファクス番号が登録された短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルを使ってそれぞれ入力を行うときは、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

4. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。
 >Fコードキーを押したときは、次の手順5へ進んでください。
 >Fコードキーを押さないときは、手順8へ進んでください。
5. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。
 ※サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス:
 66385_ (20桁)
サブアドレスを入力して下さい

6. OKキーを押してください。

パスワード:
 _ (20桁)
パスワードを入力して下さい

7. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。
 ※Fコード通信パスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
 ※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順8へ進んでください。

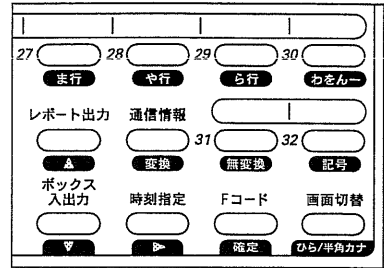
パスワード:
 38566_ (20桁)
パスワードを入力して下さい

8. OKキーを押してください。
 ※入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多い場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

☎: _
相手先名称を入力して下さい

9. 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。
 >まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、P2-4の手順3に戻ってください。
 >相手先の入力が全て終わったときは、次の手順10へ進んでください。

10. 開始時刻を指定したい場合は、時刻指定キーを押してください。
 ※通信予約限度(最大50件まで)に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。
 ※開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。手順13へ進んでください。



11. OKキーを押してください。

通信時刻: 12:00
通信時刻を入力して下さい

12. テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。
 ※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。

通信時刻: 20:00
通信時刻を入力して下さい

13. OKキーを押してください。機械は原稿をメモリに読み込み、送信のための動作を開始します。
 ※開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。

割込送信

複数の相手先と順次連続した通信（同報送信やポーリング受信など）が行われているときや、既にメモリに送信予約された原稿があるときでも、手持ちの原稿を割り込ませて先に送信させることができます。

※割込送信は、1宛先に送信する場合にのみ可能です。

※送信予約や時刻指定された通信などがすでに50件分ある場合、割込送信を行うことはできません。

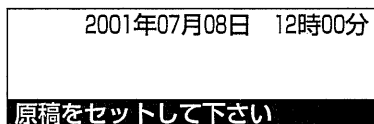
※割込操作のタイミングによっては、現在行われている送信のすぐ後に割り込めない場合があります。

※割込送信を中止する場合は、セットした原稿を取り除いてください。

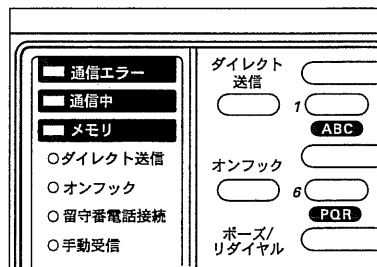
※割込送信の待機中にストップ/クリアキーを押したときは、P2-3「●ダイレクト送信予約中にストップ/クリアキーを押したとき…」を参照して操作を行ってください。

※このとき、機械は裏動作で通信中です。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. ダイレクト送信キーを押してください。

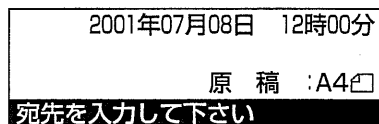


※ダイレクト送信表示が点灯し、ダイレクト送信モードが設定されます。

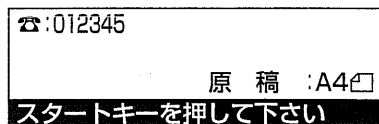


2. DFまたはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。

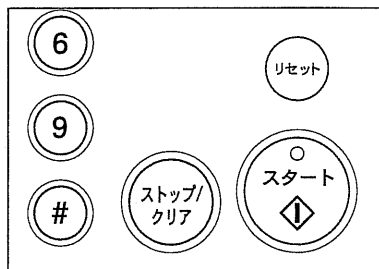
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P1-23参照)



3. 相手先のファクス番号を入力してください。



4. スタートキーを押してください。原稿はメモリには読み込まれず、そのままの状態で待機中となります。そして現在行われている通信が終了すれば、機械は送信を開始します。



チェーンダイヤル

チェーンダイヤルとは、ワンタッチキーに登録済みの番号（チェーン番号）を相手先のファクス番号の前につなげてダイヤルする機能です。

※チェーンダイヤルは、相手先番号入力時の先頭で一度だけ使用できます。

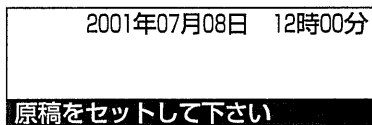
※チェーンダイヤルは順次同報送信などの各種機能通信の相手先番号入力にも使用できます。

※チェーンダイヤルとグループダイヤルは併用できません。

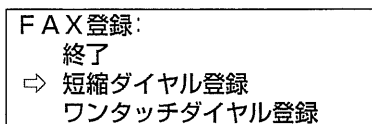
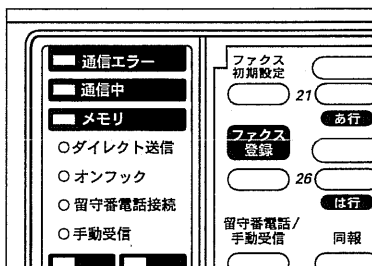
(1) 登録のしかた

※32個のワンタッチキーの全てにチェーンダイヤルを登録することができます。

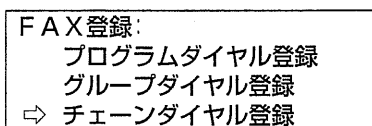
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



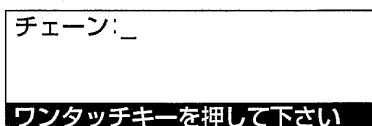
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



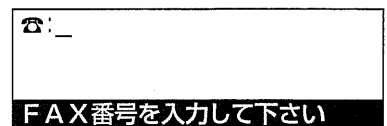
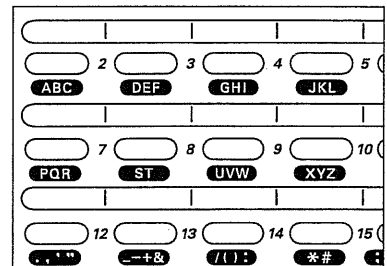
2. 上/下カーソルキーを押して“チェーンダイヤル登録”を選択してください。



3. OKキーを押してください。

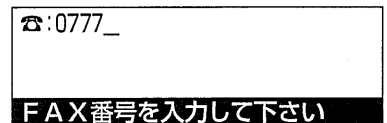


4. 未登録のワンタッチキーを押してください。

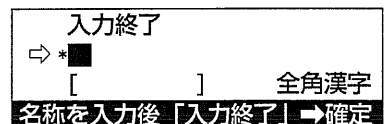


5. テンキーを使って、チェーン番号として登録する番号を入力してください。

※チェーンダイヤル番号は最大32桁まで入力することができます。

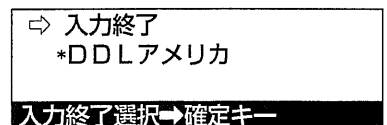


6. OKキーを押してください。



7. チェーン名称を入力してください。

※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録することができます。(P1-28「文字の入力」参照)



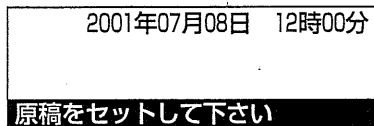
8. 確定キーを押してください。チェーンダイヤルの登録が終了します。

>引き続き別のチェーンダイヤルの登録を行うときは、手順4~8を繰り返してください。

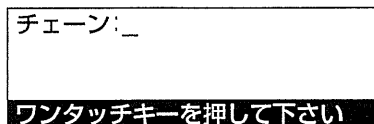
>登録が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 登録内容の変更と削除のしかた

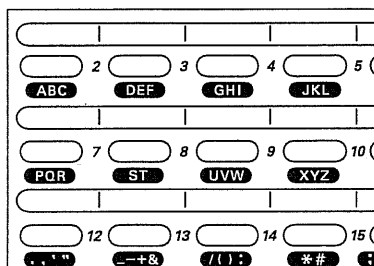
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. P2-7 「(1) 登録のしかた」の手順1~3の操作を行ってください。



2. 対象となるチェーンダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

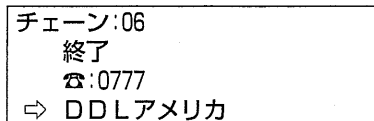


3. 「登録内容を変更するとき」、「チェーンダイヤルを削除するとき」それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

上/下カーソルキーを使って変更したい内容を選択し、OKキーを押してください。

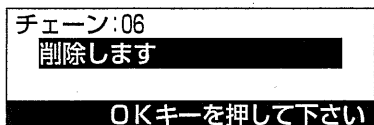
※個々の内容の変更手順については、P2-7 「(1) 登録のしかた」を参考にして操作を行ってください。



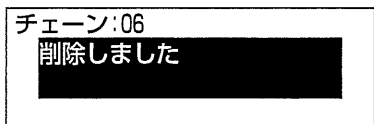
>チェーンダイヤルを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。



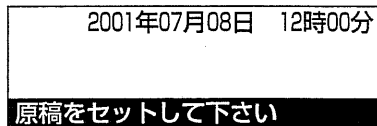
②OKキーを押してください。



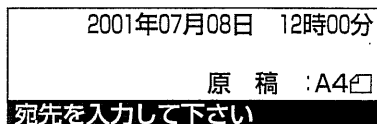
4. 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(3) 使いかた

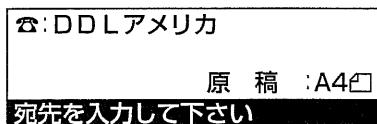
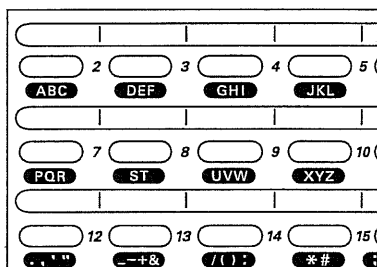
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. 原稿を送信するときは、原稿をセットしてください。

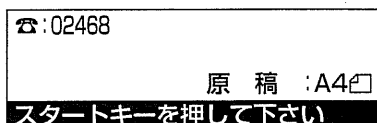


2. 使いたいチェーンダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



3. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、または電子電話帳機能を使用することもできます。



※番号を入力すると、メッセージ表示に表示されていたチェーンダイヤル番号またはチェーン名称は消え、後から入力した番号や名称だけが表示されます。

※入力途中にストップ/クリアキーを押すと、番号を最初から入力しなおすことができます。

4. スタートキーを押してください。機械は通信のための動作を開始します。

時刻指定通信

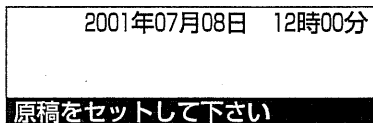
通信を開始する時刻をあらかじめセットしておく、指定の時刻がくれば機械が自動的に通信を行う機能です。時刻指定通信は、順次同報送信などの各種機能通信とも併用することができます。ここでは、1宛先に開始時刻を指定して原稿を送信する方法をご紹介します。

- ※開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信モードが設定されている場合でも、送信はメモリ送信で行われます。
- ※時刻の指定は、00:00~23:59までの1分単位で行うことができます。

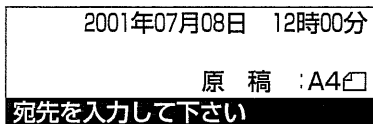
※送信予約、割り込み通信と合わせて最大50件まで時刻指定通信を行うことができます。

- ※指定時刻が同じ通信予約が2つ以上ある場合、原則的には予約が行われたもの順に通信が開始されますが、予約順が逆でも、単一相手先への通信は複数相手先への通信よりも優先して先に行われます。
- ※待機通信のキャンセルや予約した内容の変更を行うことができます。(P2-10「メモリ編集」参照)

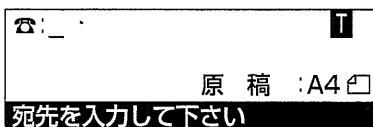
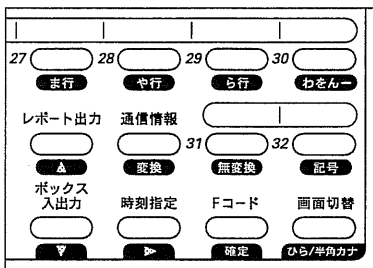
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



- DFまたはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P1-23参照)



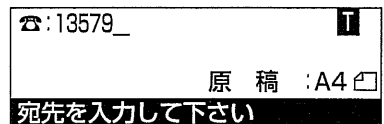
- カバープレートを開き、時刻指定キーを押してください。



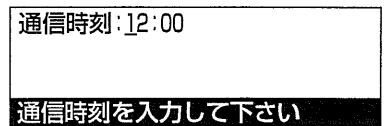
※メッセージ表示の1行目に、時刻指定通信であることを示す“T”の文字が表示されます。

※すでに通信予約限度(50件まで)に達している場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

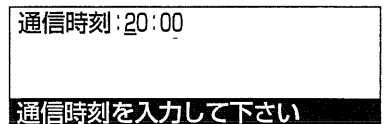
- 相手先のファクス番号を入力してください。
※相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。



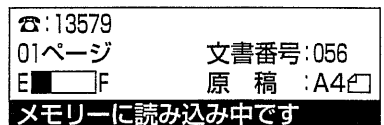
- OKキーまたはスタートキーを押してください。



- テンキーを使って通信を開始したい時刻を入力してください。
※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。



- OKキーを押してください。機械は原稿をメモリへ読み込み、指定時刻になると送信を開始します。



※タイマー予約レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合は、タイマー予約レポートが出力されます。(P6-2参照)

メモリ編集

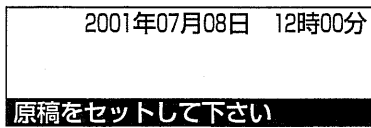
メモリ内で待機中の予約通信に関して、予約内容の変更や予約された通信のキャンセルを行うことができます。また、その他にも送信待ちの原稿イメージを出力させたり、予約時刻を待たずに通信をすぐに開始させたりすることなどもできます。

(1) 内容印字機能

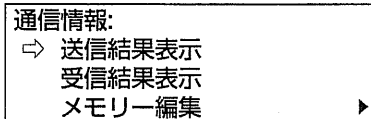
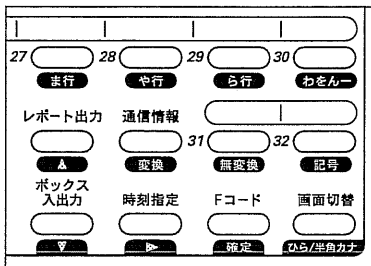
メモリ内で待機中の送信原稿を確認したいとき、その原稿を出力させることができます。

※原稿イメージを出力させても送信は予定どおり行われます。

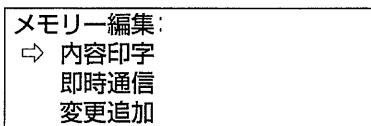
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、通信情報キーを押してください。メッセージ表示に通信情報メニュー画面が表示されます。

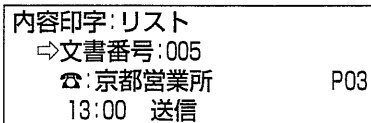


2. 上/下カーソルキーを使って“メモリー編集”を選択し、OKキーを押してください。

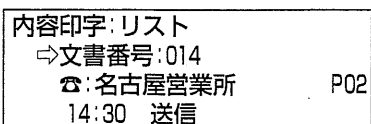


3. 上/下カーソルキーを使って“内容印字”を選択し、OKキーを押してください。

※メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリー編集メニュー画面に戻ります。



4. 上/下カーソルキーを使って、出力したい原稿を選択してください。



5. OKキーを押してください。メモリ内で送信待機中の原稿イメージが出力されます。

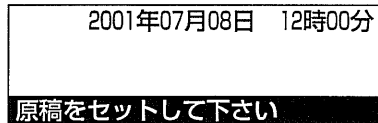
(2) 即時通信機能

メモリ内で待機中の予約通信を、予約時刻を待たずにすぐに開始させることができます。

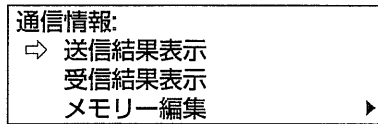
※即時通信は他のどの通信よりも優先して先に行われます。

※リダイヤル待機中の原稿を即時送信させることもできます。

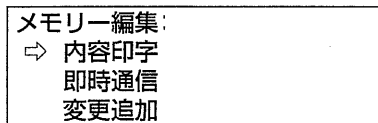
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、通信情報キーを押してください。メッセージ表示に通信情報メニュー画面が表示されます。

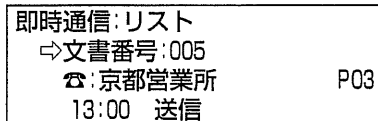


2. 上/下カーソルキーを使って“メモリー編集”を選択し、OKキーを押してください。

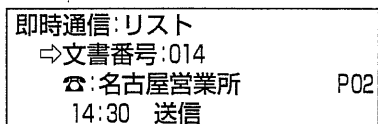


3. 上/下カーソルキーを使って“即時通信”を選択し、OKキーを押してください。

※メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリー編集メニュー画面に戻ります。



4. 上/下カーソルキーを使って、即時通信したい文書番号を選択してください。



5. OKキーを押してください。機械はすぐに通信のための動作を開始します。

(3) 内容変更機能

メモリ内に保持 (記憶) されている予約通信の内容について、変更や追加及び削除を行うことができます。変更方法は、送受信の各機能通信を利用する場合などによって異なります。

ここでは、順次同報送信の場合を例にあげて説明を行います。その他の機能通信の予約内容を変更する場合は、下記の操作説明を参考にしながら、メッセージ表示の指示にしたがって行ってください。

※親展ボックス内にある原稿や代行受信した原稿を消去することはできません。

※ポーリング送信やリダイヤル待機中の通信については、内容の変更を行うことはできません。

<相手先番号の入力方法>

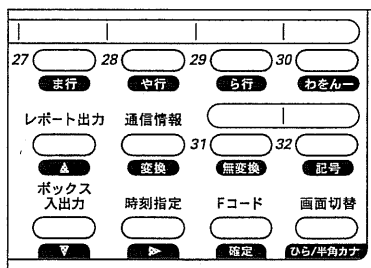
※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、通信情報キーを押してください。メッセージ表示に通信情報メニュー画面が表示されます。



通信情報:
⇒ 送信結果表示
受信結果表示
メモリー編集 ▶

2. 上/下カーソルキーを使って“メモリー編集”を選択し、OKキーを押してください。

メモリー編集:
⇒ 内容印字
即時通信
変更追加

3. 上/下カーソルキーを使って“変更追加”を選択し、OKキーを押してください。

※メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリー編集メニュー画面に戻ります。

変更追加:リスト
⇒文書番号:005
☎:京都営業所 P03
13:00 送信

●予約通信の選択

4. 上/下カーソルキーを使って、変更したい予約通信を選択してください。

変更追加:リスト
⇒文書番号:023 P01
☎:金沢支店
18:00 同報

5. OKキーを押してください。メッセージ表示には変更可能な項目が表示されます。

同報変更追加:
終了
⇒ 同報リスト ▶
通信時刻 :18:00

●通信時刻の変更

6. 通信時刻を変更するときは、上/下カーソルキーを使って“通信時刻”を選択し、OKキーを押してください。

※通信時刻を変更しないときは、この操作は必要ありません。P2-12の手順9へ進んでください。

通信時刻:18:00
通信時刻を入力して下さい

7. テンキーを使って、変更したい時刻を入力してください。

※このときストップ/クリアキーを押すと、時刻表示はクリアされ“00:00”となります。

通信時刻:20:30
通信時刻を入力して下さい

8. OKキーを押してください。新たに入力した時刻が設定されます。※ここで操作を終了する場合は、P2-13の手順38へ進んでください。

同報変更追加:
終了
⇒ 同報リスト ▶
通信時刻 :20:30

●相手先の追加

9. 上/下カーソルキーを使って“同報リスト”を選択し、OKキーを押してください。

同報リスト:
終了
⇨ 相手先追加
変更/削除

10. 相手先を追加するときは、上/下カーソルキーを使って“相手先追加”を選択してください。

※相手先を追加しないときは、手順19へ進んでください。

同報リスト:
終了
⇨ 相手先追加
変更/削除

11. OKキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

12. 追加したい相手先のファクス番号を入力してください。

☎: 3368742_
FAX番号を入力して下さい

13. Fコード通信を行うときはFコードキーを押してください。行わないときは手順16へ進んでください。

27	28	29	30
ま行	や行	ら行	わをんー
レポート出力	通信情報		
		31	32
ボックス 入出力	変換	無変換	記号
	時刻指定	Fコード	画面切替
		確定	ひら/半角カナ

14. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力し、OKキーを押してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス:
66385_
(20桁)
サブアドレスを入力して下さい

15. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。
※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順16へ進んでください。

パスワード:
3856_
(20桁)
パスワードを入力して下さい

16. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されている場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、手順17へ進んでください。

※相手先が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、手順18へ進んでください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

17. 引き続き送信先の追加を行うかどうかを選択してください。

>まだ送信先の追加を行うときは、手順12に戻ってください。

>送信先の追加が全て終わったときは、次の手順18へ進んでください。

18. OKキーを押してください。

※ここで操作を終了する場合は、P2-13の手順36へ進んでください。

●相手先の削除

19. 相手先を変更したり削除するときは、上/下カーソルキーを使って“変更/削除”を選択してください。

同報リスト:
終了
相手先追加
⇨ 変更/削除

20. OKキーを押してください。

同報変更/削除:
終了
⇨ ☎:大阪支店
☎:岡山支店

21. 上/下カーソルキーを使って、削除したい相手先を選択してください。

※相手先を削除しないときは、P2-13の手順23へ進んでください。

同報変更/削除:
☎:仙台支店
⇨ ☎:高松支店
☎:名古屋支店

22. ストップ/クリアキーを押してください。選択した相手先が削除されます。

>相手先の削除を続ける場合は、手順21~22を繰り返してください。

>ここで操作を終了する場合は、P2-13の手順34へ進んでください。

同報変更/削除:
☎:仙台支店
⇨ ☎:名古屋支店
☎:広島支店

●相手先の変更

23. 上/下カーソルキーを使って、変更したい相手先を選択してください。

同報変更/削除: ☎: 名古屋支店 ☎: 広島支店 ⇨ ☎: 福岡出張所

24. OKキーを押してください。

☎: 福岡出張所
FAX番号を入力して下さい

25. ストップ/クリアキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

26. 新たな相手先のファクス番号を入力してください。

☎: 福岡支店
FAX番号を入力して下さい

27. OKキーを押してください。

- > 手順26で相手先のファクス番号をテンキーで入力したときは、次の手順28へ進んでください。
- > 手順26で相手先のファクス番号をワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで入力したときは、手順32へ進んでください。

28. 新たに入力した相手先に対して、Fコード通信を行うかどうかを選択してください。

Fコード通信: ⇨ *ON OFF

29. OKキーを押してください。

- > 手順28で“ON”を選択したときは、次の手順30へ進んでください。
- > 手順28で“OFF”を選択したときは、手順33へ進んでください。

30. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力し、OKキーを押してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: 66385_
(20桁)
サブアドレスを入力して下さい

31. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順32へ進んでください。

パスワード: 3856_
(20桁)
パスワードを入力して下さい

32. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されている場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、次の手順33へ進んでください。

同報変更/削除: ☎: 名古屋支店 ☎: 広島支店 ⇨ ☎: 福岡出張所

33. 引き続き相手先の変更を行うかどうかを選択してください。

- > まだ相手先の変更を行うときは、手順23に戻ってください。
- > 相手先の変更が全て終わったときは、次の手順34へ進んでください。

●操作の終了

34. “終了”を選択してください。

同報変更/削除: ⇨ 終了 ☎: 大阪支店 ☎: 岡山支店
--

35. OKキーを押してください。

同報リスト: 終了 相手先追加 ⇨ 変更/削除

36. “終了”を選択してください。

同報リスト: ⇨ 終了 相手先追加 変更/削除

37. OKキーを押してください。

同報変更追加: 終了 ⇨ 同報リスト 通信時刻 :20:00

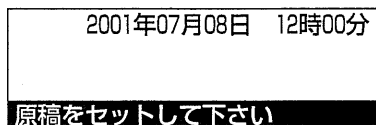
38. “終了”を選択してください。

同報変更追加: ⇨ 終了 同報リスト 通信時刻 :20:00

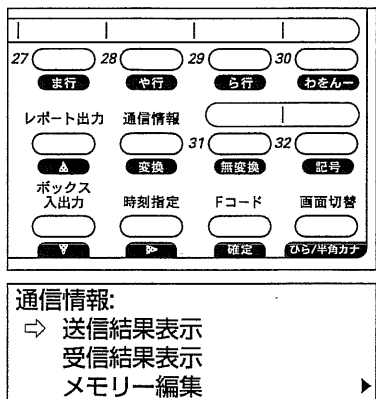
39. OKキーを押してください。タイマー予約レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合は、タイマー予約レポートが出力されます。(P6-2参照)

(4) 削除機能

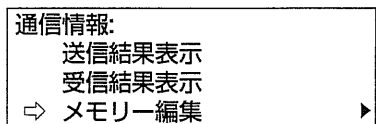
メモリ内で待機中の通信の通信予約をキャンセルすることができます。
 ※メモリ内で転送待機中の通信を削除することはできません。
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
 機械は初期モードに戻ります。



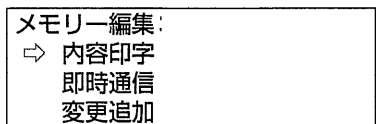
1. カバープレートを開き、通信情報キーを押してください。
 メッセージ表示に通信情報メニュー画面が表示されます。



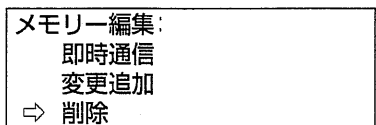
2. 上/下カーソルキーを使って“メモリー編集”を選択してください。



3. OKキーを押してください。

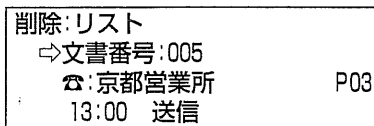


4. 上/下カーソルキーを使って、“削除”を選択してください。

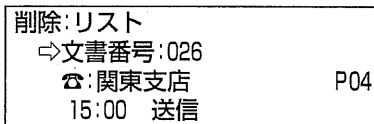


4. OKキーを押してください。

※メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリー編集メニュー画面に戻ります。



5. 上/下カーソルキーを使って、削除したい通信を選択してください。



6. OKキーを押してください。通信が削除されます。

手動送信

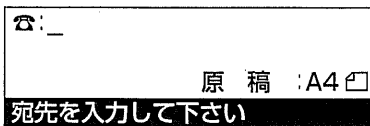
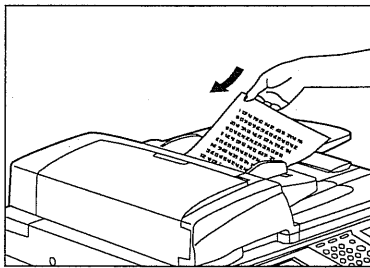
相手先との回線がつながったことを確認した後、スタートキーを押して送信する方法です。原稿を送信する前に相手と電話で話したいときや、相手側機がファクスへの切り替えを必要とする場合には、この方法で送信してください。

※手動送信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続する必要があります。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



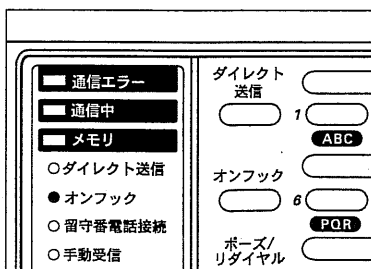
1. 原稿をセットしてください。



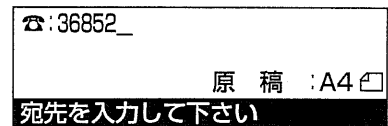
2. 電話の受話器（またはオプションのハンドセット）を上げるかオンフックキーを押してください。



※オンフックキーを押したときは、オンフック表示が点灯します。



3. 相手先の番号を入力してください。

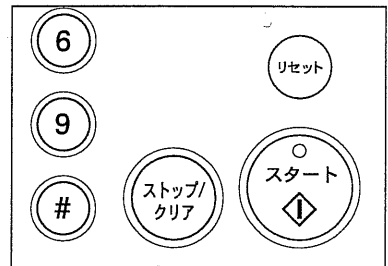


4. 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

>"ピー" という音が聞こえたときは…

相手側はファクスです。

スタートキーを押してください。機械は原稿の送信を開始します。



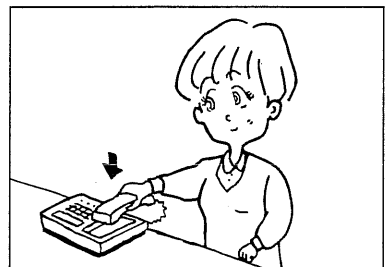
>相手先の話し声が聞こえたときは…

相手側の電話につながっています。

会話が終わったら、スタートキーを押してください。

機械は原稿の送信を開始します。

5. メッセージ表示に“送信中です”が表示されたら、受話器（またはオプションのハンドセット）を元に戻してください。



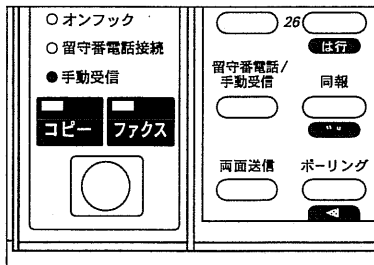
手動受信

相手先との回線がつながったことを確認した後、スタートキーを押して受信する方法です。原稿を受信する前に相手と電話で話したいときなどは、この方法で受信してください。

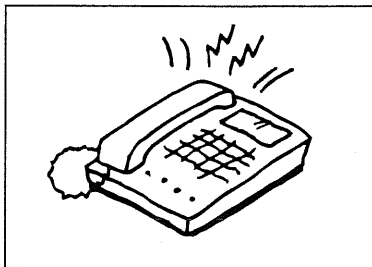
※手動受信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続する必要があります。
 ※本機の受信モードは、通常FAX専用自動受信モードに設定されています。手動受信を行うためには、受信モードを手動受信モードに変更する必要があります。

●準備事項

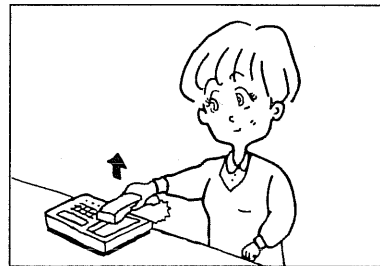
※カバープレートを開いて留守番電話/手動受信キーを押し、手動受信表示を点灯させてください。



1. 着信すると接続された電話機（またはオプションのハンドセット）で呼出音が鳴ります。



2. 電話の受話器（またはオプションのハンドセット）を上げてください。

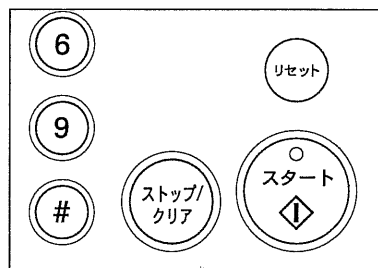


3. 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

>"ポーッポーッ"という音が聞こえたときは…

相手側はファクスです。

スタートキーを押してください。機械は原稿の受信を開始します。



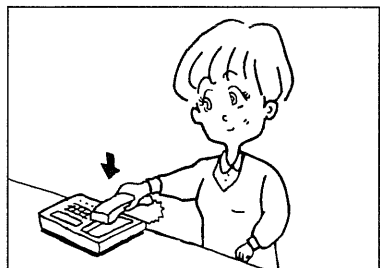
>相手先の話し声が聞こえたときは…

相手側の電話につながっています。

会話が終わったら、スタートキーを押してください。

機械は原稿の受信を開始します。

4. 受信が始まったら、受話器（またはオプションのハンドセット）を元に戻してください。



第3章

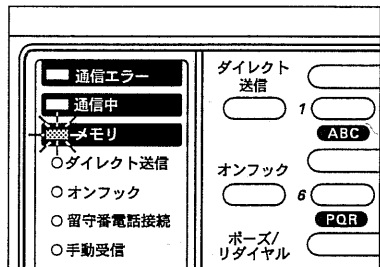
こんなときには

メモリ表示が点灯しているとき

メモリを使った送/受信を行うと、一度画像メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されるためメモリ表示が点灯します。

また、用紙切れや紙詰まりなどで代行受信が行われたときにも、メモリ表示は点灯します。

※メモリへの蓄積（記憶）中は、メモリ表示は点滅します。



(1) 電源を切るときの注意

●メモリは原稿データを電気的に記憶しているため、電源を完全に切るときはメモリ表示が点灯しているかを必ず確認してください。

原稿がメモリの中に蓄積（記憶）されているような場合は、それらを全て出力し、メモリ表示が消灯したことを確認してから電源を切るようにしてください。

※画像メモリバックアップ機能が働くため、電源断になっても約60分間は、メモリ内の原稿データを保持しておくことができます。但し、機械の状態によっては、1通信分の原稿データが消失することがあります。消失した原稿については再受信を行ってください。

●機械内部のモーターの駆動音が聞こえるときは、電源を切らないでください。モーターが駆動中のときに電源を切ると、機内を汚したり不具合を誘発するおそれがあります。

(2) 電源断レポートが出力される時

電源断により原稿や予約されていた通信などの情報が失われた場合は、再度電源が入ると電源断レポートが出力されます。失われた情報などは、このレポートで確認してください。

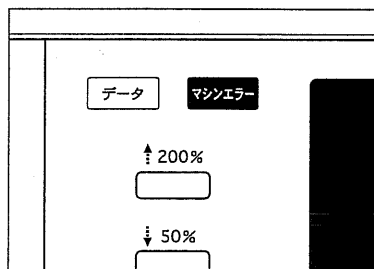
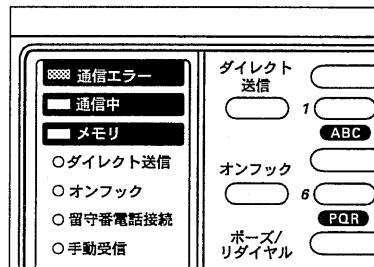
※失われた情報が何も無い場合、電源断レポートは出力されません。

エラー表示が点灯したとき (アラーム音が鳴ったとき)

通信中に異常が発生すると、アラーム音とともに通信エラー表示が点滅し点灯します。また、紙詰まりや機械的な異常が発生した場合は、マシンエラー表示が点灯します。

これらのエラー表示が点灯したときは、メッセージ表示を確認してエラーの内容を把握し、必要な処置を行ってください。(P3-3「こんな表示が出たときは」、P3-5「故障かな？」と思ったら)参照)

※必要な処置を行い異常が解決しても、まだエラー表示が消灯しないときは、ストップ/クリアキーを押して消灯させてください。



こんな表示が出たときは

メッセージ表示に下記のような表示が出たときは、それぞれの処置方法にしたがって適切な操作あるいは作業を行ってください。

表示内容	処置方法	参照ページ
“本体左カバーを閉じて下さい”	本体左側にある左カバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“本体左カバー2を閉じて下さい”	本体左側にある給紙部のカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“本体前カバーを閉じて下さい”	本体前面のカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“DFカバーを閉じて下さい”	DF部のカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“用紙を補給して下さい”	<ul style="list-style-type: none"> カセットに用紙が入っていません。コピー機能編を参照して、表示されている段のカセットに用紙を補給してください。 カセットが正しく挿入されていないときにも表示されます。カセットを奥まで確実に押し込んでください。 	—
“〇〇の用紙をセットして下さい”	<ul style="list-style-type: none"> ファクス給紙設定でサイズ固定モードが選択されています。表示されたサイズの用紙をカセットにセットしてください。 受信した原稿のサイズとセットされている用紙のサイズが印字不可能な組み合わせとなっています。受信した原稿と同サイズの用紙をカセットにセットしてください。 	—
“受信原稿があります”	<p>カセットに用紙が入っていないため、代行受信が行われました。カセットに用紙を補給してください。受信した原稿が出力されます。</p> <p>また、同時に“用紙を補給して下さい(X段目)”と表示されているときは、表示されたカセット段に用紙をセットしてください。</p>	—
“トナーを補給して下さい”	トナーカートリッジ内のトナーが残り少なくなっています。コピー機能編を参照して早めにトナーカートリッジを交換してください。	—
“受信原稿があります/トナーなし”	印字出力中にトナーがなくなり、出力できなくなりました。残りの原稿は代行受信されています。コピー機能編を参照して直ちにトナーカートリッジを交換してください。新しいトナーカートリッジがセットされ、出力可能な状態になると、残りの原稿が出力されます。	—

表示内容	処置方法	参照ページ
"紙詰まりです"	機械本体で紙詰まりが発生しています。コピー機能編を参照して、機内に紙片を残さないように適切に取り除いてください。	—
"DF部で紙詰まりです 原稿を取り出して下さい" "DFの原稿を取り除いて下さい"	DFで原稿が詰まっています。コピー機能編を参照して詰まった原稿を取り除いてください。 処理が終了したら、原稿を全て揃えて再度DFにセットしてください。読み込みが終了している原稿枚数をカウントして、詰まった原稿から読み込みを再開します。	—
"メモリーがいっぱいです"	原稿をメモリへ読み込み中にメモリがいっぱいになりました。OKキーを押した後、途中で読み込んだ原稿を送る場合には"はい"を、送信を中止する場合は"いいえ"を上/下カーソルキーを使って選択し、OKキーを押してください。 OKキーを押さずに一定時間経過すると、オートクリア機能が動き既にメモリに読み込まれた原稿データは自動的に消去されます。 送信を中止した後、全ての原稿をもう一度送る場合はメモリに空きができるのを待つか、空きを作ってから行ってください。	1-24 4-14 4-46
"サービス担当者に電話して下さい"	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。このメッセージと同時にC000の表示が出ているときは、その数字もサービス担当者にお知らせください。	—
"定期点検間近です" "定期点検の時期です"	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。	—
"通信エラーです"	送信時または受信時に通信上のエラーが発生しました。通信結果レポートが出力されますので、記されているエラーコードを元にエラーの内容を確認してください。	9-13
"通信を続行する"	複数相手先との通信中（同報送信やポーリング受信など）に画面切替キーを押しながら、ストップ/クリアキーを押すと表示されます。 ・上/下カーソルキーを使って"はい"を選択すると、続きの通信が再開されます。ただし、ストップ/クリアキーが押された時点で行われていた通信はキャンセルされます。 ・上/下カーソルキーを使って"いいえ"を選択すると、それ以降の相手先との通信を中止します。	—
"原稿が長すぎます"	DFで送信されようとしている原稿の長さが1600mm（ノーマルの画質の場合）を越えました。OKキーを押してDFの原稿を排出させてください。機械は初期モードに戻ります。 スーパーファインやファインなど高画質で送信している場合は、画質を下げても送信してください。	1-20
"JOBセパレータ用紙オーバーです"	JOBセパレータの用紙を取りのぞいてください。	—

“故障かな?” と思ったら

トラブルが発生した場合は、下表の事項をお調べいただき、処置を行ってください。
それでもなお異常が見られるときには、弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡
ください。

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
原稿サイズの誤検知がたびたびおこる。	外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に本製品を設置していますか。	本製品を、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に設置した場合、光の関係により原稿サイズを誤検知する場合があります。弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。	—
送信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	1-2
	“通信エラーです”が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度送信してください。	9-13
	パスワードチェック送信を設定していませんか。	パスワードチェック送信設定を解除してください。	4-36
	電話回線種別は正しいですか。	電話回線種別を確認してください。	1-6
順次同報送信ができない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから送信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	1-24 4-14 4-46

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
暗号ボックスの登録時、入力したボックス番号がエラーとなり登録できない。	入力したボックス番号がFコード中継ボックス（またはFコード親展ボックス）のサブアドレスと同じ番号になっていませんか。	暗号ボックスのボックス番号はFコード中継ボックスとFコード親展ボックスのサブアドレスと別のものを使用してください。	—
暗号ボックスから出力できない。	暗号ボックスのボックス番号、ボックスID番号は正しいですか。	暗号ボックスのボックス番号、ボックスID番号の登録内容を確認してください。	—
暗号通信ができない。	送信側が暗号通信に使用する短縮またはワンタッチダイヤルは、受信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	1-34 1-38
	受信側が使用する暗号ボックスは、送信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	4-43
	使用する暗号鍵は正しいですか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	4-41
リモート切替機能が使用できない。	ダイヤル（パルス）回線を使用していないですか。	電話機によっては ボタン等でトーン信号を送出できる場合があります。電話機の使用説明書を参照してください。	—
	リモート切替番号は正しいですか。	登録内容を確認してください。 (初期設定：55)	4-6

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
受信したが、印字出力されず、メモリにもない。	メモリ転送を設定していませんか。	メモリ転送を設定しているときは、転送先を確認してください。	4-24
受信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	1-2
	"通信エラーです"が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度相手先から送信してもらってください。	9-13
	パスワードチェック受信を設定していませんか。	パスワードチェック受信設定を解除してください。	4-40
代行受信できない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから受信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	1-24 4-14 4-46
ポーリング受信ができない。	相手側機でポーリング送信操作が正しくおこなわれていますか。	相手側機を確認してください。	—
Fコード中継同報指示送信ができない。	相手側中継機は同様のFコード中継機能を有していますか。	相手側中継機が同様のFコード中継機能を有していない場合、Fコード中継同報指示送信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側中継機で原稿受渡しボックス(Fコード中継ボックス)が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコード通信パスワードは中継機で登録されているFコード中継ボックスのサブアドレスやパスワードと一致していますか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
	相手側中継機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
Fコード親展ボックス（またはFコード中継ボックス）の登録時、入力したサブアドレスがエラーとなり、登録できない。	Fコード中継ボックス（またはFコード親展ボックス）の登録で、その入力したサブアドレスが同じ番号になっていませんか。または暗号ボックスの登録で同じ番号をボックス番号として使用していませんか。	Fコード中継ボックスとFコード親展ボックスのサブアドレスそして暗号ボックスのボックス番号は別のものを使用してください。	4-11 4-17 4-43
Fコード親展送信ができない。	相手側機は同様のFコード親展通信機能を有していますか。	相手側機が同様のFコード親展通信機能を有していない場合、Fコード親展通信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側機で原稿受渡しボックス(Fコード親展ボックス)が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコード通信パスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
	相手側機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—
Fコード親展ボックスから出力できない。	入力したFコード親展ボックスのサブアドレスやFコード通信パスワードは正しいですか。	Fコード親展ボックスの登録内容を確認してください。	4-11
Fコード揭示板受信ができない。	相手側機は同様のFコード揭示板通信機能を有していますか？	相手側機が同様のFコード揭示板通信機能を有していない場合、Fコード揭示板受信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側機で原稿受渡しボックス（Fコードボックス）が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコード通信パスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
Fコード親展ボックスへ入力できない。	入力したFコード親展ボックスのサブアドレスは正しいですか。	Fコード親展ボックスの登録内容を確認してください。	4-11

第4章

ファクスの操作方法（応用編）

FAX/TEL自動切替受信

1回線で電話とファクスの両方を使用するときに便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは本機で呼出音が鳴り、応答を促します。

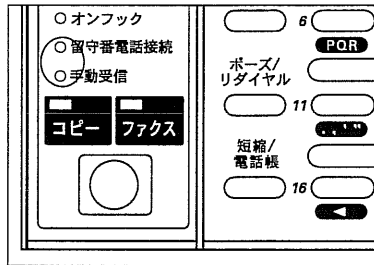
※FAX/TEL自動切替受信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機(市販品)を接続する必要があります。

※電話機で呼出音が設定回数分鳴った後は、受信側が応答しない場合でも発信側に電話料金がかかります。

●準備事項

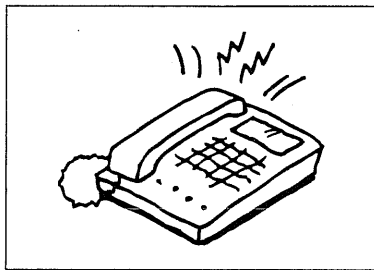
※P6-6「受信モード設定」を参照して、FAX/TEL自動切替受信モードを設定してください。

※手動受信表示と留守番電話接続表示の両方が消灯していることを確認してください。



※どちらかの表示が点灯しているときは、カバープレートを開き、留守番電話/手動受信キーを押して消灯させてください。

1. まず接続された電話機(またはオプションのハンドセット)で呼出音が鳴ります。



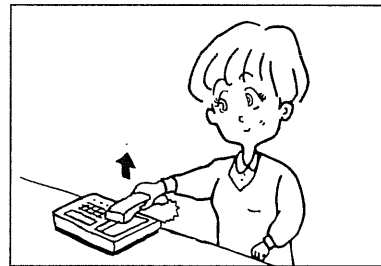
※出荷時の設定は鳴る回数が「0」に設定されているため呼出音は鳴りません。呼出音が鳴る回数を変更することができます。(P6-4「呼出回数設定(FAX/TEL自動切替受信の場合)」参照)

2. 応答してください。

>相手先が電話のとき

①電話機で呼出音が鳴り、応答を促します。30秒間以内に電話の受話器を上げてください。

※30秒間以内に受話器(またはオプションのハンドセット)を上げない場合、ファクスの受信に切り替わります。



②会話をしてください。

※会話終了後に手動で受信することもできます。

(P2-16「手動受信」参照)

>相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

FAX/留守番電話自動切替受信

留守番電話機とファクスを併用するとき便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。

※FAX/留守番電話自動切替受信を行うためには、本機に留守番機能付電話機（市販品）を接続することが必要です。

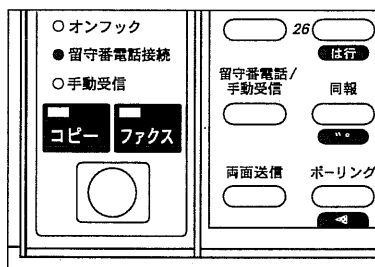
※応答メッセージ等は、各留守番電話機の使用説明書を参照してください。

※留守番電話機側で設定する呼出音の回数は、本機で設定する呼出音の回数より少なく設定してください。

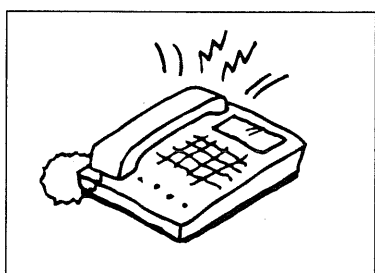
※FAX/留守番電話自動切替受信機能の使用時、相手先からの電話がつながってから、1分間経過するまでの間に30秒以上無音状態が続くと、本機の無音検出機能が働き、ファクス受信に切り替わってしまうことがありますのでご注意ください。

●準備事項

※カバープレートを開いた後、留守番電話/受動受信キーを押して、留守番電話接続表示を点灯させてください。



1. 接続された電話機で設定された回数の呼出音が鳴ります。



※呼出音が鳴る回数を変更することができます。(P6-4「呼出回数設定 (FAX/留守番電話自動切替受信の場合)」参照)

※電話機で呼出音が鳴っているときに受話器を上げた場合は、手動受信のときと同じ状態になります。(P2-16「手動受信」参照)

2. 留守番電話機が応答します。

>相手先は電話だけが不在のとき

留守番電話機から応答メッセージが流れ、用件録音を開始します。

※録音中に無音状態が30秒間続くとファクスの受信に切り替わります。

>相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

ダイヤルイン

NTTのダイヤルインサービスを利用することにより、1回線で電話とファクスとの併用を可能にする機能です。

ダイヤルインサービスでは、契約時にNTTから電話用とファクス用の2つの番号が与えられます。相手先に対して、電話用とファクス用にそれぞれ別の番号を伝えておけば、相手側では、電話をかけるときは電話用の番号を使い、ファクスを送るときはファクス用の番号を使います。

本機側では、それらの番号を事前に電話用とファクス用に登録しておくため、電話かファクスかを区別して受信することができます。

※ダイヤルインサービスのサービス内容や契約方法については、NTTの営業窓口にお問い合わせください。また、サービスをお受けになるときは、ダイヤルイン番号を4桁送付でお申し込みください。

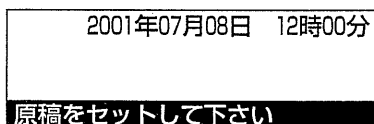
※FAX/TEL自動切替受信やFAX/留守番電話自動切替受信との併用はできません。

※電話を受けるためには、オプションのハンドセットあるいは併用電話機(市販品)を接続する必要があります。

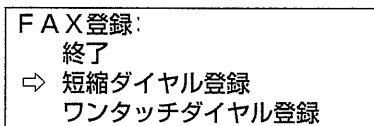
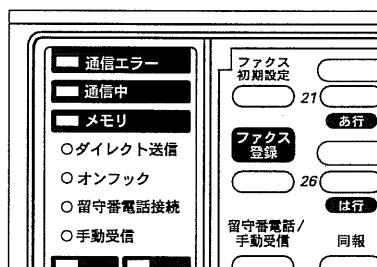
(1) ダイヤルインFAX番号の登録

NTTからファクス用として与えられた番号(4桁)をダイヤルインFAX番号として登録してください。

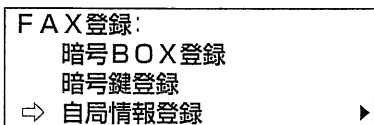
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



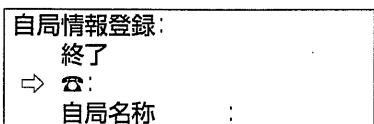
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



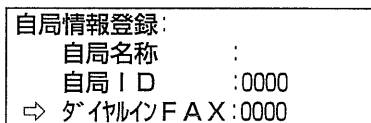
2. 上/下カーソルキーを使って“自局情報登録”を選択してください。



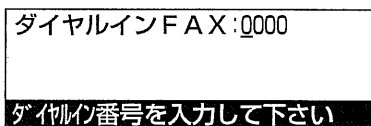
3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを使って“ダイヤルインFAX”を選択してください。

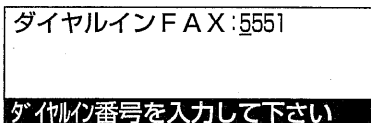


5. OKキーを押してください。

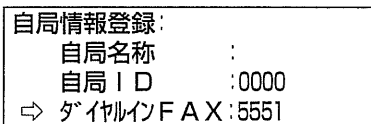


6. テンキーを使って、ダイヤルインFAX番号を4桁で入力してください。

※このときストップ/クリアキーを押すと、表示されている番号はクリアされ、“0000”となります。



7. OKキーを押してください。ダイヤルインFAX番号の登録が終了します。



※リセットキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

(2) ダイヤルインTEL番号の登録

NTTから電話用として与えられた番号(4桁)をダイヤルインTEL番号として登録してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. P4-4「(1) ダイヤルインFAX番号の登録」の手順1~3の操作を行ってください。

自局情報登録: 終了 ⇨ ☎ : 自局名称 :

2. 上/下カーソルキーを使って“ダイヤルインTEL”を選択してください。

自局情報登録: 自局ID :0000 ダイヤルインFAX:5551 ⇨ ダイヤルインTEL:0000

3. OKキーを押してください。

ダイヤルインTEL:0000
ダイヤルイン番号を入力して下さい

4. テンキーを使って、ダイヤルインTEL番号を4桁で入力してください。

※このときストップ/クリアキーを押すと、表示されている番号はクリアされ、“0000”となります。

ダイヤルインTEL:5552
ダイヤルイン番号を入力して下さい

5. OKキーを押してください。ダイヤルインTEL番号の登録が終了します。

自局情報登録: 自局ID :0000 ダイヤルインFAX:5551 ⇨ ダイヤルインTEL:5552

※リセットキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

(3) ダイヤルイン設定

NTTのダイヤルインサービスを利用するときは、この設定を行ってください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、ファクス初期設定キーを押してください。メッセージ表示にFAX設定のメニュー画面が表示されます。

<input type="checkbox"/> 通信エラー <input type="checkbox"/> 通信中 <input type="checkbox"/> メモリ <input type="radio"/> ダイレクト送信 <input type="radio"/> オンフック <input type="radio"/> 留守番電話接続 <input type="radio"/> 手動受信	ファクス初期設定 21 実行 ファクス登録 26 実行 留守番電話/手動受信 同報
---	--

FAX設定: 終了 ⇨ 回線 :プッシュ 発信元記録 :原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“ダイヤルイン”を選択してください。

FAX設定: FAX給紙 :自動選択 2in1受信 :OFF ⇨ ダイヤルイン :OFF

3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使ってダイヤルイン機能を使用するかどうかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※ダイヤルイン機能を使用する場合は、“ON”を選択してください。

ダイヤルイン: ⇨ ON *OFF

5. OKキーを押してください。ダイヤルイン設定が終了します。

FAX設定: FAX給紙 :自動選択 2in1受信 :OFF ⇨ ダイヤルイン :ON
--

※リセットキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

リモート切替

接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。本機と電話機（市販品）を離れた場所に設置して併用するときに便利な機能です。

※リモート切替を行うためには、トーン信号を送出できる併用電話機（市販品）を本機に接続することが必要です。

(1) リモート切替番号の登録

リモート切替番号は、工場出荷時設定で“55”に設定されていますが、変更することもできます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。

FAX登録:
終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを使って“自局情報登録”を選択してください。

FAX登録:
暗号BOX登録
暗号鍵登録
⇒ 自局情報登録 ▶

3. OKキーを押してください。

自局情報登録:
終了
⇒ ☎:
自局名称 :

4. 上/下カーソルキーを使って“リモート切替”を選択してください。

自局情報登録:
許可ID ▶
メモリー転送 ▶
⇒ リモート切替:55

5. OKキーを押してください。

リモート切替:55
リモート切替番号を入力して下さい

6. テンキーを使って、新たに登録したい番号を2桁で入力してください。

※このときストップ/クリアキーを押すと、表示されている番号はクリアされ、“00”となります。

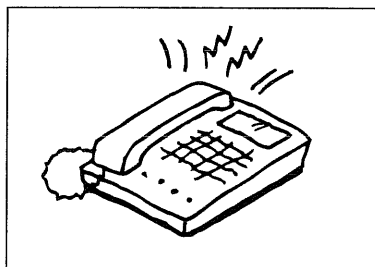
リモート切替:11
リモート切替番号を入力して下さい

7. OKキーを押してください。リモート切替番号の登録が終了します。
※リセットキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

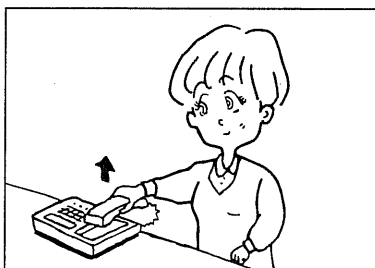
(2) 使いかた

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、下記の操作を行ってください。

1. 接続された電話機で呼出音が鳴ります。



2. 電話機の手話器を上げてください。



3. 受話器からファクスの発信音が聞こえたら、2桁のリモート切替番号を電話機側のダイヤルボタンで入力してください。
※工場出荷時設定では、リモート切替番号（2桁）は“55”に設定されています。

4. 回線は機械本体側に切り替わり、受信が開始されます。

ポーリング通信

ポーリング通信とは、送信側の操作で機械に送信を開始させるのではなく、受信側からの操作で機械に送信を開始させる通信方法です。受信側は自分の都合に合わせて原稿を受け取ることができます。

※この通信は、受信側から送信側にダイヤルし操作を行うため、電話料金は通常受信側の負担になります。

(1) ポーリング送信

ポーリング送信用として原稿をメモリに読み込ませておき、相手先からのポーリング受信要求があると自動的に送信を行う機能です。

※ポーリング送信は、ダイレクト送信モードが設定されている場合であっても、全てメモリ送信で行われます。

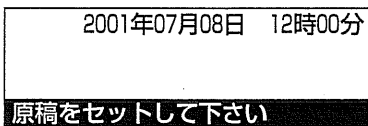
※ポーリング送信は、手動受信モードのときには行えません。手動受信モードになっているときは、それ以外の受信モードに切り替えてください。(P2-16「手動受信」参照)

※相手先からポーリング送信要求があるまでは、送信したい原稿を後から追加することができます。

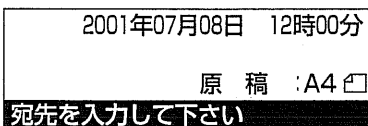
※掲示板機能と合わせて使用すると、不特定多数の相手先に同じ原稿を何度でもポーリング送信することができます。(P6-3「掲示板設定」参照)

※ポーリング送信を取り消す場合は、P1-26「(4) 待機 (予約) 通信/ポーリング送信のキャンセル方法」を参照して操作を行ってください。

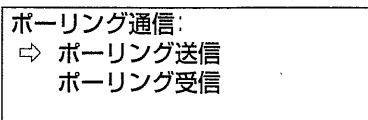
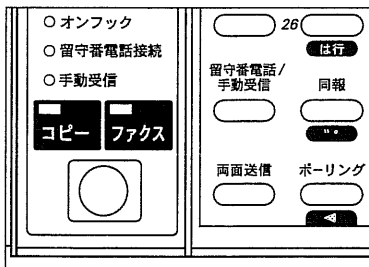
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. 原稿をセットしてください。



2. カバープレートを開き、ポーリングキーを押してください。メッセージ表示にポーリング通信のメニュー画面が表示されます。



3. “ポーリング送信” が選択されていることを確認し、OKキーを押してください。

>すでにメモリに記憶されたポーリング送信用原稿があるときは手順4へ進んでください。

>初めて原稿を記憶させるときは、手順6へ進んでください。

4. 上/下カーソルキーを使って、原稿の追加方法を選択してください。

>原稿を追加するときは、“追加” を選択してください。

>メモリ内のポーリング送信用原稿を全て消去し、新しい原稿を記憶させるときは、“上書き” を選択してください。

>原稿の追加を中止するときは、“中止” を選択してください。

原稿を追加する:

⇒ 追加
上書き
中止

5. OKキーを押してください。

>手順4で“追加”を選択したときは、手順8へ進んでください。

>手順4で“上書き”を選択したときは、次の手順6へ進んでください。

>手順4で“中止”を選択したときは、機械は初期モードに戻ります。

6. 相手先を限定する場合は、テンキーを使って4桁のポーリングID (相手機側の自局ID番号) を入力してください。

※相手先を限定しない場合は、入力は不要です。

※“0000”以外のポーリングIDを指定する相手先の限定は、同機能を有する弊社ファクス間でのみ可能です。

ポーリングID: 6543

ポーリングIDを入力して下さい

7. OKキーを押してください。

☎: ポーリング送信

原稿 : A4

スタートキーを押して下さい

8. スタートキーを押してください。原稿はメモリに読み込まれ、送信待機状態になります。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは1枚づつ読み込みの指示を行ってください。

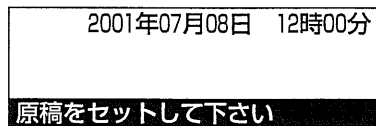
(2) ポーリング受信

受信側から相手先にダイヤルを行い、送信側にセットしてある原稿を自動的に送信させ、受信する機能です。複数の相手先を指定した場合には、順次ダイヤルと受信を繰り返します。受信側の都合に合わせて受信する時刻を指定することもできます。

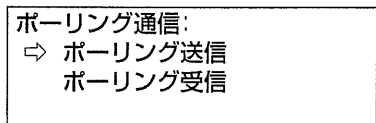
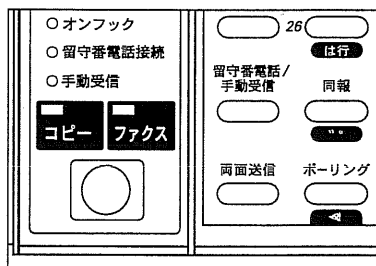
※複数の相手先番号のすべてを短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかによって入力する場合は、1回の操作で最大132ヶ所の相手先から原稿を受信することができます。ただし、暗号通信用として登録した短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルは使用できません。

※ポーリング受信を行うためには、相手先があらかじめポーリング送信操作を行っている必要があります。(P4-7「(1) ポーリング送信」参照)

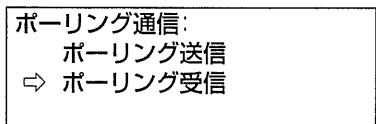
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、ポーリングキーを押してください。メッセージ表示にポーリング通信のメニュー画面が表示されます。



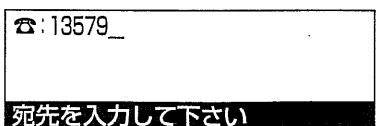
2. 上/下カーソルキーを使って“ポーリング受信”を選択してください。



3. OKキーを押してください。

4. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。



●相手先とFコード通信 (Fコード掲示板受信) を行うときは…

※相手先とFコード通信を行う場合、相手先ファクス番号が同じであっても、指定したFコードボックスが違えば、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

※すでに入力した同じ相手先 (Fコード通信は指定していない) があるときでも、Fコード通信を指定した場合は異なる相手先とみなされ、その相手先番号の入力が可能となります。ただし、相手先番号の入力は両方ともテンキーで行う必要があります。

※すでにテンキーで入力した同じ相手先 (Fコード通信を指定した) があるときでも、その同じ相手先番号を登録したFコード通信用のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使う場合は異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

※同一のファクス番号が登録された短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルを使ってそれぞれ入力を行うときは、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

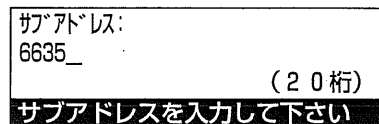
5. Fコード通信 (Fコード掲示板受信) を行うときは、Fコードキーを押してください。

>Fコードキーを押したときは、次の手順6へ進んでください。

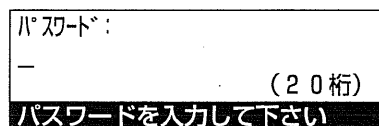
>Fコードキーを押さないときは、手順9へ進んでください。

6. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。



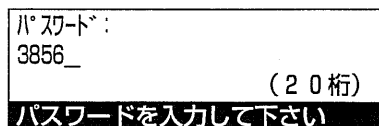
7. OKキーを押してください。



8. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

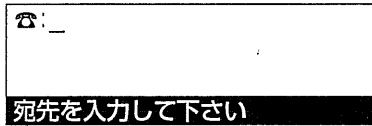
※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順9へ進んでください。



9. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多い場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。



10. 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

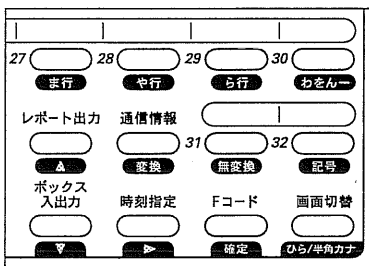
>まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順4に戻ってください。

>相手先の入力が全て終わったときは、次の手順11へ進んでください。

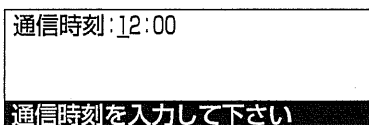
11. 開始時刻を指定したい場合は、時刻指定キーを押してください。

※通信予約限度（最大50件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

※開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。手順14へ進んでください。

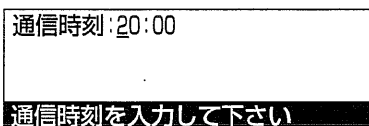


12. OKキーを押してください。



13. テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。



14. OKキーを押してください。機械は受信のための動作を開始します。

※開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は受信を開始します。

Fコード通信

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。

Fコードを使用することにより、本来自社機間でしか行えなかった親展通信のような機能通信が他社機との間でも可能になります。本機のFコード通信では、Fコードボックスを使って、相手機と原稿の受け渡しを行います。その際、Fコードボックスやパスワードを指定するためにFコード（本機ではサブアドレスとFコード通信パスワード）を使います。

本機では、他社機との間でFコード親展通信、Fコード掲示板通信およびFコード中継同報指示通信を行う機能が用意されています。もちろん同様のFコード通信機能が備わった自社機間でも可能です。

※Fコード通信を行うためには、相手機にも同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。

※Fコードを使った通信は、各種機能通信とも併用することができます。また、サブアドレスやFコード通信パスワードをワンタッチキーや短縮ダイヤルにあらかじめ登録しておく、通信開始時にそれらの入力を省略することができます。詳しくは、各通信方法や登録方法の手順内の記述を参照してください。

<Fコードとは>

本機では、サブアドレスとFコード通信パスワードがFコードにあたります。

>サブアドレス

Fコード送信（Fコード親展送信やFコード中継指示送信）を行うときに送信側で、Fコード掲示板受信を行うときに受信側で入力します。サブアドレスは、相手機側に設定された原稿受渡しボックス（本機ではFコードボックスと呼ぶ）を指定するために使われます。サブアドレスの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内で番号が一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。実際にFコード通信を行うときは、事前に相手機に確認してください。本機では、サブアドレスは0～9までの数字を使って20桁まで入力することができます。

本機間でFコード通信やFコード掲示板通信を行うときは、入力したサブアドレスの下4桁と相手機側で設定された4桁のサブアドレスが一致する必要があります。

>Fコード通信パスワード

Fコード送信（Fコード親展送信やFコード中継指示送信）を行うときに送信側で、Fコード掲示板受信を行うときに受信側で入力します。Fコード通信パスワードは、相手機に設定された原稿受渡しボックス（本機ではFコードボックスと呼ぶ）のパスワードを指定するために使われます。

Fコード通信パスワードの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内でFコード通信パスワードが一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。

実際にFコード通信を行うときは、事前に相手機に確認してください。本機では、Fコード通信パスワードは0～9までの数字と#、*の文字を使って20桁まで入力することができます。

※受信側機側では、送信側でFコード通信パスワードの入力を省略できる場合があります。

Fコード親展通信を行う場合に、本機が受信側になるときは、Fコード通信パスワードのチェックは行いません。送信側では、Fコード通信パスワードの入力を省略することができます。

※Fコード掲示板通信で、本機が送信側になるとき、Fコードボックスのパスワードを“0000”で登録した場合は、受信側が入力するFコード通信パスワードを省略することができます。

※Fコード中継指示受信の場合、本機が中継機でFコードボックスのパスワードを“0000”で登録してある場合はパスワードのチェックは行いません。

(1) Fコードボックスについて

Fコードを使った通信では、他社機間でも親展通信や中継同報指示通信のような機能通信を行うことができます。それを実現するために、事前にメモリ内に仮想のボックスを作っておき、そのボックスを使って相手先と原稿の受け渡しを行います。この原稿受け渡しのための仮想ボックスを本機ではFコードボックスと呼び、Fコード親展ボックスとFコード中継ボックスを用意しています。各Fコードボックスは、サブアドレスとFコード通信パスワードを使って登録します。サブアドレスは、原稿受渡しボックス（Fコードボックス）のボックス番号を指定するためのもので、本機では、“0000”～“9999”までの4桁の数字を使って登録します。

Fコード通信パスワードは、原稿受渡しボックス（Fコードボックス）から原稿を引き出す際に必要となります。本機では、0～9までの数字と“#”、“*”の文字を使って4桁で登録します。

>Fコード親展通信では、受信側に作成したFコードボックスを使って機密文書などの受け渡しを行います。本機が受信側になるときは、本機のメモリ内にFコードボックスを登録してください。

>Fコード掲示板通信では、送信側に作成したFコードボックスを使って原稿の受け渡しを行います。本機が送信側になるときは、本機のメモリ内にFコードボックスを登録してください。

※15個の登録エリア（#01～#15）にFコードボックスを登録できます。（P4-11「(2) Fコード親展ボックスの登録」、P4-7「(7) Fコード中継ボックス」参照）

※登録したFコードボックスのボックス番号やFコードボックスへの原稿の蓄積情報は、Fコード親展ボックスリストやFコード中継ボックスリストを出力すれば確認することができます。（P4-14「(5) Fコード親展ボックスリストの出力」、P4-21「(10) Fコード中継ボックスリスト」参照）

(2) Fコード親展ボックスの登録

新たにFコード親展ボックスの登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

※Fコード通信パスワードがわからなくなると、Fコード親展ボックスに入っている原稿を出力したり、Fコード親展ボックス自体を削除することができなくなります。Fコード通信パスワードの取扱いには充分ご注意ください。

<注意>

弊社独自の暗号通信で使用する暗号ボックスのボックス番号もFコード親展ボックスのサブアドレスと同様に“0000”～“9999”の4桁の数字で登録しますが、これら2つの番号を同じ4桁の番号で登録することはできません。

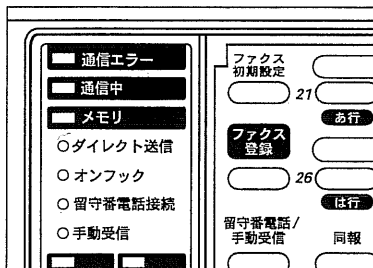
同様にFコード中継ボックスのサブアドレスとも異なる番号を入力する必要があります。これらFコード親展ボックスとFコード中継ボックスのそれぞれのサブアドレスおよび暗号ボックスのボックス番号は異なる数字を使用してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



FAX登録:
終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを使って“FコードBOX登録”を選択してOKキーを押してください。

FコードBOX登録:
⇒ Fコード親展BOX登録
Fコード中継BOX登録

3. “Fコード親展BOX登録”が選択されているのを確認して、OKキーを押してください。

Fコード親展BOX登録:
終了
⇒ #01 1111
#02 2222

4. 上/下カーソルキーを使って、未登録の登録エリアを選択してください。

Fコード親展BOX登録:
#01 1111
#02 2222
⇒ #03

5. OKキーを押してください。

サブアドレス:0000

サブアドレスを入力して下さい

6. Fコード親展ボックスのサブアドレスとして登録したい番号を入力してください。

※サブアドレスは、“0000”～“9999”の4桁の数字で入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

サブアドレス:3333

サブアドレスを入力して下さい

7. OKキーを押してください。

パスワード:0000

パスワードを入力して下さい

8. Fコード通信パスワードとして登録したい番号を入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0～9の数字と“#”、“*”の文字を使って4桁で入力してください。

※Fコード通信パスワードを“0000”で登録したときは、Fコード親展ボックスからの出力時にFコード通信パスワードのチェックが行われません。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

パスワード:0333

パスワードを入力して下さい

9. OKキーを押してください。Fコード親展ボックスの登録が終了します。

>引き続き別のFコード親展ボックスの登録を行うときは、手順4に戻ってください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(3) Fコード親展ボックスの登録内容変更/削除

- ※Fコード通信パスワードを変更することはできません。Fコード通信パスワードを変更したいときは、Fコード親展ボックスを一度削除し、新しいFコード通信パスワードで登録しなおしてください。
- ※原稿が入っているFコード親展ボックスは削除できません。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. P4-11 「(2) Fコード親展ボックスの登録」の手順1～3を行ってください。

Fコード親展BOX登録:
終了
⇒ #01 1111
#02 2222

2. 上/下カーソルキーを使って対象となるFコード親展ボックスを選択してください。

Fコード親展BOX登録:
終了
#01 1111
⇒ #02 2222

3. 登録内容を変更するときはOKキーを、Fコード親展ボックスを削除するときはストップ/クリアキーを押してください。

4. 登録済のFコード通信パスワード(4桁)を入力してください。
 - >手順3でOKキーを押したときは、Fコード通信パスワードの入力後、次の手順5へ進んでください。
 - >手順3でストップ/クリアキーを押したときは、Fコード通信パスワードの入力後、手順6へ進んでください。
 - ※削除を中止したいときは、ストップ/クリアキーを押してください。

5. OKキーを押してください。Fコード親展ボックスの登録内容が表示されます。①～④の操作を行ってください。

①上/下カーソルキーを使って“サブアドレス”を選択してください。

※ここでストップ/クリアキーを押すと、Fコード親展ボックスの削除操作を行うこともできます。

②OKキーを押してください。

③変更したいサブアドレスを4桁で入力してください。
(P4-11 「(2) Fコード親展ボックスの登録」参照)

④上カーソルキーで“終了”を選択してください。

6. OKキーを押してください。登録内容の変更あるいはFコード親展ボックスの削除が終了します。
 - >引き続き別のFコード親展ボックスの登録内容変更あるいは削除を行うときは、手順2に戻ってください。
 - >これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(4) Fコード親展通信

機械のメモリ内に設けたFコード通信用のFコード親展ボックスを使って原稿の受け渡しを行う通信方法です。

具体的には、事前に受信側が機械のメモリ内にFコード親展ボックスを登録しておき、送信側から送られてきた原稿をそのFコード親展ボックスを使って受信します。

Fコード親展ボックスからの出力時には、サブアドレスとFコード通信パスワードの入力が必要となるため、受信した原稿を他者に見られることがあります。

他社機でも採用されているFコードコマンド(本機ではサブアドレスとFコード通信パスワード)を使用するため、相手機が他社機であっても、同様のFコード親展通信機能を備えていれば通信を行うことができます。

<制限事項>

- Fコード通信機能を伴った同様の親展通信機能を相手機が備えていることが必要です。
機械によっては、送信のみ、受信のみしか行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。
例えば、送信側がFコード親展送信を行おうとする場合、受信側機にFコード通信機能を伴った親展受信機能が備わっている必要があります。受信側機がFコード通信機能を備えた機械であっても、親展送信しか行えない場合は成立しません。
- 本機が送信側になる場合、サブアドレスは20桁まで入力できますが、この有効桁数は相手機によって異なります。
事前に相手側に確認し、受信側機の有効桁数内でサブアドレスを入力する必要があります。

①Fコード親展送信

相手に設定されたFコード親展ボックスに原稿を送信する場合、送信側では下記の手順にしたがって操作を行ってください。
※開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信はできません。

<前提条件>

●送信側では…

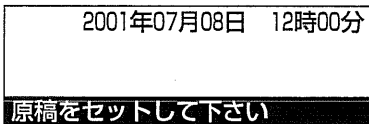
相手先で登録されている原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックスと呼ぶ）の番号（本機では4桁のサブアドレス）とFコード通信パスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

●受信側では…

原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックスと呼ぶ）を登録し、その番号（本機では4桁のサブアドレス）を送信側に伝えておく必要があります。

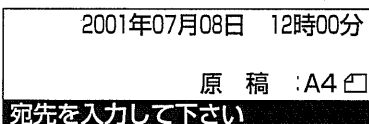
原稿受渡しボックスに受信した原稿はそのボックス番号とパスワードを入力して出力します。（P4-14「@Fコード親展ボックスからの出力」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. 原稿をセットしてください。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。（P1-23参照）



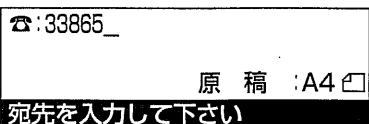
2. 開始時刻を指定するときは、時刻指定キーを押してください。

メッセージ表示の1行目に“T”の文字が表示されます。
※通信予約限度（最大50件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

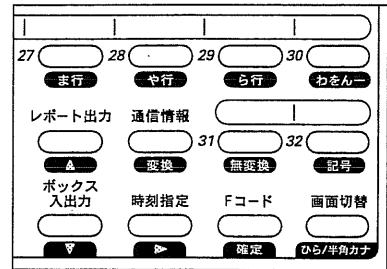
※開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。次の手順3へ進んでください。

3. テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用することもできます。
また、その場合には、手順4～7の操作を省略することができます。

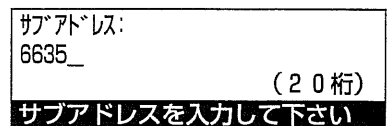


4. カバープレートを開き、Fコードキーを押してください。

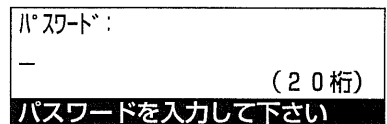


5. テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。

※サブアドレスはFコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックスを指定するために必要です。0～9の数字を使って最大20桁までで入力してください。



6. OKキーを押してください。



7. Fコード通信パスワードは、Fコード通信を行う際に使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
>Fコード通信パスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。
>Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順8へ進んでください。

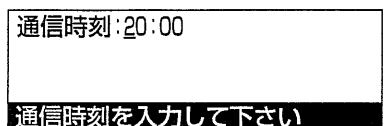
8. 次のそれぞれの場合に合わせて操作を行ってください。

>手順2で時刻指定キーを押したときは、次の手順9へ進んでください。
>手順2で時刻指定キーを押していないときは、手順11へ進んでください。

9. OKキーを押してください。

10. テンキーを使って開始時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。



11. OKキーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

※開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。

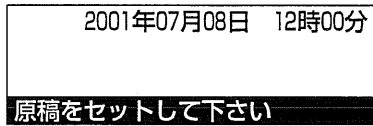
②Fコード親展ボックスからの出力

相手先から自機のFコード親展ボックスへ送られた原稿は、下記の出力操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。

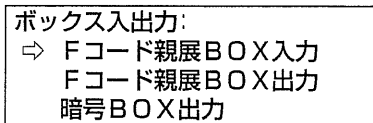
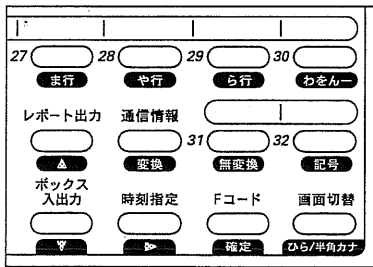
また、Fコード掲示板通信で本機が送信側となる場合に、Fコードボックスに入力した原稿を消去するときも、Fコード親展ボックスから原稿を出力すれば、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。

※Fコード親展ボックスの登録時にFコード通信パスワードを“0000”で登録したときは、Fコード親展ボックスからの出力操作時にFコード通信パスワードの入力が不要です。入力したサブアドレスが正しければ、出力が行われます。

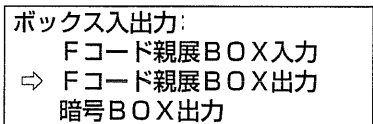
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、ボックス入出力キーを押してください。メッセージ表示にボックス入出力のメニュー画面が表示されます。



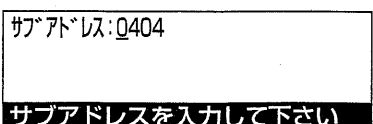
2. 上/下カーソルキーを使って“Fコード親展BOX出力”を選択してください。



3. OKキーを押してください。



4. テンキーを使って、原稿を出力したいFコードボックスのサブアドレス (4桁) を入力してください。

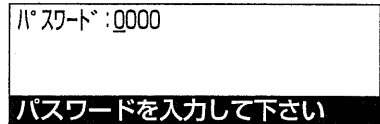


5. OKキーを押してください。

※Fコードボックスの登録時にFコード通信パスワードを“0000”で登録しているときは、この時点でFコードボックスからの出力が開始されます。次の手順6以降の操作を行う必要はありません。

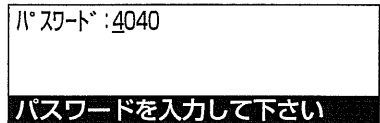
※Fコードボックスに原稿がないときは、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

※入力したサブアドレスが登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はサブアドレスの入力画面に戻ります。



6. Fコード通信パスワード (4桁) を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。



7. OKキーを押してください。Fコードボックスからの出力が開始されます。

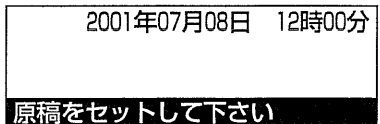
※入力したFコード通信パスワードが正しくないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はFコード通信パスワードの入力画面に戻ります。正しい番号を入力しなおしてください。

(5) Fコード親展ボックスリストの出力

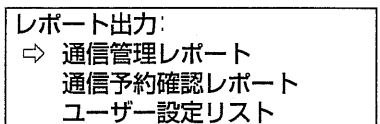
Fコード親展ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、Fコード親展ボックスリストを出力することによって確認できます。

※Fコード親展ボックスが全く登録されていない場合、Fコード親展ボックスリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを押して“FコードBOXリスト”を選択してください。

レポート出力:
 通信予約確認レポート
 ユーザー設定リスト
 ⇨ FコードBOXリスト

3. OKキーを押してください。

FコードBOXリスト:
 ⇨ Fコード親展BOXリスト
 Fコード中継BOXリスト

4. 上/下カーソルキーを押して“Fコード親展BOXリスト”を選択し、OKキーを押してください。Fコード親展ボックスリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。
 ※Fコード親展ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

(6) Fコード掲示板通信

送信側のメモリ内に設けたFコード親展ボックスを掲示板のごとく使うことにより、不特定多数の相手先との原稿の受け渡しを可能にする通信方法です。

送信側では、事前に機械のメモリ内にFコード親展ボックスを登録し、そのFコード親展ボックスに原稿を入力しておきます。Fコード親展ボックス内の原稿は消去するまでFコード親展ボックス内に保持されるため、サブアドレスとFコード通信パスワードが合致すれば、何度でもFコード親展ボックス内の原稿を送信することができます。

受信側は、ポーリング受信操作を行って送信側のFコード親展ボックスから原稿を受信しますが、このときサブアドレスとFコード通信パスワードを使って送信側のFコード親展ボックスを指定します。他社機でも採用されているFコードコマンド（本機ではサブアドレスとFコード通信パスワード）を使用するため、相手機が他社機であっても、同様のFコード掲示板通信機能を備えていれば通信を行うことができます。

<制限事項>

- Fコード通信機能を伴った同様の掲示板通信機能を相手機が備えていることが必要です。
 機械によっては、原稿受渡しボックスへ原稿を入力できなかったり、ポーリング受信が行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。
 例えば、本機が送信側で原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を入力しても、受信側の機械にポーリング受信機能が備わっていない場合は掲示板通信は成立しません。
- 本機が送信側になる場合、Fコード親展ボックスのサブアドレスやFコード通信パスワードは4桁で登録します。
 本機が受信側になる場合は、サブアドレスやFコード通信パスワードは20桁まで入力できます。これらの有効桁数は相手機によって異なりますので、事前に相手側に確認し、送信側機の有効桁数内でサブアドレスを入力する必要があります。

①Fコード親展ボックスへの入力

自機のFコード親展ボックスへ原稿を入力するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※Fコード親展ボックスへは、すでに原稿がある場合でも後から原稿を追加入力することができます。また、すでにある内容を消して、上書き入力することもできます。

※Fコード親展ボックスへ入力した原稿データを消去したいときは、その原稿をFコード親展ボックスから出力させてください。

(P4-14「@Fコード親展ボックスからの出力」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

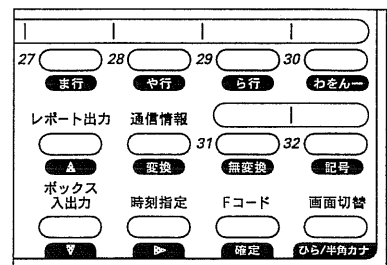
2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. 原稿をセットしてください。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P1-23参照)

2001年07月08日 12時00分
 原 稿 :A4 □
宛先を入力して下さい

2. カバープレートを開き、ボックス入出力キーを押してください。メッセージ表示にボックス入出力のメニュー画面が表示されます。



ボックス入出力:
 ⇨ Fコード親展BOX入力
 Fコード親展BOX出力
 暗号BOX出力

3. 上/下カーソルキーを使って“Fコード親展BOX入力”を選択してください。

ボックス入出力:
⇒ Fコード親展BOX入力
Fコード親展BOX出力
暗号BOX出力

4. OKキーを押してください。

サブアドレス:0000

サブアドレスを入力して下さい

5. テンキーを使って、原稿を入力したいFコード親展ボックスのサブアドレス（4桁）を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

サブアドレス:0404

サブアドレスを入力して下さい

6. Fコード親展ボックスに初めて原稿を記憶させるときは手順8へ、すでにFコード親展ボックスに記憶された原稿があるときは次の手順7へ進んでください。

7. OKキーを押してください。

原稿を追加する:
⇒ 追加
上書き
中止

8. 上/下カーソルキーを使って、原稿の追加方法を選択してください。

>原稿を追加するときは、“追加”を選択してください。

>Fコード親展ボックス内の原稿を全て消去し、新しい原稿を記憶させるときは、“上書き”を選択してください。

※“上書き”を選択すると、Fコード親展受信した原稿も消去されますので注意してください。

>原稿の追加を中止するときは、“中止”を選択してください。

9. OKキーを押してください。機械は原稿の読み込みを開始します。

※“中止”を選択したときは、機械は初期モードに戻ります。

※全ての原稿の読み込みを終了すると、機械は初期モードに戻ります。

※入力したFコード親展ボックスのサブアドレスが登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はサブアドレスの入力画面に戻ります。

②Fコード掲示板受信

受信側からポーリング受信操作を行い、送信側の原稿受渡しボックス（本機ではFコードボックスと呼ぶ）内から原稿を自動的に受信する機能です。複数の相手先を指定した場合には順次ダイヤルと受信を繰り返します。受信側の都合に合わせて送信させる時刻を指定することもできます。

具体的な操作方法については、P4-8「(2) ポーリング受信」を参照して操作を行ってください。

<前提条件>

●送信側では…

事前に原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）を登録し、そのボックスに送信する原稿を入力します。

そして、そのボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機ではFコード通信パスワードと呼ぶ）を受信側に伝えておく必要があります。（P4-15「①Fコード親展ボックスへの入力」参照）

●受信側では…

ポーリング受信操作時に、相手先で登録されている原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）のボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機では4桁のFコード通信パスワード）を入力します。そのため、それらの番号を事前に知っている必要があります。

(7) Fコード中継ボックスの登録

新たにFコード中継ボックスの登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

- ※Fコード中継ボックスは最大15個まで登録することができます。
- ※ここで登録したFコード通信パスワードがわからなくなると、Fコード中継ボックス自体を削除することができなくなります。Fコード通信パスワードの取扱いには充分ご注意ください。

<注意>

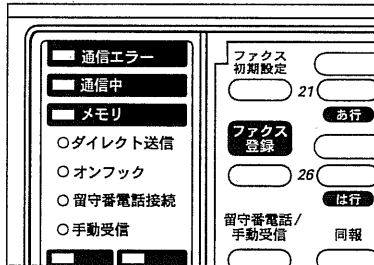
Fコード中継ボックスのサブアドレスは“0000”～“9999”の4桁の数字で登録しますが、Fコード中継ボックスのサブアドレスや暗号ボックスのボックス番号と同じ4桁の番号で登録することはできません。

- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



FAX登録:

終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを使って“FコードBOX登録”を選択して、OKキーを押してください。

FコードBOX登録:
⇒ Fコード親展BOX登録
Fコード中継BOX登録

3. 下カーソルキーを使って“Fコード中継BOX登録”を選択して、OKキーを押してください。

Fコード中継BOX登録:

終了
⇒ #01 1234
#02 2345

4. 上/下カーソルキーを使って、未登録の登録エリアを選択してください。

Fコード中継BOX登録:

#01 1234
#02 2234
⇒ #03

5. OKキーを押してください。

サブアドレス: 0000

サブアドレスを入力して下さい

6. Fコード中継ボックスのサブアドレスとして登録したい番号を入力してください。

※サブアドレスは、“0000”～“9999”の4桁の数字で入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

サブアドレス: 3456

サブアドレスを入力して下さい

7. OKキーを押してください。

パスワード: 0000

パスワードを入力して下さい

8. Fコード通信パスワードとして登録したい番号を入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0～9の数字と“#”、“*”の文字を使って4桁で入力してください。

※Fコード通信パスワードを“0000”で登録したときは、Fコード中継ボックスへの受信時にFコード通信パスワードのチェックが行われません。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

パスワード: 0333

パスワードを入力して下さい

9. OKキーを押してください。

☎: _

送信局を入力して下さい

10. 以下の手順①、②を繰り返して最終送信先のファクス番号を入力してください。(最大132局)

①相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先の入力には、テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルおよびチェーンダイヤルが使用できます。

☎: 0-764956_

送信局を入力して下さい

②OKキーを押してください。

11. OKキーを押してください。

自局出力:
⇒ ON
OFF

12. 上/下カーソルキーを使って、中継局で送信原稿を出力するかどうか選択してください。

“ON”を選択すると、中継局で送信原稿を出力します。

自局出力:
ON
⇒ OFF

13. OKキーを押してください。

☎: _

レポート送信先を入力して下さい

14. 中継同報の送信結果レポートを送る場合は、送信先のファクス番号を入力してください。

送らない場合は手順15に進んでください。

※相手先の入力には、テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、およびチェーンダイヤルが使用できます。

☎: 0-7645684_

レポート送信先を入力して下さい

15. OKキーを押してください。Fコード中継ボックスの登録が終了します。

>引き続き別のFコード中継ボックスの登録を行うときは、手順4に戻ってください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(8) Fコード中継ボックスの登録内容変更/削除

最終相手先の追加や削除の他、登録されている内容を変更するときや、Fコード中継ボックスを削除するときは以下の手順で行ってください。

※Fコード通信パスワードを変更することはできません。Fコード通信パスワードを変更したいときは、Fコード中継ボックスを一度削除し、新しいFコード通信パスワードで登録しなおしてください。
※原稿が入っているFコード中継ボックスは削除できません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. P4-17「(7) Fコード中継ボックスの登録」の手順1~3を行ってください。

Fコード中継BOX登録:
終了
⇒ #01 1234
#02 2345

2. 上/下カーソルキーを使って対象となるFコード中継ボックスを選択してください。

Fコード中継BOX登録:
#01 1234
#02 2234
⇒ #03 3456

3. 「Fコード中継ボックスの内容を変更するとき」か「Fコード中継ボックスを削除するとき」のどちらかに進んでください。

>Fコード中継ボックスの内容を変更するとき

①OKキーを押してください。

②登録済のFコード通信パスワード(4桁)を入力してください。

パスワード: 0333

パスワードを入力して下さい

③OKキーを押してください。

Fコード中継BOX: #03
終了
⇒ サブアドレス: 3456
パスワード: 0333

④上/下カーソルキーを使って修正する項目を選択して、OKキーを押してください。

※修正の方法はP4-17「(7) Fコード中継ボックスの登録」を参照してください。

Fコード中継BOX:#03
サブアドレス:3456
⇒ パスワード:0333
送信局リスト

⑤各項目の修正が終了し、手順④に戻れば上カーソルキーを使って“終了”を選択してください。

Fコード中継BOX:#03
⇒ 終了
サブアドレス:3456
パスワード:0333

>Fコード中継ボックスを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

パスワード:
削除します

パスワードを入力して下さい

②登録済のFコード通信パスワード(4桁)を入力してください。

パスワード:0333
削除します

パスワードを入力して下さい

4. OKキーを押してください。登録内容の変更あるいはFコードボックスの削除が終了します。

>引き続き別のFコード中継ボックスの登録内容変更あるいはを削除を行うときは、手順2に戻ってください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(9) Fコード中継同報指示通信

Fコード中継同報指示送信は、多数の遠方の相手先へ原稿を送る場合に、途中で一度別のファクスに中継させて送信する方法です。送信側から中継機のFコード中継ボックスに送信しそこから複数の最終相手先に送信します。

<制限事項>

●Fコード通信機能を伴った同様の中継同報指示通信機能を相手機が備えていることが必要です。

機械によっては、送信のみ、受信のみしか行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。

●本機が送信側になる場合、サブアドレスは20桁まで入力できますが、この有効桁数は相手機によって異なります。

事前に相手側に確認し、受信側機の有効桁数内でサブアドレスを入力することが必要です。

<前提条件>

●送信側では…

受信側で登録されている原稿受渡しボックス(本機ではFコード中継ボックスと呼ぶ)の番号(本機では4桁のサブアドレス)とFコード通信パスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

※本機が送信側の場合、相手先ファクス番号の入力には、Fコード用に登録された短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルを使用するかテンキーから入力しFコード用のサブアドレスを入力する必要があります。

※最終相手先は中継機のFコード中継ボックスの登録内容にしたがいます。

●受信側では…

原稿受渡しボックス(本機ではFコード中継ボックスと呼ぶ)を登録し、その番号(本機では4桁のサブアドレス)を送信側に伝えておく必要があります。P4-17「(7) Fコード中継ボックスの登録」参照

※本機が受信側(中継機)となる場合は、Fコード中継ボックスの登録の際、最終相手先のファクス番号入力の全てを、短縮ダイヤルまたはワンタッチダイヤルのどちらかで行うことによって最終相手先に最大132カ所に一度の操作で送信することができます。

第4章 ファクスの操作方法（応用編）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. 原稿をセットしてください。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。（P1-23参照）

2001年07月08日 12時00分
原稿 : A4 □
宛先を入力して下さい

2. 開始時刻を指定するときは、時刻指定キーを押してください。

メッセージ表示の1行目に“T”の文字が表示されます。

※通信予約限度（最大50件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

※開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。
次の手順3へ進んでください。

3. テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用することもできます。

また、その場合には、手順4～7の操作を省略することができます。

☎: 33865_
原稿 : A4 □
宛先を入力して下さい

4. カバープレートを開き、Fコードキーを押してください。

27	28	29	30
ま行	や行	ら行	わをんー
レポート出力	通信情報		
		31	32
△	変換	無変換	記号
ボックス入出力	時刻指定	Fコード	画面切替
▽	▶	確定	ひら/半角カナ

5. テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。

※相手側中継機の中継ボックスのサブアドレスを確認して、0～9の数字を使って最大20桁まで入力してください。

サブアドレス:
6635_
(20桁)
サブアドレスを入力して下さい

6. OKキーを押してください。

パスワード:
—
(20桁)
パスワードを入力して下さい

7. Fコード通信パスワードは、Fコード通信を行う際に使用します。
相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
>Fコード通信パスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力してください。

>Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順8へ進んでください。

8. 次のそれぞれの場合に合わせて操作を行ってください。

>手順2で時刻指定キーを押したときは、次の手順9へ進んでください。

>手順2で時刻指定キーを押していないときは、手順11へ進んでください。

9. OKキーを押してください。

10. テンキーを使って開始時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。

通信時刻: 20:00
通信時刻を入力して下さい

11. OKキーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

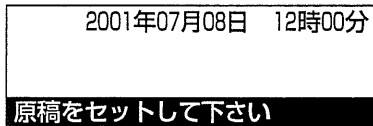
※開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。

(10) Fコード中継ボックスリストの出力

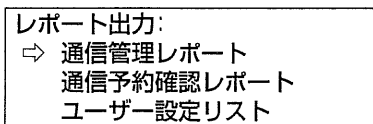
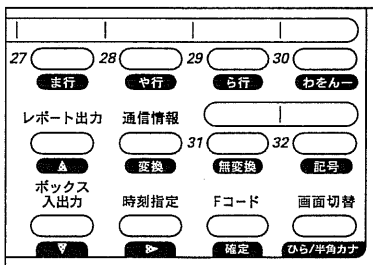
Fコード中継ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、Fコード中継ボックスリストを出力することによって確認できます。

※Fコード中継ボックスが全く登録されていない場合、Fコード中継ボックスリストは出力されません。

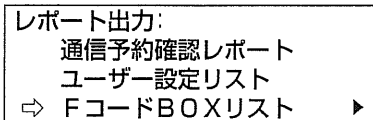
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



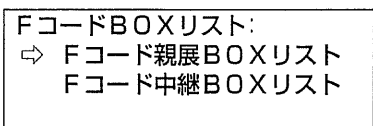
1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



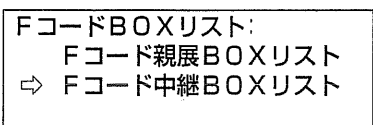
2. 上/下カーソルキーを押して“FコードBOXリスト”を選択してください。



3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを押して“Fコード中継BOXリスト”を選択してください。



5. OKキーを押してください。Fコード中継ボックスリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※Fコード中継ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

メモリ転送

事前に登録した開始時刻から終了時刻までの間に受信した原稿をいったんメモリに記憶し、登録した相手先に転送する機能です。転送先へはFコード通信を行うこともできます。

※正常に転送できなかった場合は、本機で出力後、受信原稿はメモリから消去されます。

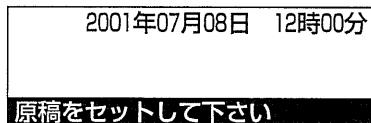
※暗号通信など、通信の種類によってはメモリ転送機能が働かないことがあります。

※メモリ転送を行うときは、事前に設定を行う必要があります。(P4-24「(3)メモリ転送設定」参照)

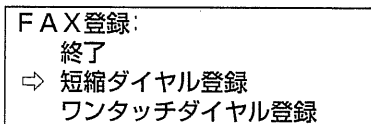
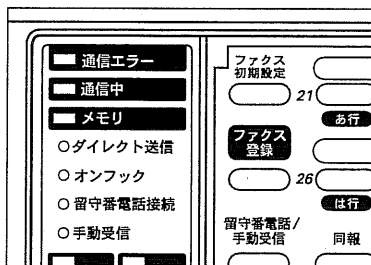
(1) 登録のしかた

初めて登録を行うときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

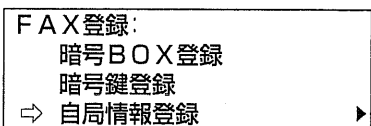
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



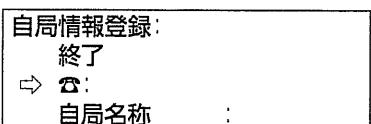
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



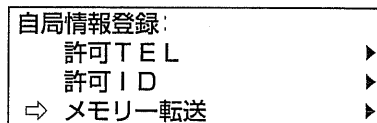
2. 上/下カーソルキーを使って“自局情報登録”を選択してください。



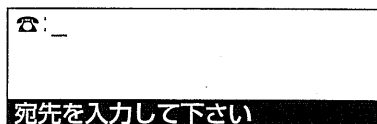
3. OKキーを押してください。



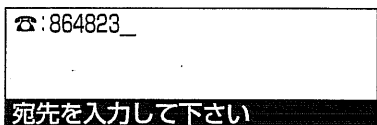
4. 上/下カーソルキーを使って、“メモリ転送”を選択してください。



5. OKキーを押してください。

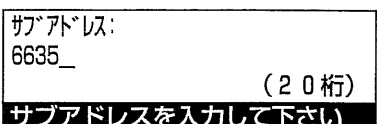


6. 転送先のファクス番号を入力してください。
 ※転送先の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤルを使用することもできます。
 また、Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順7～10の操作を省略することができます。



7. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。
 >Fコードキーを押したときは、次の手順8へ進んでください。
 >Fコードキーを押さないときは、P4-23の手順11へ進んでください。

8. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。
 ※サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。



9. OKキーを押してください。

パスワード:	
—	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

10. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順11へ進んでください。

パスワード:	
3856_	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

11. OKキーを押してください。

※入力した内容が正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は転送先の入力画面に戻ります。

自局出力:	
⇒ *ON	
OFF	

12. 上/下カーソルキーを使って、受信した原稿をこの機械でも出力するかどうかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。ただし最初の設定の際には表示されません。

※出力する場合は、“ON”を選択してください。

13. OKキーを押してください。

転送時間:	
⇒ *時刻指定	
終日	

14. 上/下カーソルキーを使って、転送する時間を指定するかどうかを選択してください。

※“時刻指定”を選択すると、転送開始時刻から終了時刻までの間に受信した原稿だけを転送先に送信します。

“終日”を選択すると、時間に関係なく受信した原稿を全て転送先に送信します。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。ただし最初の設定の際には表示されません。

> “時刻指定”を選択したときは、次の手順15へ進んでください。

> “終日”を選択したときは、手順19へ進んでください。

15. OKキーを押してください。

メモリー転送開始時刻:00:00
転送開始時刻を入力して下さい

16. 転送開始時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力された時刻はクリアされ、“00:00”に戻ります。

メモリー転送開始時刻:09:00
転送開始時刻を入力して下さい

17. OKキーを押してください。

メモリー転送終了時刻:09:00
転送終了時刻を入力して下さい

18. 転送終了時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力された時刻はクリアされ、“00:00”に戻ります。

メモリー転送終了時刻:17:00
転送終了時刻を入力して下さい

19. OKキーを押してください。メモリー転送登録が終了します。

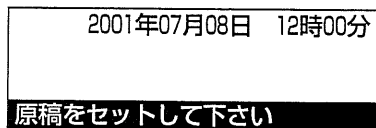
自局情報登録:	
許可TEL	▶
許可ID	▶
⇒ メモリー転送	▶

20. リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

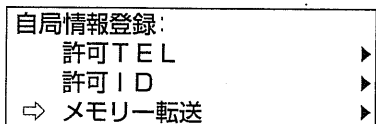
(2) 登録内容の変更

一度登録したメモリ転送の内容を変更するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



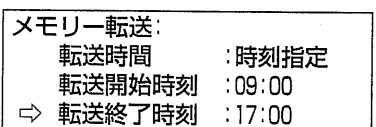
1. P4-22 「(1) 登録のしかた」の手順1~4の操作を行ってください。



2. OKキーを押してください。

3. 上/下カーソルキーを使って変更したい項目を選択し、OKキーを押してください。

※個々の項目の変更手順については、P4-22 「(1) 登録のしかた」を参考にして操作を行ってください。

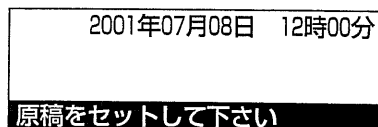


4. 登録内容の変更が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

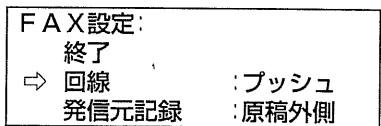
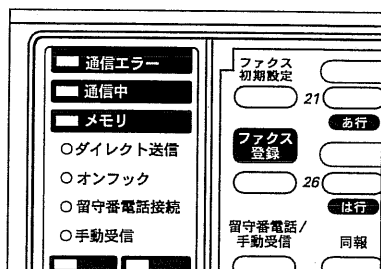
(3) メモリ転送設定

メモリ転送機能を使用するためには、あらかじめこの設定を行う必要があります。

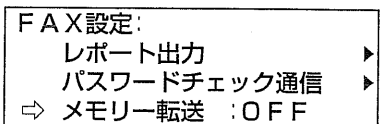
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



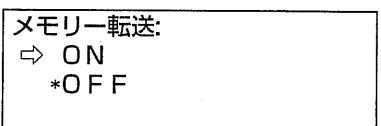
1. カバープレートを開き、ファクス初期設定キーを押してください。メッセージ表示にFAX設定のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを使って“メモリ転送”を選択してください。



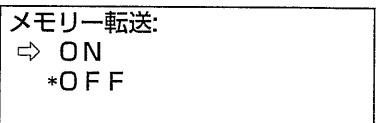
3. OKキーを押してください。



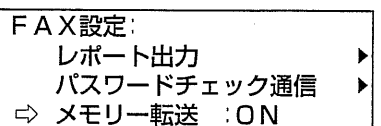
4. 上/下カーソルキーを使って、受信した原稿を転送する、しないを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※“ON”を選択すると、受信原稿が転送されます。



5. OKキーを押してください。メモリ転送設定が終了します。



6. リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

グループダイヤル

ワンタッチキーに複数の相手先を登録しておく、それらの相手先に順次ダイヤルを行う機能です。

※グループダイヤルは順次同報送信などの各種機能通信の相手先番号入力にも使用できます。

※グループダイヤルとチェーンダイヤルは併用できません。

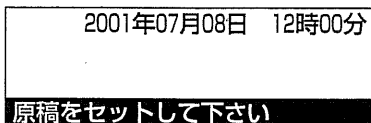
(1) 登録のしかた

※32個のワンタッチキーの全てにグループダイヤルを登録することができます。

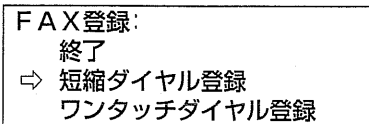
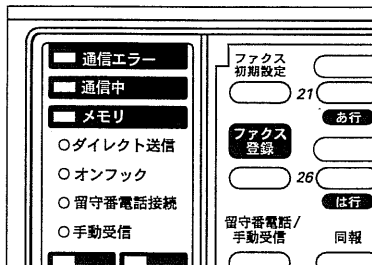
※登録する相手先番号の全てを短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルのいずれかを使って入力する場合は、最大132宛先を登録することができます。

※グループ名称を登録しておく、電子電話帳機能を使って検索するときに役立ちます。

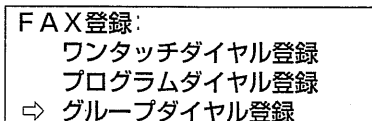
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



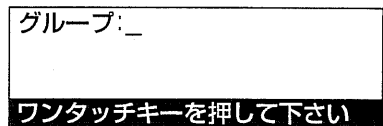
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



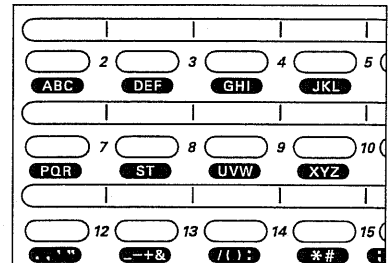
2. 上/下カーソルキーを押して“グループダイヤル登録”を選択してください。



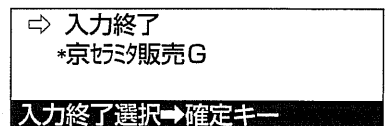
3. OKキーを押してください。



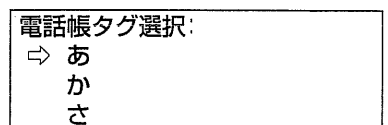
4. 未登録のワンタッチキーを押してください。押したワンタッチキーのところにグループダイヤルが登録されます。



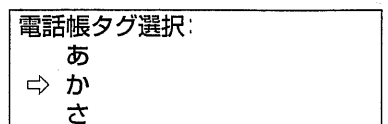
5. グループ名称を入力してください。
 ※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(P1-28「文字の入力」参照)
 ※グループ名称を登録しない場合は、次の手順6へ進んでください。



6. 確定キーを押してください。



7. 上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。



8. OKキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

9. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順10～13の操作を省略することができます。

☎: 54321 _
FAX番号を入力して下さい

●相手先とFコード通信を行うときは…

- ※相手先とFコード通信を行う場合、相手先ファクス番号が同じであっても、指定したFコードボックスが違えば、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- ※すでに入力した同じ相手先（Fコード通信は指定していない）があるときでも、Fコード通信を指定した場合は異なる相手先とみなされ、その相手先番号の入力が可能となります。ただし、相手先番号の入力は両方ともテンキーで行う必要があります。
- ※すでにテンキーで入力した同じ相手先（Fコード通信を指定した）があるときでも、その同じ相手先番号を登録したFコード通信用のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使う場合は異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- ※同一のファクス番号が登録された短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルを使ってそれぞれ入力を行うときは、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

10. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。

- >Fコードキーを押したときは、次の手順11へ進んでください。
- >Fコードキーを押さないときは、手順14へ進んでください。

11. Fコード通信用で使用するサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: 6635 _
(20桁)
サブアドレスを入力して下さい

12. OKキーを押してください。

パスワード: _
(20桁)
パスワードを入力して下さい

13. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順14へ進んでください。

パスワード: 3856 _
(20桁)
パスワードを入力して下さい

14. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されている場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押して、手順15へ進んでください。

※相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押して、手順16へ進んでください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

15. 引き続き相手先を入力を行うかどうかを選択してください。

- >まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順9に戻ってください。
- >相手先の入力が全て終わったときは、次の手順16へ進んでください。

16. OKキーを押してください。グループダイヤルの登録が終了します。

- >引き続き別のグループダイヤルの登録を行うときは、手順4～16を繰り返してください。
- >これで登録を終了するときには、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 登録内容の変更と削除のしかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. P4-25 「(1) 登録のしかた」の手順1～3の操作を行ってください。

グループ:_
ワンタッチキーを押して下さい

2. 対象となるグループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

グループ:04
終了
⇒ 京セミ販売G
タグ設定 :か

3. それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>グループ名称を変更するとき

①上/下カーソルキーを使って表示されているグループ名称を選択してください。

グループ:04
終了
⇒ 京セミ販売G
タグ設定 :か

②OKキーを押してください。

③P1-28 「文字の入力」を参照してグループ名称を変更してください。

④手順①の画面に戻れば上カーソルキーで“終了”を選択してOKキーを押してください。

>相手先を追加するとき

①上/下カーソルキーを使って“グループリスト”を選択してください。

グループ:04
京セミ販売G
タグ設定 :か
⇒ グループリスト

②OKキーを押してください。

グループリスト:
終了
⇒ 相手先追加
変更/削除

③上/下カーソルキーを使って“相手先追加”を選択し、OKキーを押してください。

④P4-26の手順9以降を参考にして、相手先の追加を行ってください。

⑤手順②の画面に戻れば上カーソルキーで“終了”を選択してOKキーを押してください。

⑥上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。

>相手先を変更または削除するとき

①上/下カーソルキーを使って“グループリスト”を選択してください。

グループ:04
京セミ販売G
タグ設定 :ま
⇒ グループリスト

②OKキーを押してください。

グループリスト:
終了
⇒ 相手先追加
変更/削除

③上/下カーソルキーを使って“変更/削除”を選択し、OKキーを押してください。

変更/削除:
終了
⇒ ☎:大阪支店
☎:岡山支店

④上/下カーソルキーを使って変更あるいは削除したい相手先を選択してください。

変更/削除:
終了
⇒ ☎:大阪支店
☎:岡山支店

⑤変更するときは、OKキーを押した後、P4-25 「(1) 登録のしかた」を参考にして、登録内容の変更を行ってください。相手先を削除するときは、ストップ/クリアキーを押してください。その相手先が削除されます。

⑥手順②の画面に戻れば上カーソルキーで“終了”を選択してOKキーを押してください。

⑦上カーソルキーを押して“終了”を選択し、OKキーを押してください。

>グループダイヤルを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。

グループ:06
削除します
OKキーを押して下さい

②OKキーを押してください。グループダイヤルが削除されます。

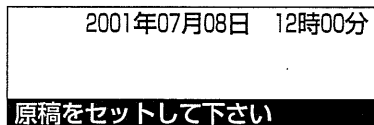
グループ:06
削除しました

4. 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

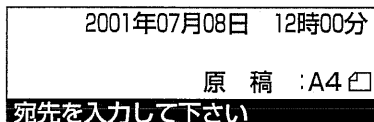
(3) 使いかた

※グループダイヤルは、チェーンダイヤルと併用することはできません。

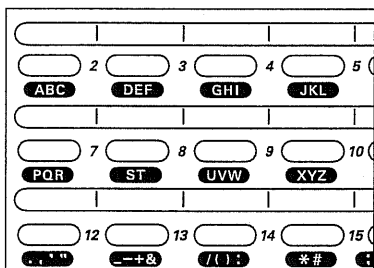
※グループダイヤルは通常送信だけでなく、順次同報送信やポーリング受信などの相手先の入力時にも使用することができます。



1. 原稿を送信する場合は、原稿をセットしてください。

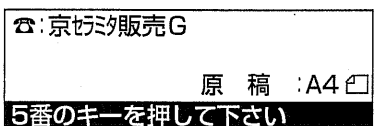


2. 使いたいグループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



※機械はグループダイヤルに登録されている相手先全てに送信を行います。

※ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示されるときは、P6-10「ダイヤル確認設定」が「ON」になっています。



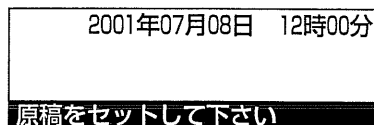
相手先名などの登録内容を確認して、下に表示されている数字をテンキーで入力してください。ダイヤルを開始します。

(4) グループダイヤルリストの出力

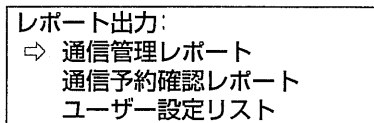
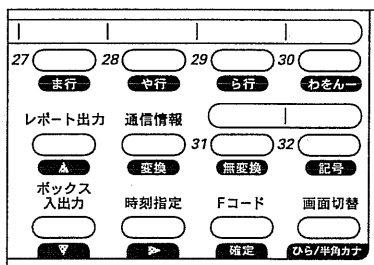
グループダイヤルに登録されている相手先の番号やグループ名は、グループダイヤルリストを出力することによって確認できます。

※グループダイヤルが全く登録されていない場合、グループダイヤルリストは出力されません。

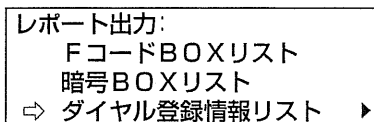
※操作を途中で中止するときには、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



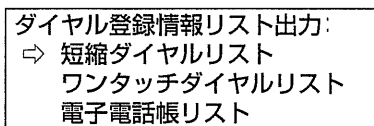
1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



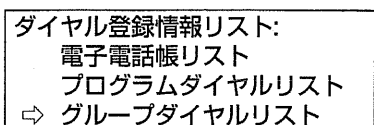
2. 上/下カーソルキーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを押して「グループダイヤルリスト」を選択してください。



5. OKキーを押してください。グループダイヤルリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※グループダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

プログラムダイヤル

同報送信やポーリング受信などのいろいろな通信形態の操作手順をワンタッチキーに登録しておく、プログラムとして使うことができます。相手先や通信時刻などがいづも固定の通信をよく行う場合には、操作を簡略できるので非常に便利です。

3つの通信形態の操作手順をプログラムとして登録することができます。

- A. 通常送信
- B. 順次同報送信
- C. ポーリング受信

<注意事項>

- ※グループダイヤルは、パターンBとCの相手先番号入力時のみ使用可能です。
- ※番号入力時にチェーンダイヤルとグループダイヤルを併用して使用することはできません。
- ※各通信パターンごとの詳細な注意事項などは、それぞれの機能通信の説明ページを参照してください。

<Fコード通信を行うときの相手先入力>

※相手先とFコード通信を行う場合、相手先ファクス番号が同じであっても、指定したFコード親展ボックスが違えば、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

※すでに入力した同じ相手先（Fコード通信は指定していない）があるときでも、Fコード通信を指定した場合は異なる相手先とみなされ、その相手先番号の入力が可能となります。ただし、相手先番号の入力は両方ともテンキーで行う必要があります。

※すでにテンキーで入力した同じ相手先（Fコード通信を指定した）があるときでも、その同じ相手先番号を登録したFコード通信用のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使う場合は異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

※同一のファクス番号が登録された短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルを使ってそれぞれ入力を行うときは、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

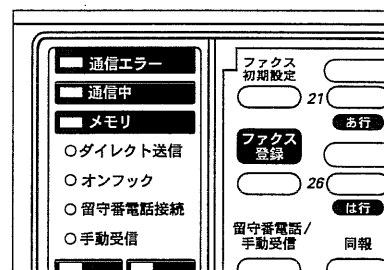
(1) 登録のしかた

- ※32個のワンタッチキー全てにプログラムダイヤルを登録することができます。
- ※プログラム名称は、省略することもできますが、登録しておく、電子電話帳機能を使って検索するときに役立ちます。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



FAX登録:
終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

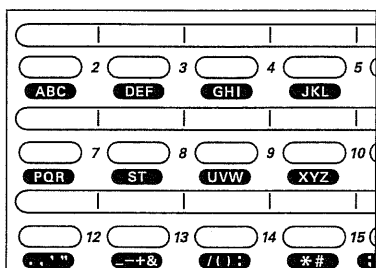
2. 上/下カーソルキーを押して、“プログラムダイヤル登録”を選択してください。

FAX登録:
短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録
⇒ プログラムダイヤル登録

3. OKキーを押してください。

プログラム: _
ワンタッチキーを押して下さい

4. 未登録のワンタッチキーを押してください。
※プログラムは押したワンタッチキーのところに登録されます。



プログラム:04:モード選択
⇒ 送信
同報
ポーリング受信

5. 希望の通信パターンの操作手順へ進んでください。

- A. 通常送信このページ
B. 順次同報送信P4-31
C. ポーリング受信.....P4-33

A. 通常送信 (手順5から続く)

6. メッセージ表示で“送信”が選択されていることを確認してください。
※選択されていないときは、上/下カーソルキーで選択してください。

プログラム:04:モード選択
⇒ 送信
同報
ポーリング受信

7. OKキーを押してください。

タイマー通信:
⇒ ON
OFF

8. 開始時刻を指定するかどうかを上/下カーソルキーを使って選択してください。
>開始時刻を指定する場合は“ON”を選択し、次の手順9へ進んでください。
>開始時刻を指定しない場合は“OFF”を選択し、手順11へ進んでください。

9. OKキーを押してください。

10. テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。
※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。

通信時刻:17:00
通信時刻を入力して下さい

11. OKキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

12. 相手先のファクス番号を入力してください。
※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順13~16の操作を省略することができます。

13. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。
>Fコードキーを押したときは、次の手順14へ進んでください。
>Fコードキーを押さないときは、手順17へ進んでください。

14. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: 6635_	(20桁)
サブアドレスを入力して下さい	

15. OKキーを押してください。

パスワード: _	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

16. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順17へ進んでください。

パスワード: 3856_	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

17. 確定キーを押してください。

※入力した内容が正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

18. プログラム名称を入力してください。

※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(P1-28「文字の入力」参照)

⇒ 入力終了 *京セラ
入力終了選択⇒確定キー

19. 確定キーを押してください。

電話帳タグ選択:
⇒ あ か さ

20. 上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。

電話帳タグ選択:
あ
⇒ か
さ

21. OKキーを押してください。入力した内容がプログラムとして登録されます。

>引き続き別のプログラムの登録を行うときは、P4-30の手順4に戻ってください。

>これでプログラムの登録を終了するときはリセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

B. 順次同報送信 (P4-30の手順5から続く)

6. 上/下カーソルキーを使って“同報”を選択してください。

プログラム:04:モード選択 送信
⇒ 同報
ポーリング受信

7. OKキーを押してください。

タイマー通信:
⇒ ON
OFF

8. 開始時刻を指定するかどうかを上/下カーソルキーを使って選択してください。

>開始時刻を指定する場合は“ON”を選択し、次の手順9へ進んでください。

>開始時刻を指定しない場合は“OFF”を選択し、手順11へ進んでください。

9. OKキーを押してください。

10. テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。

通信時刻:17:00
通信時刻を入力して下さい

11. OKキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

12. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。

Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順13~16の操作を省略することができます。

13. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。

>Fコードキーを押したときは、P4-32の手順14へ進んでください。

>Fコードキーを押さないときは、P4-32の手順17へ進んでください。

14. Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: 6635_	(20桁)
サブアドレスを入力して下さい	

15. OKキーを押してください。

パスワード: —	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

16. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順17へ進んでください。

パスワード: 3856_	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

17. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

18. 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

>まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、P4-31の手順12に戻ってください。

>相手先の入力が全て終わったときは、次の手順19へ進んでください。

19. OKキーを押してください。

入力終了
⇒ *■
[] 全角漢字
名称を入力後「入力終了」⇒確定

20. プログラム名称を入力してください。

※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(P1-28「文字の入力」参照)

⇒ 入力終了
*京セラ
入力終了選択⇒確定キー

21. 確定キーを押してください。

電話帳タグ選択:
⇒ あ
か
さ

22. 上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。

電話帳タグ選択:
あ
⇒ か
さ

23. OKキーを押してください。入力した内容がプログラムとして登録されます。

>引き続き別のプログラムの登録を行うときは、P4-30の手順4に戻ってください。

>これでプログラムの登録を終了するときはリセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

C. ポーリング受信 (P4-30の手順5から続く)

6. 上/下カーソルキーを使って“ポーリング受信”を選択してください。

プログラム:04:モード選択 送信 同報 ⇨ ポーリング受信

7. OKキーを押してください。

タイマー通信: ⇨ ON OFF

8. 開始時刻を指定するかどうかを上/下カーソルキーを使って選択してください。

>開始時刻を指定する場合は“ON”を選択し、次の手順9へ進んでください。

>開始時刻を指定しない場合は“OFF”を選択し、手順11へ進んでください。

9. OKキーを押してください。

10. テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、時刻表示は“00:00”にクリアされます。

通信時刻:17:00
通信時刻を入力して下さい

11. OKキーを押してください。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

12. 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、電子電話帳機能を使用することもできます。

Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順13~16の操作を省略することができます。

13. Fコード通信を行うときは、Fコードキーを押してください。

>Fコードキーを押したときは、次の手順14へ進んでください。

>Fコードキーを押さないときは、手順17へ進んでください。

※入力した内容が正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

14. Fコード通信で使用使用するサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、0~9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: 6635_	(20桁)
サブアドレスを入力して下さい	

15. OKキーを押してください。

パスワード: -	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

16. 必要であれば、Fコード通信パスワードを入力してください。

※Fコード通信パスワードは、0~9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

※Fコード通信パスワードを入力しないときは、次の手順17へ進んでください。

パスワード: 3856_	(20桁)
パスワードを入力して下さい	

17. OKキーを押してください。

※入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多い場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

☎: _
FAX番号を入力して下さい

18. 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

>まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順12に戻ってください。

>相手先の入力が全て終わったときは、次の手順19へ進んでください。

19. OKキーを押してください。

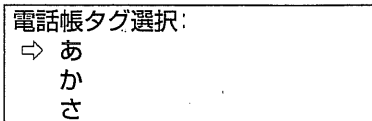
入力終了 ⇨ *■	全角漢字
[]	名称を入力後「入力終了」→確定

20. プログラム名称を入力してください。

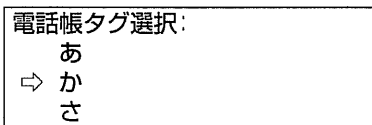
※全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(P1-28「文字の入力」参照)

⇨ 入力終了 *京セラ
入力終了選択→確定キー

21. 確定キーを押してください。



22. 上/下カーソルキーを押して画面をスクロールさせ、電話帳タグを選択してください。



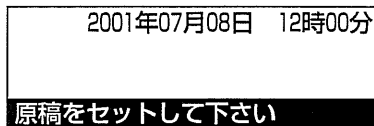
23. OKキーを押してください。入力した内容がプログラムとして登録されます。

>引き続き別のプログラムの登録を行うときは、P4-30の手順4に戻ってください。

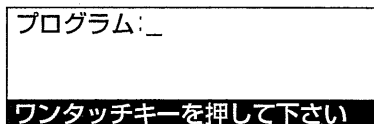
>これでプログラムの登録を終了するときにはリセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 登録内容の変更と削除のしかた

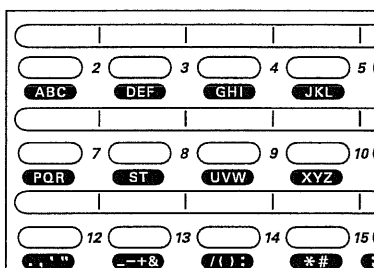
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. P4-29 「(1) 登録のしかた」の手順1~3の操作を行ってください。



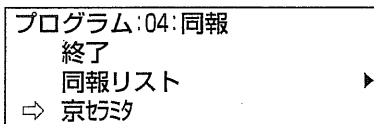
2. 対象となるプログラムダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



3. 「>登録内容を変更するとき」、 「>プログラムダイヤルを削除するとき」それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

①上/下カーソルキーを使って変更したい内容を選択してください。



②OKキーを押してください。

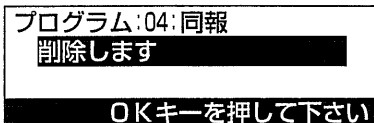
※個々の内容の変更手順については、P4-29 「(1) 登録のしかた」を参考にして操作を行ってください。

③手順①の画面に戻れば上カーソルキーで“終了”を選択してOKキーを押してください。

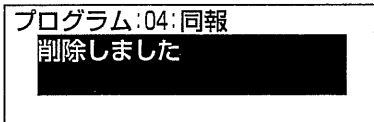
>プログラムダイヤルを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。

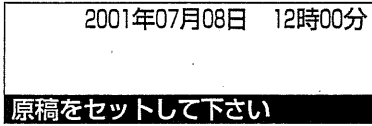


②OKキーを押してください。

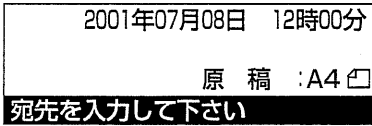


4. 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

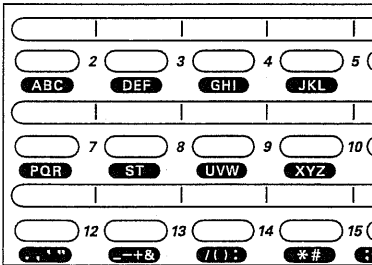
(3) 使いかた



1. 原稿を送信する場合は、原稿をセットしてください。

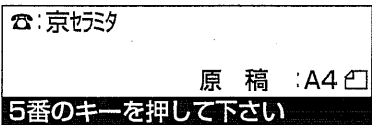


2. 使いたいプログラムダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



※機械は登録されたプログラムの内容にしたがって送信や受信を行います。

※ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示される場合は、P6-10「ダイヤル確認設定」が“ON”になっています。



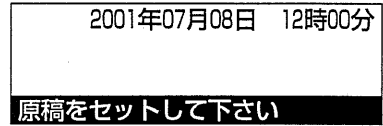
相手先名などの登録内容を確認して、下に表示されている数字をテンキーで入力してください。原稿の読み込みを開始します。

(4) プログラムダイヤルリストの出力

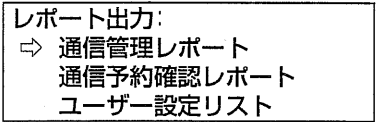
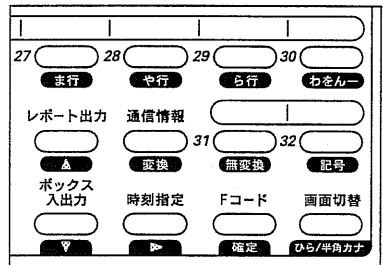
現在登録しているプログラムの内容は、プログラムダイヤルリストを出力することによって確認できます。

※プログラムが全く登録されていない場合、プログラムダイヤルリストは出力されません。

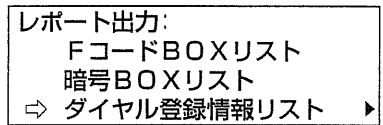
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



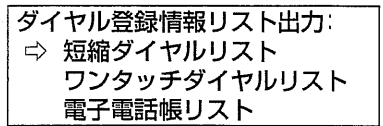
1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



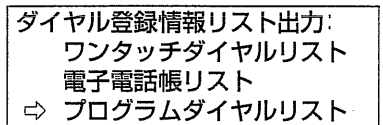
2. 上/下カーソルキーを押して“ダイヤル登録情報リスト”を選択してください。



3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを押して“プログラムダイヤルリスト”を選択してください。



5. OKキーを押してください。プログラムダイヤルリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※プログラムが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

パスワードチェック通信

パスワード条件を満足する送信や受信だけを行えるようにする機能です。この機能を使うと、送信または受信できる相手先を限定することができます。

具体的には、事前にパスワード（許可TEL番号/許可ID番号）を登録し、パスワードチェック通信を行う旨の設定を行っておきます。送信操作時や受信時は、この機能についての特別な操作の必要はなく、通常通りの操作を行います。そして、実際に送信や受信が開始されたとき、パスワード条件を満足する送信や受信は正常に行われますが、条件を満足しない送信や受信はエラーとなります。

※パスワードチェック通信は、下記の<前提条件>や<パスワード通信成立条件>をよくお読みになり、送信や受信を可能にする相手先とも事前によく打ち合わせの上で行うようにしてください。

<前提条件>

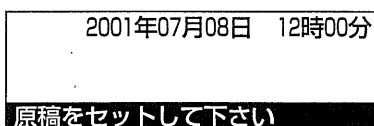
- ※自機にパスワード（許可TEL番号または許可ID）を登録しておく必要があります。
- ※相手側機に自局TEL番号または自局IDが登録されている必要があります。
- ※あらかじめパスワード通信設定を行う必要があります。
(P4-39 「(5) パスワードチェック送信設定」、P4-40 「(6) パスワードチェック受信設定」参照)

<パスワード通信成立条件>

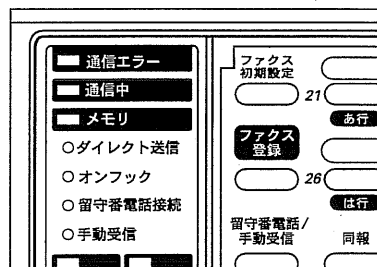
- ※自機に登録されている許可TEL番号と相手先の自局TEL番号とが一致するとき。
- ※自機に登録されている許可IDと相手先の自局IDとが一致するとき。
- ※自機（送信側）に登録された短縮またはワンタッチダイヤルを使って相手先（受信側）に送信した場合に、その登録されている番号の下4桁と受信側のファクス番号の下4桁が一致するとき。（手動送信時を除く）
- ※受信が行われる場合に、自機（受信側）の短縮またはワンタッチダイヤルに登録されている相手先番号の下4桁が、送信側のファクス番号の下4桁と一致するとき。

(1) 許可TEL番号の登録

- ※最大5個の許可TEL番号を登録することができます。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



FAX登録:
終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを押して、“自局情報登録”を選択してください。

FAX登録:
暗号BOX登録
暗号鍵登録
⇒ 自局情報登録 ▶

3. OKキーを押してください。

自局情報登録:
終了
⇒ ☎:
自局名称 :

4. 上/下カーソルキーを押して、“許可TEL”を選択してください。

```

自局情報登録：
ダイヤルFAX :0000
ダイヤルTEL  :0000
⇒ 許可TEL
    
```

5. OKキーを押してください。

```

許可TEL：
  終了
⇒ #1:1111
  #2:
    
```

6. 上/下カーソルキーを使って、#1～#5の登録エリアの中から未登録のエリアを選択してください。

```

許可TEL：
  #1:1111
  #2:
⇒ #3:
    
```

7. OKキーを押してください。

```

#3:_
(20桁)
許可番号を入力して下さい
    
```

8. 許可TEL番号として登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

※許可TEL番号は0～9までの数字で、最大20桁まで入力できます。

```

#3:0003_
(20桁)
許可番号を入力して下さい
    
```

9. OKキーを押してください。入力した番号が許可TEL番号として登録されます。

```

許可TEL：
  #1:1111
  #2:
⇒ #3:0003
    
```

>引き続き別の許可TEL番号の登録を行うときは、手順6～9を繰り返してください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(2) 許可TEL番号の変更/削除

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. P4-36「(1) 許可TEL番号の登録」の手順1～5の操作を行ってください。

```

許可TEL：
  終了
⇒ #1:1111
  #2:
    
```

2. 上/下カーソルキーを使って、変更あるいは削除したい許可TEL番号を選択してください。

```

許可TEL：
  #1:1111
  #2:
⇒ #3:0003
    
```

3. 変更あるいは削除の操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

①OKキーを押してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、表示されていた番号はクリアされます。

```

#3:0003_
(20桁)
許可番号を入力して下さい
    
```

②許可TEL番号として新たに登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

※許可TEL番号は0～9までの数字で、最大20桁まで入力できます。

```

#3:3333_
(20桁)
許可番号を入力して下さい
    
```

③OKキーを押してください。

>許可TEL番号を削除するとき

ストップ/クリアキーを押してください。許可TEL番号が削除されます。

```

許可TEL：
  #1:1111
  #2:
⇒ #3:
    
```

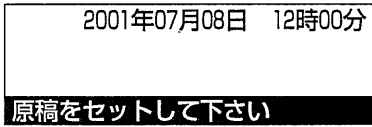
4. 変更や削除が全て終了すれば、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

※引き続き別の許可TEL番号の変更や削除を行うときは、手順2に戻ってください。

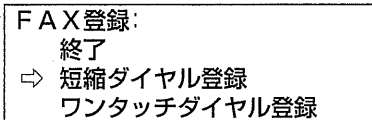
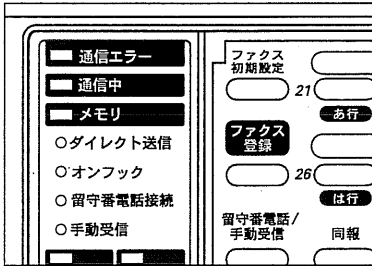
(3) 許可IDの登録

※最大5個の許可IDを登録することができます。

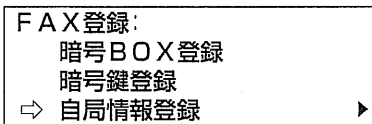
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



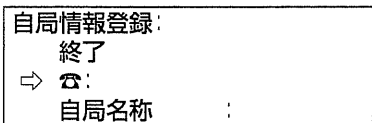
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。
メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを押して、“自局情報登録”を選択してください。



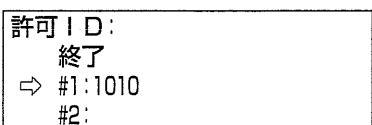
3. OKキーを押してください。



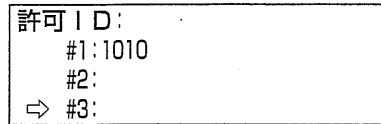
4. 上/下カーソルキーを押して、“許可ID”を選択してください。



5. OKキーを押してください。



6. 上/下カーソルキーを使って、#1～#5の登録エリアの中から未登録のエリアを選択してください。



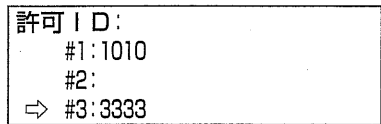
7. OKキーを押してください。



8. 許可IDとして登録したい番号をテンキーを使って入力してください。
※許可IDは0～9までの数字を使って4桁で入力してください。



9. OKキーを押してください。入力した番号が許可IDとして登録されます。



>引き続き別の許可IDの登録を行うときは、手順6～9を繰り返してください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

部門管理

部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、最大50部門までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。各部門ごとの送信回数などはレポートを出力して確認することができます。

※部門コードは、あらかじめ登録しておく必要があります。

(P4-50 「(5) 部門コードの登録」参照)

>部門管理の対象となる通信形態は次の通りです。

- ・ 通常送信
- ・ 時刻指定送信
- ・ 順次同報送信
- ・ Fコード中継指示送信
- ・ ポーリング通信
- ・ Fコード親展通信
- ・ Fコード掲示板通信
- ・ 暗号送信
- ・ 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信/手動受信

<使用機能の制限>

部門管理機能では、一般の利用者が部門コードを、管理責任者が管理パスワードを使用することによって、一般の利用者が使える機能に制限を与えることができます。

>部門コードを入力した場合に使用できる機能としては、次のものがあります。

- ・ 通常送信
- ・ 時刻指定通信
- ・ 順次同報送信
- ・ Fコード中継指示送信
- ・ ポーリング通信
- ・ Fコード親展通信
- ・ Fコード掲示板通信
- ・ 暗号送信
- ・ メモリ編集機能
- ・ 通信予約確認レポート
- ・ 部門管理レポート

>管理パスワードを入力した場合には、各種登録や設定、レポート出力などの全ての機能が使用可能です。

<注意事項>

※「電話をかける」、「通信結果表示」、「通信管理レポート出力」は、部門コードや管理パスワードの入力なしでも行うことができます。

※部門管理モード設定時、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。(P1-16 「(8) 一括送信機能」参照)

※部門管理レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合、50通信ごとに部門管理レポートが自動的に出力されます。(P6-2 「レポート出力設定」参照)

※通常、発信元記録には自局名称が印字されますが、部門管理モード設定時に部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印字されます。ただし、管理パスワードを入力して送信した場合は、自局名称が印字されます。

(1) 使用前の準備

1. 部門コードが未登録の場合は、部門コードを登録してください。

(P4-50 「(5) 部門コードの登録」参照)

※部門コードの登録時には、管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13 「管理パスワードの登録」参照)

#03:3363

部門コードを入力して下さい

2. 部門管理設定で“ON”を選択してください。

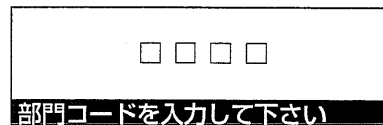
(P4-53 「(8) 部門管理モードの設定」参照)

部門管理:

⇒ ON
*OFF

(2) 部門管理モード設定時の初期画面

ファクスモードに切り替えたとき、メッセージ表示には下に示すメッセージが表示されています。



この状態のときに行える操作としては次のものがあります。

- ・ 通信管理レポートの出力
- ・ 通信結果の表示
- ・ 電話をかける
- ・ 相手先からのダイヤル呼び出しに応答した場合の手動送信/手動受信

6. OKキーを押してください。パスワードチェック送信設定が終了します。

パスワードチェック通信:	
終了	
⇒ 送信	: ON
受信	: OFF

7. 上/下カーソルキーを使って“終了”を選択してください。

パスワードチェック通信:	
⇒ 終了	
送信	: ON
受信	: OFF

8. OKキーを押してください。FAX設定のメニュー画面に戻ります。

FAX設定:	
発信元記録	: 原稿外側
レポート出力	▶
⇒ パスワードチェック通信	▶

9. 上カーソルキーを使って“終了”を選択してください。

FAX設定:	
⇒ 終了	
回線	: プッシュ
発信元記録	: 原稿外側

10. OKキーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

(6) パスワードチェック受信設定

パスワードチェック受信を設定しておくこと、受信できる相手先を限定することができます。(P4-36参照)

※許可TEL番号と許可IDが全く登録されていない場合、この設定を行ってもパスワードチェック受信は行われません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分	
原稿をセットして下さい	

1. P4-39「(5) パスワードチェック送信設定」の手順1~3の操作を行ってください。

パスワードチェック通信:	
終了	
⇒ 送信	: OFF
受信	: OFF

2. 上/下カーソルキーを使って“受信”を選択してください。

パスワードチェック通信:	
終了	
送信	: OFF
⇒ 受信	: OFF

3. OKキーを押してください。

パスワードチェック受信:	
⇒ ON	
*OFF	

4. 上/下カーソルキーを使って“ON”または“OFF”のどちらかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※パスワードチェック受信を行う場合は、“ON”を選択してください。

5. OKキーを押してください。パスワードチェック受信設定が終了します。

パスワードチェック通信:	
終了	
送信	: OFF
⇒ 受信	: ON

6. 上/下カーソルキーを使って“終了”を選択し、OKキーを押してください。FAX設定のメニュー画面に戻ります。

FAX設定:	
発信元記録	: 原稿外側
レポート出力	▶
⇒ パスワードチェック通信	▶

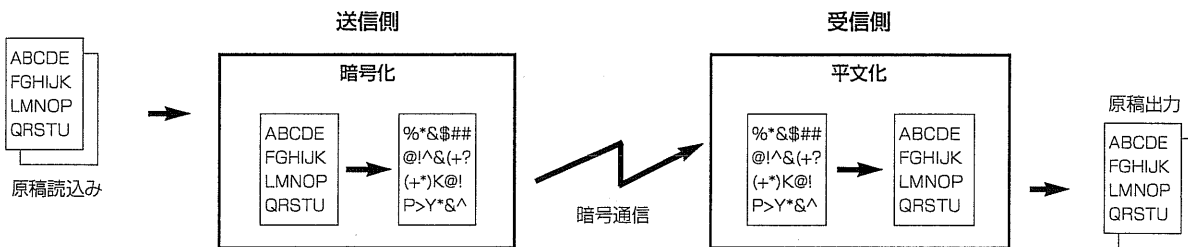
7. 上カーソルキーを使って“終了”を選択し、OKキーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

暗号通信

送信機側で原稿を暗号化して通信を行う方法です。通信途中が暗号化されるので、第三者が何らかの方法で送信原稿を盗み見ようとした場合でも、本当の原稿の内容を知ることはできません。送られた原稿は、受信側で元の原稿に戻して(平文化されて)印字出力されます。第三者には絶対に知られたくないような極秘の機密文書などを送る際に非常に有効な通信方法です。

※暗号通信を行うためには、相手側ファクスも本機と同じ機種である必要があります。

※暗号通信では、原稿の暗号化と平文化を行うために、送信側と受信側で同じ16桁の暗号鍵を使用します。暗号鍵が送信側と受信側で合致しない場合、暗号通信は成立しません。暗号通信を行うときは、送信側と受信側で事前に取り決めを行い、両者で同じ暗号鍵を2桁の鍵番号と一緒に登録しておく必要があります。



(1) 暗号鍵の登録

暗号鍵は、送信側では暗号通信用として使用する短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルの登録時に、受信側では暗号通信用の暗号ボックスを登録する際に必要になります。

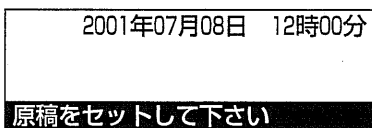
暗号鍵は、0～9までの数字とアルファベットのA～Fの文字を任意に16個列べて作成します。作成した暗号鍵には、01～20の2桁の鍵番号をつけて登録します。

※暗号鍵は最大20個まで登録することができます。

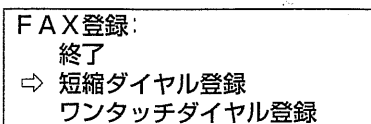
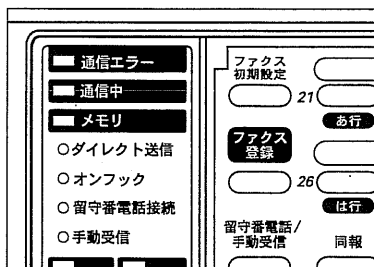
※すでに登録されている暗号鍵の変更を行う場合も同様の操作を行ってください。

※管理パスワードはP6-13「管理パスワードの登録」で登録されているものを使用してください。

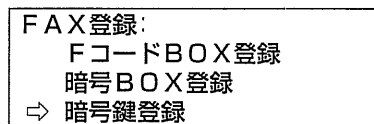
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



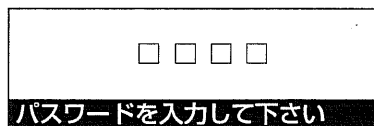
1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



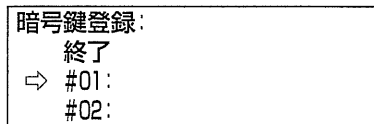
2. 上/下カーソルキーを押して、「暗号鍵登録」を選択してください。



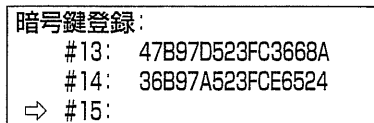
3. OKキーを押してください。



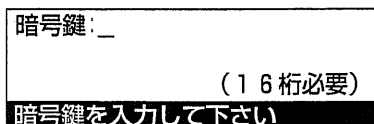
4. テンキーを使って、管理パスワード(4桁)を入力してください。
※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。



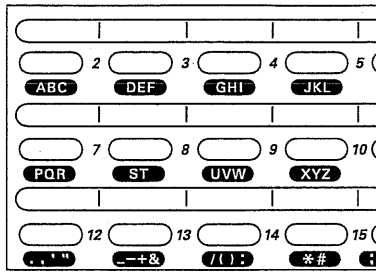
5. 上/下カーソルキーを使って、#01～#20までの中で未登録の鍵番号を選択してください。



6. OKキーを押してください。



7. ワンタッチキーを使って、登録したい暗号鍵を16桁で入力してください。



暗号鍵: 676F4AF0676E89B2
 (16桁必要)
 暗号鍵を入力して下さい

①暗号鍵の作成

暗号鍵の作成には、0~9までの数字とアルファベットのA~Fの文字を使用し、それらを任意に16桁分入力したものが暗号鍵となります。入力にはワンタッチキーを使用します。ワンタッチキーへの文字の配置は下記のとおりです。

ワンタッチキーNo.	配置文字
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	A
11	B
12	C
13	D
14	E
15	F
16	0

②暗号鍵と鍵番号について

作成した暗号鍵は、鍵番号(01~20の2桁の数字)のもとに登録します。暗号通信時に使用する暗号鍵の指定は、この鍵番号を使って行われます。

※暗号通信により受信した原稿を出力するためには、送信側で指定した暗号鍵と受信側の暗号用親展ボックスに設定される暗号鍵が合致していなければなりません。鍵番号は合致している必要はありません。例えば、送信側で“鍵番号18”、“暗号鍵ABFE468C2569D341”が登録され、それが暗号通信において指定されている場合に、受信側が同じ内容の暗号鍵を鍵番号“鍵番号09”で登録している場合でも、暗号用親展ボックスに“鍵番号09”を設定しておけば、暗号鍵自体は合致するため暗号通信が成立し、原稿を正しく出力することができます。

8. OKキーを押してください。入力した内容が暗号鍵として登録されます。

※引き続き別の暗号鍵の登録を行うときは、手順5~8を繰り返してください。

暗号鍵登録:
 #13: 47B97D523FC3668A
 #14: 36B97A523FCE6524
 ⇨ #15: 676F4AF0676E89B2

9. 上/下カーソルキーを使って“終了”を選択してください。

暗号鍵登録:
 ⇨ 終了
 #01:
 #02:

10. OKキーを押してください。

FAX登録:
 FコードBOX登録
 暗号BOX登録
 ⇨ 暗号鍵登録

※リセットキーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

(2) 暗号鍵の削除

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. P4-41 [(1) 暗号鍵の登録] の手順1~3の操作を行ってください。

□ □ □ □
部門コードを入力して下さい

2. テンキーを使って、管理パスワード (4桁) を入力してください。
 ※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

暗号鍵登録:
 終了
 ⇨ #01:
 #02:

3. 上/下カーソルキーを使って、削除したい暗号鍵を選択してください。

暗号鍵登録:
 #13: 47B97D523FC3668A
 #14: 36B97A523FCE6524
 ⇨ #15: 676F4AF0676E89B2

4. ストップ/クリアキーを押してください。

暗号鍵: #15
削除します
OKキーを押して下さい

5. OKキーを押してください。

暗号鍵登録:
 #13: 47B97D523FC3668A
 #14: 36B97A523FCE6524
 ⇨ #15:

>引き続き別の暗号鍵の削除を行うときは、手順3~5を繰り返してください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(3) 暗号ボックスの登録

暗号通信の受信側では暗号ボックスの登録が必要です。また、受信した際にすぐに自動出力を行うか別操作で出力を行うかも選択してください。

※暗号ボックスは最大15個まで登録できます。

※登録する際に入力する暗号ボックス番号はFコード親展ボックスのサブアドレスやFコード中継ボックスのサブアドレスと同じ番号は使用できません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。

<input type="checkbox"/> 通信エラー <input type="checkbox"/> 通信中 <input type="checkbox"/> メモリ <input type="checkbox"/> ダイレクト送信 <input type="checkbox"/> オンフック <input type="checkbox"/> 留守番電話接続 <input type="checkbox"/> 手動受信	ファクス 初期設定 27 実行 ファクス 登録 26 実行 留守番電話/ 手動受信 同報
---	--

FAX登録:
 終了
 ⇨ 短縮ダイヤル登録
 ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを使って“暗号BOX登録”を選択してください。

FAX登録:
 チャーンダイヤル登録
 FコードBOX登録
 ⇨ 暗号BOX登録

3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、未登録の登録エリアを選択してください。

暗号BOX登録:
 終了
 #01 1000
 ⇨ #02

5. OKキーを押してください。

BOX番号: Q000
BOX番号を入力して下さい

6. 暗号ボックスのボックス番号として登録する番号を入力してください。

※ボックス番号は、“0000”～“9999”の4桁の数字で入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

BOX番号:6764
BOX番号を入力して下さい

7. OKキーを押してください。

BOX ID:0000
BOX IDを入力して下さい

8. ボックスID番号として登録する番号を4桁で入力してください。

※ボックスID番号を“0000”で登録したときは、その暗号ボックスに対するチェックが行われません。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。

BOX ID:3446
BOX IDを入力して下さい

9. OKキーを押してください。

10. 暗号鍵番号として登録する番号を2桁で入力してください。

暗号鍵番号:16
暗号鍵番号を入力して下さい

11. OKキーを押してください。

12. 上/下カーソルキーを使って、即時出力をしようかどうか選択してください。

即時出力:
ON
⇒ OFF

13. OKキーを押してください。

>引き続き別の暗号ボックスの登録内容変更あるいはを削除を行うときは、手順4に戻ってください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(4) 暗号ボックスの登録内容変更/削除

※ボックスID番号は変更できません。

※暗号ボックスにデータがある場合は暗号ボックスは削除できません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. P4-43 「(3) 暗号ボックスの登録」の手順1～3を行ってください。

暗号BOX登録:
終了
⇒ #01 1000
#02 6764

2. 上/下カーソルキーを使って、登録内容の変更または削除を行う暗号ボックスを選択してください。

暗号BOX登録:
終了
#01 1000
⇒ #02 6764

3. 暗号ボックスの登録内容を変更する場合は「暗号ボックスの登録内容を変更するとき」、暗号ボックスの削除を行う場合は、「暗号ボックスを削除するとき」に進んでください。

>暗号ボックスの登録内容を変更するとき

①OKキーを押してください。

②登録されているボックスID番号4桁で入力してください。

BOX ID:3446
BOX IDを入力して下さい

③OKキーを押してください。

④上/下カーソルキーを使って、変更する項目を選択して、OKキーを押してください。

暗号BOX:#02
BOX番号 :6764
BOX ID :3446
⇒ 暗号鍵 :16

⑤P4-43 「(3) 暗号ボックスの登録」を参照して変更を行ってください。

⑥OKキーを押してください。手順③に戻ります。その他の設定を変更するときは手順④～⑥を行ってください。

⑦変更が終了したら上カーソルキーで“終了”を選択してください。

暗号BOX:#02
⇒ 終了
BOX番号 :6764
BOX ID :3446

>暗号ボックスを削除するとき

①ストップ/クリアキーを押してください。

BOX ID: 削除します
BOX IDを入力して下さい

②登録されているボックスID番号4桁で入力してください。

BOX ID:3446 削除します
BOX IDを入力して下さい

4. OKキーを押してください。登録内容の変更あるいは暗号ボックスの削除が終了します。
- >引き続き別の暗号ボックスの登録内容変更あるいはを削除を行うときは、手順2に戻ってください。
- >これで終了するとき、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(5) 送信側の操作

暗号送信を行う場合は、暗号通信用として登録した短縮ダイヤルまたはワンタッチダイヤルを使用して送信を行います。

※暗号送信は、単一宛先への送信のほか、順次同報送信、中継先から最終相手先への同報送信、中継先からの通信結果レポートの返送でも行うことができます。

※暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

- 受信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。
(P4-41「(1) 暗号鍵の登録」参照)
※すでに登録されている場合は、次の手順2に進んでください。
- 暗号通信用として使用するワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの登録を行ってください。(P1-32「ワンタッチダイヤル」、P1-36「短縮ダイヤル」参照)
※すでに登録されている場合は、次の手順3に進んでください。
- 原稿をセットしてください。
- 手順2で登録した短縮ダイヤルまたはワンタッチダイヤルを使って相手先のファクス番号を入力してください。
- 機械は送信のための動作を開始します。
※短縮またはワンタッチダイヤルで指定されている暗号鍵が自機に登録されていない場合はエラーとなり、送信は行われません。

(6) 受信側の操作

暗号通信を行う場合、受信側では以下の手順にしたがって操作を行ってください。

- ※暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. 送信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。
(P4-41 「(1) 暗号鍵の登録」参照)
※すでに登録されている場合は、次の手順2に進んでください。
2. 暗号通信用として使用する暗号ボックスの登録を行ってください。(P4-43 「(3) 暗号ボックスの登録」参照)
※すでに登録されている場合は、次の手順3に進んでください。
※原稿の出力方法については、<自動出力と手動出力>を参照してください。
3. 相手機側から暗号送信が行われます。暗号通信が正常に行われた場合、暗号原稿は受信の際に暗号化される前の状態に戻され(平文化)、受信機側に設定された暗号ボックスに入ります。
※暗号ボックス登録時に手動出力が選択されている場合は、次の手順4に進んでください。
※暗号ボックス登録時に自動出力が選択されている場合には、受信後、自動的に原稿が出力されます。
4. 受信した原稿を暗号ボックスから出力してください。
(P4-46 「(7) 暗号ボックスからの出力」参照)

<自動出力と手動出力>

受信側では、暗号ボックスの登録時、原稿の出力方法について次の2通りの選択ができます。(P4-43 「(3) 暗号ボックスの登録」参照)

●自動出力

受信後すぐに暗号ボックスから自動的に原稿を出力させる方法です。

●手動出力

受信後すぐには原稿を出力させず、いったん暗号ボックスに蓄積(記憶)させておき、出力したいときに、出力操作を行って原稿を出力する方法です。(P4-46 「(7) 暗号ボックスからの出力」参照)

※この方法は、暗号通信機能と親展機能とを合わせた形態といえます。原稿を出力できるのは、暗号ボックスのボックス番号とボックスIDを知っている人に限られるため、通信途中だけでなく自機への受信後も高い機密性を保持することができます。

(7) 暗号ボックスからの出力

相手先から自機の暗号ボックスへ送られた原稿は、下記の出力操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、暗号ボックス内の原稿データは消去されます。

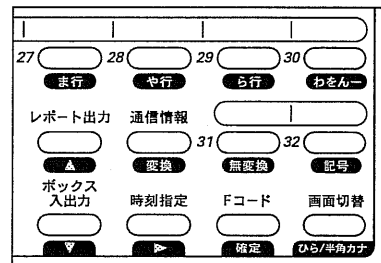
※暗号ボックスの登録時にボックスID番号を“0000”で登録したときは、暗号ボックスからの出力操作時にボックスID番号の入力が不要です。入力したボックス番号が正しければ、出力が行われます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ボックス入出力キーを押してください。メッセージ表示にボックス入出力画面が表示されます。



BOX入出力:

- ⇨ Fコード親展BOX入力
- Fコード親展BOX出力
- 暗号BOX出力

2. 上/下カーソルキーを使って“暗号BOX出力”を選択してください。

BOX入出力:

- Fコード親展BOX入力
- Fコード親展BOX出力
- ⇨ 暗号BOX出力

3. OKキーを押してください。

BOX番号:0000

BOX番号を入力して下さい

4. テンキーを使って、原稿を出力したい暗号ボックスのボックス番号(4桁)を入力してください。

BOX番号:4764

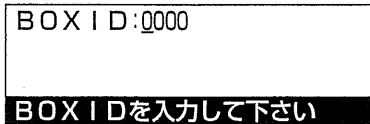
BOX番号を入力して下さい

5. OKキーを押してください。

※暗号ボックスの登録時にボックスID番号を“0000”で登録しているときは、この時点で暗号ボックスからの出力が開始されます。次の手順6以降の操作を行う必要はありません。

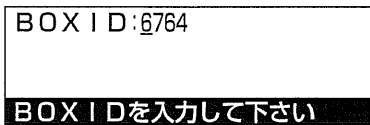
※暗号ボックスに原稿がないときは、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

※入力したボックス番号が登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はボックス番号の入力画面に戻ります。



6. ボックスID番号 (4桁) を入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した内容は“0000”にクリアされます。



7. OKキーを押してください。暗号ボックスからの出力が開始されます。

※入力したボックスID番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はボックスID番号の入力画面に戻ります。正しい番号を入力しなおしてください。

(8) 暗号鍵リストの出力

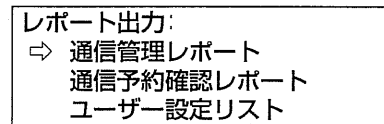
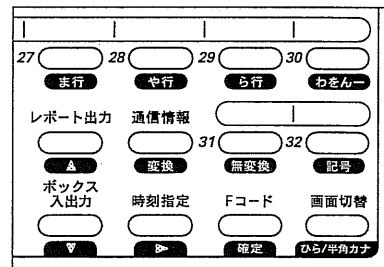
暗号通信時に使用される暗号鍵の登録内容は、暗号鍵リストを出力すれば確認できます。

※このリストの出力には、管理パスワードを入力する必要があります。入力されたパスワードがあらかじめ登録されているパスワードと一致しなければ、暗号鍵リストを出力することはできません。

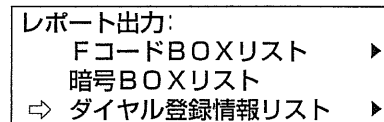
※暗号鍵が何も登録されていない場合、暗号鍵リストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

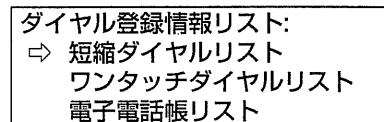
1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



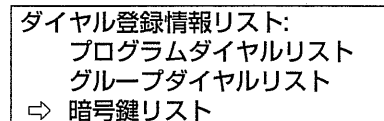
2. 上/下カーソルキーを押して“ダイヤル登録情報リスト”を選択してください。



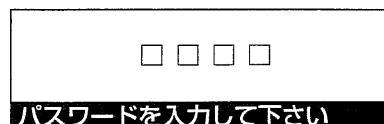
3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを押して“暗号鍵リスト”を選択してください。



5. OKキーを押してください。



6. テンキーを使って、管理パスワード (4桁) を入力してください。暗号鍵リストの出力が開始されます。

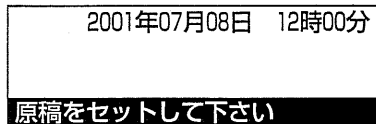
※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

(9) 暗号ボックスリストの出力

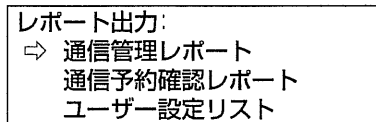
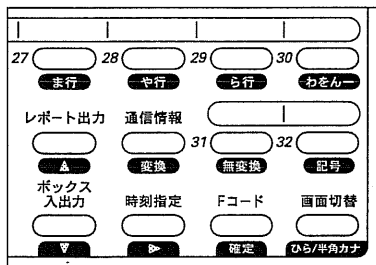
暗号ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、暗号ボックスリストを出力することによって確認できます。

※暗号ボックスが全く登録されていない場合、暗号ボックスリストは出力されません。

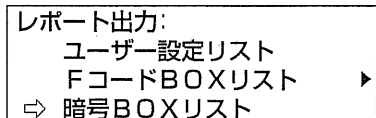
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを押して "暗号BOXリスト" を選択してください。



3. OKキーを押してください。

暗号ボックスリストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

※暗号ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

部門管理

部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、最大50部門までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。各部門ごとの送信回数などはレポートを出力して確認することができます。

※部門コードは、あらかじめ登録しておく必要があります。

(P4-50「(5) 部門コードの登録」参照)

>部門管理の対象となる通信形態は次の通りです。

- ・通常送信
- ・時刻指定送信
- ・順次同報送信
- ・Fコード中継指示送信
- ・ポーリング通信
- ・Fコード親展通信
- ・Fコード掲示板通信
- ・暗号送信
- ・本機より相手先ヘダイヤルした場合の手動送信/手動受信

<使用機能の制限>

部門管理機能では、一般の利用者が部門コードを、管理責任者が管理パスワードを使用することによって、一般の利用者が使える機能に制限を与えることができます。

>部門コードを入力した場合に使用できる機能としては、次のものがあります。

- ・通常送信
- ・時刻指定送信
- ・順次同報送信
- ・Fコード中継指示送信
- ・ポーリング通信
- ・Fコード親展通信
- ・Fコード掲示板通信
- ・暗号送信
- ・メモリ編集機能

>管理パスワードを入力した場合には、各種登録や設定、レポート出力などの全ての機能が使用可能です。

<注意事項>

※「電話をかける」、「通信結果表示」、「通信管理レポート出力」は、部門コードや管理パスワードの入力なしでも行うことができます。

※部門管理モード設定時、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。(P1-16「(8) 一括送信機能」参照)

※部門管理レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合、50通信ごとに部門管理レポートが自動的に出力されます。(P6-2「レポート出力設定」参照)

※通常、発信元記録には自局名称が印字されますが、部門管理モード設定時に部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印字されます。ただし、管理パスワードを入力して送信した場合は、自局名称が印字されます。

(1) 使用前の準備

1. 部門コードが未登録の場合は、部門コードを登録してください。(P4-50「(5) 部門コードの登録」参照)

※部門コードの登録時には、管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

#03:3363

部門コードを入力して下さい

2. 部門管理設定で“ON”を選択してください。

(P4-53「(8) 部門管理モードの設定」参照)

部門管理:
⇒ ON
*OFF

(2) 部門管理モード設定時の初期画面

ファクスモードに切り替えたとき、メッセージ表示には下に示すメッセージが表示されています。

□ □ □ □

部門コードを入力して下さい

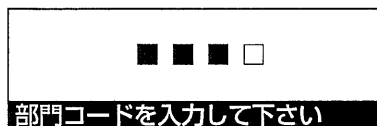
この状態のときに行える操作としては次のものがあります。

- ・通信管理レポートの出力
- ・通信結果の表示
- ・電話をかける
- ・相手先からのダイヤル呼び出しに応答した場合の手動送信/手動受信

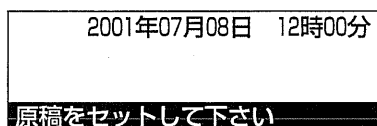
(3) コードの入力

※部門コードや管理パスワードは、あらかじめ登録しておく必要があります。(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

1. 部門コードまたは管理パスワードをテンキーを使って4桁で入力してください。



※入力したコードが、登録されている部門コードまたは管理パスワードと一致した場合、メッセージ表示にはファクスモードの初期メッセージが表示されます。

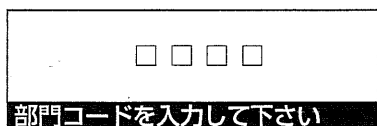


※入力したコードが登録されている部門コードや管理パスワードと一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押すと、メッセージ表示は部門コードの入力画面に戻ります。正しいコードを入力しなおしてください。

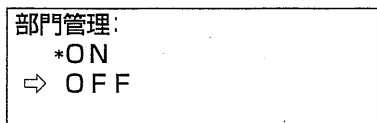
2. 送信や受信などの操作を行ってください。

(4) 部門管理モードの解除

1. 管理パスワードをテンキーを使って4桁で入力してください。



2. 部門管理設定で“OFF”を選択してください。(P4-53「(8) 部門管理モードの設定」参照)



(5) 部門コードの登録

部門管理機能を使用するためには、自機にあらかじめ部門コードを登録しておく必要があります。

部門コードは、0~9までの数字を使って4桁の任意の番号として登録してください。最大50個の部門コードを登録することができます。

※部門コードの登録には管理パスワードの入力が必要です。

※部門コードは部門管理モード設定の“ON”、“OFF”に関係なく登録することができます。一度登録した部門コードや部門名称は、部門管理モード設定を“OFF”にしていた場合でも設定を“ON”に戻せば再び使用することができます。

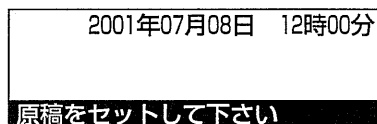
※登録した部門名称は変更できますが、部門コードは変更できません。部門コードを変更したい場合は、一度削除した後、新たに登録しなおしてください。(P4-52「(6) 部門名称の変更」,「(7) 部門コードの削除」参照)

※登録された部門コードや部門名称は、部門一覧リストを出力すれば確認することができます。(P4-54「(10) 部門一覧リストの出力」参照)

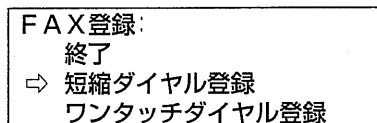
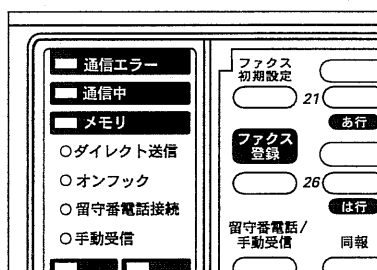
※部門管理モード設定時、部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が発信元記録の一部として受信側に送信されます。

※同一の部門コードを複数登録することはできません。また、管理パスワードに使用されている番号を部門コードとして登録することもできません。

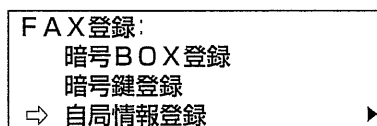
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開き、ファクス登録キーを押してください。メッセージ表示にFAX登録のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを押して、“自局情報登録”を選択してください。



3. OKキーを押してください。

自局情報登録: 終了 ⇨ 局名: 自局名称 :

4. 上/下カーソルキーを押して、“部門コード”を選択してください。

自局情報登録: 個別ID :0000 日時 :12:00 ⇨ 部門コード ▶

5. OKキーを押してください。

□ □ □ □ パスワードを入力して下さい

6. テンキーを使って、管理パスワード(4桁)を入力してください。
 ※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

■ ■ ■ ■ パスワードを入力して下さい

7. 上/下カーソルキーを使って、#01~#50の登録エリアの中から未登録のエリアを選択してください。

部門コード: #01: #02: ⇨ #03:

8. OKキーを押してください。

#03:0000 部門コードを入力して下さい

9. 部門コードとして登録したい番号をテンキーを使って入力してください。
 ※部門コードは0~9までの数字を使って4桁で入力してください。

#03:3363 部門コードを入力して下さい

10. OKキーを押してください。

入力終了 ⇨ *■ [] 全角漢字 名称を入力後「入力終了」→確定

11. 部門名称を全角または半角文字のどちらかで入力してください。(P1-28「文字の入力」参照)
 ※全て全角の場合は最大16文字まで、全て半角の場合は最大32文字まで入力できます。
 ※ここで入力した名称が相手機側で発信元記録として印字されます。
 ※ストップ/クリアキーを押すと、入力した名称はクリアされます。

⇨ 入力終了 *京セラ 営業 入力終了選択→確定キー

12. 確定キーを押してください。

入力終了 ⇨ *■ 半角カタ 名称を入力後「入力終了」→確定

13. 部門名称を半角文字だけで入力してください。(P1-28「文字の入力」参照)
 ※半角カタカナと半角の英数大文字小文字の入力が可能で、最大32文字まで入力できます。
 ※ストップ/クリアキーを押すと、入力した名称はクリアされます。

⇨ 入力終了 *キョセラ イテイヨ 入力終了選択→確定キー

14. 確定キーを押してください。入力した部門コードと部門名称が登録されます。

部門コード: #01: #02: ⇨ #03:3363:京セラ 営業

>引き続き別の部門コードの登録を行うときは、手順7~14を繰り返してください。
 >これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(6) 部門名称の変更

一度登録した部門名称を変更するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※部門名称の変更には管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. P4-50「(5) 部門コードの登録」の手順1～6の操作を行ってください。

2. 上/下カーソルキーを使って、該当する部門コードを選択してください。

部門コード:
 #01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ #03:3363:京セラ 営業

3. OKキーを押してください。

入力終了
 ⇨ *京セラ 営業
 [] 全角漢字
名称を入力後「入力終了」→確定

4. P4-50「(5) 部門コードの登録」を参照して、変更したい部門名称を全角または半角文字で入力してください。

⇨ 入力終了
 *京セラ 総務
入力終了選択→確定キー

5. 確定キーを押してください。

入力終了
 ⇨ *キョセラ イ件`ヨ
 [] 半角カタ
名称を入力後「入力終了」→確定

6. P4-50「(5) 部門コードの登録」を参照して、変更したい部門名称を半角文字で入力してください。

⇨ 入力終了
 *キョセラ ソム
入力終了選択→確定キー

7. 確定キーを押してください。変更入力した部門名称が登録されます。

部門コード:
 #01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ #03:3363:京セラ 総務

>引き続き別の部門名称の変更を行うときは、手順2～7を繰り返してください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(7) 部門コードの削除

登録した部門コードを削除したいときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※部門名称の変更には管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. P4-50「(5) 部門コードの登録」の手順1～6の操作を行ってください。

2. 上/下カーソルキーを使って、削除したい部門コードを選択してください。

部門コード:
 #01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ #03:3363:京セラ 営業

3. ストップ/クリアキーを押してください。

※削除を中止するときは、もう一度ストップ/クリアキーを押してください。

部門コード:#03
削除します
OKキーを押して下さい

4. OKキーを押してください。部門コードが削除されます。

部門コード:
 #01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ #03:

>引き続き別の部門コードを削除するときは、手順2～4を繰り返してください。

>これで終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(8) 部門管理モードの設定

部門管理モードを設定するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※部門コードの設定には管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. カバープレートを開き、ファクス初期設定キーを押してください。メッセージ表示にFAX設定のメニュー画面が表示されます。

FAX設定:	
終了	
⇒ 回線	: ブッシュ
発信元記録	: 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“部門管理”を選択してください。

FAX設定:	
Fネット無鳴動受信: OFF	
電話帳タグ	: かな
⇒ 部門管理	: OFF

3. OKキーを押してください。

□ □ □ □	
パスワードを入力して下さい	

4. テンキーを使って、管理パスワード(4桁)を入力してください。
※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

■ ■ ■ ■	
パスワードを入力して下さい	

5. 上/下カーソルキーを使って“ON”または“OFF”のどちらかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※部門管理を設定するときは、“ON”を選択してください。

部門管理:	
⇒ ON	
*OFF	

6. OKキーを押してください。部門管理モードの設定が終了します。

FAX設定:	
Fネット無鳴動受信: OFF	
電話帳タグ	: かな
⇒ 部門管理	: ON

7. リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

(9) 部門管理レポートの出力

部門管理の対象となる通信について、その通信の履歴を各部門ごとに分けてレポート出力することができます。出力にあたって、見たい部門の分だけ出力することも、登録されている全部門の分を出力することもできます。

※部門管理モード設定時以外は、このレポートは出力できません。

また、出力のためには管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

※部門管理の対象となる通信が全く行われていない場合、部門管理レポートは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

□ □ □ □	
部門コードを入力して下さい	

1. 管理パスワードを入力してください。

※入力内容が正しければ、ファクスの初期メッセージが表示されます。

2001年07月08日 12時00分	
原稿をセットして下さい	

2. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。

27	28	29	30
ま行	や行	ら行	わをんー
レポート出力	通信情報		
		31	32
▲	変換	無変換	記号
ボックス	時刻指定	Fコード	画面切替
入出力			
▽	▶	確定	ひら/半角カナ

レポート出力:	
⇒ 通信管理レポート	
部門管理レポート	▶
通信予約確認レポート	

3. 上/下カーソルキーを使って、“部門管理レポート”を選択してください。

レポート出力:	
通信管理レポート	
⇒ 部門管理レポート	▶
通信予約確認レポート	

4. OKキーを押してください。

部門管理レポート:	
終了	
⇒ 全部門	
*#01:3682:京セミタ 営企室	

5. 上/下カーソルキーを使って、通信履歴を見たい部門を選択してください。

部門管理レポート:
 *#01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ #03:3363:京セラ 営業

>出力したい部門だけを選択するときは、繰り返し複数部門の選択が可能です。

>全部門の通信状況を見たいときは、“全部門”を選択してください。

※メッセージ表示の“*”はすでに選択され、レポート出力されることを示しています。

※すでに選択されている部門のレポート出力を解除したいときは、その部門を再度選択してください。“*”マークが消えます。

部門管理レポート:
 *#01:3682:京セラ 営企室
 #02:
 ⇨ *#03:3363:京セラ 営業

6. OKキーを押してください。メッセージ表示に“*”が表示され、その部門の通信状況がレポート出力されるようになります。

部門管理レポート:
 ⇨ 終了
 全部門
 *#01:3682:京セラ 営企室

>引き続き別の部門を選択するときは、手順5~6を繰り返してください。

>これで選択を終了するときは、次の手順7へ進んでください。

※複数部門選択したときは、選択した部門全てに“*”マークが表示されます。

※通信履歴のない部門を選択したときは、エラーメッセージが表示されます。

7. 上/下カーソルキーを使って、“終了”を選択してください。

8. OKキーを押してください。部門管理レポートの出力が開始されます。

(10) 部門一覧リストの出力

登録された部門コードや部門名称は、部門一覧リストを出力して確認することができます。

※部門管理モード設定時以外は、このレポートは出力できません。

また、出力のためには管理パスワードの入力が必要です。

(P6-13「管理パスワードの登録」参照)

※部門コードが全く登録されていない場合、部門一覧リストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

□ □ □ □
部門コードを入力して下さい

1. 管理パスワードを入力してください。

※入力内容が正しければ、ファクスの初期メッセージが表示されます。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

2. カバープレートを開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。

レポート出力:
 ⇨ 通信管理レポート
 部門管理レポート
 通信予約確認レポート

3. 上/下カーソルキーを押して“ダイヤル登録情報リスト”を選択してください。

レポート出力:
 Fコードボックスリスト ▶
 暗号BOXリスト
 ⇨ ダイヤル登録情報リスト ▶

4. OKキーを押してください。

ダイヤル登録情報リスト出力:
 ⇨ 短縮ダイヤルリスト
 ワンタッチダイヤルリスト
 電子電話帳リスト

5. 上/下カーソルキーを押して“部門一覧リスト”を選択してください。

ダイヤル登録情報リスト出力:
 プログラムダイヤルリスト
 グループダイヤルリスト
 ⇨ 部門一覧リスト

6. OKキーを押してください。

□ □ □ □
パスワードを入力して下さい

7. テンキーを使って、管理パスワード(4桁)を入力してください。部門一覧リストの出力が開始されます。

※入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。OKキーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

第5章

通信情報の管理

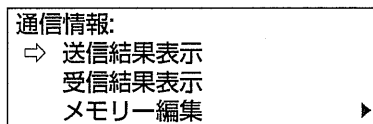
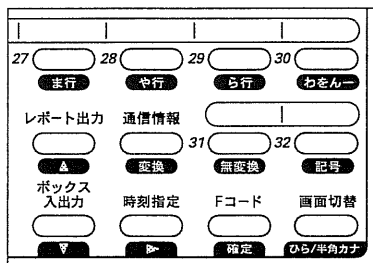
通信結果表示

最近行われた通信の結果を知りたいとき、メッセージ表示で確認することができます。メッセージ表示には、送信／受信別にそれぞれ最大10件までの通信情報が表示されます。確認できる内容は、文書番号、通信日、通信時刻、通信先名、通信ページ数、通信種類、通信結果です。

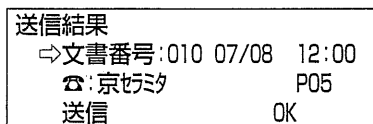
(1) 送信結果表示

最近行われた送信の情報を最大10件までメッセージ表示で確認することができます。

1. カバープレート開き、通信情報キーを押してください。通信情報メニュー画面が表示されます。



2. “送信結果表示” が選択されていることを確認し、OKキーを押してください。最新の送信文書の結果が表示されます。



3. 下カーソルキーを押すと、表示中のものより前に行われた送信の情報が、上カーソルキーを押すと後に行われた送信情報が順次表示されます。

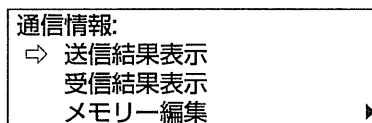
4. 確認が終了したら、OKキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

※表示可能な一番古い送信の情報が表示されているときに下カーソルキーを押すと、終了のメニューが表示されます。そのままOKキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

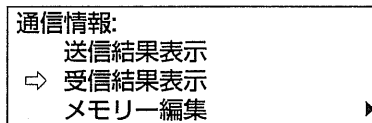
(2) 受信結果表示

最近行われた受信の情報を最大10件までメッセージ表示で確認することができます。

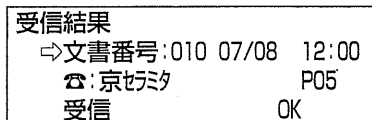
1. カバープレート開き、通信情報キーを押してください。通信情報メニュー画面が表示されます。



2. 下カーソルキーを押して“受信結果表示”を選択してください。



3. OKキーを押してください。最新の受信文書の結果が表示されます。



4. 下カーソルキーを押すと、表示中のものより前に行われた受信の情報が、上カーソルキーを押すと後に行われた受信情報が順次表示されます。

5. 確認が終了したら、OKキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

※表示可能な一番古い受信の情報が表示されているときに下カーソルキーを押すと、終了のメニューが表示されます。そのままOKキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

管理レポートの出力

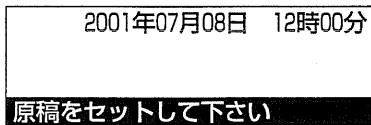
通信結果やファクス機能についての設定状況などがわかる管理レポート類（通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト）の出力方法を説明しています。これらのレポートやリストは、見たいときにいつでも出力させることができます。

(1) 通信管理レポート

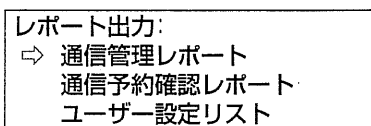
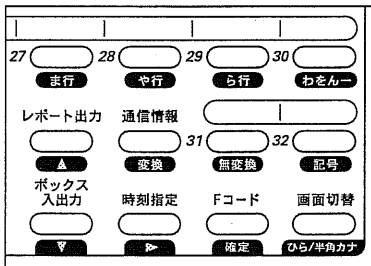
通信管理レポートを出力することにより、本機で行われた送信や受信の状況を確認することができます。送・受信を合わせて、最近通信が行われた50件までの情報が印字出力されます。

※通信が全く行われていない場合、通信管理レポートは出力されません。

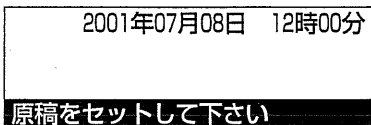
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレート開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



2. “通信管理レポート”が選択されていることを確認した後、OKキーを押してください。通信管理レポートの出力が開始されます。※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

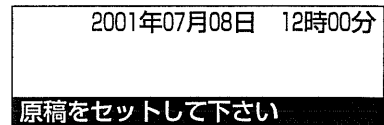


(2) 通信予約確認レポート

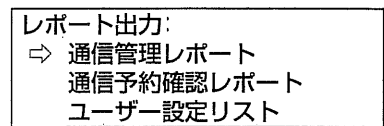
通信予約確認レポートを出力することにより、メモリー内で待機している送信や受信の状況を確認することができます。

※時刻指定した通信やポーリング送信待機原稿が全くない場合、通信予約確認レポートは出力されません。

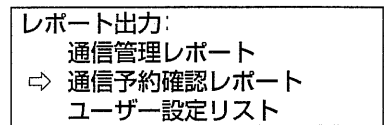
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



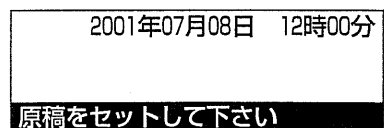
1. カバープレート開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。



2. 上/下カーソルキーを使って、“通信予約確認レポート”を選択してください。



3. OKキーを押してください。通信予約確認レポートの出力が開始されます。※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。



(3) ユーザー設定リスト

ユーザー設定リストを出力することにより、ユーザー自身が本機に設定した内容（電話回線種別等）や登録した内容（自局名称等）を確認することができます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. カバープレート開き、レポート出力キーを押してください。メッセージ表示にレポート出力のメニュー画面が表示されます。

レポート出力:
⇒ 通信管理レポート
通信予約確認レポート
ユーザー設定リスト

2. 上/下カーソルキーを使って、“ユーザー設定リスト”を選択してください。

レポート出力:
通信管理レポート
通信予約確認レポート
⇒ ユーザー設定リスト

3. OKキーを押してください。ユーザー設定リストの出力が開始されます。

※メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

第6章

各種設定と登録

レポート出力設定

送信や受信が正しく行われたかどうかや通信の予約内容を確認するために、5種類のレポートを出力できます。各レポートともそれぞれ自動出力させたり、自動出力を禁止したりすることができます。

<通信管理レポート>

一定回数の通信が行われた後にそれらの通信内容をレポートにして出力します。

<部門管理レポート>

部門管理の対象となる通信について、その通信状況を登録されている部門ごとにまとめてレポート出力します。

<送信結果レポート>

送信が行われた後、送信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

※特定条件時（通信エラー、順次同報送信、時刻指定送信、暗号送信）のみ出力させることができます。

<受信結果レポート>

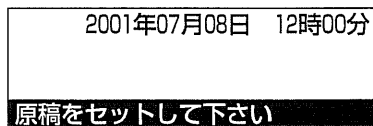
受信が行われた後、受信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

※特定条件時（通信エラー、ポーリング受信、暗号受信、Fコード親展受信）のみ出力させることができます。

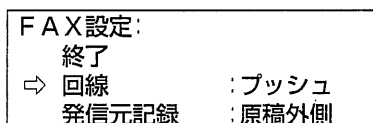
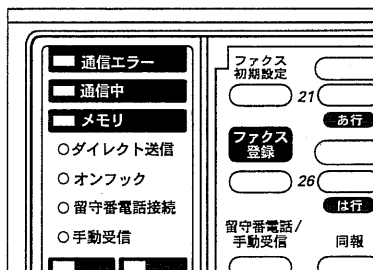
<タイマー予約レポート>

時刻指定をして通信予約を行った後にその予約内容をレポートにして出力します。

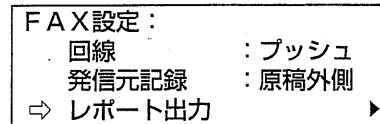
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



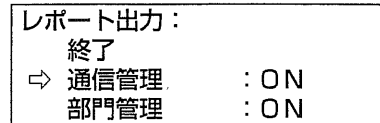
1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って、“レポート出力”を選択してください。

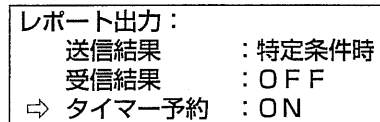


3. OKキーを押してください。

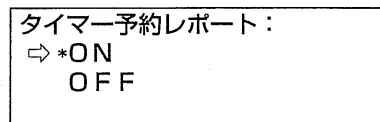


4. 上/下カーソルキーを使って、設定を行いたいレポートを選択してください。

※ここでは、例としてタイマー予約レポートを選択します。



5. OKキーを押してください。

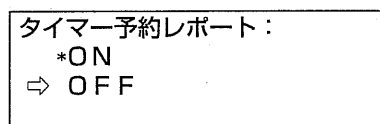


6. 上/下カーソルキーを使って、そのレポートを自動で出力するかどうかを選択してください。

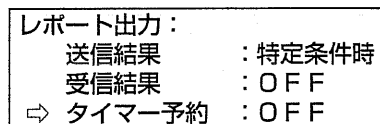
※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※自動出力するときは、“ON”を選択してください。

※手順4で“送信結果”、“受信結果”を選択したときは、“特定条件時のみ出力”が選択できます。左記の特定条件時のみ出力します。



7. OKキーを押してください。そのレポートの出力設定が終了します。



>引き続き他のレポートの出力設定を行うときは、手順4～7を繰り返してください。

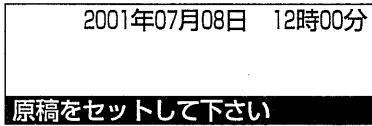
>他項目の設定を行うときは、“終了”を選択した後、OKキーを押してください。

>設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

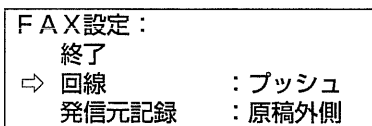
掲示板設定

掲示板機能を使用すると、同じ原稿をポーリング受信したいとの要求が複数の相手先からあった場合でも、一度メモリからのポーリング送信の準備をするだけで、それらの相手先への送信が可能になります。掲示板機能を使用するためには、あらかじめ設定を行う必要があります。(P4-7「(1) ポーリング送信」参照)

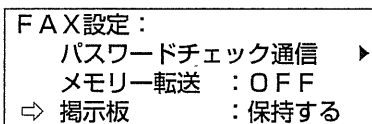
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



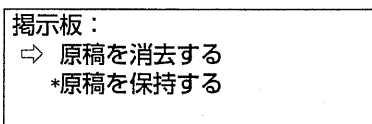
1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って“掲示板”を選択してください。



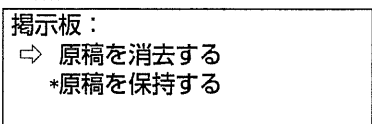
3. OKキーを押してください。



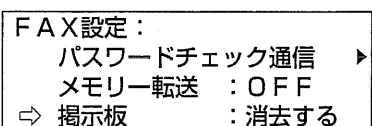
4. 上/下カーソルキーを使って、掲示板機能を使用する、しないを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※掲示板機能を使用するときは、“原稿を保持する”を選択してください。ポーリング送信後、原稿は消去されずに再び待機中の状態で保持されます。“原稿を消去する”を選択したときはメモリ内の原稿は消去されます。



5. OKキーを押してください。掲示板設定が終了します。

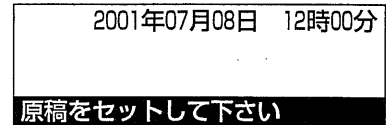


※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

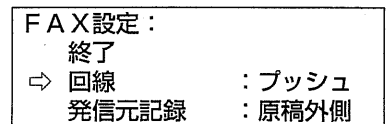
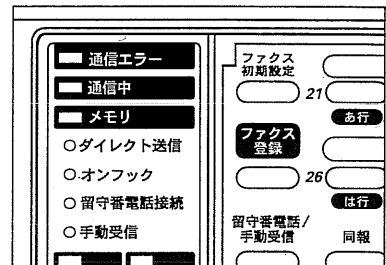
呼出回数設定

本機の受信モードがFAX専用自動受信に設定されているときに、相手先からの呼出しに対して応答するまでの呼出回数を1～15回の範囲内で設定することができます。

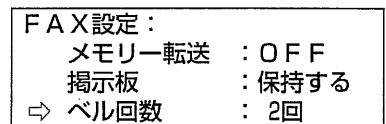
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



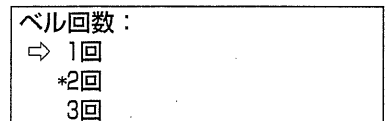
1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って“ベル回数”を選択してください。

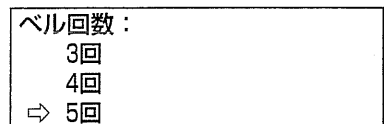


3. OKキーを押してください。

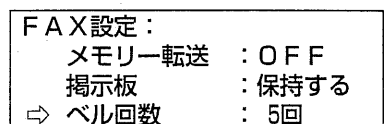


4. 上/下カーソルキーを使って、呼出回数を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。FAX専用自動受信モードの呼出回数設定が終了します。



※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

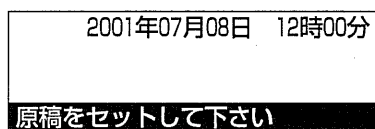
呼出回数設定 (FAX/留守番電話自動切替受信の場合)

市販の留守番機能付電話機を併用する場合のFAX/留守番電話自動切替受信モードで、留守番機能が使われないときにファクスに着信するまでの呼出回数を1~15回の範囲内で設定することができます。相手先からファクス原稿が送られてくると、ここで設定した回数だけ呼出しが行われた後、ファクスの受信に切り替わります。

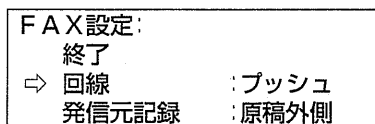
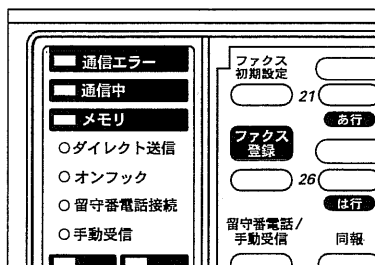
(P4-3「FAX/留守番電話自動切替受信」参照)

※呼出回数は電話機側で設定された呼出回数より多く設定してください。ご使用になられる電話機が呼出回数を設定できない場合には、本機側の呼出回数を15回に設定してください。

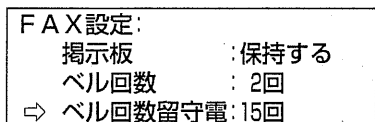
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



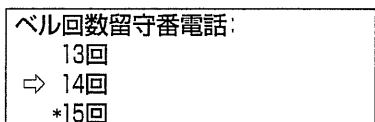
2. 上/下カーソルキーを使って“ベル回数留守電”を選択してください。



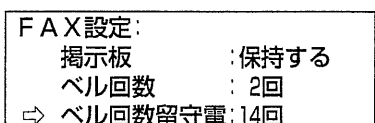
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、呼出回数を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。FAX/留守番電話自動切替受信モードの呼出回数設定が終了します。



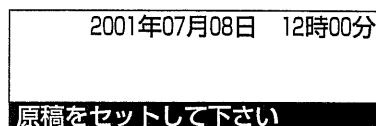
※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

呼出回数設定 (FAX/TEL自動切替受信の場合)

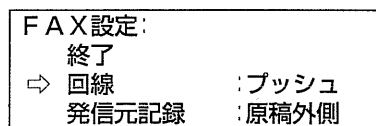
オプションのハンドセットや市販の電話機を接続して使用する場合のFAX/TEL自動切替受信モードで、ファクスで着信するまでの呼出回数を0~15回の範囲内で設定することができます。相手先からファクス原稿が送られてくると、ここで設定した回数だけ呼出しが行われた後、ファクスの受信に切り替わります。相手先が電話であれば再度呼出音が鳴ります。

(P4-2「FAX/TEL自動切替受信」参照)

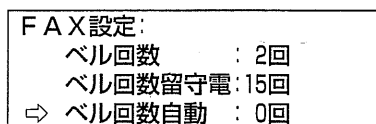
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



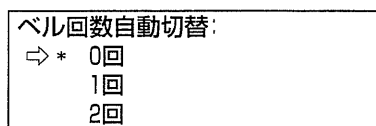
1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って“ベル回数自動”を選択してください。



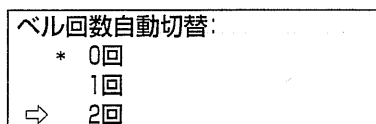
3. OKキーを押してください。



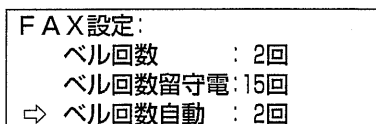
4. 上/下カーソルキーを使って、呼出回数を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※“0回”を選択した場合、相手先からの呼出しに対してすぐに応答します。



5. OKキーを押してください。FAX/TEL自動切替受信モードの呼出回数設定が終了します。



※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

音量調整

本機から聞こえるブザー音、モニタ音、スピーカ音のボリュームは調整することができます。

必要がなければ音を鳴らさなくすることもできます。

<ブザー音量調整>

通信エラー発生時になるエラー音（アラーム音）、操作パネルのキーを押したときになるキー音の音量を調整します。

<モニタ音量調整>

オンフックキーを使わずにオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

<スピーカ音量調整>

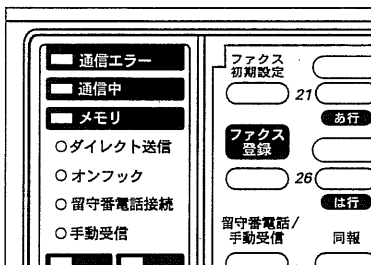
オンフックキーを押してオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



FAX設定:

終了
⇒ 回線 : プッシュ
発信元記録 : 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“音量調整”を選択してください。

FAX設定:

ベル回数自動: 0回
ダイヤル確認 : ON
⇒ 音量調整 ▶

3. OKキーを押してください。

音量調整:

終了
⇒ ブザー音量 : 小
モニター音量 : 中

4. 上/下カーソルキーを使って、音量を調整する項目を選択してください。

> “ブザー音量”を選択したとき

①OKキーを押してください。

ブザー音量:

⇒ OFF
*小
大

②上/下カーソルキーを使って、音量を選択してください。

※ブザー音量は“OFF”、“小”、“大”の中から選択できます。

“OFF”を選択すると、音が聞こえなくなります。

> “モニター音量”を選択したとき

①OKキーを押してください。

モニター音量:

⇒ OFF
小
*中

②上/下カーソルキーを使って、音量を選択してください。

※モニタ音量は“OFF”、“小”、“中”、“大”の中から選択できます。

“OFF”を選択すると、音が聞こえなくなります。

> “スピーカ音量”を選択したとき

①OKキーを押してください。

スピーカ音量:

⇒ OFF
*小
中

②上/下カーソルキーを使って、音量を選択してください。

※ブザー音量は“OFF”、“小”、“中”、“大”の中から選択できます。

“OFF”を選択すると、音が聞こえなくなります。

5. OKキーを押してください。メッセージ表示は“音量調整”メニューに戻ります。

音量調整:

終了
⇒ ブザー音量 : 大
モニター音量 : 小

>他項目の設定を行うときは、“終了”を選択した後、OKキーを押してください。

>設定を終了するときは、リセットキーを押してください。

機械は初期モードに戻ります。

DF読み込設定

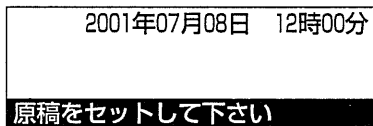
原稿をDFから読み込むとき、A4サイズなどの定形サイズとして読み込むか、長尺原稿（給紙される方向に長い原稿）として読み込むかのどちらかを事前に設定しておくことができます。

※両面原稿を送信するためには、“定形原稿”を選択しておく必要があります。（P2-2「両面送信」参照）

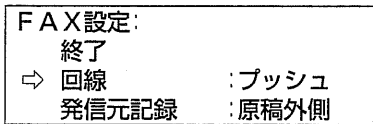
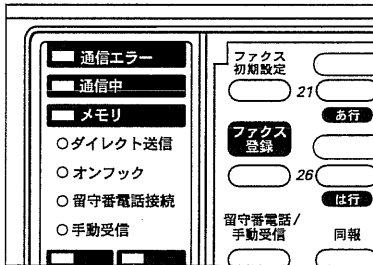
※“長尺原稿”を選択した場合、回転送信は行われません。

（P1-16「(9) 回転送信機能」参照）

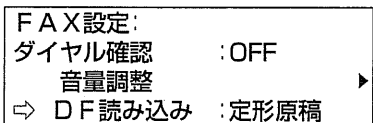
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



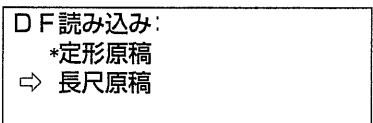
2. 上/下カーソルキーを使って“DF読み込み”を選択してください。



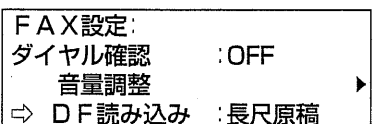
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、設定したい原稿の形態を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。DF読み込設定が終了します。



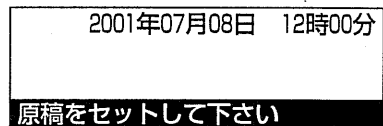
※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信モード設定

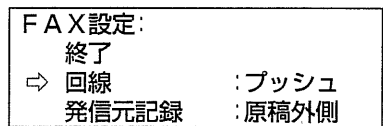
本機には4つの受信モードがあります。そのうちの手動受信モードとFAX/留守番電話自動切替受信モードを除く2つのモード（FAX専用自動受信・FAX/TEL自動切替受信）の中からどちらかを選んで設定しておく必要があります。

※手動受信の設定についてはP2-16を、FAX/留守番電話自動切替受信モードの設定についてはP4-3を参照してください。

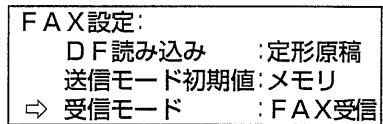
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



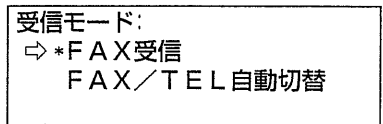
1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って“受信モード”を選択してください。

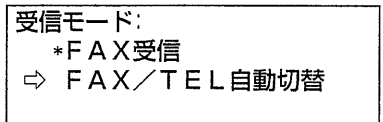


3. OKキーを押してください。

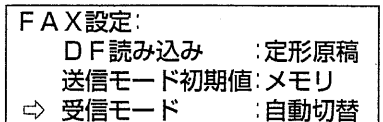


4. 上/下カーソルキーを使って、受信モードを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。受信モード設定が終了します。



※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信日時記録設定

受信日時記録は、受信原稿が出力されるときに、各ページの先頭に受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し印字する機能です。この機能を使うと、時差がある地域から原稿を受信したときに、こちら側の時間で受信した日時を見ることができるので非常に便利です。受信日時記録を印字するためには、事前に設定しておく必要があります。

※受信原稿が複数ページに分割出力されるときは、最初の1ページのみを受信日時記録が印字され、2ページ目以降には印字されません。

※メモリ転送設定時、転送先で出力される受信原稿には受信日時記録は印字されませんが、設定回数リダイヤルが行われたにもかかわらず、正常に転送されなかった場合、自機で出力される原稿には印字されます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。

FAX設定:
終了
⇒ 回線 : ブッシュ
発信元記録 : 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“受信日時記録”を選択してください。

FAX設定:
送信モード初期値:メモリ
受信モード : FAX受信
⇒ 受信日時記録 : OFF

3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、受信日時記録を印字するかどうか選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※受信日時記録を印字するときは、“ON”を選択してください。

受信日時記録:

⇒ ON
*OFF

5. OKキーを押してください。受信日時記録設定が終了します。

FAX設定:
送信モード初期値:メモリ
受信モード : FAX受信
⇒ 受信日時記録 : ON

※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

ファクス給紙設定

ファクスモードでは、受信した原稿を印字出力するときや、レポート/リスト類を出力するときの用紙の給紙モードとして、自動給紙、サイズ固定、カセット段固定の3つのモードがあります。

給紙モードは、これらの3つの中から選択することができます。

※メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されている場合、ファクス給紙設定を変更することはできません。

<自動給紙モード>

機械が自動で用紙を選択し給紙するモードです。

<サイズ固定モード>

受信サイズを指定し、その指定したサイズの用紙がセットされているカセットから出力するモードです。指定したサイズがセットされていない場合には代行受信が行われます。

※複数の用紙サイズの設定はできません。

※指定したサイズの用紙が2ヶ所以上にセットされている場合は、上段にあるカセットから優先して出力を行います。

<カセット段固定モード>

受信サイズに関係なく指定されたカセットから出力するモードです。指定したカセットに用紙がセットされていないときは、代行受信が行われます。

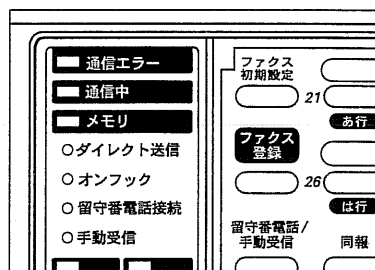
※複数のカセット段の設定はできません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分

原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。

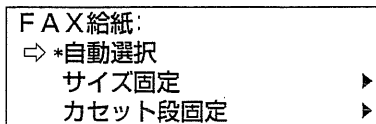


FAX設定:
終了
⇒ 回線 : ブッシュ
発信元記録 : 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“FAX給紙”を選択してください。

FAX設定:
受信モード : FAX受信
受信日時記録 : OFF
⇒ FAX給紙 : 自動選択

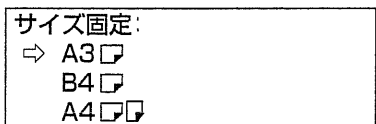
3. OKキーを押してください。



4. 上/下カーソルキーを使って、給紙モードを選択してください。
 ※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

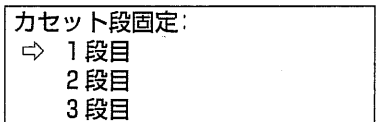
> “自動選択”を選択したとき
 手順5へ進んでください。

> “サイズ固定”を選択したとき
 ①OKキーを押してください。



②上/下カーソルキーを使って、指定したい用紙のサイズを選択してください。

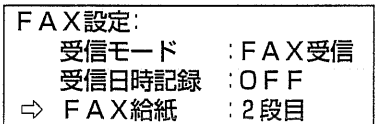
> “カセット段固定”を選択したとき
 ①OKキーを押してください。



②上/下カーソルキーを使って、指定したいカセット段を選択してください。

※カセットが装着されていなければ、使用不可を知らせるメッセージが表示され、選択できません。

5. OKキーを押してください。ファクス給紙設定が終了します。

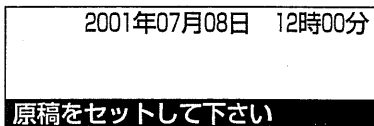


※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
 機械は初期モードに戻ります。

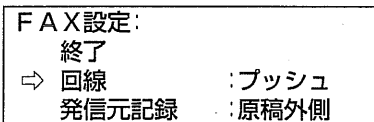
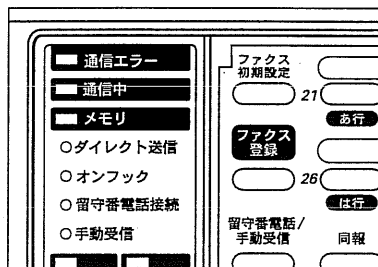
ツインワン 2 in 1 受信設定

2 in 1受信は、A5サイズの連続した受信原稿2ページをA4Rサイズの用紙1枚に印字出力させる機能です。

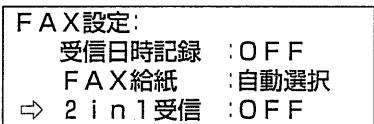
2 in 1受信を行うためには、事前に設定しておく必要があります。
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
 機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



2. 上/下カーソルキーを使って“2 in 1受信”を選択してください。

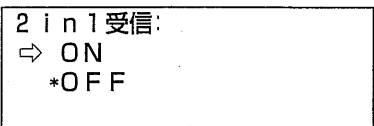


3. OKキーを押してください。

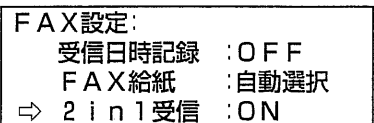
4. 上/下カーソルキーを使って、2 in 1受信を行うかどうかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※2 in 1受信を行うときは、“ON”を選択してください。



5. OKキーを押してください。2 in 1受信設定が終了します。



※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
 機械は初期モードに戻ります。

電話帳タグ設定

電子電話帳 (P1-40参照) で使用する電話帳タグは、“かな”と“数字”の2種類のうちのどちらかを選ぶことができます。

※ “かな”と“数字”それぞれの場合に使えるタグは次の通りです。

“かな” : あ、か、さ、た、な、は、ま、や、らわ、英数字

“数字” : 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。

<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 通信エラー <input type="checkbox"/> 通信中 <input type="checkbox"/> メモリ <input type="checkbox"/> ダイレクト送信 <input type="checkbox"/> オンプック <input type="checkbox"/> 留守番電話接続 <input type="checkbox"/> 手動受信 	ファクス 初期設定 <input type="text" value="27"/> あ行 ファクス 登録 <input type="text" value="26"/> は行 留守番電話/ 手動受信 同報
---	--

FAX設定:	
終了	
⇒ 回線	: プッシュ
発信元記録	: 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“電話帳タグ”を選択してください。

FAX設定:	
ダイヤルイン	: OFF
Fネット無鳴動受信	: OFF
⇒ 電話帳タグ	: かな

3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、電話帳タグの種類を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

電話帳タグ:	
*かな	
⇒ 数字	

5. OKキーを押してください。電話帳タグ設定が終了します。

FAX設定:	
ダイヤルイン	: OFF
Fネット無鳴動受信	: OFF
⇒ 電話帳タグ	: 数字

※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

リモート診断設定

本機で問題が発生したときにサービス実施店等に連絡をいただくと、弊社サービスセンターのコンピュータから電話回線を介して機械にアクセスし、その状況や問題点などを確認することができます。

※リモート診断機能を使用するときは、あらかじめサービス実施店と契約の上、決められた個別IDを本機に登録する必要があります。詳しくは弊社サービス実施店またはお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。(P6-12「個別ID登録」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。

FAX設定:	
終了	
⇒ 回線	: プッシュ
発信元記録	: 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“リモート診断”を選択してください。

FAX設定:	
電話帳タグ	: かな
部門管理	: OFF
⇒ リモート診断	: OFF

3. OKキーを押してください。

リモート診断:	
⇒ ON	
*OFF	

4. 上/下カーソルキーを使って、リモート診断機能を使用するかどうかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※リモート診断機能を使うときは、“ON”を選択してください。

5. OKキーを押してください。リモート診断設定が終了します。

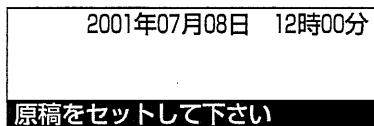
FAX設定:	
電話帳タグ	: かな
部門管理	: OFF
⇒ リモート診断	: ON

※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

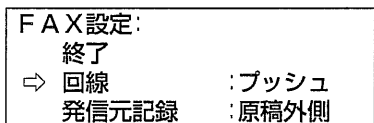
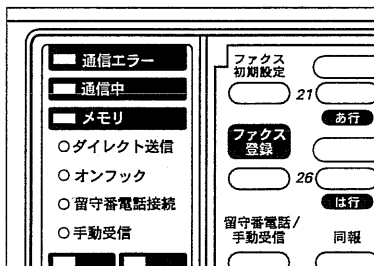
ダイヤル確認設定

ダイヤル確認設定を“ON”にするとしておくと、ワンタッチキーを使うダイヤル（ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル）使用時に相手先などの確認のメッセージが表示されます。相手先へのダイヤルが開始されるまでにメッセージ表示で一度確認することができるので、原稿を送ってはいけない相手先に誤って送信するのを未然に防ぐことができます。

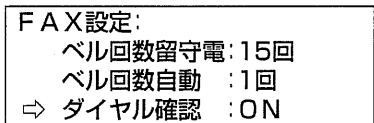
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



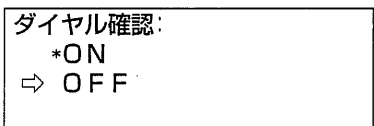
2. 上/下カーソルキーを使って“ダイヤル確認”を選択してください。



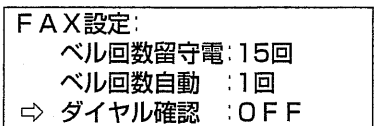
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、ダイヤル確認を行うかどうか選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。ダイヤル確認設定が終了します。



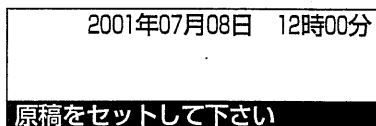
※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

送信モードの初期設定

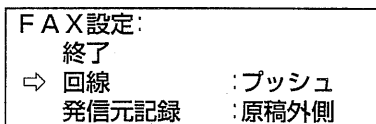
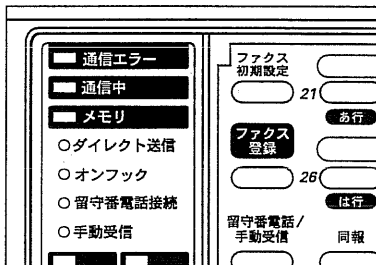
初期モードで選択される送信モードをメモリー送信、ダイレクト送信のうちから選択できます。

ここでダイレクト送信が選択されると、ダイレクト送信表示が点灯します。

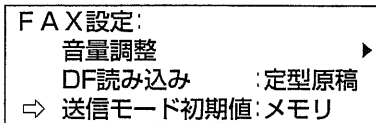
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



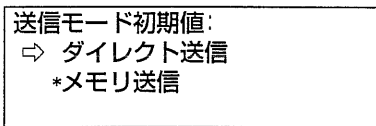
2. 上/下カーソルキーを使って“送信モード初期”を選択してください。



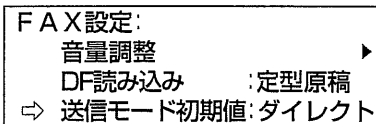
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、送信モードを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。送信モードの初期設定が終了します。



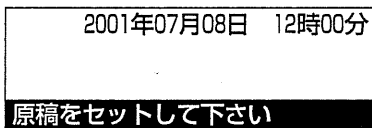
※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

Fネット無鳴動受信設定

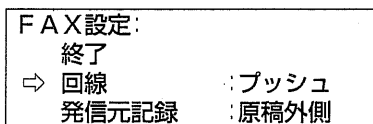
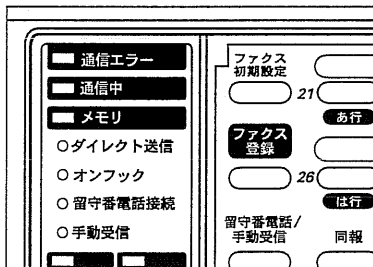
この設定は初期値がONになっていますので、設定を変更する場合は以下の手順にしたがってください。

※Fネット無鳴動受信に関しては、P1-17「Fネット無鳴動受信機能」を参照してください。

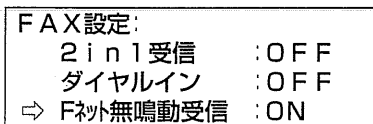
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



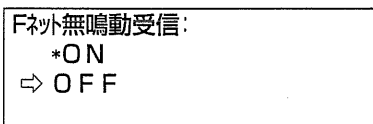
2. 上/下カーソルキーを使って“Fネット無鳴動受信”を選択してください。



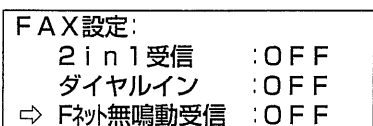
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、Fネット無鳴動受信を行うかどうかを選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。Fネット無鳴動受信設定が終了します。



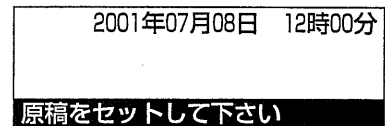
※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

年月日表示設定

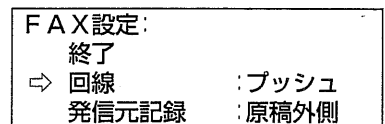
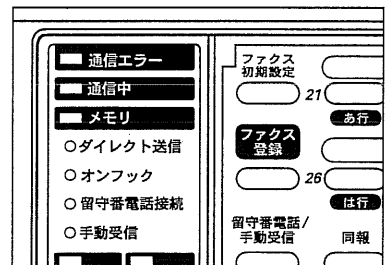
メッセージ表示、各種レポートの先頭および発信元記録における年、月、日の表示あるいは記録方法を設定します。“漢字”、“アルファベット”、“数字”から選択することができます。

【例】“漢字”：2001年07月08日 12時00分
“アルファベット”：2001-JUL-08 12:00
“数字”：2001-07-08 12:00

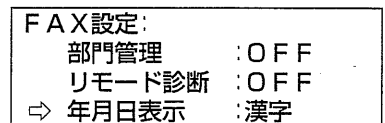
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。



1. カバープレートを開いて、ファクス初期設定キーを押してください。



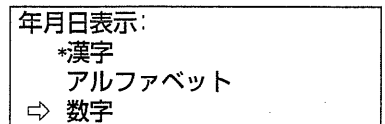
2. 上/下カーソルキーを使って“年月日表示”を選択してください。



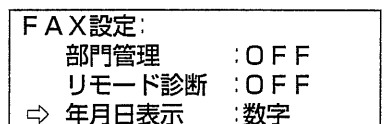
3. OKキーを押してください。

4. 上/下カーソルキーを使って、表示方法を選択してください。

※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。



5. OKキーを押してください。年月日表示設定が終了します。



※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

個別ID登録

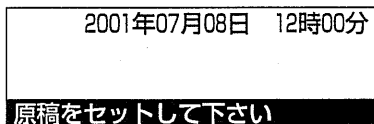
本機でリモート診断サービスを受けるときは、サービス実施店から指定された個別IDを登録する必要があります。

※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。

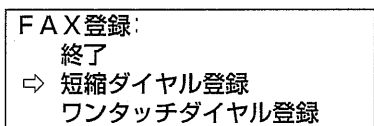
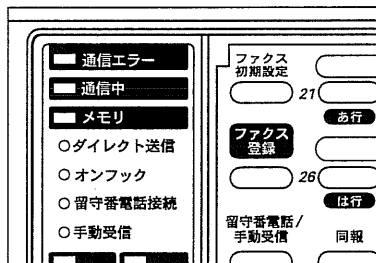
※特に登録をしなくても、初期値（0000）でリモート診断サービスを受けることができます。

※リモート診断を行うためには、P6-9「リモート診断設定」で“ON”を選択する必要があります。

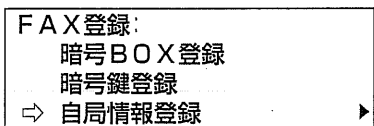
※操作を途中で中止するとき、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



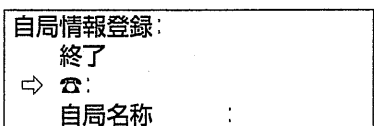
1. ファクス登録キーを押してください。



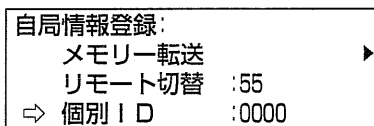
2. 上/下カーソルキーを使って“自局情報登録”を選択してください。



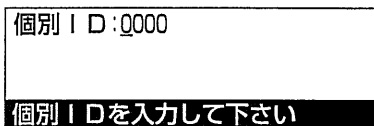
3. OKキーを押してください。



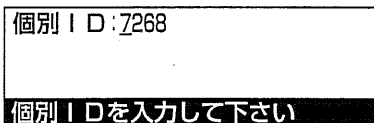
4. 上/下カーソルキーを使って“個別ID”を選択してください。



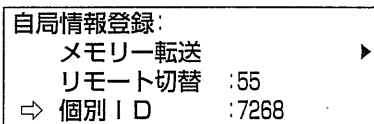
5. OKキーを押してください。



6. テンキーを使って、個別IDとして登録する番号を4桁の数字で入力してください。



7. OKキーを押してください。個別IDの登録が終了します。



※登録を終了するとき、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

管理パスワードの登録

本機では、ファクスモードでの使用を部門ごとに管理したり、暗号通信時のセキュリティを高める目的で、下記①と②の場合には管理パスワードの入力が必要となります。

管理パスワードは1つだけしか登録できませんので、本機の管理責任者の方が使用されるようおすすめいたします。

※管理パスワードは工場出荷時の段階で“6482”に設定されています。

①常に入力が必要な場合

- ・ 部門管理モードを設定するとき
- ・ 部門コードを登録するとき
- ・ 部門一覧リストを出力するとき
- ・ 暗号鍵を登録するとき
- ・ 暗号鍵リストを出力するとき

②部門管理モード設定時に入力が必要な場合

- ・ 通信管理レポート以外のレポート/リスト類を出力するとき
- ・ 各種設定や登録を行うとき
- ・ メモリ編集機能を使用するとき

<注意>

登録した管理パスワードは何かにかき留めておかれることをおすすめいたします。もしこのパスワードがわからなくなってしまうと、各種の設定・登録・変更・取消などができなくなることもありますのでご注意ください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2001年07月08日 12時00分
原稿をセットして下さい

1. ファクス登録キーを押してください。

<input type="checkbox"/> 通信エラー <input type="checkbox"/> 通信中 <input checked="" type="checkbox"/> メモリ <input type="checkbox"/> ○ダイレクト送信 <input type="checkbox"/> ○オンフック <input type="checkbox"/> ○留守番電話接続 <input type="checkbox"/> ○手動受信	ファクス 初期設定 <input type="text" value="21"/> <input type="button" value="実行"/> ファクス 登録 <input type="text" value="26"/> <input type="button" value="実行"/> 留守番電話/ 手動受信 <input type="text" value="同報"/> <input type="button" value="同報"/>
---	---

FAX登録:
終了
⇒ 短縮ダイヤル登録
ワンタッチダイヤル登録

2. 上/下カーソルキーを押して、“自局情報登録”を選択してください。

FAX登録: 暗号BOX登録 暗号鍵登録 ⇒ 自局情報登録
--

3. OKキーを押してください。

自局情報登録: 終了 ⇒ 自局名称

4. 上/下カーソルキーを使って、“管理パスワード”を選択してください。

自局情報登録: 日時 : 12:00 部門コード ⇒ 管理パスワード

5. OKキーを押してください。

管理パスワード旧: _ (4桁) 旧パスワードを入力して下さい
--

6. テンキーを使って、現在登録されている管理パスワード（4桁）を入力してください。

※管理パスワードは工場出荷時の段階で、“6482”が登録されています。本機を購入後、初めて管理パスワードを入力する場合は、“6482”を入力してください。

管理パスワード旧: 6482 (4桁) 旧パスワードを入力して下さい

7. OKキーを押してください。

※入力した番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。もう一度入力しなおしてください。

管理パスワード新: _ (4桁) 新パスワードを入力して下さい
--

8. テンキーを使って、管理パスワードとして新しく登録したい番号を4桁で入力してください。

※管理パスワードは、0～9までの数字（4桁）で登録してください。

管理パスワード新:2864
(4桁)
新パスワードを入力して下さい

9. OKキーを押してください。入力した番号が管理パスワードとして登録されます。

自局情報登録:	
日時	:12:00
部門コード	▶
⇒ 管理パスワード	▶

※登録を終了するときは、リセットキーを押してください。
機械は初期モードに戻ります。

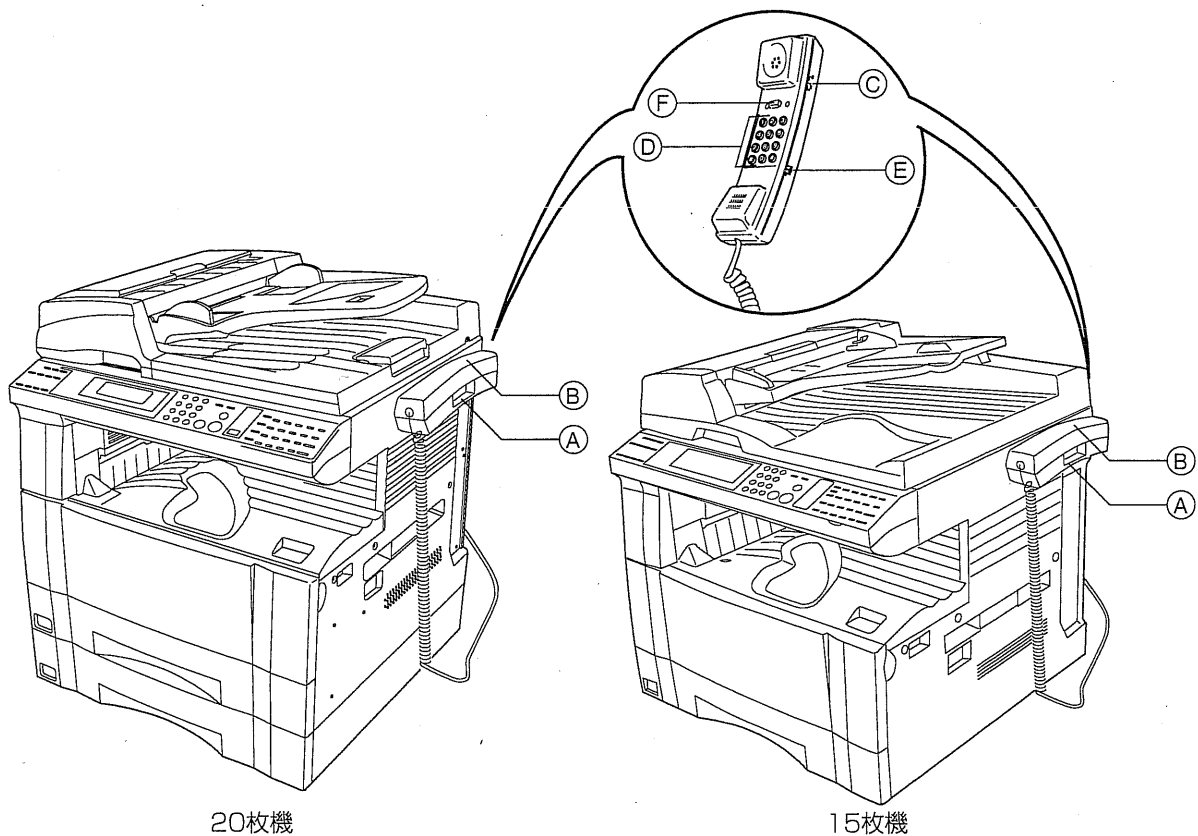
第7章

オプション

ハンドセット

オプションのハンドセットを取り付けると、電話で会話ができるようになります。
また、手動での送信や受信も行えるようになります。

(1) 各部の名称とはたらき

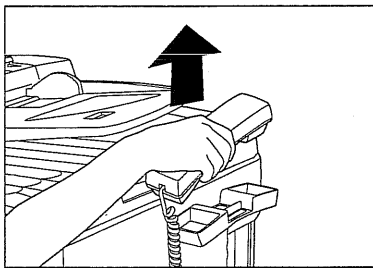


- ① ハンドセット台…ハンドセットをセットしておくための台です。
- ② ハンドセット…電話をするときや手動送受信を行うときに使用します。
- ③ 回線種別切替スイッチ…電話回線はダイヤル方法の種類によりダイヤル（パルス）回線の10PPSまたは20PPSと、プッシュ（トーン）回線の3種類に分かれます。ご利用になられる電話回線の種別に合わせて選択してください。
※もし回線種別を誤って選択すると、電話をかけたり原稿を送信したりすることができなくなりますので注意してください。
- ④ ダイヤルボタン…電話をかけるときに相手先の電話番号を入力するために使用します。
- ⑤ 呼出音量調節スイッチ…“H”側にすると音量は大きくなり、“L”側にすると音量は小さくなります。“OFF”側にすると呼出音は鳴りません。
- ⑥ フックボタン…回線を切るときや、ダイヤルをもう一度やりなおすときに押してください。

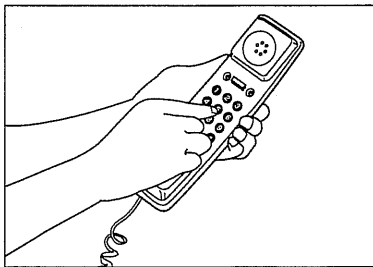
(2) 電話のかけかた

電話をかけるときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。
電話の受けかたは、P2-16の「手動受信」を参照してください。

1. 電話をかける前に、送信や受信が行われていないことを確認してください。
※送・受信が行われていないときは、通信中表示が消灯しています。
2. ハンドセットを上げるか、オンフックキーを押してオンフック表示を点灯させてください。
※オンフック表示が点灯すると、音声は機械本体側のスピーカーから聞こえます。



3. ハンドセットのダイヤルボタンまたは本体操作パネルのテンキーを使って相手先の番号を入力してください。
※本体の短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、電子電話帳機能も使用できます。
※チェーンダイヤルも併用できます。



4. 相手先が応答したら会話をしてください。
※手順2でオンフックキーを押しているときは、話し声が本体側のスピーカーから聞こえます。ハンドセットを上げるとオンフック表示が消灯し、相手と電話で話ができるようになります。



5. 会話が終わったら、ハンドセットをハンドセット台に置いてください。

両面ユニット

オプションの両面ユニットを装着すると、機内で用紙を反転させ、用紙の表裏に印字する「両面受信」ができるようになります。
受信した複数ページの原稿の幅が全て同じであるとき、原稿サイズと同幅の用紙に両面で印字出力を行います。

※両面受信するためには両面受信設定で“ON”が設定されている必要があります。両面受信設定が“ON”になっているときは、受信モードに関わらず、全ての原稿を一度メモリに蓄積（記憶）してから、一括して印字出力を行います。

●両面受信設定

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1. カバープレートを開き、ファクス初期設定キーを押してください。

FAX設定:	
終了	
⇨ 回線	: プッシュ
発信元記録	: 原稿外側

2. 上/下カーソルキーを使って“両面受信”を選択してください。

FAX設定:	
FAX給紙	: 自動選択
2 in 1受信	: OFF
⇨ 両面受信	: OFF

3. OKキーを押してください。

両面受信:	
⇨ ON	
*OFF	

4. 上/下カーソルキーを使って、両面で受信するかどうかを選択してください。
※メッセージ表示の“*”は、現在設定されていることを示しています。

※両面受信を行うときは“ON”を選択してください。

5. OKキーを押してください。両面受信設定が終了します。

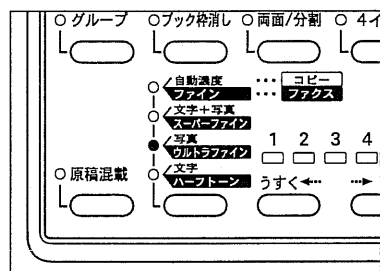
FAX設定:	
FAX給紙	: 自動選択
2 in 1受信	: OFF
⇨ 両面受信	: ON

※設定を終了するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

増設メモリ

増設メモリを増設すると、8MBのうち4MBがビットマップ展開用に使用され、ウルトラファインでの送信／受信が可能になります。残りの4MBは画像蓄積用に使用され、送信／受信原稿の蓄積枚数を増やすことができます。

ウルトラファインモードを設定するときは、画質選択キーを押してウルトラファイン表示を点灯させてください。



※その他のオプションについてはコピー編の使用説明書をご参照ください。

第8章

仕 様

ファクス仕様

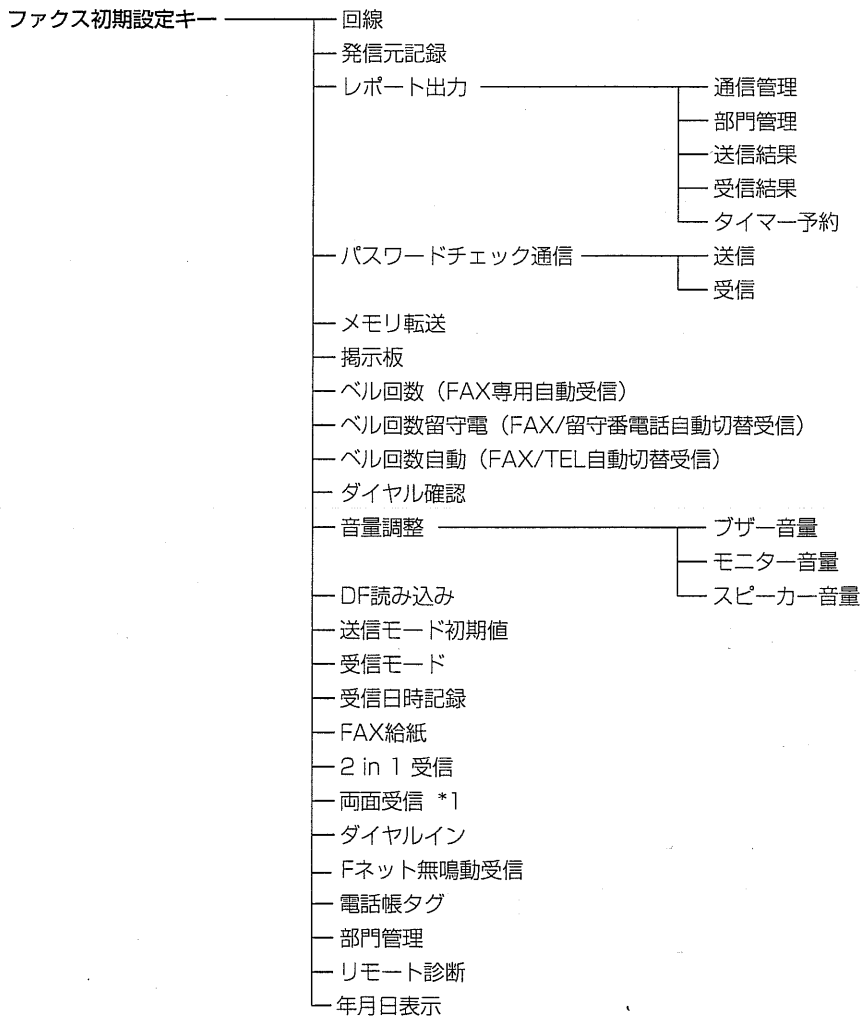
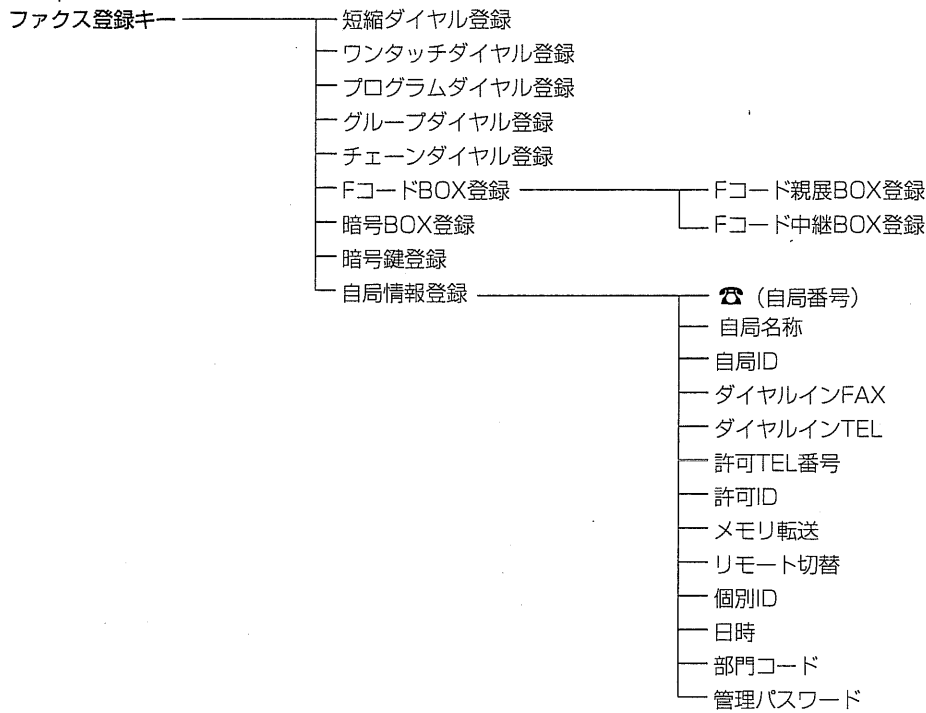
形式.....	デスクトップ型・送受信兼用
相互通信.....	G3
適用回線.....	加入電話回線、Fネット
電送時間.....	4秒未満 (33600bps, MMR, ITU-T #1 chart)
符号伝送速度.....	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600/7200/4800/2400bps
符号化方式.....	JBIG (2001年5月対応予定) /MMR/MR/MH
誤り訂正.....	ECM
原稿サイズ.....	最大原稿幅：279 mm、最大原稿長さ：1600 mm
原稿自動給紙枚数.....	最大 70枚
走査線密度.....	主走査 × 副走査 ノーマル (8 dot/mm x 3.85 line/mm) ファイン (8 dot/mm x 7.7 line/mm) スーパーファイン (8 dot/mm x 15.4 line/mm) ウルトラファイン (16 dot/mm x 15.4 line/mm)
記録解像度.....	600 x 600 dpi
中間調.....	256階調 (誤差拡散)
ワンタッチダイヤル.....	最大32宛先
短縮ダイヤル.....	最大100宛先
同報送信.....	最大132宛先
ポーリング受信.....	最大132宛先
ビットマップ展開用メモリ容量.....	4 MB
画像蓄積用メモリ容量.....	4 MB (ワークメモリ1MBを含む)
直流抵抗値.....	369 Ω (※本装置は、電話回線や地域などの条件によってはご使用になれない場合がございます。)
出力管理レポート類.....	通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト、ワンタッチダイヤルリスト、 短縮ダイヤルリスト、電子電話帳リスト、プログラムダイヤルリスト、グループダイヤルリスト、 暗号鍵リスト、部門管理レポート、部門一覧リスト
オプション.....	増設メモリ (8MB)、ハンドセット

※機械の仕様は予告なく変更されることがあります。

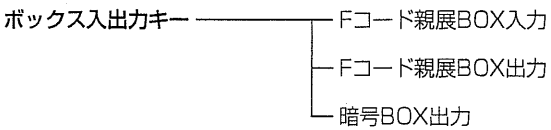
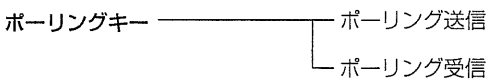
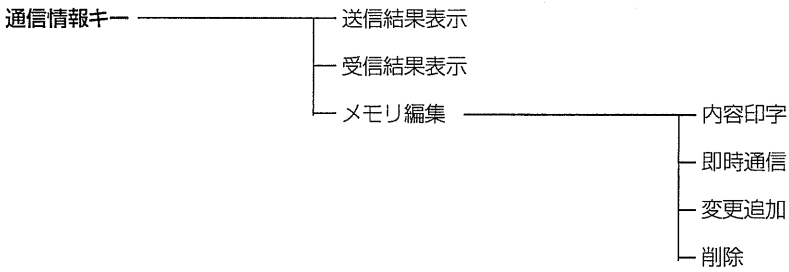
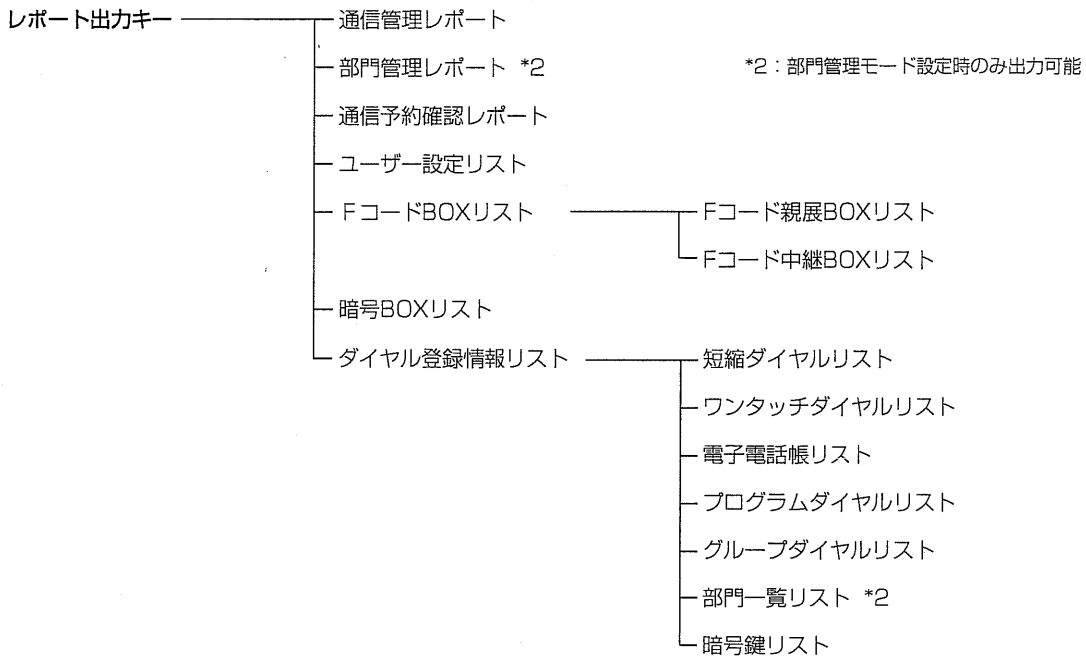
ご参考

付録1：メニュー構成一覽

各機能キー押下時のメニュー構成は、以下の通りになっています。本機を操作する上での参考にしてください。



*1：オプションの両面ユニット装着時のみ設定可能



同報キー —— 順次同報送信

両面送信キー —— 両面原稿送信

時刻指定キー —— 予約通信の開始時刻指定

留守番電話/手動受信キー —— 手動受信モードと自動受信モードとFAX/留守番電話自動切替受信モードの切替

ダイレクト送信キー —— ダイレクト送信モードとメモリ送信モードの切替

Fコードキー —— Fコード通信の指定

画面切替キー —— デュアルアクセル時の裏動作表示

短縮/電話帳キー —— 短縮ダイヤル入力
電子電話帳

コピー/ファクス切替キー —— コピーモードとファクスモードの切替

付録2：出荷値設定一覧表

本機で設定可能な項目の工場出荷時の設定は下表の通りです。

項 目	設 定 範 囲	出荷時設定値
電話回線種別	プッシュ、10PPS、20PPS	プッシュ
発信元記録	原稿外側、原稿内側、印字なし	原稿外側
通信管理レポート出力	ON、OFF	ON
部門管理レポート出力	ON、OFF	ON
送信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	特定条件時のみ出力
受信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	OFF
タイマー予約レポート出力	ON、OFF	ON
パスワードチェック送信	ON、OFF	OFF
パスワードチェック受信	ON、OFF	OFF
メモリー転送	ON、OFF	OFF
掲示板	原稿を保持する、原稿を消去する	原稿を保持する
呼出回数 (FAX専用自動受信)	1～15回	2回
呼出回数 (FAX/留守番電話自動切替受信)	1～15回	15回
呼出回数 (FAX/TEL自動切替受信)	0～15回	0回
ダイヤル確認	ON、OFF	OFF
ブザー音量	OFF、小、大	小
モニタ音量	OFF、小、中、大	中
スピーカ音量	OFF、小、中、大	小
DF読み込み	定形原稿、長尺原稿	定形原稿
送信モード初期値	メモリ送信、ダイレクト送信	メモリ送信
受信モード	FAX受信、FAX/TEL自動切替	FAX受信
受信日時記録	ON、OFF	OFF
ファクス給紙	自動選択、サイズ固定、カセット段固定	自動選択
2 in 1 受信	ON、OFF	OFF
両面受信	ON、OFF (オプションの両面ユニット装着時のみ設定可)	OFF
ダイヤルイン	ON、OFF	OFF
Fネット無鳴動受信	ON、OFF	ON
電子電話帳タグ	かな、数字	かな
部門管理	ON、OFF	OFF
リモート診断	ON、OFF	OFF
年月日表示	漢字、アルファベット、数字	漢字
リモート切替番号	任意の2桁の数字 (00～99)	55
個別ID	任意の4桁の数字 (0000～9999)	0000

付録3：受信サイズと出力用紙優先順位表

受信した原稿のサイズと、同サイズ同方向の用紙がカセットにセットされていない場合、本機が印字出力の際に自動で選択する用紙の優先順位は下表の通りです。

		受信サイズ					
		A5	B5	A4R	A4	B4	A3
記 録 紙	①	^{*1} A5R	B5	A4R	A4	B4	A3
	②	A4R	^{*1} B5R	^{*1} A4	^{*1} A4R	A3	A4
	③	^{*1} A4	B4	A3	A3	B5	^{*1} A4R
	④	B5	A4	B4	^{*1} B4	^{*1} B5R	^{*1} B4
	⑤	^{*1} B5R	^{*1} A4R	^{*1} A5R		A4	
	⑥	A3	A3	B5		^{*1} A4R	
	⑦	B4		^{*1} B5R			

<表のみかた>

*1 回転受信を示しています。

は2枚の用紙に分割して出力されることを示しています。

付録4：区点コード表

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
0100	.	、	。	、	。	:	:	?	0350	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	0600	A	B	Г	Δ	E	Z	H	Θ	I			
0110	!	"	、	'	、	、	^	—	\	0360					a	b	c	d	e	0610	K	Λ	M	N	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ		
0120	>	>	”	//	々	メ	○	—	—	0370	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	0620	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω						
0130	-	/	\	~	//		…	…	”	0380	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	0630				α	β	γ	δ	ε	ζ	η	
0140	"		()	{} []	{} []	{} []	{} []	{} []	{} []	0390	z										0640	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ	
0150	<	>	《	》	「	」	『	』	【	】	0400	あ	い	う	え	お						0650	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
0160	+	-	±	×	÷	=	≠	<	>	≦	0410	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ	0660										
0170	≧	∞	.	:	∴	°	′	”	℃	¥	0420	ご	さ	ざ	し	じ	ず	ぜ	せ	そ		0670										
0180	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	☆	0430	ぞ	た	だ	ち	ち	っ	つ	づ	て	で	0680										
0190	★	○	●	◎	◇						0440	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ば	0690										
0200	◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒	0450	ひ	び	び	ふ	ぶ	ぶ	へ	べ	へ	ほ	0700	A	B	В	Г	Д	E	Ё	Ж	З		
0210	→	←	↑	↓	=					0460	ぼ	ぼ	ま	み	む	め	も	ゃ	ゃ	ゅ	0710	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С	
0220					€	≡	≡	≡	≡	0470	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	わ		0720	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы	
0230	ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	0480	ゐ	ゑ	を	ん							0730	Ь	Э	Ю	Я							
0240	∧	∨	¬	⇒	⇔	∇	∃			0490											0740										a	
0250										0500	ア	アイ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ			0750	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й	
0260	∠	⊥	∩	∂	∇	≡	≡	≡	≡	0510	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ	0760	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у	
0270	∞	∞	.	:	∴	∴	∴	∴	∴	0520	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ	0770	φ	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э	
0280	Å	%	#	b	♪	+	+	+	+	0530	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ツ	ヅ	テ	デ		0780	ю	я									
0290	○									0540	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ	0790											
0300										0550	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	フ	ヘ	ベ	ペ	ホ	0800	-		ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	
0310					0	1	2	3		0560	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ャ	ャ	ユ	0810	±	±	-		ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ	ㄔ	ㄕ	
0320	4	5	6	7	8	9				0570	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ			0820	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	
0330		A	B	C	D	E	F	G		0580	ヰ	エ	ヲ	ン	ヴ	カ	ケ			0830	†	†	†									
0340	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	0590											0840										

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
0850										1100											1350									
0860										1110											1360									
0870										1120											1370									
0880										1130											1380									
0890										1140											1390									
0900										1150											1400									
0910										1160											1410									
0920										1170											1420									
0930										1180											1430									
0940										1190											1440									
0950										1200											1450									
0960										1210											1460									
0970										1220											1470									
0980										1230											1480									
0990										1240											1490									
1000										1250											1500									
1010										1260											1510									
1020										1270											1520									
1030										1280											1530									
1040										1290											1540									
1050										1300	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	1550										
1060										1310	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	1560										
1070										1320	⑳	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	1570									
1080										1330	X										1580									
1090										1340											1590									

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	1600	垂	唾	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	力	1850	禍	禾	稼	筍	花	苛	茄	荷	華	菓	キ	2100	機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀		
	1610	葵	茜	穂	悪	握	握	旭	葦	芦		蓼	1860	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄		峨	2110	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	1620	梓	庄	幹	扱	宛	姐	虻	飴	絢		綾	1870	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓		駕	2120	鬼	龜	偽	儀	妓	宜	戲	技	擬	欺
	1630	鮎	或	粟	裕	安	庵	按	暗	案		闇	1880	介	会	解	回	塊	壞	迴	快	怪		悔	2130	犧	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	1640	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	困	夷		委	1890	恢	懷	戒	拐	改	2140	吉	吃	喫		桔	橘	詰	砧	杵	黍	却					
イ	1650	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異	1900	魁	晦	械	海	灰	界	皆	給	芥	2150	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸			
	1660	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医	1910	蟹	開	階	貝	凱	効	外	咳	害	崖	2160	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球		
	1670	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸	1920	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	湩	2170	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居		
	1680	稻	茨	芋	鱒	允	印	咽	員	因	姻	1930	馨	蛙	垣	柿	蚯	鈎	劃	嚇	各	廓	2180	巨	拒	拋	拳	渠	虚	許	距	鋸	漁		
	1690	引	飲	淫	胤	蔭	1940	搨	攬	格	核	殼	獲	確	穫	覚	角	2190	禦	魚	亨	享	京												
1700	院	陰	隱	韻	吋	右	宇	烏	羽	1950	赫	較	郭	闊	隔	革	字	岳	衆	額	2200	供	俠	僑	兇	競	共	凶	協	匡					
ウ	1710	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	確	白	渦	嘘	1960	顎	掛	笠	檉	檣	梶	鯽	淵	割	喝	2210	卿	叫	喬	境	峽	強	疆	怯	恐	恭		
	1720	唄	鬱	蔚	鰻	姥	厖	浦	瓜	閏	噂	1970	恰	括	活	渴	滑	葛	褐	轄	且	鯉	2220	挾	教	橋	況	狂	狹	矯	胸	脅	興		
	1730	云	運	雲	往	餌	馥	宮	嬰	影	映	1980	叶	樺	樺	靴	株	兜	電	蒲	釜	鎌	2230	蕎	郷	鏡	響	響	驚	仰	凝	亮	曉		
エ	1740	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	穎	英	1990	嚙	鴨	栢	茅	萱	2240	業	局	曲	極	玉	桐	籽	僅	勤	均							
	1750	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越	2000	粥	刈	刈	瓦	乾	侃	冠	寒	刊	2250	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊			
	1760	閱	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨	2010	勸	勸	巷	喚	堪	姦	完	官	寬	干	2260	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	九		
	1770	掩	援	沿	演	炎	焰	煙	燕	猿	縁	2020	幹	患	感	憤	憾	換	敢	柑	柜	棺	2270	俱	句	区	狗	玖	矩	苦	軀	駢	駢		
	1780	艶	苑	蘭	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥	2030	款	歛	汗	漢	澗	灌	環	甘	監	看	2280	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅		
オ	1790	凹	央	輿	往	忬	2040	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	觀	2290	串	櫛	劍	屑	屈												
	1800	押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鶯	2050	諫	貫	還	鑑	問	閑	閑	陷	韓	館	2300	掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	限	糸				
	1810	鷓	黄	岡	冲	荻	億	屋	憶	臆	桶	2060	舘	丸	含	岸	巖	玩	癌	眼	岩	斲	2310	栗	線	桑	鋏	勲	君	薫	訓	群	軍		
1820	牡	乙	俺	卸	恩	温	穩	音	下	化	2070	贗	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器	2320	郡	卦	袈	袈	係	傾	刑	兄	啓	圭			
カ	1830	仮	何	伽	伽	佳	加	可	嘉	夏	嫁	2080	基	奇	嬉	奇	岐	希	幾	忌	揮	机	2330	珪	型	契	形	徑	患	慶	慧	憩	揭		
	1840	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂	2090	旗	既	期	棋	棄	2340	携	敬	景	桂	溪	畦	稽	系	經	繼							

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ケ	2350	繫	罍	荃	荊	蚩	計	詣	警	輕	頽	カ	2600	此	頃	今	困	坤	壘	婚	恨	懇	キ	2850	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺	
	2360	鷄	芸	迎	鯨	劇	戟	擊	激	際	桁		2610	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	良	魂		些	2860	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
	2370	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件		2620	佐	又	峻	嵯	左	差	查	沙	磋		砂	2870	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	2380	俚	倦	健	兼	券	剣	喧	圈	堅	嫌		2630	詐	鎖	袞	坐	座	挫	債	催	再		最	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
	2390	建	憲	懸	拳	捲	2640	哉	塞	妻	宰		彩	才	採	裁	歲	濟	2890	綬	需	囚		収	周										
	2400	檢	權	牽	犬	猷	研	硯	絹	鼎	2650		災	采	犀	碎	砦	祭	齋	細	菜	裁		2900	宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋		
	2410	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顛	駢		2660	載	際	劑	在	材	罪	財	牙	坂		阪	2910	終	繡	習	臭	舟	菟	衆	襲	讒	蹴
	2420	齡	元	原	殿	幻	弦	減	源	玄	現		2670	堺	柗	肴	咲	崎	埼	崎	鷲	作		削	2920	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
	2430	絃	絃	言	諺	限	乎	個	古	呼	固		2680	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯		梭	2930	從	戎	柔	汁	泣	獸	縱	重	銃	叔
	2440	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐		2690	鮭	笹	匙	冊	刷	2940	夙	宿	淑		祝	縮	肅	塾	熟	出	術					
2450	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇	2700	察	抄	撮	擦	札	殺	薩	雜	阜	2950	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循				
2460	顧	鼓	五	互	伍	午	吳	吾	娛	後	2710	鯖	捌	鏑	鮫	皿	晒	三	傘	參	山	2960	旬	榎	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵			
2470	御	悟	梧	檣	瑚	碁	語	誤	護	酬	2720	慘	撒	散	棧	燦	珊	産	算	纂	蚤	2970	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒			
2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倅	光	公	功	2730	讚	贗	酸	餐	斬	暫	殘	仕	仔	伺	2980	署	書	誓	語	諸	助	叙	女	序	徐			
2490	効	勾	厚	口	向	2740	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿	2990	恕	鋤	除	傷	償													
2500	后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工	2750	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯	3000	勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	燙					
2510	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗	2760	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸	3010	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠			
2520	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構	2770	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌	3020	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶			
2530	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠	2780	諮	資	賜	雌	飼	齒	事	似	侍	兒	3030	松	梢	樺	樺	沼	消	涉	湘	燒	焦			
2540	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏	2790	字	寺	慈	持	時	3040	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧								
2550	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	醉	鉇	2800	次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而	3050	紹	肖	菖	蔣	蕉	衝	裳	訟	証	詔				
2560	砧	鋼	閣	降	項	香	高	鴻	剛	劫	2810	耳	自	蒔	辞	夕	鹿	式	識	鳴	竺	3060	詳	象	賞	醬	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上			
2570	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	趨	克	刻	2820	軸	宍	零	七	叱	執	失	嫉	室	悉	3070	丈	丞	乘	冗	剩	城	場	壞	嬢	常			
2580	告	国	毅	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甌	2830	湿	漆	疾	質	實	部	篠	俤	柴	芝	3080	情	擾	条	杖	淨	状	壹	穠	蒸	讓			
2590	忽	惚	骨	拍	込	2840	屢	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮	3090	釀	錠	囁	埴	飾													

シ											ソ											子													
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
3100		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食	3350	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匠	惣	想	3600	帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	徴	挑				
3110	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審	3360	搜	掃	挿	掻	操	早	曹	崇	槍	槽	3610	暢	朝	潮	牒	町	眺	聰	脹	腸	蝶			
3120	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申	3370	漕	燥	争	瘦	相	窓	糴	綜	聡	3620	調	謀	超	跳	眺	長	頂	鳥	勅	抄				
3130	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診	3380	草	莊	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗	3630	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎			
3140	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬	3390	霜	騷	像	増	憎	3640	槌	追	鎚	痛	通	塚	柁	搦	槻	佃								
3150	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	鞠	筍	誦	3400	臟	蔵	贈	造	促	側	則	即	息	3650	漬	柘	辻	蔦	綴	鏝	椿	漬	坪	壺				
ヌ	3160	須	酢	凶	厨	逗	吹	垂	帥	推	水	3410	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	統	3660	孀	紬	爪	吊	釣	鶴	亭	低	停	偵		
	3170	炊	睡	粹	翠	衰	遂	醉	錐	錘	随	3420	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜	3670	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟		
	3180	瑞	髓	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉	3430	他	多	太	汰	記	唾	墮	妥	惰	打	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締		
	3190	椁	菅	顔	雀	裾	3440	柁	舵	橈	陀	駄	騾	体	堆	对	耐	3690	艇	訂	諦	蹄	遞	3700	邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴		
3200		澄	摺	寸	世	瀨	敵	是	凄	制	3450	岱	帶	待	怠	態	戴	替	泰	滯	胎	3710	的	笛	適	滴	滌	徹	撤	徹	迭				
セ	3210	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲	3460	腿	苔	袋	貸	退	遠	隊	黛	鯛	代	3720	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼		
	3220	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製	3470	台	大	第	醒	題	鷹	滝	瀧	卓	啄	3730	転	顛	点	伝	殿	激	田	電	禿	吐		
	3230	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	齊	稅	3480	宅	托	拵	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁	3740	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟		
	3240	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積	3490	諾	茸	胤	蛸	只	3750	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴							
	3250	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙	3500	叩	但	達	辰	奪	脱	異	豎	辿	3760	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套			
	3260	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌	3510	棚	谷	狸	鱧	樽	誰	丹	半	嘆	坦	3770	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	栲	棟		
	3270	蝉	仙	先	千	占	宣	專	尖	川	戰	3520	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	簞	3780	盜	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	禡	等		
	3280	扇	撰	栓	柁	泉	浅	洗	染	潛	煎	3530	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	彈	断	3790	答	筒	糖	統	到							
	3290	煽	旋	穿	箭	線	3540	暖	檀	段	男	談	值	知	地	弛	恥	3800	董	蕩	藤	討	騰	豆	踏	逃	透								
	3300		織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐	3550	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遲	馳	築	3810	鐙	陶	頭	騰	鬪	働	動	同	堂	導		
3310	選	遷	錢	銑	閃	鮮	前	善	漸	然	3560	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着	3820	懂	撞	洞	瞳	童	胴	苟	道	銅	峠			
3320	全	禪	繕	膳	糵	嗜	塑	岨	措	曾	3570	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷	3830	鴛	匿	得	德	洩	特	督	禿	篤	毒			
ソ	3330	曾	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素	3580	註	耐	鏘	駐	樽	猪	猪	苧	苧	貯	3840	独	読	析	椽	凸	突	椽	届	薦	苦		
	3340	組	蘇	訴	阻	遯	鼠	僧	創	双	叢	3590	丁	兆	凋	喋	寵																		

ト											チ											ホ											
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
3850		寅	西	滌	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁	4100	鼻	佟	裨	匹	疋	髭	彦	膝	菱	4350	牧	睦	穆	卸	勃	沒	殆	堀	幌	奔	
3860	頓	呑	曇	鈍	奈	那	内	乍	仄	雍	4110	肘	弼	必	畢	筆	逼	檢	矩	媛	紐	4360	本	翻	凡	盆	摩	磨	魔	麻	埋	妹	
ナ	3870	謎	灘	捺	鍋	檜	馴	繩	暇	南	楠	4120	百	謬	依	彪	標	氷	漂	瓢	票	表	4370	昧	枚	每	哩	縻	幕	膜	枕	鮭	枉
	3880	軟	難	汝	二	尼	式	迄	勻	賑	肉	4130	評	豹	廟	描	病	秒	苗	鏹	鏵	蒜	4380	鱒	枿	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	俣
ニ	3890	虹	廿	日	乳	入	4140	蛭	鱒	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻	4390	鹵	磨	万	慢	滿										
	3900		如	尿	菲	任	妊	忍	認	濡	襦	4150	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	富	布	4400	漫	蔓	味	末	魅	巴	箕	岬	密	
ネ	3910	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	燃	4160	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐	4410	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	耗	民	眠	務	
	3920	粘	乃	迺	之	埜	囊	惱	濃	納	能	4170	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫	4420	夢	無	牟	矛	霧	鷓	掠	婿	娘	冥
ノ	3930	腦	膿	農	覗	蚤	巴	把	播	霸	杷	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葶	蔀	4430	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
	3940	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	糜	4190	伏	副	復	幅	服	4440	免	棉	綿	緬	面	麵	摸	模	茂	妄					
ハ	3950	拌	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配	4200	福	腹	複	覆	淵	弗	弘	沸	仏	4450	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	默	
	3960	倍	培	媒	梅	煤	煤	猥	買	壳	賠	4210	物	鮪	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮	4460	目	空	勿	餅	尤	戾	粉	貢	問	悶
	3970	陪	這	蠅	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍	4220	粉	糞	紛	秀	文	閨	丙	併	兵	摒	4470	紋	門	匆	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠	4230	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	貢	4480	矢	厄	役	約	藜	訊	躍	靖	柳	藪
	3990	爆	縛	莫	駁	麥	4240	僻	壁	癖	碧	別	警	蔑	篋	偏	變	4490	鑷	愉	愈	油	癒										
	4000		函	箱	裕	筍	聳	聳	櫛	幡	肌	4250	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	婉	弁	4500	論	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽	
	4010	畑	皇	八	鉢	澆	尧	醜	髮	伐	罰	4260	鞭	保	鋪	鋪	圃	捕	步	甫	補	輔	4510	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
	4020	拔	伐	闕	鳩	嘶	鳩	蛤	隼	伴	判	4270	穗	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣	4520	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予
	4030	半	反	叛	帆	搬	斑	板	汜	汎	版	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖	4530	余	与	譽	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
	4040	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	采	煩	4290	抱	捧	放	方	朋	4540	揚	搖	擁	躍	楊	樣	洋	浴	浴	用					
4050	煩	飯	挽	晚	番	盤	警	蕃	歪	匪	4300	法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬	4550	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遙	陽		
ヒ	4060	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐	4310	蜂	褒	訪	豐	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏	4560	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	羅
	4070	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被	4320	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴	4570	螺	裸	来	萊	頼	雷	洛	絡	落	酪
	4080	誹	費	避	非	飛	樋	箆	備	尾	微	4330	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿	4580	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覽	利	吏
	4090	枇	毘	毘	眉	美	4340	銖	防	吠	頰	北	僕	卜	墨	撲	朴	4590	履	李	梨	理	璃										

付録4：区点コード表

		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9			0 1 2 3 4 5 6 7 8 9			0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
リ	4600	痢裏裡里離陸律率立						
	4610	葎掠略劉流溜琉留硫粒						
	4620	隆竜龍侶慮旅虜了亮僚						
	4630	両凌寮料梁涼獵療瞭稜						
	4640	糧良諒遼量陵領力緑倫						
	4650	厘林淋燐琳臨輪隣鱗鱗						
ル	4660	璫罍淚累類令伶例冷勵						
レ	4670	嶺伶玲礼苓鈴隸零靈麗						
	4680	齡曆歴列劣烈裂廉恋憐						
	4690	漣煉簾練聯						
	4700	蓮連鍊呂魯櫓炉賂路						
ロ	4710	露勞婁廊弄朗樓榔浪漏						
	4720	牢狼籠老聾蠟郎六麓祿						
	4730	肋録論倭和話歪賄脇惑						
ワ	4740	梓鷺互巨鰐詫藁蕨椀湾						
	4750	碗腕						
	4760							
	4770							
	4780							
	4790							

		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9			0 1 2 3 4 5 6 7 8 9			0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
カ	4800	弋丐丕个卍、并ノ又	5050	廠厶參纂雙叟曼燮叮叨	5300	奸妁妝佞佞妣妤姆姨		
	4810	乖乘亂丿豫爭舒式于亞	5060	叭叭吁吁呀听吭吼吮呐	5310	姜妍姘姚娥娟姿娜娉娉		
	4820	亟一亢京毫亶从仍仄仆	5070	吩吝呖咏呵咎咭呱呷咭	5320	婀姪婉姬娶婢婪媚媪媯		
	4830	仿仗仞仞仞仞价伉佚估佛	5080	咒呻咀呶咄附咆哇号咸	5330	嫵嫂媽媽嫗嫗嫗嫗嫗		
	4840	伺佗佇佞侈侏侏佻佻佰	5090	啞咬哄哈咨	5340	嬌嬋嬋嬋嬋嬋嬋嬋嬋		
	4850	侑佯來侖儘俛俛俛俛俛	5100	咫晒咤咤高圻哥哦唏	5350	孀子孕孕孕孕孩孩孩孩		
	4860	俑俚俐俚俚俚倚倨倨倨倨	5110	唔哽啞哭哺啞啞啞啞啞	5360	學孝孺一它宦宸冤寇寇		
	4870	倅倅倅倅倅倅倅倅倅倅	5120	售啜啜啜啜啜啜啜啜啜	5370	寔寐寤寤寤寤寤寤寤寤		
	4880	偃假會偕偕偕偕偕偕偕	5130	咯喊唱啞啞啞啞啞啞啞	5380	寶尅將專對尔尅尅尅尅		
	4890	傀倣倣倣倣倣倣倣倣倣	5140	噓喇噓噓噓噓噓噓噓噓	5390	尹屈屈屈屈屈屈屈屈屈		
	4900	僉僉僉僉僉僉僉僉僉僉	5150	嘔噉噉噉噉噉噉噉噉噉	5400	屐屐屐屐屐屐屐屐屐屐		
	4910	僮僮僮僮僮僮僮僮僮僮	5160	噤嘶嘶嘶嘶嘶嘶嘶嘶嘶	5410	岑岔岙岙岙岙岙岙岙岙		
	4920	儼儼儼儼儼儼儼儼儼儼	5170	啞噓噓噓噓噓噓噓噓噓	5420	峇峙峇峇峇峇峇峇峇		
	4930	兢競兩僉兮冀門同册冉	5180	噤噤噤噤噤噤噤噤噤	5430	崗奇崙崙崙崙崙崙崙崙		
	4940	冏冏冏冏冏冏冏冏冏冏	5190	囹囹囹囹囹囹囹囹囹	5440	嵌岳嶠嶠嶠嶠嶠嶠嶠嶠		
	4950	冫決冫冲冰况冽涸凉凜	5200	圈國團團團團團團團團	5450	嶢嶢嶢嶢嶢嶢嶢嶢嶢嶢		
	4960	几處夙夙夙夙夙夙夙夙	5210	坏址坎圪圪圪圪圪圪圪	5460	巔巔巔巔巔巔巔巔巔巔		
	4970	刂刂刂刂刂刂刂刂刂刂	5220	坳坳坳坳坳坳坳坳坳	5470	帑帑帑帑帑帑帑帑帑		
	4980	劊劊劊劊劊劊劊劊劊劊	5230	埔埔埔埔埔埔埔埔埔埔	5480	幟幟幟幟幟幟幟幟幟		
	4990	劊劊劊劊劊劊劊劊劊劊	5240	堡塢塢塢塢塢塢塢塢	5490	廁廁廁廁廁廁廁廁廁廁		
5000	劊劊劊劊劊劊劊劊劊劊	5250	墟墟墟墟墟墟墟墟墟墟	5500	廖廣廝廝廝廝廝廝廝廝			
5010	勛勛勛勛勛勛勛勛勛勛	5260	墟墟墟墟墟墟墟墟墟墟	5510	廬廬廬廬廬廬廬廬廬廬			
5020	匍匍匍匍匍匍匍匍匍匍	5270	壻壻壻壻壻壻壻壻壻壻	5520	彝弋弋弋弋弋弋弋弋弋			
5030	匚區孕卅卅卅卅卅卅卅	5280	天夆夆夆夆夆夆夆夆夆	5530	彎彎彎彎彎彎彎彎彎彎			
5040	卮卮卮卮卮卮卮卮卮卮	5290	奢奠奠奠奠奠奠奠奠奠	5540	徃徃徃徃徃徃徃徃徃徃			

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
5550	徠徨徭徼忪忪忪忪忪忪忪忪忪	5800	據擒擅擇捷擎擲擲擲擲	6050	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5560	憲忿怡恫恫恫恫恫恫恫恫恫	5810	擧擠擡擡擡擡擡擡擡擡擡擡	6060	樛樛樛樛樛樛樛樛樛樛
5570	怕怫怫怫怫怫怫怫怫怫怫	5820	擺攀攪攪攪攪攪攪攪攪攪攪	6070	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5580	協恆恍恣恃恤恻恻恻恻恻恻	5830	攷攷攷攷攷攷攷攷攷攷	6080	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5590	悃悃悃悃悃悃悃悃悃悃	5840	做做敲數斂斂斂斂斂斂斂斂斂	6090	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5600	悄悛悛悛悛悛悛悛悛悛悛	5850	斷旃旃旃旃旃旃旃旃旃旃	6100	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5610	憲惓惓惓惓惓惓惓惓惓惓	5860	无旱旱旱旱旱旱旱旱旱旱	6110	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5620	愆惶愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5870	易晏晷晷晷晷晷晷晷晷晷	6120	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5630	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5880	晟晷晷晷晷晷晷晷晷晷晷	6130	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5640	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5890	暨晷晷晷晷晷晷晷晷晷晷	6140	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5650	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5900	晷晷晷晷晷晷晷晷晷晷	6150	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5660	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5910	曳曳曳曳曳曳曳曳曳曳曳	6160	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5670	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5920	朶朶朶朶朶朶朶朶朶朶	6170	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5680	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5930	枉枉枉枉枉枉枉枉枉枉枉	6180	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5690	愆愆愆愆愆愆愆愆愆愆	5940	柀柀柀柀柀柀柀柀柀柀	6190	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5700	戛戛戛戛戛戛戛戛戛戛	5950	柀柀柀柀柀柀柀柀柀柀	6200	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5710	扞扞扞扞扞扞扞扞扞扞	5960	桀桀桀桀桀桀桀桀桀桀	6210	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5720	抓抖抖抖抖抖抖抖抖抖抖抖	5970	梟梟梟梟梟梟梟梟梟梟	6220	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5730	拆擔拈拈拈拈拈拈拈拈拈拈	5980	梵梵梵梵梵梵梵梵梵梵梵	6230	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5740	拈拈拈拈拈拈拈拈拈拈	5990	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷	6240	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5750	捍搜搜搜搜搜搜搜搜搜搜搜	6000	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷	6250	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5760	掉掙掙掙掙掙掙掙掙掙掙	6010	棹棹棹棹棹棹棹棹棹棹	6260	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5770	揉插插插插插插插插插插插	6020	楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷楷	6270	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5780	搦搦搦搦搦搦搦搦搦搦	6030	楸楸楸楸楸楸楸楸楸楸	6280	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷
5790	撓撓撓撓撓撓撓撓撓撓	6040	楸楸楸楸楸楸楸楸楸楸	6290	榷榷榷榷榷榷榷榷榷榷

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
6300	濛濛濛濛濛濛濛濛濛濛	6550	痲痲痲痲痲痲痲痲痲痲	6800	篚篚篚篚篚篚篚篚篚篚
6310	潜潜潜潜潜潜潜潜潜潜潜	6560	疝疝疝疝疝疝疝疝疝疝	6810	篚篚篚篚篚篚篚篚篚篚
6320	澳澳澳澳澳澳澳澳澳澳澳	6570	瘋瘋瘋瘋瘋瘋瘋瘋瘋瘋瘋	6820	箴箴箴箴箴箴箴箴箴箴
6330	瀾瀾瀾瀾瀾瀾瀾瀾瀾瀾	6580	瘰瘰瘰瘰瘰瘰瘰瘰瘰瘰	6830	箴箴箴箴箴箴箴箴箴箴
6340	瀏瀏瀏瀏瀏瀏瀏瀏瀏瀏瀏	6590	癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩	6840	箴箴箴箴箴箴箴箴箴箴
6350	澈澈澈澈澈澈澈澈澈澈澈	6600	癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩	6850	箴箴箴箴箴箴箴箴箴箴
6360	炮炮炮炮炮炮炮炮炮炮炮	6610	皖皖皖皖皖皖皖皖皖皖皖	6860	箴箴箴箴箴箴箴箴箴箴
6370	熙熙熙熙熙熙熙熙熙熙熙	6620	盍盍盍盍盍盍盍盍盍盍	6870	糝糝糝糝糝糝糝糝糝糝
6380	熨熨熨熨熨熨熨熨熨熨	6630	眈眈眈眈眈眈眈眈眈眈	6880	糝糝糝糝糝糝糝糝糝糝
6390	煨煨煨煨煨煨煨煨煨煨	6640	睞睞睞睞睞睞睞睞睞睞	6890	糝糝糝糝糝糝糝糝糝糝
6400	燧燧燧燧燧燧燧燧燧燧	6650	睞睞睞睞睞睞睞睞睞睞	6900	紃紃紃紃紃紃紃紃紃紃
6410	爲爲爲爲爲爲爲爲爲爲爲	6660	瞽瞽瞽瞽瞽瞽瞽瞽瞽瞽瞽	6910	紃紃紃紃紃紃紃紃紃紃紃
6420	犁犁犁犁犁犁犁犁犁犁犁	6670	砌砌砌砌砌砌砌砌砌砌砌	6920	經經經經經經經經經經經
6430	狎狎狎狎狎狎狎狎狎狎	6680	砢砢砢砢砢砢砢砢砢砢	6930	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6440	猗猗猗猗猗猗猗猗猗猗	6690	碾碾碾碾碾碾碾碾碾碾碾	6940	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6450	獎獎獎獎獎獎獎獎獎獎獎	6700	磧磧磧磧磧磧磧磧磧磧	6950	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6460	獺獺獺獺獺獺獺獺獺獺	6710	磧磧磧磧磧磧磧磧磧磧	6960	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6470	琅琅琅琅琅琅琅琅琅琅琅	6720	禊禊禊禊禊禊禊禊禊禊	6970	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6480	瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠	6730	批批批批批批批批批批批	6980	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6490	璧璧璧璧璧璧璧璧璧璧璧	6740	稟稟稟稟稟稟稟稟稟稟	6990	緇緇緇緇緇緇緇緇緇緇
6500	瓠瓠瓠瓠瓠瓠瓠瓠瓠瓠	6750	穢穢穢穢穢穢穢穢穢穢	7000	罍罍罍罍罍罍罍罍罍罍
6510	釜釜釜釜釜釜釜釜釜釜釜	6760	窖窖窖窖窖窖窖窖窖窖窖	7010	罍罍罍罍罍罍罍罍罍罍
6520	甦甦甦甦甦甦甦甦甦甦	6770	竊竊竊竊竊竊竊竊竊竊	7020	罍罍罍罍罍罍罍罍罍罍
6530	眈眈眈眈眈眈眈眈眈眈	6780	竊竊竊竊竊竊竊竊竊竊	7030	罍罍罍罍罍罍罍罍罍罍
6540	疊疊疊疊疊疊疊疊疊疊疊	6790	筵筵筵筵筵筵筵筵筵筵	7040	罍罍罍罍罍罍罍罍罍罍

付録5：エラーコード一覧表

通信エラーが発生すると、送信／受信結果レポートや通信管理レポートにエラーコードが記録されます。

エラーコードをもとにエラーの原因を把握し、適切な処置を行ってください。

※伝送速度を33,600bpsで送った場合エラーコードの“U”は“E”になります。

エラーコード	原因及び処置方法
BUSY	設定されている回数の自動リダイヤルが行われたにもかかわらず、相手先と回線がつながりません。もう一度送信または受信の操作をやりなおしてください。
STOP	送信中にストップ/クリアキーが押されたため、送信が中断されました。
STOP	受信中にストップ/クリアキーが押されたため、受信が中断されました。
U00300	送信中に相手機側（受信側）で記録紙切れが発生しました。相手先を確認してください。
U00420 - U00462	相手先からの受信の際に、回線はつながったが相手機側（送信側）と通信機能に不一致があったため、受信が中断されました。
STOP	マルチ通信中（同報送信やボーリング受信など）に中断操作を行ったため、それ以降の相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U00600 - U00690	自機の不具合により、通信が中断されました。再送信または再受信を行ってください。
U00700	相手機側の不具合により、通信が中断されました。相手先を確認してください。
U00800 U00810	正しく送信できなかったページがあります。送信しなおしてください。
U00900 U00910	正しく受信できなかったページがあります。受信しなおしてください。
U01000 - U01092	送信中に通信エラーが発生しました。送信しなおしてください。
U01100 - U01199	受信中に通信エラーが発生しました。受信しなおしてください。
U01400	時刻指定をして通信を予約した際に、相手先の番号をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルなどの自機に登録されている番号を使って入力していたが、指定した時刻が来て、機械がダイヤルを開始した時点で、その番号が自機に登録されていないため、該当する相手先との通信ができませんでした。自機を確認してください。
U01500	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってください。
U01600	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手側で送信速度を下げてもらい、再受信を行ってください。
U01700 U01720	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってください。
U01721	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。使用した送信速度に相手先の機械が対応できないかもしれません。ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで送信を行うときは、送信開始速度を中速か低速に下げてください。
U01800 - U01820	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手側で送信速度を下げてもらい、再受信を行ってください。
U01821	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。使用した送信速度に本機が対応できないかもしれません。相手側で送信速度を下げてもらい、再受信を行ってください。

エラーコード	原因及び処置方法
U02200	中継機のFコード中継ボックスに登録されていたダイヤル内の内容が削除されたため、中継同報ができませんでした。中継機の登録内容を確認し、再登録してから送信元にもう一度送信を行ってもらってください。
U02400	自社間のFコード中継指示送信時に指定したFコード中継ボックスのボックスIDが一致しなかったため、中断されました。中継機の登録内容を確認し、再登録してから送信元にもう一度送信を行ってもらってください。
U03000	ポーリング受信機能を使って原稿を受信しようとしたが、相手に原稿がセットされていなかったため、受信できませんでした。相手先を確認してください。
U03200	相手機が自社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコードボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコードボックスには何も入っていないかった。
U03300	次の①と②のどちらかが原因でエラーとなりました。相手先を確認してください。 ①相手機が自社機である場合に、ポーリング受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。 ②相手機が自社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコードボックスから原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。
U03400	ポーリング受信で相手先から原稿を受信しようとしたが、相手先で入力されたパスワードとこちらの自局IDが一致しなかったため、受信が中断されました。相手側を確認してください。
U03500	相手機が自社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコードボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコードボックスが相手に登録されていなかった。
U03600	相手機が自社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコードボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコード通信パスワードが一致しなかったため、受信が中断されました。
U03700	Fコード掲示板受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手にFコード掲示板送信機能がないか、どの原稿受渡しボックス（Fコードボックス）にも原稿が入っていないかった。
U04000	相手機が自社機である場合に、Fコード親展送信機能を使って相手先のFコードボックスに原稿を送信しようとしたが、指定したFコードボックスが相手に登録されていなかった。
U04100	相手先の原稿受渡しボックス（Fコードボックス）に原稿を送信しようとしたが、相手機にはFコード親展受信機能がなかった。
U04200	暗号送信を行ったが、指定した相手先の親展ボックスが暗号通信用でないか、あるいはその親展ボックスが登録されていないため、送信が中断されました。
U04300	暗号送信を行ったが、相手先の機械には暗号通信機能がなかったため、送信が中断されました。

エラーコード	原因及び処置方法
U04400	暗号送信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、送信が中断されました。
U04401	暗号送信を行ったが、暗号鍵が未登録であったため、相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U04500	暗号受信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、受信が中断されました。
U05100	送信を行ったが、自機にパスワード送信の設定がされており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、送信が中断されました。相手先を確認してください。
U05200	相手先から原稿が送信されてきたが、自機にパスワード受信の設定をしており、必要なパスワードが不一致であったため、受信が中断されました。
U05300	送信を行ったが、相手先側でパスワード受信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、相手先側から受信を拒否されました。相手先を確認してください。
U09000	相手側機と通信形態が異なる（相手側機はG2機）ため、通信できませんでした。
U12000	Fコード中継指示送信時に中継機でメモリーオーバーになり送信が中断されました。中継機でメモリの使用状況を確認し、メモリ容量を確保してから送信元にもう一度送信を行ってもらってください。
U14000	Fコードボックスへの受信が行われたが、自機のメモリーオーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリをあけるか、Fコード親展受信をとり止めてください。
U14100	相手機が自社機である場合に、相手先Fコードボックスへの送信を行ったが、相手機のメモリーオーバーにより送信が中断されました。
U19000	代行受信が行われたが、自機のメモリーオーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリを空けてから、もう一度受信しなおしてください。
U19100	相手先への送信を行ったが、相手先の機械のメモリーオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19200	メモリ送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19300	送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19400	受信中にデータに異常が発生し、受信が中断されました。もう一度この受信に関する操作をやりなおしてください。

アルファベット順索引

A	
ADF (原稿送り装置)	1-2
D	
DF読込設定	6-6
F	
FAX/TEL自動切替受信	4-2
FAX専用自動受信	1-24
FAX/留守番電話自動切替受信	4-3
Fコード掲示板受信	4-16
Fコード掲示板通信	4-15
Fコードコマンド	4-10
Fコード親展送信	4-13
Fコード親展通信	4-12
Fコード親展ボックス出力	4-14
Fコード親展ボックス登録	4-11, 4-12
Fコード親展ボックス入力	4-15
Fコード親展ボックスリストの出力	4-14
Fコード中継同報指示送信	4-19
Fコード中継ボックス登録	4-17
Fコード中継ボックスリストの出力	4-21
Fコード通信	1-16, 4-10
Fコード通信パスワード	4-10
Fコードボックス	4-10
Fネット無鳴動受信機能	1-17
Fネット無鳴動受信設定	6-11
L	
LINE接続コネクタ	1-2
S	
RADF (自動両面原稿送り装置)	1-2
T	
TEL接続コネクタ	1-2

50音順索引

あ行	
あ 暗号鍵	4-41, 4-43
暗号鍵リストの出力	4-42
暗号通信	4-41
暗号ボックスからの出力	4-46
暗号ボックス登録	4-43
暗号ボックスリストの出力	4-48
い 一括送信機能	1-16
う ウルトラファイン	1-21
え エラーコード一覧表	9-13
エラー表示	3-2
お オートクリア機能	1-13
オートシャットオフ機能	1-13
音量調整	6-5

か行

か 回転受信機能	1-17
回転送信機能	1-16
鍵番号	4-42
画質モード	1-21
カセット段固定モード	6-7
画像メモリバックアップ機能	1-17
カバープレート	1-2, 1-6
管理パスワード	6-13
管理レポート出力	5-3
き 許可ID	4-38, 4-39
許可TEL番号	4-36, 4-37
く 区点コード表	1-31, 9-7
グループダイヤル	4-25, 4-28
グループダイヤル登録	4-25, 4-27
グループダイヤルリスト	4-28
け 掲示板	4-7, 6-3
掲示板設定	6-3
原稿	1-20
原稿サイズの選択	1-23
原稿セット表示	1-2, 1-20
原稿挿入ガイド	1-2, 1-20
原稿濃度	1-21
こ コピー収納部	1-24
個別ID登録	6-12

さ行

さ サイズ固定モード	6-7
サブアドレス	4-10
し 自局ID	1-11
自局情報登録	1-9
自局番号	1-9
自局名称	1-10
時刻指定通信	2-9
自動給紙モード	6-7
自動リダイヤル	1-42
受信結果表示	5-2
受信結果レポート	6-2
受信サイズと出力用紙優先順位表	9-6
受信時コピー切替機能	1-24
受信日時記録設定	6-7
受信のしかた	1-24
受信の中止方法	1-26
受信モード設定	6-6
出荷値設定一覧表	9-5
手動受信	2-16
手動送信	2-15
手動リダイヤル	1-42
順次同報送信	2-4
初期モード	1-12
す スーパーファイン	1-21
スピーカ音量	6-5
せ 全角英数大文字モード (文字入力)	1-30
全角英数小文字モード (文字入力)	1-30
全角漢字モード (文字入力)	1-29
全角区点コードモード (文字入力)	1-31

そ	操作パネル	1-3
	増設メモリ	7-4
	送信開始速度	1-33, 1-37
	送信結果表示	5-2
	送信結果レポート	6-2
	送信のしかた	1-18
	送信モード	1-19
	送信予約	2-3
	即時通信	2-10

た行

た	代行受信	1-16, 1-24
	タイマー予約レポート	6-2
	ダイヤルイン	4-4
	ダイヤルイン設定	4-5
	ダイヤルインTEL番号	4-5
	ダイヤルインFAX番号	4-4
	ダイヤル確認設定	6-10
	ダイレクト送信の中止方法	1-25
	ダイレクト送信モード	1-19
	短縮ダイヤル	1-22, 1-36, 1-39
	短縮ダイヤル登録	1-36, 1-38
	短縮ダイヤルリスト	1-39

ち	チェーンダイヤル	2-7, 2-8
	チェーンダイヤル登録	2-7, 2-8
	長尺原稿	6-6

つ	通信管理レポート	5-3, 6-2
	通信結果表示	5-2
	通信の中止方法	1-25
	通信予約確認レポート	5-3
	ツインワン (2 in 1) 受信設定	6-8

て	定形原稿	6-6
	手差し	1-2
	デュアルアクセス可否表	1-14
	デュアルアクセス機能	1-14
	電源断レポート	3-2
	電子電話帳	1-40
	電子電話帳リスト	1-41
	電話回線種別	1-6
	電話帳タグ	1-40, 6-9
	電話帳タグ設定	6-9

な行

ね	年月日表示設定	6-11
---	---------	------

は行

は	パスワードチェック通信	4-36
	パスワードチェック受信設定	4-40
	パスワードチェック送信設定	4-39
	発信元記録	1-7
	半角英数大文字モード (文字入力)	1-30
	半角英数小文字モード (文字入力)	1-30
	半角カタカナモード (文字入力)	1-27
	ハーフトーン	1-21
	ハンドセット	7-2

ひ	日付と時刻	1-8
---	-------	-----

ふ	ファイン	1-21
	ファクス給紙設定	6-7
	ファクス切替キー	1-3, 1-18
	ファクスモード	1-12

	ブザー音量	6-5
	部門一覧リスト	4-54
	部門管理	4-49
	部門管理モード設定	4-53
	部門管理レポート	4-53, 6-2
	部門コード登録	4-50, 4-52
	部門コード入力	4-50
	プログラムダイヤル	4-29, 4-35
	プログラムダイヤル登録	4-29, 4-34
	プログラムダイヤルリスト	4-35
	文書番号	1-13

ほ	ポーリング受信	4-8
	ポーリング送信	4-7
	ポーリング送信のキャンセル	1-26
	ポーリング通信	4-7

ま行

め	メニュー構成一覧	9-2
	メモリー表示	3-2
	メモリ送信の中止方法	1-25
	メモリ送信モード	1-19
	メモリ転送	4-22
	メモリ転送設定	4-24
	メモリ転送登録	4-22, 4-24
	メモリ編集	2-10

も	文字の入力	1-28
	文字配置表	1-28
	モニタ音量	6-5

や行

ゆ	ユーザー設定リスト	5-4
---	-----------	-----

よ	呼出回数設定	6-3, 6-4
	予約通信のキャンセル	1-26, 2-14
	予約通信の内容印字	2-10
	予約通信の内容変更	2-11

ら行

り	リダイヤル	1-44
	リモート切替	4-6
	リモート切替番号	4-6
	リモート診断設定	6-9
	両面受信設定	7-3
	両面送信	2-2
	両面ユニット	7-3

れ	レポート出力設定	6-2
---	----------	-----

わ行

わ	割込送信	2-6
	ワンタッチダイヤル	1-22, 1-32, 1-35
	ワンタッチダイヤル登録	1-32, 1-34
	ワンタッチダイヤルリスト	1-35

本機器は社団法人日本事務機械工業会が定めた複写機及び類似の機器の高調波対策ガイドライン（家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠）に適合しています。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

**QUALITY
CERTIFICATE**

この製品はすべての品質管理および最終検査に合格しました。

京セラ ミタ株式会社

〒540-8585 大阪市中央区玉造1丁目2番28号

版社

京セラ ミタジャパン株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-9-15
TEL 03-3279-2112



0570-046562

市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間
● 9:00~12:00 ● 13:00~17:00
(但し、土曜日、日曜日及び祝日は除く)

営業所名	〒	住所	電話番号	営業所名	〒	住所	電話番号
北海道営業部	003-0012	札幌市白石区中央2条6丁目9-22 (オガワビル)	011-862-4495	中部営業部	450-0003	名古屋市中区区名駅南3-6-18 (第5ワカサビル)	052-581-7887
札幌ランチ	003-0012	札幌市白石区中央2条6丁目9-22 (オガワビル)	011-862-2631	名古屋ランチ	450-0003	名古屋市中区区名駅南3-6-18 (第5ワカサビル)	052-582-7413
札幌特販ランチ	003-0012	札幌市白石区中央2条6丁目9-22 (オガワビル)	011-862-2631	岐阜ランチ	500-8282	岐阜市西部本郷1-7	058-271-9423
旭川ランチ	078-8349	旭川市東光9条2丁目4番11号	0166-34-0711	名古屋北ランチ	482-0041	岩倉市東町長山102番地	0587-37-5166
釧路ランチ	085-0007	釧路市堀川町1-24	0154-25-8666	北陸ランチ	921-8802	石川県石川郡野々町野野4-38 (中敷ビル1F)	076-248-5626
函館ランチ	040-0001	函館市五稜郭町28-4	0138-52-2622	岡崎ランチ	444-0840	岡崎市戸崎町1丁目31-3	0564-54-8181
東北営業部	983-0035	仙台市宮城野区日の出町2-2-41	022-232-3223	富山ランチ	939-8087	富山市大泉町2-4-16	0764-24-3531
仙台ランチ	983-0035	仙台市宮城野区日の出町2-2-41 (オガワビル)	022-232-3225	静岡ランチ	422-8005	静岡市池田2-4-1	054-263-1456
山形ランチ	990-0832	山形市城西町5-29-19	023-645-3551	浜松ランチ	430-0803	浜松市植松町258-4	053-463-1209
盛岡ランチ	020-0866	盛岡市本宮字小幡16-14	019-635-2354	三重ランチ	514-0103	津市栗真中山町字下沢4-1	059-231-1159
秋田ランチ	010-0946	秋田市川尻総社町7-1	018-863-2422	長野ランチ	380-0915	長野市稲葉上千田沖122-1	026-226-8145
郡山ランチ	963-8851	郡山市川成4-28-7	024-932-4414	松本ランチ	399-0005	松本市野溝木工1-6-58	0263-26-4679
青森ランチ	030-0843	青森市大字浜田字玉川355番地	017-739-8951	中部MA営業部	450-0003	名古屋市中区区名駅南3-6-18 (第5ワカサビル)	052-582-7418
北関東営業部	330-0033	大宮市本郷町780-1	048-652-4361	第1ランチ	450-0003	名古屋市中区区名駅南3-6-18 (第5ワカサビル)	052-582-7418
大宮ランチ	330-0033	大宮市本郷町780-1	048-666-4515	第2ランチ	450-0003	名古屋市中区区名駅南3-6-18 (第5ワカサビル)	052-582-7418
新潟ランチ	950-0862	新潟市竹尾卸新町811-6	025-272-1133	関西営業部	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3-9	06-6764-3207
宇都宮ランチ	321-0933	宇都宮市築瀬町769-1	028-636-5077	大阪ランチ	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3-9	06-6764-3210
熊谷ランチ	360-0024	熊谷市問屋町2-2-15	048-525-3242	京阪ランチ	572-0846	寝屋川市高宮栄町11番6号	072-880-2201
前橋ランチ	371-0013	前橋市西片貝町5-18-20 (鈴木ビル1F)	027-221-1547	阪和ランチ	591-8032	堺市百舌鳥梅町3-4-3-3	0722-53-7077
川口ランチ	333-0811	川口市戸塚2-18-4 (厚川ビル1F)	048-297-0946	京都ランチ	605-0846	京都市東山区五条橋東2-32-1	075-525-2131
所沢ランチ	350-1304	狭山市狭山台4丁目10-2	042-956-2022	奈良ランチ	630-8452	奈良市北之庄西町1-4-13	0742-63-3202
東関東営業部	260-0001	千葉市中央区都町1-55-1	043-233-3550	大飯ランチ	547-0016	大飯市平野区長吉長原4丁目16番1号	06-6769-7201
大宮ランチ	260-0001	千葉市中央区都町1-55-1	043-233-3550	北大阪ランチ	564-0083	吹田市江坂町3-4-4-1	06-6337-2485
水戸ランチ	311-4151	水戸市姫子1-67-1	029-254-7677	和歌山ランチ	640-8341	和歌山市黒田35-2	0734-73-5136
土浦ランチ	300-0848	土浦市西根西1-13-7	0298-42-4151	滋賀ランチ	523-0032	近江八幡市白鳥町36-1	0748-32-1530
市川ランチ	272-0004	市川市原木1-9-9	047-328-3711	兵庫営業部	652-0895	神戸市兵庫区小河通5-2-8 (赤浦合名ビル3F)	078-651-9010
東京第1営業部	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2050	神戸ランチ	652-0895	神戸市兵庫区小河通5-2-8 (赤浦合名ビル2F)	078-651-7500
東京ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2050	姫路ランチ	670-0952	姫路市南条字前田511-532	0792-81-0250
東京BSランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2051	尼崎ランチ	661-0012	尼崎市南塚口町5丁目17-7	06-6427-3176
城西ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2053	四国営業部	760-0078	高松市今里町1-28-18	087-837-5312
城南ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2053	高松ランチ	760-0078	高松市今里町1-28-18	087-861-3861
東京第2営業部	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2050	松山ランチ	790-0056	松山市土居田町67-2	089-946-3411
城東ランチ	136-0071	東京都江東区亀戸2-18-1	03-3636-3671	徳島ランチ	770-0941	徳島市万代町5-7-3	088-626-1761
城北ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2050	関西MA営業部	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3-9	06-6764-3215
杉並ランチ	167-0041	東京都杉並区善福寺1-3-3 (ラルゴ108)	03-3394-4640	第2ランチ	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3-9	06-6764-3215
西東京ランチ	190-0022	立川市錦町6-19-12 (戸所ビル)	042-527-0651	中国営業部	733-0032	広島市西区東観音町2-5	082-295-2626
神奈川営業部	222-0036	横浜市港北区小机町1521-5	045-471-0232	広島ランチ	733-0032	広島市西区東観音町2-5	082-295-2001
横浜ランチ	222-0036	横浜市港北区小机町1521-5	045-471-0231	広島特販ランチ	733-0032	広島市西区東観音町2-5	082-295-2001
神奈川BSランチ	222-0036	横浜市港北区小机町1521-5	045-471-0231	山口ランチ	754-0021	山口県吉敷郡小郡町黄金町13-36	083-973-0332
厚木ランチ	243-0814	厚木市妻田南1-16-32	046-223-1691	岡山ランチ	700-0975	岡山市今8-1-4-25	086-241-8481
川崎ランチ	211-0025	川崎市中原区本月1536-5 (誠和電通工業ビル1F)	044-411-3332	福山ランチ	721-0974	福山市東深津町1-10-18	0849-21-5075
山梨ランチ	400-0043	甲府市国母4-15-15	055-224-2181	徳山ランチ	745-0066	徳山市岡田町10-37	0834-21-3006
沼津ランチ	410-0000	沼津市寿町10-15	0559-25-6066	松江ランチ	690-0049	松江市袖師町7-22	0852-22-0630
東京MA営業部	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	三次ランチ	728-0006	三次市昌敷町1506-3	0824-63-3454
第1ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	九州営業部	812-0016	福岡市博多区博多駅南6-2-2	092-471-8651
第2ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	福岡ランチ	812-0016	福岡市博多区博多駅南6-2-2	092-441-2721
第3ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	鹿児島ランチ	890-0063	鹿児島市鴨池1-12-14	099-255-9001
第4ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	北九州ランチ	802-0045	北九州市小倉北区神岳2-6-26 (第1共立ビル)	093-551-4065
第5ランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2057	大分ランチ	870-0906	大分市大州浜1丁目8番19号	097-558-2747
AGA営業部	103-0023	東京都中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2122	久留米ランチ	930-0018	久留米市通町7-245	0942-35-3633
				熊本ランチ	962-0968	熊本市馬渡2-16-8	096-370-3900
				長崎ランチ	352-8131	長崎市文政町7-22 (東文政ハイツ1F)	095-843-8248
				宮崎ランチ	380-0024	宮崎市祇園3-176-1	0985-29-7511
				沖縄ランチ	902-0073	那覇市上間356-1	098-834-5192

© 2000 KYOCERA MITA CORPORATION



は京セラ株式会社の登録商標です。



は京セラミタ株式会社の登録商標です。